

運用・管理

システム	9
ログイン	9
再起動	9
システム時計の設定	10
システム名の設定	11
HTTP サーバー（サポート対象外）の無効化	11
システムチェック	12
記憶装置とファイルシステム	13
物理デバイス	13
フラッシュメモリー	13
ファイルシステム	13
ファイル名	13
ワイルドカード	16
ファイルの操作	17
コンフィグレーション	21
設定の保存と復元	21
コマンドプロセッサ	23
ログイン	23
コマンドプロンプト	23
コマンドライン編集キー	24
コマンド入力時の注意事項	24
コンソールメッセージ	25
次に選択可能なキーワードを表示する「？」	26
オンラインヘルプ	27
端末画面のページ当たり行数	27
エイリアス（別名）	28
ユーザー認証データベース	29
ユーザーレベル	29
コマンドプロンプト	29
デフォルトアカウント	30
ユーザー認証処理の順序	30
ユーザーアカウントの管理	31
認証サーバー	33
ユーザー認証処理の順序	33

RADIUS サーバー	33
本製品がサポートしている RADIUS 属性一覧	34
アップロード・ダウンロード	36
ダウンロード	36
ネットワーク経由でのダウンロード	36
非同期ポート経由でのダウンロード	37
アップロード	38
ネットワーク経由でのアップロード	38
非同期ポート経由でのアップロード	38
ソフトウェア	39
ファイル名	39
ファームウェアファイル（リリースファイル）	39
パッチファイル	39
セットアップツールにおけるバージョン表記	39
ファームウェアファイル（リリースファイル）の有効化	40
インストール（ファームウェア構成）情報	40
フィーチャー（追加機能）ライセンス	41
メール送信	42
基本設定	42
メール機能の使用例	42
セキュリティ	45
セキュリティモード/ノーマルモード	45
モードの変更	48
Remote Security Officer（RSO）	49
Manager レベルでのセキュリティタイマー	49
ログ	51
デフォルトのログ設定	51
ログの閲覧	51
ログ設定のカスタマイズ手順	52
ログ出力先の定義	52
メッセージフィルターの追加	53
ログ設定の確認	55
設定例	56
syslog サーバーへのログ転送	56
メール送信	56
資料編	57
メッセージフォーマット	57
ログレベル	57
ログフィルターの条件指定に使える比較演算子	58
モジュール ID とモジュール名	58
タイプ/サブタイプ	61
syslog 形式への変換	73

スクリプト	75
トリガー	77
SNMP	79
基本設定	79
その他	80
NTP	82
基本設定	82
付録	83
定義済みのタイムゾーン名一覧	83
Secure Shell	85
基本設定	85
暗号鍵の作成	85
SSH サーバーの起動	86
SSH ユーザーの登録	86
SSH クライアントからの接続	89
その他	90
コマンドリファレンス編	92
機能別コマンド索引	92
ACTIVATE FLASH COMPACTION	98
ACTIVATE SCRIPT	99
ACTIVATE TRIGGER	100
ADD ALIAS	101
ADD FILE	102
ADD LOG OUTPUT	105
ADD LOG RECEIVE	107
ADD NTP PEER	109
ADD RADIUS SERVER	110
ADD SCRIPT	112
ADD SNMP COMMUNITY	113
ADD SSH USER	115
ADD TRIGGER	117
ADD USER	119
ADD USER RSO	121
CLEAR FLASH TOTALLY	122
COPY	123
CREATE CONFIG	124
CREATE FFILE	125
CREATE FILE	127
CREATE LOG OUTPUT	130
CREATE SNMP COMMUNITY	133
CREATE TRIGGER CPU	135
CREATE TRIGGER FIREWALL	137

CREATE TRIGGER INTERFACE	139
CREATE TRIGGER MEMORY	141
CREATE TRIGGER MODULE	143
CREATE TRIGGER PERIODIC	145
CREATE TRIGGER REBOOT	147
CREATE TRIGGER TIME	149
DEACTIVATE SCRIPT	151
DELETE ALIAS	152
DELETE FFILE	153
DELETE FILE	154
DELETE INSTALL	155
DELETE LOG OUTPUT	156
DELETE LOG RECEIVE	157
DELETE MAIL	158
DELETE NTP PEER	159
DELETE RADIUS SERVER	160
DELETE SCRIPT	161
DELETE SNMP COMMUNITY	162
DELETE SSH USER	163
DELETE TRIGGER	164
DELETE USER	165
DELETE USER RSO	166
DESTROY LOG OUTPUT	167
DESTROY PATCH	168
DESTROY SNMP COMMUNITY	169
DESTROY TRIGGER	170
DISABLE FEATURE	171
DISABLE HTTP SERVER	172
DISABLE LOG	173
DISABLE LOG GENERATION	174
DISABLE LOG OUTPUT	175
DISABLE LOG RECEPTION	176
DISABLE MAIL DEBUG	177
DISABLE NTP	178
DISABLE RELEASE	179
DISABLE SNMP	180
DISABLE SNMP AUTHENTICATE_TRAP	181
DISABLE SNMP COMMUNITY	182
DISABLE SNMP COMMUNITY TRAP	183
DISABLE SSH SERVER	184
DISABLE SSH USER	185
DISABLE SYSTEM SECURITY_MODE	186

DISABLE TELNET SERVER	187
DISABLE TRIGGER	188
DISABLE USER	189
DISABLE USER RSO	190
DISCONNECT	191
DUMP	192
EDIT	194
ENABLE FEATURE	196
ENABLE HTTP SERVER	197
ENABLE LOG	198
ENABLE LOG GENERATION	199
ENABLE LOG OUTPUT	200
ENABLE LOG RECEPTION	201
ENABLE MAIL DEBUG	202
ENABLE NTP	203
ENABLE RELEASE	204
ENABLE SNMP	205
ENABLE SNMP AUTHENTICATE_TRAP	206
ENABLE SNMP COMMUNITY	207
ENABLE SNMP COMMUNITY TRAP	208
ENABLE SSH SERVER	209
ENABLE SSH USER	210
ENABLE SYSTEM SECURITY_MODE	211
ENABLE TELNET SERVER	212
ENABLE TRIGGER	213
ENABLE USER	214
ENABLE USER RSO	215
FLUSH LOG OUTPUT	216
HELP	217
IF THEN ELSE ENDIF	219
LOAD	220
LOGIN	222
LOGOFF	223
MAIL	224
MODIFY	226
PURGE LOG	227
PURGE NTP	228
PURGE TRIGGER	229
PURGE USER	230
RECONNECT	231
RENAME	232
RESET FILE PERMANENTREDIRECT	233

RESET LOADER	234
RESET NTP	235
RESET USER	236
RESTART	237
SET CONFIG	239
SET HELP	240
SET INSTALL	241
SET LOADER	242
SET LOG OUTPUT	244
SET LOG OUTPUT FILTER	246
SET LOG RECEIVE	248
SET LOG UTCOFFSET	249
SET MAIL	251
SET MANAGER ASYN	252
SET NTP UTCOFFSET	253
SET PASSWORD	255
SET RADIUS	256
SET SCRIPT	257
SET SNMP ASNBERPADDING	258
SET SNMP COMMUNITY	259
SET SNMP LOCAL	260
SET SNMP TRAPDELAY	261
SET SSH SERVER	262
SET SSH USER	263
SET SYSTEM CONTACT	264
SET SYSTEM DISTINGUISHEDNAME	265
SET SYSTEM LOCATION	266
SET SYSTEM NAME	267
SET TELNET	268
SET TIME	269
SET TRIGGER CPU	270
SET TRIGGER FIREWALL	272
SET TRIGGER INTERFACE	274
SET TRIGGER MEMORY	276
SET TRIGGER MODULE	278
SET TRIGGER PERIODIC	280
SET TRIGGER REBOOT	282
SET TRIGGER TIME	284
SET TTY	286
SET USER	287
SHOW ALIAS	289
SHOW BUFFER	290

SHOW CONFIG	291
SHOW CPU	293
SHOW DEBUG	294
SHOW EXCEPTION	295
SHOW FEATURE	297
SHOW FFILE	299
SHOW FILE	301
SHOW FILE PERMANENTREDIRECT	303
SHOW FLASH	305
SHOW FLASH PHYSICAL	307
SHOW HTTP SERVER	309
SHOW INSTALL	311
SHOW LOADER	313
SHOW LOG	315
SHOW LOG COUNTER	318
SHOW LOG OUTPUT	321
SHOW LOG QUEUE	324
SHOW LOG RECEIVE	326
SHOW LOG STATUS	328
SHOW MAIL	330
SHOW MANAGER ASYN	332
SHOW NTP	333
SHOW PATCH	335
SHOW RADIUS	336
SHOW RELEASE	338
SHOW SCRIPT	339
SHOW SESSIONS	341
SHOW SNMP	342
SHOW SNMP COMMUNITY	345
SHOW SSH	347
SHOW SSH SESSIONS	355
SHOW SSH USER	356
SHOW STARTUP	358
SHOW SYSTEM	359
SHOW TELNET	362
SHOW TIME	363
SHOW TRIGGER	364
SHOW TTY	369
SHOW USER	372
SHOW USER RSO	376
SSH	378
TELNET	380

UPLOAD	383
WAIT	385

システム

基本的なシステム管理コマンドについて説明します。

ログイン

本製品に対する設定は、コンソールポート（非同期シリアルポート）に接続したコンソールターミナル、または、ネットワーク上の Telnet クライアントから行います。

- Telnet を使用するには、あらかじめコンソールターミナルからログインし、本製品に IP アドレス等を設定しておく必要があります。IP の設定については「IP」の章をご覧ください。

コンソールターミナルを接続するか Telnet で接続すると、「login: 」というログインプロンプトが表示されます。コンソールターミナルを接続してもログインプロンプトが表示されない場合は、「Enter」を何回か押してみてください。

ご購入時の状態では、Manager（管理者）レベルのユーザー「manager」だけが登録されています。初期パスワードは「friend」です。「login:」に対してユーザー名「manager」を、「Password:」に対してパスワード「friend」を入力してください。ログインに成功すると、コマンドプロンプトが表示されます。

```
login: manager
Password: friend（実際には表示されません）

Manager >
```

- デフォルトのパスワードを使い続けることはセキュリティ上好ましくありませんので、初回ログイン時に変更することをお勧めします。詳細は「運用・管理」の「ユーザー認証データベース」をご覧ください。
- Telnet 接続の場合、ログインプロンプトが表示されてから 1 分以内にログインしないと、Telnet セッションが切断されます。
- 既定回数（デフォルトは 5 回）連続してログインに失敗すると、コンソールターミナルでは一定時間（デフォルトは 10 分）ログインプロンプトが表示されなくなります。また、Telnet 接続の場合はセッションが切断され、該当クライアントからの Telnet 接続要求が同じ期間拒否されるようになります。これらの設定は、SET USER コマンド（287 ページ）の LOGINFAIL、LOCKOUTPD パラメーターで変更できます。

再起動

システムを再起動するには RESTART コマンド（237 ページ）を使います。

- 再起動を実行する前に、現在の設定内容をファイルに保存したかどうかをご確認ください。設定の保存については、「運用・管理」の「コンフィグレーション」をご覧ください。

- コールドスタート（ハードウェアリセット）を実行するには REBOOT オプションを使います。

```
RESTART REBOOT ↵
```

コールドスタートでは、ハードウェア的にリセットをかけ、自己診断テストの実行、ソフトウェアのロードを行った後、起動スクリプトを読み込んで起動します。

- ウォームスタート（ソフトウェアリセット）を実行するには ROUTER オプションを使います。

```
RESTART ROUTER ↵
```

ウォームスタートでは、起動スクリプトだけを読み直して設定を初期化します。起動スクリプトは SET CONFIG コマンド（239 ページ）で指定します。現在の起動スクリプトは SHOW CONFIG コマンド（291 ページ）で確認できます。

- ※ SNMP トラップの送信を有効にしている場合、RESTART コマンド（237 ページ）実行時は、REBOOT オプション（ハードウェアリセット）、ROUTER オプション（ソフトウェアリセット）のどちらを指定した場合でも、coldStart トラップが送信されます。warmStart トラップは、RESET IP コマンド（「IP」の 327 ページ）を実行したときに送信されます。

- ウォームスタート時には、読み込みなおす設定ファイルを CONFIG パラメーターで指定することもできます。CONFIG パラメーターで指定した設定ファイルは一回だけ有効です。次に再起動するときは、（CONFIG パラメーターで再度指定しない限り）SET CONFIG コマンド（239 ページ）で設定した起動スクリプトが読み込まれます。

```
RESTART ROUTER CONFIG=test.cfg ↵
```

システム時計の設定

内蔵時計の日付と時刻をあわせるには SET TIME コマンド（269 ページ）を使います。

日付は「日-月-年」、時刻は「時:分:秒」の形式で指定します。月は英語月名の先頭 3 文字で指定します。大文字小文字の区別はありません。

1 月 (January)	Jan
2 月 (February)	Feb
3 月 (March)	Mar
4 月 (April)	Apr
5 月 (May)	May
6 月 (June)	Jun
7 月 (July)	Jul
8 月 (August)	Aug
9 月 (September)	Sep
10 月 (October)	Oct
11 月 (November)	Nov
12 月 (December)	Dec

表 1:

- 日付と時刻を設定するには次のようにします。ここでは 2001 年 8 月 9 日 19 時に設定します。

```
SET DATE=9-Aug-2001 TIME=19:00:00 ↵
```

- 時刻だけを修正します。

```
SET TIME=19:02:00 ↵
```

- 日付だけを修正します。

```
SET DATE=18-Apr-2001 ↵
```

- 現在の日付と時刻を確認するには SHOW TIME コマンド (363 ページ) を実行します。
- NTP (Network Time Protocol) に準拠した時刻サーバーを利用して、時刻を正確に保つこともできます。詳細は「運用・管理」の「NTP」をご覧ください。

システム名の設定

システム名 (MIB-II オブジェクト sysName) を設定すると、コマンドプロンプトにシステム名が表示されるようになります。SNMP (Simple Network Management Protocol) を使用しない場合であっても、複数のシステムを管理しているときは、各システムに異なる名前を設定しておく、どのシステムにログインしているのかがわかりやすくなり便利です。

- システム名 (sysName) を設定するには SET SYSTEM NAME コマンド (267 ページ) を使います。

```
SET SYSTEM NAME=omiya ↵
```

sysName にホスト名を含む完全なドメイン名を設定しておく、DNS 使用時にドメイン名の補完が行われます。たとえば、sysName に「gw.example.com」を設定した場合、TELNET コマンド (380 ページ) を「TELNET bulbul」のように実行すると、短いホスト名「bulbul」のあとに「example.com」(sysName に設定したフルドメインから先頭要素を取り除いたもの) が補われ、「bulbul.example.com」に対して DNS 検索が行われます。

また、DHCP クライアント機能を使用する場合には、DHCP Discover/Request メッセージの HostName フィールドにシステム名がセットされます。DHCP で IP アドレスを配布する ISP (インターネットサービスプロバイダー) の中には、HostName フィールドを使ってクライアントの識別/認証を行っているところがあります。そのような場合は、システム名として ISP から指定されたホスト名を設定してください。

なお、SNMP の設定については「運用・管理」の「SNMP」をご覧ください。また、IP の名前解決については、「IP」の「名前解決」をご覧ください。

HTTP サーバー (サポート対象外) の無効化

本製品はデフォルトで HTTP サーバー (サポート対象外) が有効になっているため、IP 有効時は TCP ポート 80 番がオープンしています。セキュリティを重視する場合は、DISABLE HTTP SERVER コマンド (172 ページ) を実行して、HTTP サーバーを無効にしてください。

- ⚠ HTTP サーバーはデフォルトで有効になっていますが、サポート対象外です。

- HTTP サーバー（サポート対象外）を無効にします。

DISABLE HTTP SERVER ↓

- HTTP サーバーの状態は SHOW HTTP SERVER コマンド（309 ページ）で確認できます。

SHOW HTTP SERVER ↓

システムチェック

システムの基本情報を確認するための各種コマンドを紹介します。

- システムの全般的な情報は SHOW SYSTEM コマンド（359 ページ）で確認できます。
- システムログは SHOW LOG コマンド（315 ページ）で確認できます。詳細については「運用・管理」の「ログ」をご覧ください。
- 前回起動時の自己診断テストの結果は SHOW STARTUP コマンド（358 ページ）で確認できます。
- 例外状況の発生ログは SHOW EXCEPTION コマンド（295 ページ）で確認します。
- システムの詳細な情報を確認するには SHOW DEBUG コマンド（294 ページ）を実行します。
- メモリーに関する情報は SHOW BUFFER コマンド（290 ページ）で確認します。
- CPU の使用率は SHOW CPU コマンド（293 ページ）で確認します。

記憶装置とファイルシステム

本製品の 2 次記憶装置とファイルシステムについて説明します。

物理デバイス

本製品は、システム再起動後もデータが保持される 2 次記憶装置として、フラッシュメモリーを搭載しています。

フラッシュメモリー上にはファイルシステムが構築されており、ファイル単位でデータにアクセスすることが可能です。詳しくは次節「ファイルシステム」をご覧ください。

フラッシュメモリー

フラッシュメモリーは比較的大容量の記憶装置で、ファームウェア（リリース）ファイル、パッチファイル、設定スクリプトファイルなどを保存するために使います。

■ フラッシュメモリー上のファイルシステムに関する情報は SHOW FLASH コマンド（305 ページ）で確認できます。

```
SHOW FLASH ↵
```

■ フラッシュメモリーの物理情報を確認するには SHOW FLASH PHYSICAL コマンド（307 ページ）を使います。

```
SHOW FLASH PHYSICAL ↵
```

■ フラッシュメモリーのコンパクション（メモリー上のゴミ削除）を行うには ACTIVATE FLASH COMPACTION コマンド（98 ページ）を使います。「Flash compaction successfully completed.」というメッセージが表示されるまで、システムを再起動したり、ファイル作成、編集、リネーム、削除などの操作を行ったりしないでください（状況によっては、コンパクション完了まで 1～5 分かかることがあります）。

```
ACTIVATE FLASH COMPACTION ↵
```

- ㄨ コンパクション実行中は、絶対にシステムの再起動やフラッシュメモリーに対する操作（ファイル作成、編集、リネーム、削除など）を行わないでください。

コンパクションは必要に応じて自動実行されるため、通常運用ではこのコマンドを実行する必要はありませんが、空き容量が足りているように見えるにもかかわらずファイルをダウンロードできないといった状況では、本コマンドの実行により解決する可能性があります。このような状況は、ファームウェアなどサイズの大きいファイルを削除した直後に起こります。

ファイルシステム

本製品では、フラッシュメモリー上にファイルシステムが構築されており、各種データを「ファイル」としてアクセスすることが可能です。

ファイル名

ファイル名は次の形式で表されます。ディレクトリー（フォルダー）の概念はありません。

device:filename.ext

device	デバイス名。省略時は flash（フラッシュメモリー）を指定したことになります。本製品はフラッシュメモリー以外の 2 次記憶装置を搭載していないため、通常指定する必要はありません
filename	ファイル名（ベース名）。文字数は 1～16 文字。ただし、8 文字を超える場合は特殊な扱いを受けます（「長いファイル名」を参照）。半角英数字とハイフン（-）が使えます。大文字・小文字の区別はありませんが、表示には大文字・小文字の区別が反映されます。
ext	拡張子。ファイル名には必ず拡張子をつける必要があります。文字数は 1～3 文字。半角英数字とハイフン（-）が使えます。大文字・小文字の区別はありませんが、表示には大文字・小文字の区別が反映されます

表 2:

次におもな拡張子の一覧を示します。

拡張子	ファイルタイプ
rez	圧縮形式のファームウェア（リリース）ファイル
paz	圧縮形式のパッチファイル。システムが起動するときに、ファームウェアに対して動的に適用されます
cfg	設定スクリプトファイル。システムの設定情報を保存します。scp との間に明確な区別はありませんが、慣例として設定内容を保存するスクリプトには cfg を使います
scp	実行スクリプトファイル。cfg との間に明確な区別はありませんが、慣例としてトリガースクリプトやバッチファイル的なスクリプトには scp を使います
hlp	オンラインヘルプファイル。SET HELP コマンドで設定し、HELP コマンドで閲覧します
lic	ライセンスファイル。ファームウェア（リリース）や追加機能（フィーチャー）のライセンス情報を格納しているファイルです。絶対に削除しないでください
ins	起動時に読み込むファームウェアや設定ファイルの情報を格納しているファイルです
dhc	DHCP サーバーの設定情報ファイルです
txt	プレーンテキストファイル

表 3:

以下のファイルは特殊な役割を持ちます。他のファイルも同様ですが、ファイルの取り扱い（削除、リネームなど）にはご注意ください。

ファイル名	役割
boot.cfg	デフォルトの起動スクリプトファイル。SET CONFIG コマンドで起動スクリプトが設定されていない (none) ときは、本ファイルが存在していれば起動時に自動実行されます。起動スクリプトが設定されている場合は、設定されているファイルが実行されます
config.ins	起動時に読み込む設定スクリプト (起動スクリプト) ファイルの情報を保存しているファイル。SET CONFIG コマンドを実行すると作成 (上書き) されます
prefer.ins	起動時にロードするファームウェアファイルの情報を保存しています
enabled.sec	セキュリティーモードへの移行時に自動作成されるファイル。システムに対し、起動時にセキュリティーモードへ移行すべきことを示すファイルです
random.rnd	IPsec などの処理で使用されるファイルです。自動的に作成・更新されるため、ユーザーが意識する必要はありません
release.lic	リリースライセンスファイル。ファームウェア (リリース) のライセンス情報を持つファイルです。削除しないようご注意ください
feature.lic	フィーチャーライセンスファイル。追加機能 (フィーチャー) のライセンス情報を持つファイルです。削除しないようご注意ください
longname.lfn	短いファイル名 (8.3 形式) と長いファイル名 (16.3 形式) の対応を保持しています。ファイル名 (ベース名) 部分が 8 文字を超えるファイルを作成すると自動的に作成され、以後自動的に更新されます。削除しないようご注意ください。

表 4:

長いファイル名

ファイル名 (ベース名) 部分 (以下、filename) が 8 文字を超えるファイルは、長い名前 (16.3 形式) と短い名前 (8.3 形式) の 2 つの名前を持ちます。短い名前は、長い名前を一定の基準にしたがって切りつめたものです。長い名前のファイルを作成すると、短い名前が自動的に生成されます。次に一例を示します。

- 長い名前: verylongfilename.cfg
- 短い名前: verylo~0.cfg

＼ 名前の切りつめは、既存のファイルと名前が重複しないよう考慮して行われます。そのため、あるファイル名 (長い名前) から、常に同じ名前 (短い名前) が導き出されるわけではありません。

ファイルシステムに保存されるのは短い名前、長い名前は特殊なファイル longname.lfn に保存されます。longname.lfn は、filename 部分が 8 文字を超えるファイルを最初に作ったときに自動的に作成され、以後自動的に更新されます。

なお、filename が最初から 8 文字以内の場合は、名前は 1 つだけ (8.3 形式) です。

■ SHOW FILE コマンド (301 ページ) では、(長い名前があるときは) 長い名前で表示されます。

SHOW FILE ↓

■ SHOW FFILE コマンド (299 ページ) では、(長い名前があっても) 短い名前で表示されます。

SHOW FILE ↓

- 短い名前と長い名前の対応を確認するには、SHOW FILE コマンド (301 ページ) で longname.lfn を指定します。

SHOW FILE=longname.lfn ↓

- コマンドラインでファイル名を指定するときは、原則として長い名前と短い名前のどちらで指定してもかまいません。

SET CONFIG=verylongfilename.cfg ↓

または

SET CONFIG=verylo~0.cfg ↓

- ✧ DELETE FFILE コマンド (153 ページ) と SHOW FFILE コマンド (299 ページ) は長い名前を認識しません。短い名前で指定してください。
- ✧ 短い名前は、長い名前を持つファイルを作成したときに自動的に生成されますが、常に同じ名前に切りつめられるわけではありません。すでに存在するファイルと名前が重複しないように選択されます。長い名前を持つファイルを短い名前で指定するときは、必ず SHOW FILE コマンド (301 ページ) で longname.lfn を指定して対応表を確認してから指定してください。
- ✧ コマンド実行時に長い名前を指定しても、CREATE CONFIG コマンド (124 ページ) で保存した設定スクリプト中では短い名前になることがあります (SHOW CONFIG コマンド (291 ページ) の DYNAMIC オプションで表示される設定スクリプトも同様です)。

ワイルドカード

ファイルを操作するコマンドの中には、ワイルドカード (*) を使って複数のファイルを一度に指定できるものがあります。ワイルドカード (*) は「任意の文字列」を示すもので、次のように使います。

- ファイルシステム (フラッシュ) 上の圧縮形式のファームウェアファイル (.rez) をすべて表示

SHOW FILE=*:* .rez ↓

- フラッシュメモリー上のテキストファイルの一覧を表示 (device 省略時は flash とみなされる)

SHOW FILE=*.txt ↓

- DELETE FILE コマンド (154 ページ) と SHOW FILE コマンド (301 ページ) では、次のような指定 (前方一致) も可能です。

DELETE FILE=gw*.scp ↓

- ✧ 後方一致 (*base.cfg) や中間一致 (*foo*.cfg) は使えません。

- ワイルドカードが使えるコマンドには以下のようなものがあります。

- DELETE FFILE コマンド (153 ページ)
- DELETE FILE コマンド (154 ページ)
- SHOW FFILE コマンド (299 ページ)
- SHOW FILE コマンド (301 ページ)

ファイルの操作

おもなファイル操作についてコマンド例を示します。

- ファイルの一覧は、SHOW FILE コマンド (301 ページ) で表示できます。

```
SHOW FILE ↵
```

- 特定ファイルの一覧を見たいときはワイルドカードを使います。

```
SHOW FILE=* .scp ↵
```

- ファイルの内容を見るには、SHOW FILE コマンド (301 ページ) で (ワイルドカードでない) ファイル名を指定します。ただし、SHOW FILE コマンド (301 ページ) で見ることができるのはテキスト形式のファイル (.txt、.scp、.cfg など) だけです。

```
SHOW FILE=mitai.cfg ↵
```

- ファイルを削除するには DELETE FILE コマンド (154 ページ) を使います。ワイルドカードで複数ファイルをまとめて消すことも可能です。

```
DELETE FILE=iranai.cfg ↵
```

```
DELETE FILE=* .txt ↵
```

- ✧ 削除したファイルを元に戻すことはできません。ファイル操作時は十分注意を払ってください。
- ✧ config.ins、prefer.ins、release.lic、feature.lic は、システムの動作に必要なファイルです。誤って削除しないようご注意ください。
- ✧ ワイルドカードを使ってファイルを削除するときは、必要なファイルまで削除してしまわないよう十分にご注意ください。

- ファイル名を変更するには RENAME コマンド (232 ページ) を使います。

```
RENAME old.scp new.scp ↵
```

- テキスト形式のファイルを編集するには、EDIT コマンド (194 ページ) (内蔵フルスクリーンエディター) を使います。

EDIT myscript.scp ↵

■ コマンドやスクリプトの出力をコンソールではなくファイルに保存（リダイレクト）することもできます。これには、CREATE FILE コマンド（127 ページ） ADD FILE コマンド（102 ページ）を使います。

- 通常の情報表示コマンド（「SHOW XXXX」など）の出力をリダイレクトする場合は、ADD FILE コマンド（102 ページ）や CREATE FILE コマンド（127 ページ）を PERMANENTREDIRECT オプションなしで実行します。
 - － コマンドやスクリプトの出力を新規ファイルに保存するには、CREATE FILE コマンド（127 ページ）を次のようにして実行します。

```
CREATE FILE=output.txt COMMAND="show system" ↵
```

※ CREATE FILE コマンド（127 ページ）は、指定したファイルがすでに存在しているとエラーになります。既存ファイルを強制的に上書きするには、次項で説明する FORCE オプションを指定してください。また、既存ファイルに追記するには次々項で説明する ADD FILE コマンド（102 ページ）を使ってください。

- － コマンドやスクリプトの出力を既存ファイルに上書き保存するには、CREATE FILE コマンド（127 ページ）を FORCE オプション付きで実行します。

```
CREATE FILE=output.txt FORCE COMMAND="show system" ↵
```

※ FORCE オプションを使用した場合、CREATE FILE コマンド（127 ページ）実行前の既存ファイルの内容は失われますのでご注意ください。

- － コマンドやスクリプトの出力を既存ファイルに追記するには、ADD FILE コマンド（102 ページ）を次のようにして実行します。

```
ADD FILE=output.txt COMMAND="show release" ↵
```

※ 指定したファイルが存在しない場合は新規作成されます（この場合、CREATE FILE コマンド（127 ページ）と同じ動作になります）。

- デバッグオプションの出力（「ENABLE XXXX DEBUG」などで有効化）をリダイレクトする場合は、ADD FILE コマンド（102 ページ）や CREATE FILE コマンド（127 ページ）を PERMANENTREDIRECT オプション付きで実行します。

次に、デバッグオプション出力をファイルに保存するための手順を示します。

1. ADD FILE コマンド（102 ページ）や CREATE FILE コマンド（127 ページ）において、デバッグオプションを有効化する「ENABLE XXXX DEBUG」コマンドを指定します。このとき PERMANENTREDIRECT オプションを忘れないようにしてください。

```
CREATE FILE=swidebug.txt COMMAND="enable switch debug=all"
PERMANENTREDIRECT ↵
```

上記コマンドを実行することにより、「enable switch debug=all」が実行され、デバッグオプションが有効になります。これ以降、デバッグオプションの出力は新規作成されたファイル swidebug.txt に継続的に書き込まれていきます。これを実現するため、swidebug.txt は書き込み用にオープンされた状態となり、他のコマンドによって操作できないようロックされます。

2. デバッグオプション出力のリダイレクトを終えるには、RESET FILE PERMANENTREDIRECT コマンド (233 ページ) を実行して対象ファイルへの出力を終了し、ファイルをクローズします。これによりファイルのロックも解除されます。

```
RESET FILE=swidebug.txt PERMANENTREDIRECT ↵
```

- ※ デバッグオプション出力をいったんファイルにリダイレクトすると、ファイルをクローズしても、該当デバッグオプション出力はコンソールに表示されなくなります。デバッグオプション出力をコンソールに表示させたい場合は、再度「ENABLE XXXX DEBUG」コマンドを実行してください。なお、リダイレクト中に「ENABLE XXXX DEBUG」を実行すると、ファイルへの出力が停止しますのでご注意ください。

3. ファイルをクローズしてもデバッグオプションは有効なままなので、これを明示的に無効化します。

```
DISABLE SWITCH DEBUG=ALL ↵
```

■ LOAD コマンド (220 ページ) を使って、別のコンピューターからファイルをダウンロードすることもできます。次の例では TFTP サーバー 192.168.1.11 から long.scp をフラッシュメモリにダウンロードしています。ダウンロードには、HTTP や ZMODEM を使うこともできます。

```
LOAD FILE=long.scp SERVER=192.168.1.11 DEST=flash ↵
```

■ UPLOAD コマンド (383 ページ) を使えば、テキスト形式のファイルを TFTP サーバーにアップロードすることができます。次の例では、設定スクリプト taisetsu.cfg を TFTP サーバーにアップロードします。ZMODEM によるアップロードも可能です。

```
UPLOAD FILE=taisetsu.cfg SERVER=192.168.1.11 ↵
```

- ※ TFTP サーバーの実装 (UNIX 系 OS の tftpd など) によっては、サーバー上にあらかじめファイルを作成しておかないとファイルのアップロードができないものがあります。これは、ファイルの新規作成に失敗するためです。このような場合は、サーバー上で空のファイルを作成し、すべてのユーザーに書き込み権限を与えてからアップロードしてみてください。

```
UNxXOS[1]# cd /tftpboot
UNxXOS[2]# touch karappo.cfg
```

```
UNxXOS[3]# chmod 666 karappo.cfg
```

コンフィグレーション

本製品では、コマンド入力によって設定した内容を、テキスト形式のスクリプトファイルとして保存することができます。さまざまな設定を異なる名前のファイルとして保存しておき、必要に応じて切り替えて使うことが可能です。

設定の保存と復元

コンソールなどから設定した内容はランタイムメモリー上にあるため、システムを再起動すると消えてしまいます。次回以降も同じ設定を使いたい場合は、設定内容をスクリプトファイルに保存する必要があります。

■ メモリー上の設定内容をファイルに保存するには、CREATE CONFIG コマンド (124 ページ) を使います。ファイルの拡張子は「.cfg」か「.scp」とします。たとえば、現在の設定内容を「mynet.cfg」に保存するには、次のようにします。指定したファイルが存在しない場合は新規に作成され、すでに存在していた場合は上書きされます。

```
CREATE CONFIG=mynet.cfg ↵
```

本コマンドで作成したファイルには、設定内容がスクリプト形式で保存されます。ただし、スクリプトの内容は一定の基準にしたがった書式に変換されているため、コマンドラインで入力したものとまったく同じではありません (たとえば、長い行は ADD と SET のように複数行に分けて保存されます)。しかし、保存されている情報は同じです。また、ログインパスワードは暗号化 (MD5 ダイジェスト) して保存されます。

■ 設定をファイルに保存しただけでは、再起動時に自動復元されません。SET CONFIG コマンド (239 ページ) を使って、保存した設定スクリプトが次回起動時に読み込まれるよう設定する必要があります。起動時に読み込まれる設定スクリプトのことを、「起動スクリプト」、「起動ファイル」、「起動時設定ファイル」などと呼びます。

```
SET CONFIG=mynet.cfg ↵
```

■ 現在の起動スクリプトを確認するには、オプションなしで SHOW CONFIG コマンド (291 ページ) を実行します。

```
SHOW CONFIG ↵
```

■ 現在のメモリー上の設定内容を確認するには、SHOW CONFIG コマンド (291 ページ) に DYNAMIC オプションを付けて実行します。設定内容がスクリプト形式で表示されます。

```
SHOW CONFIG DYNAMIC ↵
```

■ DYNAMIC オプションにモジュール名を与えることにより、特定モジュールの設定だけを確認することもできます。たとえば、IP の設定だけを確認するには次のようにします。

```
SHOW CONFIG DYNAMIC=IP ↵
```

■ 次回、空の設定で起動させたいときは、起動スクリプトを「なし」にします。これは、設定をいちからやりなおしたいときなどに便利です。SET CONFIG コマンド (239 ページ) に NONE を指定してください。

SET CONFIG=NONE ↵

■ 起動スクリプトを「なし」に設定しても、「boot.cfg」という名前のファイルが存在すると、起動時に自動実行されます。

■ 起動スクリプトの設定を変更せずに、一度だけ別の設定ファイルで再起動（ウォームスタート）するには、RESTART コマンド（237 ページ）の CONFIG パラメーターに設定ファイル名を指定します。コールドスタート（RESTART REBOOT）時には、CONFIG パラメーターは指定できません。

RESTART ROUTER CONFIG=1kaikiri.cfg ↵

■ 同様に、一度だけ空の設定で再起動したいときは、RESTART コマンド（237 ページ）の CONFIG パラメーターに NONE を指定します。このときは boot.cfg は実行されません。

RESTART ROUTER CONFIG=NONE ↵

コマンドプロセッサ

本製品に対する設定は、コンソールポート（非同期シリアルポート）に接続したコンソールターミナル、または、ネットワーク上の Telnet クライアントから、コマンドプロセッサ（コマンドラインインターフェース）にアクセスして行います。ここではコマンド入力に関する基本的な事柄について説明します。

ログイン

コマンドプロセッサにアクセスするには、コンソールポート（非同期シリアルポート）に接続したコンソールターミナルからログインするか、Telnet 経由でログインする必要があります。

- ※ Telnet を使用するには、あらかじめコンソールターミナルからログインし、本製品に IP アドレス等を設定しておく必要があります。ご購入時の状態では IP が有効になっていないため、初回ログイン時は必ずコンソールからログインすることになります。なお、IP の設定については「IP」の章をご覧ください。

コンソールターミナルを接続するか Telnet で接続すると、「login: 」というログインプロンプトが表示されます。コンソールターミナルを接続してもログインプロンプトが表示されない場合は、「Enter」を何回か押してみてください。

ご購入時の状態では、Manager（管理者）レベルのユーザー「manager」だけが登録されています。初期パスワードは「friend」です。「login:」に対してユーザー名「manager」を、「Password:」に対してパスワード「friend」を入力してください。ログインに成功すると、コマンドプロンプトが表示されます。

```
login: manager
Password: friend (実際には表示されません)

Manager >
```

- ※ デフォルトのパスワードを使い続けることはセキュリティ上好ましくありませんので、初回ログイン時に変更することをお勧めします。詳細は「運用・管理」の「ユーザー認証データベース」をご覧ください。
- ※ Telnet 接続の場合、ログインプロンプトが表示されてから 1 分以内にログインしないと、Telnet セッションが切断されます。
- ※ 既定回数（デフォルトは 5 回）連続してログインに失敗すると、コンソールターミナルでは一定時間（デフォルトは 10 分）ログインプロンプトが表示されなくなります。また、Telnet 接続の場合はセッションが切断され、該当クライアントからの Telnet 接続要求が同じ期間拒否されるようになります。これらの設定は、SET USER コマンド（287 ページ）の LOGINFAIL、LOCKOUTPD パラメーターで変更できます。

コマンドプロンプト

デフォルトの設定では、どのユーザーレベルでログインしているかによってコマンドプロンプトの表示が異なります。

- ※ SET ASYN コマンド（「インターフェース」の 35 ページ）の PROMPT パラメーターでプロンプト文字列を変更している場合は、ユーザーレベルに関わりなく設定した文字列が表示されます。

- User レベル

```
>
```

- Manager レベル

```
Manager >
```

- Security Officer レベル

```
SecOff >
```

なお、SET SYSTEM NAME コマンド (267 ページ) でシステム名 (sysName) を設定しているときは、「>」の前にシステム名が表示されます。複数のシステムを管理しているような場合、システム名にわかりやすい名前を付けておくとかシステムを区別しやすくなり便利です。

```
Manager > set system name="GW/Saidaiji"

Info (134003): Operation successful.

Manager GW/Saidaiji>
```

コマンドライン編集キー

コマンドラインでは、以下の編集機能を使うことができます (VT100 互換の端末エミュレーターが必要です)。

キー	機能
→	1 文字右に移動
←	1 文字左に移動
Ctrl/A	行頭に移動
Ctrl/E	行末に移動
Delete または Backspace	カーソルの左にある文字を削除
Ctrl/U	コマンド行の消去
Ctrl/O	挿入モード (デフォルト) と上書きモードの切り替え
↑ または Ctrl/B	コマンド履歴をさかのぼる
↓ または Ctrl/F	コマンド履歴を進める
Ctrl/C	コマンド履歴の表示 (SHOW ASYN HISTORY コマンドを実行しても同じ。履歴の削除は RESET ASYN HISTORY コマンドで行う)
Tab または Ctrl/I	入力途中のコマンドとマッチする最新のコマンド履歴を表示

表 5:

コマンド入力時の注意事項

コマンド入力時には以下のことがらに注意してください。

- 1 行で入力できるコマンドの最大文字数はスペースを含めて 1000 文字です。通常の用途では事実上無制

限ですが、コマンド行が長くなり 1 行におさまらない場合は、コマンドの省略形を使うか、コマンドを複数行に分けてください (ADD と SET など)。

＼ SET SYSTEM NAME コマンド (267 ページ) でシステム名を設定している場合は、システム名の分だけ短くなります。

■ 「ADD」、「IP」などのキーワード (予約語) は大文字小文字を区別しないので、どちらで入力してもかまいません。一方、パラメーターとして与える値の中には、パスワードのように大文字小文字を区別するものと、ユーザー名のように大文字小文字を区別しないものがあります。コマンドリファレンス等でご確認の上入力してください。

■ コマンドは一意に識別できる範囲で省略可能です。たとえば、SHOW FILE コマンド (301 ページ) は次のように省略して入力することができます。

```
SH FI ↓
```

＼ コマンドの省略形は、キーワードの増減によって変更される可能性があります (ソフトウェアのバージョンによって異なる可能性があります)。

■ ログインユーザーの権限 (ユーザーレベル) によって実行できるコマンドが異なります。通常の管理作業は Manager レベルで行います。また、セキュリティーモードでは Security Officer レベルの権限が必要です。

■ コマンドの効果は (エラーがなければ) 入力直後にあらわれます。再起動などを行う必要はありません。ただし、設定内容は再起動すると消えてしまうので、再起動後にも同じ設定を使いたいときは CREATE CONFIG コマンド (124 ページ) でファイルに保存してください。詳細は「運用・管理」の「コンフィグレーション」などを参考にしてください。

コンソールメッセージ

コマンド入力後、実行結果や構文エラーを知らせるメッセージが表示されることがあります。

```
Manager > add ip int=eth0 ip=192.168.10.1

Warning (2005267): The IP module is not enabled.

Manager > enable ip

Info (1005287): IP module has been enabled.

Manager > show ip interfaith

Error (3005012): Parameter "interfaith" not recognised.
```

■ メッセージは次のような形式になっています。

```
レベル (番号): 本文
```

- 「レベル」はメッセージの重要度を示す単語で、次のどれかになります。

- Info：コマンドの実行に成功したことを示す
- Warning：コマンドの実行には成功したが、関連する事柄に注意すべき点があることを示す
- Error: コマンドの実行に失敗したことを示す

※ コンソールメッセージの「レベル」は、ログメッセージの「ログレベル」とは異なります。「レベル」は、ログメッセージタイプ「021/MSG」のサブタイプ「001/INFO」、「002/WARN」、「003/ERROR」に対応しています。詳しくは、「運用・管理」の「ログ」にある「タイプ/サブタイプ」をご覧ください。

- 「番号」は3つのフィールドからなる7桁のメッセージコードです。

smmmmnnn

- 「s」はメッセージの重要度を示す1桁の数字です。1 (Info)、2 (Warning)、3 (Error) の3種類があります。意味は前述の「レベル」と同じです。
- 「mmm」はメッセージを出力したモジュールを示す3桁の数字です。詳しくは、「運用・管理」の「ログ」にある「モジュールIDとモジュール名」をご覧ください。
- 「nnn」は個々のメッセージを識別するための3桁の数字です。001～255は全モジュール共通のメッセージ、256～999はモジュールごとに異なるメッセージです。
- 「本文」はメッセージ本文（英文）です。

次に選択可能なキーワードを表示する「？」

コマンドの入力途中で「？」キーを押すと、次に選択可能なキーワード（コマンド名やパラメーター名、オプション名）の一覧が表示されます。

- たとえば、コマンドラインの先頭で「？」キーを押すと次のように表示されます（「？」は表示されません）。

```
Manager > ?

Options : ACTivate ADD Connect CLear CREate COPy DEACTivate DELete DESTroy
DISable Disconnect DUMP EDit ENABle FINGER FLUsh Help LOAd MAIL MODify
PING PURge REName Reconnect RESET RESTART SET SHow SSH START Stop TELnet
TRAcE UPLOad LOGIN LOGON LOgoff LOgout

Manager >
```

「Options:」以下に列挙されているのが、コマンドラインの先頭キーワードとして有効な単語の一覧です（表示項目は機種やソフトウェアのバージョンによって異なる可能性があります）。大文字の部分は、各キーワードを一意に識別するため、最低限入力しなくてはならない部分を示しています。

- ※ 「？」キーで表示されるキーワードの中には、サポート対象外のものも含まれます。原則として、本コマンドリファレンスに記載されていないコマンドやキーワード、機能はサポート対象外となります。詳細はリリースノートなどご確認ください。

- つぎに、コマンドラインで上記のキーワード一覧から「SHOW」を入力し、さらに半角スペースを一文字入力した上で再度「？」キーを押すと、次のように表示されます。

- ※ 何らかの文字列を入力した後で「？」キーを押すときは、文字列の後ろに半角スペースを入力してから「？」キー

を押す必要があります。

```
Manager > show ?

Options : ACC ALias APpLetalk BGP BOOTp BRIDge BUffer CLNS CONfig CPU DEBug
DHCP DTESt1 DVMrp ENCo ETH EXception File FEAture FIREwall FFile FLash GRE
GUI HTTP INSTall INTerface IP IGMPsNooping IPV6 PIM6 IPSec IPX ISAkmp L2TP
LDAP LOADBalancer LB LOAder LOG MAnager MAIL NTP OSPF PATch PIM PING PKT
ASyn Port PKI PPP RADius RELease RSVP SA SCript SNmp SSH SSL STAR STARTup
SWItch SYStem TELnet TRAcE TRIGger SESSions TCP TEST TIme TTy UPNP TACacs
USER VLAN VRRP

Manager > show
```

オンラインヘルプ

オンラインヘルプを見るには、HELP コマンド (217 ページ) を使います。

- オプションなしで HELP コマンド (217 ページ) を実行すると、ヘルプファイルのトップページが表示されます。

```
HELP ↵
```

- トップページの一覧にしたがい、表示させたいトピックを指定すると該当項目が表示されます。

```
HELP IP ↵
```

- トピックによってはさらに深い項目がある場合もあります。その場合は画面の表示にしたがってトピック名を多段で指定します。

```
HELP IP INTERFACE ↵
```

- ヘルプファイルはソフトウェアとともに配布されています。HELP コマンド (217 ページ) が使用するヘルプファイルは SET HELP コマンド (240 ページ) で変更できます。

```
SET HELP=252-01.hlp ↵
```

端末画面のページ当たり行数

デフォルトの端末設定では、1 ページあたり行数が 22 に設定されています。コマンドの出力結果が 22 行よりも長い場合は 21 行ごとに表示が一時停止し、最下行に次のようなメッセージが表示され、キー入力待ち状態になります。

```
--More-- (<space> = next page, <CR> = one line, C = continuous, Q = quit)
```

ここでは次のキー操作が可能です。

Space	次の 1 ページを表示します
Enter	次の 1 行を表示します
c	残りすべてを一気に表示します
q	表示を中止し、プロンプトに戻ります

表 6:

一度表示された行をさかのぼることはできません。

- ページ当たり行数は SET ASYN コマンド（「インターフェース」の 35 ページ）で変更できます。

```
SET ASYN PAGE=30 ↵
```

- ページ単位の一時的停止を無効にするには、PAGE パラメーターに OFF を指定します。

```
SET ASYN PAGE=OFF ↵
```

- 一時停止後に「C」キーを押した場合や一時停止を無効にしている場合は、コマンドの出力が完了するまでプロンプトが表示されません。このようなときは、Ctrl/Q（Ctrl キーを押しながら Q キーを押す）で表示を中断することができます（コマンドによっては中断できないこともあります）。

エイリアス（別名）

コマンドエイリアス機能を利用すると、長いコマンド行に短い別名を付けることができます。

- エイリアスの定義は ADD ALIAS コマンド（101 ページ）で行います。たとえば、「ls」でファイル一覧が表示されるようにするには、次のようにします。

```
ADD ALIAS=ls STRING="show file" ↵
```

エイリアスは入力直後に一回だけ展開され、その後コマンド解析部に送られます。展開されたコマンド行にエイリアスが含まれていても再帰的に展開されることはありません。

- エイリアスの一覧は SHOW ALIAS コマンド（289 ページ）で確認できます。

```
SHOW ALIAS ↵
```

- エイリアスを削除するには DELETE ALIAS コマンド（152 ページ）を使います。

```
DELETE ALIAS=ls ↵
```

ユーザー認証データベース

ユーザーレベル

ユーザーアカウントは、権限によって次の3つのレベルに分けられます。各レベルの権限は、動作モード（ノーマルモードとセキュリティーモード）によっても異なります。デフォルトの動作モードはノーマルモードです。動作モードの詳細については、「運用・管理」の「セキュリティー」をご覧ください。

- User レベル
- Manager レベル
- Security Officer レベル

User（一般ユーザー）レベルのユーザーは、ノーマルモード、セキュリティーモードのどちらであっても、自分自身に関する設定（端末設定やパスワード）などごく限られたコマンドしか実行できません。User レベルは、おもに WAN 経由で接続してくる PPP ユーザーを認証するために使います。詳細は「PPP」の章をご覧ください。

Manager（管理者）レベルのユーザーは、ノーマルモードにおいてすべてのコマンドを実行する権限を持ちます。初期導入時の設定作業を始め、ほとんどの管理・設定作業は Manager レベルのアカウントを使用して行います。ただし、セキュリティーモードでは第2位のレベルに降格され、セキュリティーに関するコマンド（セキュリティーコマンド）が実行できなくなります。

Security Officer レベルのユーザーは、ノーマルモードにおいてすべてのコマンドを実行する権限を持ちます。また、セキュリティーモードでもすべてのコマンドを実行できる最高位のユーザーです。セキュリティーモードでの管理作業は Security Officer レベルのアカウントを使用して行います。Security Officer レベルのユーザーが登録されていないと、セキュリティーモードには移行できません。

コマンドプロンプト

デフォルトの設定では、どのユーザーレベルでログインしているかによってコマンドプロンプトの表示が異なります。

- SET ASYN コマンド（「インターフェース」の35ページ）の PROMPT パラメーターでプロンプト文字列を変更している場合は、ユーザーレベルに関わりなく設定した文字列が表示されます。

- User レベル

```
>
```

- Manager レベル

```
Manager >
```

- Security Officer レベル

```
SecOff >
```

なお、SET SYSTEM NAME コマンド（267ページ）でシステム名（sysName）を設定しているときは、「>」の前にシステム名が表示されます。複数のシステムを管理しているような場合、システム名にわかりやすい

名前を付けておくと各システムを区別しやすくなり便利です。

```
Manager > set system name="GW/Saidaiji"

Info (134003): Operation successful.

Manager GW/Saidaiji>
```

デフォルトアカウント

ご購入時の状態では、Manager レベルのユーザー「manager」が登録されています。初期導入時の設定作業を始め、ほとんどの管理・設定作業はこのアカウントを使用して行います。

- ✧ セキュリティモードを使用するときは、別途 Security Officer レベルのアカウントを作成し、そのアカウントで管理作業を行います（Security Officer レベルのユーザーが登録されていないと、セキュリティモードには移行できません）
- ユーザー名：manager
- パスワード：friend

デフォルトのパスワードを使い続けることはセキュリティ上好ましくありませんので、初回ログイン時に変更することをお勧めします。パスワードの変更には SET PASSWORD コマンド（255 ページ）を使います。

```
Manager > set password

Old password: abcababc （現在のパスワードを入力。入力したパスワードは実際には表示されない）
New password: xyzxyz （新しいパスワードを入力）
Confirm: xyzxyz （確認のため、新しいパスワードをもう一度入力）
プロンプトが表示されないときはここで「Enter」を押す
```

- ✧ Manager レベルのパスワードを忘れると回復できません。パスワード変更時にはご注意ください。

次回起動時にも変更したパスワードが有効になるよう、CREATE CONFIG コマンド（124 ページ）で設定をファイルに保存し、SET CONFIG コマンド（239 ページ）で起動スクリプトに指定してください。詳細は「運用・管理」の「コンフィグレーション」をご覧ください。

```
Manager > create config=basic.cfg

Info (149003): Operation successful.

Manager > set config=basic.cfg

Info (149003): Operation successful.
```

ユーザー認証処理の順序

本製品はユーザー認証機構として、ユーザー認証データベースだけでなく、RADIUS（Remote Access Dial-In User Service）サーバーにも対応しています。ログイン時の認証は次の順序で行われます。

1. ユーザー認証データベース
2. RADIUS サーバー (ADD RADIUS SERVER コマンド (110 ページ) で登録したもの)

いずれかのステップで認証に成功すればログインが許可されます。RADIUS については、「運用・管理」の「認証サーバー」をご覧ください。

ユーザーアカウントの管理

ユーザーアカウントの追加や削除は、ノーマルモードでは Manager レベル以上、セキュリティモードでは Security Officer レベルのユーザーで行います。

ユーザー作成時には以下の情報が必要です。

情報	パラメーター	必須？	内容
ユーザー名	USER	必須	半角英数字 1～64 文字。大文字小文字の区別はなし
パスワード	PASSWORD	必須	半角英数および記号 1～32 文字。空白可。大文字小文字の区別あり。デフォルトでは最小文字数が 6 文字以上に制限されている
ユーザーレベル	PRIVILEGE	オプション (省略時は User)	User、Manager、Security Officer から選択
ログイン権	LOGIN	User レベルの場合必須	(User レベルのみ) コマンドラインインターフェースへのログインを許可するかどうか
Telnet 実行権	TELNET	オプション (デフォルトは NO)	ログインしたユーザーに TELNET コマンドの実行を許可するかどうか
コメント	DESCRIPTION	オプション	ユーザーに関するコメント

表 7:

- ユーザーを追加するには ADD USER コマンド (119 ページ) を使います。ユーザーレベルは PRIVILEGE パラメーターで指定します (省略時は USER レベル)。

```
ADD USER=swadmin PRIVILEGE=MANAGER PASSWORD=s69ro28n ↵
```

- パスワードに空白を含めるときはダブルクォートで囲んでください。

```
ADD USER=swadmin PRIVILEGE=MANAGER PASSWORD="voi4 dia 239o" ↵
```

- USER レベルのユーザーを作成するときは LOGIN パラメーターの指定が必須です。このパラメーターは、コマンドラインインターフェースへのアクセスを許可するかどうかを指定するもので、PPP ユーザーなどログインの必要がないユーザーに余分な権限を与えないようにするものです。ログインユーザーの場合は、YES (TRUE) を指定します。

```
ADD USER=panp PRIVILEGE=USER PASSWORD=KER3ira6ai LOGIN=YES ↵
```

- 自分のパスワードを変更するには SET PASSWORD コマンド (255 ページ) を使います。他のユーザー

のパスワードを変更するときは、SET USER コマンド (287 ページ) の PASSWORD パラメーターを使います。

```
SET USER=other PASSWORD=alapaK0re ↵
```

- ㄨ デフォルトアカウントである manager 以外のユーザー情報は、他の設定情報と同様ランタイムメモリー上に作成されます。また、manager アカウントのパスワードを変更した場合も同様です。そのため、システムを再起動すると消えてしまいますので、CREATE CONFIG コマンド (124 ページ) でファイルに保存し、SET CONFIG コマンド (239 ページ) で起動時にユーザー情報が復元されるようにしてください。詳細は「運用・管理」の「コンフィグレーション」をご覧ください。なお、設定スクリプト中ではパスワードは暗号化されて保存されます。

- ㄨ Manager レベルのパスワードを忘れると回復できません。パスワード変更時にはご注意ください。

- ユーザーの一覧は SHOW USER コマンド (372 ページ) で確認できます。

```
SHOW USER ↵
```

- ユーザー認証機構のデフォルト設定では、6 文字より短いパスワードは使用できないようになっています。パスワードの最小文字数は、SET USER コマンド (287 ページ) の MINPWDLEN パラメーターで変更できます。

```
SET USER MINPWDLEN=8 ↵
```

- その他、ユーザー認証機構のグローバルな設定パラメーター (連続ログイン失敗時のロックアウト時間など) は、SET USER コマンド (287 ページ) で変更できます。

- ユーザー認証関係の各種設定や統計情報は、SHOW USER コマンド (372 ページ) に CONFIGURATION オプションを付けることで表示できます。

```
SHOW USER CONFIGURATION ↵
```

認証サーバー

本製品は、ユーザー認証機構として、内部のユーザー認証データベースに加えて、RADIUS (Remote Authentication Dial In User Service) サーバーをサポートしています。

ユーザー認証処理の順序

ログイン名とパスワードを受け取った本製品は、最初にユーザー認証データベースを検索します。マッチするエントリーがあった場合はその時点で認証成功となります。マッチするエントリーがなかった場合は RADIUS サーバーに認証を要求します。RADIUS サーバーが登録されていない、あるいは RADIUS サーバーから Access-Reject が返ってきた場合は認証失敗、RADIUS サーバーから Access-Accept が返ってきた場合は認証成功となります。

RADIUS サーバー

RADIUS サーバーは、ユーザー認証に使用できるほか、ファイアウォールのアクセスルールを集中管理する目的でも使用できます。詳細は「ファイアウォール」の章をご覧ください。

■ RADIUS サーバーを登録するには、ADD RADIUS SERVER コマンド (110 ページ) を使用します。RADIUS サーバーの IP アドレスと共有パスワードを指定してください。

```
ADD RADIUS SERVER=192.168.10.10 SECRET=Valid8Me ↵
```

■ 認証パケットのやり取りにはデフォルトで UDP ポート 1645 番が使用されます。また、アカウントिंगパケットには同 1646 番が使用されます。これらを変更するには、PORT パラメーター (認証) と ACCPORT パラメーター (アカウントिंग) を使用します。RFC2865 では認証用ポートを 1812 番、RFC2866 ではアカウントング用ポートを 1813 番としています。RADIUS サーバーの設定を確認して適宜変更してください。

```
ADD RADIUS SERVER=192.168.10.10 PORT=1812 ACCPORT=1813 ↵
```

■ RADIUS サーバーの登録を解除するには、DELETE RADIUS SERVER コマンド (160 ページ) を使用します。

```
DELETE RADIUS SERVER=192.168.10.10 ↵
```

■ 登録されている RADIUS サーバーの一覧を表示するには、SHOW RADIUS コマンド (336 ページ) を使用します。

```
SHOW RADIUS ↵
```

■ RADIUS サーバーで管理するユーザーの権限 (ユーザーレベル) は、各ユーザーの Service-Type 属性で指定します。

Service-Type 属性値

ユーザーレベル

Administrative(6)	Security Officer レベル
NAS Prompt(7)	Manager レベル
Login(1)	User レベル

表 8:

- ※ Service-Type 属性に上記以外の値がセットされている場合、および、Service-Type 属性が付加されていない場合は、RADIUS サーバーから Access-Accept が返ってきてもログイン認証は失敗となりますのでご注意ください。

■ RADIUS サーバーのクライアント情報ファイルとユーザー情報ファイルの例を示します。詳細は RADIUS サーバーのマニュアルをご覧ください。

[/etc/raddb/clients]

```
# client          secret
192.168.10.1      RouterA
```

[/etc/raddb/users]

```
alpha Password = "PasswordA"
      Framed-IP-Address = 192.168.10.240
      Framed-IP-Netmask = 255.255.255.255
      Idle-Timeout = 120

beta  Password = "PasswordB"
      Framed-IP-Address = 192.168.10.241
      Framed-IP-Netmask = 255.255.255.255
      Idle-Timeout = 120
```

本製品がサポートしている RADIUS 属性一覧

属性名	使用される時期	説明
User-Name	認証要求/アカウンティング 要求時	認証するユーザー名
User-Password	認証要求時	ユーザーのパスワード
CHAP-Password	認証要求時	CHAP 認証時のパスワード (チャレンジに対するレスポンス)
NAS-IP-Address	認証要求/アカウンティング 要求時	認証を要求する NAS (クライアント) の IP アドレス
Framed-IP-Address	認証受理 (accept) 時	ユーザーの IP アドレス
Framed-IP-Netmask	認証受理 (accept) 時	ユーザーのネットマスク
Callback-Number	認証受理 (accept) 時	コールバック番号
Framed-Route	認証受理 (accept) 時	認証されたユーザーのために NAS (クライアント) が設定すべき経路情報
Framed-IPX-Network	認証受理 (accept) 時	ユーザーの IPX ネットワーク番号

Session-Timeout	認証受理 (accept) 時	ユーザーセッションの有効期限 (秒)
Idle-Timeout	認証受理 (accept) 時	無通信時のセッションタイムアウト (秒)
Calling-Station-Id	認証要求時	NAS (クライアント) に接続してきたユーザーの発番号
Framed-AppleTalk-Network	認証受理 (accept) 時	ユーザーの AppleTalk ネットワーク番号
Framed-AppleTalk-Zone	認証受理 (accept) 時	ユーザーのデフォルト AppleTalk ゾーン
CHAP-Challenge	認証要求時	NAS (クライアント) がユーザーに送信する CHAP チャレンジ
Acct-Status-Type	アカウントリング開始時	サービスの開始、終了などを示す
Acct-Input-Octets	アカウントリング終了時	サービス提供中に該当ポートで受信したデータ量 (オクテット)
Acct-Output-Octets	アカウントリング終了時	サービス提供中に該当ポートから送信したデータ量 (オクテット)
Acct-Session-Id	アカウントリング開始/アカウントリング終了時	セッション ID
Acct-Authentic	アカウントリング開始時	ユーザー認証の方法
Acct-Session-Time	アカウントリング終了時	Framed User へのサービス提供時間 (秒)
Acct-Input-Packets	アカウントリング終了時	Framed User へのサービス提供中に該当ポートから受信したデータ量 (パケット数)
Acct-Output-Packets	アカウントリング終了時	Framed User へのサービス提供中に該当ポートに向けて送信したデータ量 (パケット数)
Acct-Terminate-Cause	アカウントリング終了時	セッション終了の理由

表 9:

アップロード・ダウンロード

本製品は、TFTP、HTTP、ZMODEM を利用したファイルのアップロード、ダウンロードが可能です。

ダウンロード

ファイルのダウンロードには、IP ネットワーク経由で行う方法（TFTP、HTTP）と、非同期コンソールポート経由で行う方法（ZMODEM）があります。保存先のファイルシステムに余裕があれば、任意のファイルをダウンロードできます。

ネットワーク経由でのダウンロード

ネットワーク経由でファイル転送を行うためには IP の設定が必要です。詳細は「IP」の章をご覧ください。DNS サーバーアドレスを設定している場合は、SERVER パラメーターにホスト名（フルドメイン名）を指定できます。詳細は「IP」の「名前解決」をご覧ください。

- TFTP サーバー 192.168.10.5 からファイル myfile.cfg をダウンロードします。

```
LOAD METHOD=TFTP SERVER=192.168.10.5 FILE=myfile.cfg DESTINATION=FLASH ↵
```

- HTTP（Web）サーバー 192.168.10.10 からファイルをダウンロードします。ダウンロードするファイル（LOAD コマンド（220 ページ）の FILE パラメーター）は、サーバー上のドキュメントルートからのフルパスで指定します。たとえば、URL が「http://192.168.10.10/~admin/myscript.scp」なら、「/~admin/myscript.scp」と指定します。

```
LOAD METHOD=HTTP SERVER=192.168.10.10 FILE=~admin/myscript.scp
DESTINATION=FLASH ↵
```

- ダウンロードするファイルの名前が、本製品のファイルシステムで扱えない形式の場合（サポートされていない拡張子が付いている、ファイル名が 16.3 を超える、など）は、DESTFILE パラメーターで保存時のファイル名を指定できます。たとえば、Web サーバー上で「longlonglonglongname.txt」という名前を持つファイルを「longname.txt」として保存するには、次のようにします。

```
LOAD METHOD=HTTP SERVER=192.168.10.10 FILE=/doc/longlonglonglongname.txt
DESTFILE=longname.txt DESTINATION=FLASH ↵
```

- サーバーをホスト名（FQDN）で指定することもできます。その場合は、あらかじめ ADD IP DNS コマンド（「IP」の 167 ページ）で DNS サーバーを指定しておく必要があります。プライマリー DNS サーバーのアドレスが 192.168.10.5 であれば、次のようにします。

```
ADD IP DNS PRIMARY=192.168.10.5 ↵
LOAD METHOD=HTTP SERVER=www.example.com FILE=/index.html
    DESTFILE=index.htm ↵
```

■ HTTP プロキシ経由でダウンロードするには、HTTPPROXY と PROXYPORT パラメーターでプロキシの IP アドレス（またはホスト名）とポートを指定します。

プロキシは LOAD コマンド（220 ページ）で指定してもかまいませんが、毎回入力するのは面倒なので、次のように SET LOADER コマンド（242 ページ）で HTTPPROXY と PROXYPORT のデフォルト値を設定しておくとい良いでしょう。

```
SET LOADER HTTPPROXY=proxy.example.com PROXYPORT=3128 ↵
```

＼ HTTPPROXY にホスト名を指定する場合は、ADD IP DNS コマンド（「IP」の 167 ページ）で DNS サーバーを設定しておく必要があります。

デフォルト値を設定しておけば、LOAD コマンド（220 ページ）で HTTPPROXY と PROXYPORT の指定を省くことができます。

```
LOAD METHOD=HTTP SERVER=www.example.com FILE=/conf/basic.cfg ↵
```

デフォルト値として設定したパラメーターをクリアするには、SET LOADER コマンド（242 ページ）で DEFAULT を指定します。

```
SET LOADER HTTPPROXY=DEFAULT PROXYPORT=DEFAULT ↵
```

■ HTTP の Basic 認証を要求するサイトからファイルをダウンロードするには、USERNAME、PASSWORD パラメーターでユーザー名とパスワードを指定します。

```
LOAD METHOD=HTTP SERVER=www.example.com FILE=/private/michaya.cfg
    USERNAME=mikan PASSWORD=cq23u5h8 ↵
```

■ SET LOADER コマンド（242 ページ）で設定したデフォルト値など、LOADER モジュールの各種設定は SHOW LOADER コマンド（313 ページ）で確認できます。

```
SHOW LOADER ↵
```

非同期ポート経由でのダウンロード

■ ZMODEM でファイルをダウンロードします。次のコマンドを入力すると画面に「**B0....」のような文

字列が表示され、受信待ち状態になるので、コンソール側で ZMODEM の送信プロセスを起動してください。一般的なターミナルソフトなら、メニューに ZMODEM 転送のようなコマンドがあるはずです。

```
LOAD METHOD=ZMODEM ASYN=0 ↵
```

アップロード

アップロードは UPLOAD コマンド (383 ページ) で行います。プロトコルは TFTP と ZMODEM が使えます。なお、ダウンロードとは違い、アップロードできるファイルはテキストファイル (.cfg や .txt) だけです。

ネットワーク経由でのアップロード

ネットワーク経由でファイル転送を行うためには IP の設定が必要です。詳細は「IP」の章をご覧ください。

- TFTP サーバー 192.168.10.5 にファイル critical.cfg をアップロードします。

```
UPLOAD METHOD=TFTP FILE=critical.cfg server=192.168.10.5 ↵
```

- ※ TFTP サーバーの実装 (UNIX 系 OS の tftpd など) によっては、サーバー上にあらかじめファイルを作成しておかないとファイルのアップロードができないものがあります。これは、ファイルの新規作成に失敗するためです。このような場合は、サーバー上で空のファイルを作成し、すべてのユーザーに書き込み権限を与えてからアップロードしてみてください。

```
UNxXOS[1]# cd /tftpboot
UNxXOS[2]# touch critical.cfg
UNxXOS[3]# chmod 666 critical.cfg
```

非同期ポート経由でのアップロード

- ZMODEM でファイルをアップロードします。

```
UPLOAD METHOD=ZMODEM FILE=ivaluabl.scp ASYN=0 ↵
```

ソフトウェア

本製品のソフトウェアについて説明します。

ファイル名

本製品のソフトウェアは、ファームウェアファイル（リリースファイル）とパッチファイルで構成されています。バージョンによりパッチファイルがないこともあります。

ファームウェアファイル（リリースファイル）

ソフトウェアの本体です。ファームウェアファイルのバージョンは、ピリオドで区切られた3つの数字「major.minor.interim」（例：バージョン2.5.2）の形式で表されます。「major」はメジャーバージョン番号、「minor」はマイナーバージョン番号です。「interim」は、不具合修正などのために提供されていたパッチファイルがファームウェアに反映された時点で加算されます。

本製品のファームウェアファイルは「55-rrr.REZ」のようなファイル名で提供されます。「55-」は適用機種を表します。「rrr」は「major.minor.interim」からピリオドを取り除いた3桁の数値です。拡張子「.REZ」は圧縮された形式のリリースファイルであることを示します。mm-rrrの後に「a」「b」「c」のような文字が追加される場合もあります。

- ※ ファームウェアファイルは、「55rrr-mm.REZ」のようなファイル名で提供される場合もあります。この場合のバージョン表記は、「major.minor.interim-mm」（例：バージョン2.7.5-06）の形式になります。「mm」はメンテナンス番号と呼び、後述するパッチ番号にほぼ相当します。不具合修正をパッチファイルとして提供するのはなく、ファームウェアファイル自体を修正して提供するような場合にこの形式のファイル名、バージョン表記が使われます。

パッチファイル

パッチファイルは、ファームウェアに対する暫定的な不具合修正のために使用されるもので、「mmrrr-pp.PAZ」というファイル名で提供されます。パッチファイル名は、適用機種を示す「mm」、パッチの対象となるリリースのバージョン番号「rrr」、パッチ番号「pp」で構成されます。パッチ番号は「01」から始まります。例えば「54-252.REZ」に対して、初めて提供されるパッチは「54252-01.PAZ」となります。最新のパッチファイルは、パッチ番号「01」から不具合修正された内容のすべてを含む形式で提供されます（対象となるファームウェアに適用可能なパッチファイルは1つだけです）。拡張子「.PAZ」は圧縮された形式のパッチファイルであることを示します。

- ※ 不具合修正をパッチファイルとして提供するのではなく、ファームウェアファイル自体を修正して提供することもあります。

セットアップツールにおけるバージョン表記

セットアップツールでは、バージョン番号を「major.minor.interim PLpp」のように表します。各数値は上記の各ファイル説明での項目と同様です。ただし、「pp」の十の位の桁の「0」は表記しません（例「2.5.2

PL1」)。

ファームウェアファイル（リリースファイル）の有効化

ファームウェアを使用するためにはライセンスが必要です。ファームウェアファイルをフラッシュメモリにダウンロードしても、ライセンス情報を入力して有効化するまでは使用できません。

ㄥ 以下の作業はセットアップツールが自動的に行いますので、通常は必要ありません。

ファームウェアを有効化するには、ライセンスパスワードとバージョン番号の情報がが必要です。ここではバージョン番号を「major.minor.interim」の形式とします。

- ファームウェアの有効化には ENABLE RELEASE コマンド（204 ページ）を使います。

```
ENABLE RELEASE=54-252.rez NUMBER=2.131077 PASSWORD=a689E8113492 ㄱ
```

NUMBER パラメーターに指定する値「x.y」は、次のようにして求めます。

- 「x」はファームウェアの major バージョンです。たとえば、バージョン 2.5.2 なら 2 になります。
- 「y」は「65536 × interim+minor」で求めます。バージョン 2.5.2 なら、65536 × 2 + 5 で 131077 になります。

ㄥ バージョン 2.7 以降のバージョンアップ時には、バージョン番号の「major.minor」部分が変更されない限り、パスワードの入力を省略できます。たとえば、バージョン 2.7.4 から 2.7.5 へのバージョンアップでは、「major.minor」部分がともに「2.7」なので、バージョン 2.7.5 のファームウェアを有効化する際に、PASSWORD パラメーターを省略できます。ただし、ENABLE RELEASE コマンド（204 ページ）自体は実行する必要がありますのでご注意ください（ライセンスパスワードなしでファームウェアの有効化ができる、という意味です）。

- ファームウェアライセンスの情報は SHOW RELEASE コマンド（338 ページ）で見ることができます。

```
SHOW RELEASE ㄱ
```

インストール（ファームウェア構成）情報

起動時にロードすべきファームウェアファイルとパッチファイルは、「インストール」情報としてシステムに保存されています。

インストール情報には以下の 3 種類があります。

TEMPORARY	一度しか使用されないテスト用インストール情報
PREFERRED	通常使用するファームウェアとパッチファイルの情報
DEFAULT	緊急時に使用するインストール情報。EPROM 上のファームウェアから起動する

表 10:

ㄥ 以下の作業はセットアップツールが自動的に行いますので、通常は必要ありません。

- 起動時に使用するファームウェアは SET INSTALL コマンド（241 ページ）で設定します。

SET INSTALL=PREFERRED RELEASE=54-252.rez PATCH=54252-01.paz ↵

- インストール情報を削除するには DELETE INSTALL コマンド (155 ページ) を使います。

DELETE INSTALL=PREFERRED ↵

- インストールの設定情報を確認するには SHOW INSTALL コマンド (311 ページ) を使います。

SHOW INSTALL ↵

フィーチャー (追加機能) ライセンス

本製品では、付加的な機能をライセンス制で提供しています。これらの追加機能を使用するためには、フィーチャーライセンスを購入し、ライセンスを有効化する必要があります。詳細については、ライセンス付属の文書をご覧ください。

- フィーチャーライセンスを有効化するには、ENABLE FEATURE コマンド (196 ページ) を使います。

ENABLE FEATURE=NOEX PASSWORD=jogefogojoge ↵

- 現在有効化されているフィーチャーの一覧は SHOW FEATURE コマンド (297 ページ) で確認できます。

SHOW FEATURE ↵

メール送信

本製品は簡易的な電子メール送信機能（メールクライアント）を備えています。この機能は、トリガーを使ってイベントの発生を管理者に通知したり、ログをメールで送信したりするときに便利です。

本製品のメール機能には次の制限があります。

- 送信のみで受信はできない。
- MIME エンコードをサポートしていない（日本語のメッセージも不可）。
- コマンドラインからメールを送るには、Manager（ノーマルモード時）か Security Officer（セキュリティーモード時）の権限が必要です。

基本設定

メールの送信に必要な基本的な設定について説明します。ここでは次のような構成を想定します。

ルーターのフルドメイン名（FQDN）	gw.tw.example.com
ネームサーバーの IP アドレス	192.168.28.1
管理者のメールアドレス	admin@is.example.com

表 11:

メール機能を使用するには、自ドメイン名と DNS サーバーアドレスの設定が必要です。ドメイン名は SET MAIL コマンド（251 ページ）、DNS サーバーは ADD IP DNS コマンド（「IP」の 167 ページ）で設定します（アドレスを IP アドレスで指定するときは DNS サーバーの設定は必要ありません）。

なお、ここでは IP 関連の設定（アドレス設定や経路設定）は完了しているものとします。

1. ルーター自身の完全なホスト名（フルドメイン名。FQDN=Fully Qualified Domain Name）を設定します。

```
SET MAIL HOSTNAME=gw.tw.example.com ↵
```

2. DNS サーバー（ネームサーバー）のアドレスを設定します。

```
ADD IP DNS PRIMARY=192.168.28.1 ↵
```

メール機能の使用例

これでメールを送るための設定は完了です。以下、メール機能の実際の使用例を示します。メールの送信は MAIL コマンド（224 ページ）で行います。

■ コマンドラインから短いメールメッセージを送るには次のようにします。管理者のアドレスにテストメールを送ってみましょう。

```
MAIL TO=admin@is.example.com SUBJECT="test1" MESSAGE="This is a test" ↵
```

TO に宛先のメールアドレス、SUBJECT にサブジェクト、MESSAGE にメッセージ本文を指定します。メッセージに使用できる文字は、半角英数字と半角スペースおよびアンダースコア (_) で、長さは 131 文字までです。メッセージ中にスペースを入れる場合は 2 重引用符 (") で囲んでください。

■ 本製品のメールクライアントは、DNS を使って宛先ドメイン (例では is.example.com) の MX レコードを検索し、メールエクスチェンジャーに直接メールを送信します。一般的なメールクライアントのように中継用の SMTP サーバー (送信メールサーバー) を使いません。そのため、宛先ドメインの MX レコードを引けない環境ではメールを送ることができません。

ただし、DNS が引けなくても、宛先メールサーバーの IP アドレスがわかっている場合は、メールアドレスのドメイン部分にサーバーの IP アドレスをブラケットで囲んで書くことでメール送信が可能です。次の例では、宛先サーバーの IP アドレスが 172.16.10.100 であると仮定しています。

```
MAIL TO=admin@[172.16.10.100] SUBJECT="test2" MESSAGE="Koremo test
desu" ↵
```

■ FILE パラメーターを使用すれば、テキスト形式のファイル (.cfg、.scp、.txt) をメール本文として送ることができます。次の例では、設定ファイル「basic.cfg」をメール本文として管理者に送信します。

```
MAIL TO=admin@is.example.com SUBJECT="config file" FILE=basic.cfg ↵
```

■ トリガー機能を利用すれば、イベント発生時にメールを自動的に送信することができます。次の例では、再起動トリガー (CREATE TRIGGER REBOOT コマンド (147 ページ)) を使って、コールドスタート時に管理者にメールを送るよう設定します。

```
ENABLE TRIGGER ↵
CREATE TRIGGER=1 REBOOT=ALL SCRIPT=mail.scp ↵
```

スクリプト「mail.scp」

```
MAIL TO=admin@is.example.com SUBJECT="%N rebooted" MESSAGE="%N(SN:%S) re-
booted at %D %T"
```

ここではトリガースクリプト起動時に渡される特別な引数を使って、再起動したシステムの名称 (%N) やシリアル番号 (%S)、日時 (%D、%T) をメールのサブジェクトと本文に埋め込んでいます。次に、メールメッセージの例を示します。

```
Subject: ar1 rebooted
From: manager@gw.tw.example.com
To: <admin@is.example.com>
Date: Wed, 29 Aug 2001 23:59:40

ar1(SN:41906093) rebooted at 29-Aug-2001 23:59:40
```

■ 次の例では、ファイアウォールトリガー (CREATE TRIGGER FIREWALL コマンド (137 ページ)) を使って、ポートスキャンの開始を検出したときに管理者にメールを送るよう設定します。メールはサブジェクトのみとし、ファイアウォールトリガーの引数を利用してサブジェクトに攻撃者の IP アドレスが入るようにします。

```
ENABLE TRIGGER ↓
```

```
CREATE TRIGGER=2 FIREWALL=PORTSCAN MODE=START SCRIPT=pscans.scp ↓
```

スクリプト「pscans.scp」の内容

```
MAIL TO=admin@is.example.com SUBJECT="Portscan from %2 started"
```

- ログをメールで送信することもできます。次の例では、ログメッセージが 10 個たまるとにメールで管理者に送信されるよう設定しています（CREATE LOG OUTPUT コマンド（130 ページ）と ADD LOG OUTPUT コマンド（105 ページ））。

```
CREATE LOG OUTPUT=1 DEST=email TO=admin@is.example.com MESS=10 ↓
```

```
ADD LOG OUTPUT=1 ALL ↓
```

- メール機能の設定やメールキューの状態を表示するには SHOW MAIL コマンド（330 ページ）を使います。

```
Manager > show mail
```

```
MAIL
```

```
Host Name ..... gw.tw.example.com
State ..... alive
Debug ..... disabled
Mails Sent ..... 4
```

Date/Time	Id	To	Subject	State	Retries

5 11:11:15	0003	admin@is.example.com		Connect	0

- メールキュー内のメールを削除するには DELETE MAIL コマンド（158 ページ）を使います。上記 SHOW MAIL コマンド（330 ページ）の出力例で表示されているメール Id「0003」を削除するには、次のようにします。

```
DELETE MAIL=3 ↓
```

セキュリティ

セキュリティモード/ノーマルモード

本製品には、次の2つの動作モードがあります。

モード	動作
ノーマルモード	デフォルトの動作モードです
セキュリティモード	より高いセキュリティレベルを実現するためのモードです。ログインセキュリティや管理コマンドの実行権が厳しく制限されます。ルーターの管理に関するセキュリティを高めたい場合や、IPsecなどのセキュリティ機能を利用するときに使います

表 12:

動作モードによってアクセスレベルの権限が変わります。ノーマルモード時、Manager レベルと Security Officer レベルは同等の権限を持ちますが、セキュリティモードでは多くの操作に Security Officer 権限が必要となります。

レベル	デフォルトアカウント	ノーマルモード時の権限	セキュリティモード時の権限
User	なし	ユーザー自身に関する設定などごく一部のコマンドのみ実行可能	ユーザー自身に関する設定などごく一部のコマンドのみ実行可能
Manager	ユーザー名 manager/ パスワード friend	すべてのコマンドを実行可能	セキュリティコマンドを除くすべてのコマンドを実行可能
Security Officer	なし	すべてのコマンドを実行可能	すべてのコマンドを実行可能

表 13:

セキュリティモード時には、以下のコマンドの実行に Security Officer の権限が必要となります。

- ACTIVATE SCRIPT コマンド (99 ページ)
- ADD IP INTERFACE コマンド (「IP」の 179 ページ)
- ADD PKI CERTIFICATE コマンド (「PKI」の 13 ページ)
- ADD PKI CRL コマンド (「PKI」の 15 ページ)
- ADD PKI LDAPREPOSITORY コマンド (「PKI」の 17 ページ)
- ADD SCRIPT コマンド (112 ページ)
- ADD SSH USER コマンド (115 ページ)
- ADD USER コマンド (119 ページ)
- ADD USER RSO コマンド (121 ページ)
- CREATE CONFIG コマンド (124 ページ)
- CREATE ENCO KEY コマンド (「暗号」の 10 ページ)

- CREATE IPSEC BUNDLESPECIFICATION コマンド (「IPsec」の 37 ページ)
- CREATE IPSEC POLICY コマンド (「IPsec」の 39 ページ)
- CREATE IPSEC SASPECIFICATION コマンド (「IPsec」の 43 ページ)
- CREATE ISAKMP POLICY コマンド (「IPsec」の 45 ページ)
- CREATE PKI ENROLLMENTREQUEST コマンド (「PKI」の 18 ページ)
- CREATE PKI KEYUPDATEREQUEST コマンド (「PKI」の 21 ページ)
- CREATE PPP コマンド (「PPP」の 19 ページ)
- CREATE PPP TEMPLATE コマンド (「PPP」の 22 ページ)
- CREATE SNMP COMMUNITY コマンド (133 ページ)
- DEACTIVATE SCRIPT コマンド (151 ページ)
- DELETE FILE コマンド (154 ページ)
- DELETE PKI CERTIFICATE コマンド (「PKI」の 22 ページ)
- DELETE PKI CRL コマンド (「PKI」の 23 ページ)
- DELETE PKI LDAPREPOSITORY コマンド (「PKI」の 24 ページ)
- DELETE SCRIPT コマンド (161 ページ)
- DELETE SSH USER コマンド (163 ページ)
- DELETE USER コマンド (165 ページ)
- DELETE USER RSO コマンド (166 ページ)
- DESTROY ENCO KEY コマンド (「暗号」の 13 ページ)
- DESTROY IPSEC BUNDLESPECIFICATION コマンド (「IPsec」の 49 ページ)
- DESTROY IPSEC POLICY コマンド (「IPsec」の 50 ページ)
- DESTROY IPSEC SASPECIFICATION コマンド (「IPsec」の 51 ページ)
- DESTROY ISAKMP POLICY コマンド (「IPsec」の 52 ページ)
- DESTROY PKI ENROLLMENTREQUEST コマンド (「PKI」の 25 ページ)
- DESTROY PKI KEYUPDATEREQUEST コマンド (「PKI」の 26 ページ)
- DISABLE FEATURE コマンド (171 ページ)
- DISABLE IPSEC コマンド (「IPsec」の 53 ページ)
- DISABLE IPSEC POLICY DEBUG コマンド (「IPsec」の 54 ページ)
- DISABLE ISAKMP コマンド (「IPsec」の 55 ページ)
- DISABLE ISAKMP DEBUG コマンド (「IPsec」の 56 ページ)
- DISABLE PKI DEBUG コマンド (「PKI」の 27 ページ)
- DISABLE SSH SERVER コマンド (184 ページ)
- DISABLE SSH USER コマンド (185 ページ)
- DISABLE USER コマンド (189 ページ)
- DISABLE USER RSO コマンド (190 ページ)
- DUMP コマンド (192 ページ)
- EDIT コマンド (194 ページ)
- ENABLE FEATURE コマンド (196 ページ)
- ENABLE IPSEC コマンド (「IPsec」の 57 ページ)
- ENABLE IPSEC POLICY DEBUG コマンド (「IPsec」の 58 ページ)
- ENABLE ISAKMP コマンド (「IPsec」の 61 ページ)
- ENABLE ISAKMP DEBUG コマンド (「IPsec」の 62 ページ)

- ENABLE PKI DEBUG コマンド (「PKI」の 29 ページ)
- ENABLE PPP DEBUG コマンド (「PPP」の 35 ページ)
- ENABLE PPP TEMPLATE DEBUG コマンド (「PPP」の 37 ページ)
- ENABLE SNMP コマンド (205 ページ)
- ENABLE SSH SERVER コマンド (209 ページ)
- ENABLE SSH USER コマンド (210 ページ)
- ENABLE USER コマンド (214 ページ)
- ENABLE USER RSO コマンド (215 ページ)
- LOAD コマンド (220 ページ)
- MAIL コマンド (224 ページ)
- MODIFY コマンド (226 ページ)
- PURGE IPSEC コマンド (「IPsec」の 70 ページ)
- PURGE PKI コマンド (「PKI」の 31 ページ)
- PURGE USER コマンド (230 ページ)
- RENAME コマンド (232 ページ)
- RESET ENCO COUNTER コマンド (「暗号」の 16 ページ)
- RESET IPSEC COUNTER コマンド (「IPsec」の 71 ページ)
- RESET IPSEC POLICY COUNTER コマンド (「IPsec」の 73 ページ)
- RESET IPSEC SA COUNTER コマンド (「IPsec」の 74 ページ)
- RESET USER コマンド (236 ページ)
- SET CONFIG コマンド (239 ページ)
- SET ENCO KEY コマンド (「暗号」の 19 ページ)
- SET INSTALL コマンド (241 ページ)
- SET IP INTERFACE コマンド (「IP」の 364 ページ)
- SET IPSEC BUNDLESPECIFICATION コマンド (「IPsec」の 77 ページ)
- SET IPSEC POLICY コマンド (「IPsec」の 78 ページ)
- SET IPSEC SASPECIFICATION コマンド (「IPsec」の 81 ページ)
- SET IPSEC UDPPORT コマンド (「IPsec」の 82 ページ)
- SET PKI コマンド (「PKI」の 32 ページ)
- SET PKI CERTIFICATE コマンド (「PKI」の 33 ページ)
- SET PKI CRL コマンド (「PKI」の 34 ページ)
- SET PKI LDAPREPOSITORY コマンド (「PKI」の 35 ページ)
- SET PPP コマンド (「PPP」の 41 ページ)
- SET PPP TEMPLATE コマンド (「PPP」の 46 ページ)
- SET SCRIPT コマンド (257 ページ)
- SET SNMP COMMUNITY コマンド (259 ページ)
- SET SSH SERVER コマンド (262 ページ)
- SET SSH USER コマンド (263 ページ)
- SET USER コマンド (287 ページ)
- SHOW CONFIG コマンド (291 ページ)
- SHOW ENCO KEY コマンド (「暗号」の 28 ページ)
- SHOW FEATURE コマンド (297 ページ)

- SHOW FILE コマンド (301 ページ)
- SHOW PPP CONFIG コマンド (「PPP」の 50 ページ)
- UPLOAD コマンド (383 ページ)

モードの変更

セキュリティモードに移行するためには、あらかじめ Security Officer レベルのユーザーを作成しておく必要があります。セキュリティモードに移行すると、Manager レベルは第 2 位の権限レベルに降格され、セキュリティに関するコマンドを実行できなくなります。

1. Security Officer レベルのユーザーを作成します。

```
ADD USER=secoff PRIVILEGE=SECURITYOFFICER PASSWORD="top secret" ↵
```

2. セキュリティモードに移行すると、Telnet 接続では Security Officer レベルでログインできなくなる (他のレベルならログイン可) ので、必要に応じて後述する RSO (Remote Security Officer) の設定をしておきます。RSO は、あらかじめ指定したアドレスからのみセキュリティモード時でも Security Officer レベルでのログインを許可する機能です。

```
ENABLE USER RSO ↵
```

```
ADD USER RSO IP=192.168.10.5 ↵
```

3. セキュリティモードに移行するには ENABLE SYSTEM SECURITY_MODE コマンド (211 ページ) を実行します。このコマンドを実行すると、ファイルシステム上に「enabled.sec」ファイルが作成されます。システム起動時に本ファイルが存在すればセキュリティモードとなります。このファイルを削除したり、修正、編集、コピー、リネーム等を行わないでください。

```
ENABLE SYSTEM SECURITY_MODE ↵
```

■ 現在の動作モードを確認するには SHOW SYSTEM コマンド (359 ページ) を実行します。「Security Mode」が Enabled ならセキュリティモード、Disabled ならノーマルモードです。

■ Security Officer レベルでログインしなおすと、コマンドプロンプトが「SecOff >」に変わります。

■ Security Officer レベルでログインすると、セキュリティタイマーがスタートします。このタイマーはセキュリティ関連コマンドを実行するたびにリセットされます。一定時間セキュリティコマンドを実行しないとタイマーがタイムアウトし、ログインユーザーの権限は Manager レベルに格下げされます。格下げされた状態でセキュリティコマンドを実行しようとする、あらためて Security Officer レベルのパスワードを要求されます。

■ セキュリティタイマーのデフォルト値は 60 秒です。この値を変更するには、SET USER コマンド (287 ページ) の SECUREDELAY パラメーターを使用します。

```
SET USER SECUREDELAY=90 ↵
```

■ セキュリティモード時に SET CONFIG コマンド (239 ページ) で起動スクリプトを変更するときは注

意が必要です。たとえば、SET CONFIG=NONE を実行すると、起動スクリプトは空になりますが、動作モードはセキュリティモードのままになります。この状態でシステムを再起動すると、Security Officer レベルのユーザーが存在しないことになるため、多くのコマンドが実行できなくなります。このような状態になった場合は、DISABLE SYSTEM SECURITY_MODE コマンド（186 ページ）を実行するしかありません。

■ ノーマルモードに戻るには DISABLE SYSTEM SECURITY_MODE コマンド（186 ページ）を実行します。このコマンドを実行すると、「enabled.sec」ファイルが削除されます。

Remote Security Officer (RSO)

セキュリティモードでは、Security Officer レベルでの Telnet ログインが原則として禁止されています。Remote Security Officer (RSO) は、信頼できる特定の IP アドレスに限り Security Officer レベルでの Telnet ログインを許可する機能です。

1. RSO アクセス (Security Officer レベルでの Telnet ログイン) を有効にするには、ENABLE USER RSO コマンド（215 ページ）を使います。

```
ENABLE USER RSO ↵
```

2. Security Officer レベルでの Telnet ログインを許可するアドレス (RSO アドレス) を追加するには、ADD USER RSO コマンド（121 ページ）を使います。

```
ADD USER RSO IP=192.168.10.5 ↵
```

MASK パラメーターを使えば、許可するアドレスを範囲指定することもできます (サブネットなど)。省略時は 32 ビットマスク (単一ホストの指定) となります。

```
ADD USER RSO IP=172.16.10.0 MASK=255.255.255.0 ↵
```

■ RSO アドレスを削除するには DELETE USER RSO コマンド（166 ページ）を使います。

```
DELETE USER RSO=172.16.10.0 ↵
```

■ RSO アドレスの一覧を見るには SHOW USER RSO コマンド（376 ページ）を使います。

```
SHOW USER RSO ↵
```

■ RSO アクセスを無効にするには DISABLE USER RSO コマンド（190 ページ）を使います。

```
DISABLE USER RSO ↵
```

Manager レベルでのセキュリティタイマー

Manager レベルでログインしているときは、以下のコマンドがセキュリティコマンドと見なされ、セキュリティモード時と同様のセキュリティタイマーが適用されます。

- ADD USER コマンド（119 ページ）

- DELETE USER コマンド (165 ページ)
- PURGE USER コマンド (230 ページ)
- SET MANAGER ASYN コマンド (252 ページ)
- SET USER コマンド (287 ページ)

これらのコマンドを実行するとセキュリティタイマーはリセットされます。これらのコマンドを一定時間 (SET USER コマンド (287 ページ) の SECUREDELAY パラメーター) 実行しないとタイマーがタイムアウトし、次にこれらのコマンドを実行したときにパスワードの入力が求められます。規定回数 (SET USER コマンド (287 ページ) の MANPWDFAIL パラメーター) ログインに失敗すると、強制的にログアウトさせられます (Telnet の場合はセッションが切断されます)。

ログ

本製品のログ機能について説明します。

ログ機能はデフォルトで有効になっており、メモリー（RAM）上に保存されるよう設定されています。メモリー上のログは、SHOW LOG コマンド（315 ページ）で見ることができます。

また、ログメッセージは、出力先の設定によって syslog サーバーに転送したり、メールで送信したりすることもできます。メッセージフィルターを使って、特定の条件を満たしたメッセージだけを保存・転送するよう設定することもできます。

デフォルトのログ設定

ご購入時の状態では、特殊な出力先「TEMPORARY」が登録されており、ログレベル 3（INFO）以上のメッセージを RAM 上に 200 件まで記録するよう設定されています。RAM 上に保存されたログメッセージは電源を切ると失われます。

これらのログは SHOW LOG コマンド（315 ページ）で見ることができます。

- RAM 上のログ（TEMPORARY）を見るには次のようにします。

```
SHOW LOG ↵
```

または

```
SHOW LOG=TEMPORARY (SHOW LOG=TE と省略できます) ↵
```

SET LOG OUTPUT コマンド（244 ページ） ADD LOG OUTPUT コマンド（105 ページ）でこれらの出力先定義の内容を変更することにより、RAM 上に保存されるメッセージの条件を変更することができます。以下にいくつか例を示します。詳細は以下の各節をご覧ください。

- RAM 上に保存されるログメッセージのログレベルを 2（DETAIL）以上に変更するには、次のようにします。

```
SET LOG OUTPUT=TEMPORARY FILTER=1 SEVERITY=>2 ↵
```

- すべてのメッセージが RAM 上に保存されるようにするには次のようにします。

```
SET LOG OUTPUT=TEMPORARY FILTER=1 ALL ↵
```

- RAM 上に保存するメッセージの数を 500 に増やすには次のようにします。

```
SET LOG OUTPUT=TEMPORARY MESSAGES=500 ↵
```

ログの閲覧

メモリー（RAM）上のログを見るには SHOW LOG コマンド（315 ページ）を使います。

- すべてのログを見るには次のようにします。

```
SHOW LOG ↵
```

- 最新のログだけを見るには次のようにします。

```
SHOW LOG TAIL ↵
```

- TAIL パラメーターに数値を指定すれば、最新の x 個だけを見ることができます。省略時は最新の 20 個が表示されます。

```
SHOW LOG TAIL=50 ↵
```

- 逆順（新しい順）にログを表示させるには REVERSE を使います。通常は古い順に表示されます。

```
SHOW LOG REVERSE ↵
```

- REVERSE パラメーターに数値を指定すれば、最新の x 個だけを新しい順に見ることができます。

```
SHOW LOG REVERSE=20 ↵
```

- 特定モジュールのログだけを見たいときは次のようにします。

```
SHOW LOG MODULE=FIRE ↵
```

ログ設定のカスタマイズ手順

ログの設定は、次の 2 つの要素を組み合わせることによって行います。

1. 出力先の定義：ログの出力先（RAM、メールアドレス、syslog サーバーなど）や出力フォーマットなどを定義します。ログの出力先には以下のデバイスや宛先を指定できます。
 - ランタイムメモリー（RAM）
 - コンソールポート
 - メール送信
 - syslog サーバー（syslogd）に転送。メッセージは syslog 形式に変換された上で送信される。
 - SRLP（Secure Router Logging Protocol）で別のルーターに転送
2. メッセージフィルターの追加：個々のログメッセージの内容（メッセージタイプ、サブタイプ、ログレベルなど）に応じて、出力する・しないを決定します。出力先の定義にメッセージフィルターを関連付けることによって初めてログメッセージが出力されるようになります。

以下、各手順について例を挙げながら解説します。

ログ出力先の定義

デフォルト以外の場所（RAM 以外）にログを出力するには、最初に出力先を定義する必要があります。これには CREATE LOG OUTPUT コマンド（130 ページ）を使います。ユーザーが定義する出力先は 1～20 の出力先 ID で区別します。

以下にいくつか例を示します。

- syslog サーバーにログを転送する場合は、DESTINATION パラメーターに SYSLOG を、SERVER パラメーターに syslog サーバーの IP アドレスを指定します。

```
CREATE LOG OUTPUT=1 DESTINATION=SYSLOG SERVER=192.168.10.5 ↓
```

- ログをメールで送る場合は、DESTINATION パラメーターに EMAIL を、TO パラメーターに送信先のメールアドレスを指定します。

```
CREATE LOG OUTPUT=2 DESTINATION=EMAIL TO=admin@is.example.com ↓
```

メール送信時は、一通のメールでいくつのログメッセージを送信するかを指定することができます。デフォルトでは、ログメッセージが 100 件たまるごとにメールが送信されます。

逆に言うとメッセージが 100 件たまるまでメールが送信されませんので、よりリアルタイムにメッセージを受け取りたいときは MESSAGES パラメーターで一度に送信するメッセージ数を減らします。次の例ではメッセージが 10 件たまるごとにメールで送信します。

```
CREATE LOG OUTPUT=2 DESTINATION=EMAIL TO=admin@is.example.com
    MESSAGES=10 ↓
```

- 一度作成した出力先定義の内容を変更したいときは、SET LOG OUTPUT コマンド (244 ページ) を使います。たとえば、出力先「1」の syslog サーバーアドレスを変更したいときは次のようにします。

```
SET LOG OUTPUT=1 SERVER=192.168.10.100 ↓
```

- 出力先の設定内容を確認するには SHOW LOG OUTPUT コマンド (321 ページ) を使います。

```
SHOW LOG OUTPUT ↓
```

- OUTPUT パラメーターに出力先 ID を指定すると、より詳細な情報を見ることができます。

```
SHOW LOG OUTPUT=1 ↓
SHOW LOG OUTPUT=TEMPORARY ↓
```

- さらに FULL オプションを付けると、メッセージフィルターの情報も表示されるようになります。フィルターについては次節で述べます。

```
SHOW LOG OUTPUT FULL ↓
SHOW LOG OUTPUT=1 FULL ↓
```

- ログ出力先の定義を削除するには DESTROY LOG OUTPUT コマンド (167 ページ) を使います。

```
DESTROY LOG OUTPUT=3 ↓
```

メッセージフィルターの追加

出力先を定義しただけでは、ログメッセージは出力されません。出力先定義にメッセージフィルターを関連付け、出力すべきメッセージの種類を指定する必要があります。メッセージフィルターの追加は ADD LOG OUTPUT コマンド (105 ページ) で行います。1 つの出力先に対して複数のフィルターエントリーを設定することも可能です。

- すべてのログメッセージを出力する場合は ALL を指定します。

```
ADD LOG OUTPUT=1 ALL ↓
```

- 特定のモジュールに関するログだけを出力させたいときは、MODULE パラメーターにモジュール ID かモジュール名を指定します。たとえば、ファイアウォールに関するログだけを出力させたい場合は次のようなフィルターを追加します。

```
ADD LOG OUTPUT=2 MODULE=FIREWALL ↓
```

モジュール ID、モジュール名については、「モジュール ID とモジュール名」をご覧ください。

- メッセージフィルターの設定では、「大きい」「小さい」「等しい」「等しくない」「～を含む」などの比較演算子を使えます。ファイアウォール以外のログだけを出力させたい場合は次のように否定演算子「!」を使います。

```
ADD LOG OUTPUT=3 MODULE=!FIREWALL ↓
```

比較演算子については「ログフィルターの条件指定に使える比較演算子」をご覧ください。

- ログレベル 6 (URGENT) 以上のログだけを出力させたい場合は次のようにします。

```
ADD LOG OUTPUT=4 SEVERITY=>6 ↓
```

ログレベルの一覧については「ログレベル」をご覧ください。

- ログメッセージ本文に「unknown」という文字列が含まれるメッセージだけを出力したいときは次のようにします。大文字小文字は区別されません。

```
ADD LOG OUTPUT=5 MSGTEXT=%unknown ↓
```

- 複数の条件を同時に指定することもできます。ファイアウォールに関するログのうち、ログレベルが 6 (URGENT) 以上のメッセージだけを出力したいときは次のようにします。

```
ADD LOG OUTPUT=6 MODULE=FIREWALL SEVERITY=>6 ↓
```

- メッセージフィルターの設定を確認するには、SHOW LOG OUTPUT コマンド (321 ページ) の FULL オプションを使います。

```
SHOW LOG OUTPUT FULL ↓
```

```
SHOW LOG OUTPUT=1 FULL ↓
```

- 出力先定義からログフィルターを削除するには DELETE LOG OUTPUT コマンド (156 ページ) を使います。FILTER パラメーターにはフィルターエントリーの番号を指定します。デフォルトでは、フィルター番号は ADD LOG OUTPUT コマンド (105 ページ) で追加した順に付けられます。番号を確認するには、

SHOW LOG OUTPUT コマンド (321 ページ) を FULL オプション付きで実行します。

```
DELETE LOG OUTPUT=3 FILTER=1 ↓
```

```
DELETE LOG OUTPUT=3 FILTER=ALL ↓
```

ログ設定の確認

- ログの出力先定義は SHOW LOG OUTPUT コマンド (321 ページ) で確認します。TE (TEMPORARY) は、デフォルトで定義されている出力先です。

```
Manager > show log output
```

OD#	Type	Port	Server	Msg	Zone	Fmt	Email Address	ESQMP
01	Email			0002	-	S	admin@fried-telesi	YNN--
TE	Memory			0200	Default			YY---

- 各出力先定義の詳細や、関連付けられているメッセージフィルターの内容を確認するには、SHOW LOG OUTPUT コマンド (321 ページ) に FULL オプションを付けます。

```
Manager > show log output=1 full
```

```
Output Definition ..... 1
Enabled ..... Yes
Type ..... Email
Max Messages ..... 2
Time Zone ..... Not set
Format ..... Full
Email Address ..... admin@is.example.com
Secure ..... No
Queue Only ..... No
```

```
Filter 1:
```

```
ALL
```

- ログモジュールのステータスは、SHOW LOG STATUS コマンド (328 ページ) で確認できます。

```
Manager > show log status
```

```
Log System Status
```

```
-----
Log Module Status ..... Enabled
Log Message Generation ..... Enabled
Log Message Reception (via network) ... Enabled
Log Message Output ..... Enabled
Local Time Offset (from UTC) ..... Not set
Next Message ID ..... 338
```

Number of Output Definitions 3

設定例

syslog サーバーへのログ転送

ここでは、すべてのログを syslog サーバーに転送するための設定を示します。IP 等の設定は終わっているものとします。

1. ログの出力先を定義します。ここでは、syslog サーバー 192.168.10.5 にログメッセージを転送します。

```
CREATE LOG OUTPUT=1 DESTINATION=SYSLOG SERVER=192.168.10.5 ↵
```

2. すべてのログメッセージを出力するメッセージフィルターを追加します。

```
ADD LOG OUTPUT=1 ALL ↵
```

syslog サーバーがリモートからの接続を受け付けるよう設定されていれば、ルーターの生成するすべてのログメッセージが syslog サーバーに送られ、記録されるようになります。syslog サーバー上で各メッセージがどのように処理されるかは、syslogd の設定ファイル /etc/syslog.conf の内容によって決まります。syslog サーバーの詳細については、サーバーシステム上のマニュアルページ syslogd(8)、syslog.conf(5)、syslog(1)、logger(1) 等をご参照ください。

メール送信

ログメッセージをメールで送りたいときは次のようにします。

1. メール送信機能の基本設定をします。

```
SET MAIL HOSTNAME=gw.tw.example.com ↵
ADD IP DNS PRIMARY=192.168.1.1 ↵
```

2. ログの出力先を定義します。ここでは、ログメッセージが 10 個たまるとに、メールで admin@is.example.com に送信するよう設定します。

```
CREATE LOG OUTPUT=2 DESTINATION=EMAIL TO=admin@is.example.com
MESSAGE=10 ↵
```

✎ メールは、ログメッセージが MESSAGE パラメーターで指定した数たった時点で送信されます。MESSAGE パラメーターを指定しなかった場合はデフォルト値の 100 が採用されるため、すぐにはメールが送信されないことがあります。

3. すべてのログメッセージを出力するメッセージフィルターを追加します。

```
ADD LOG OUTPUT=2 ALL ↵
```

資料編

メッセージフォーマット

ログメッセージは下記のフィールドで構成されています。ただし出力時には、出力先定義の内容により、一部のフィールドだけが表示されたり、フォーマットが変換されたりすることがあります。

フィールド	サイズ (バイト)	説明
Msg ID	4	メッセージ ID
Flags	2	フラグとログレベル
Date	2	メッセージが生成された日付 (現地時間)
Time	3	メッセージが生成された時刻 (現地時間)
Origin IP	4	メッセージ生成者の IP アドレス
Module	2	メッセージを生成したモジュール
Type	2	メッセージタイプ
SubType	2	メッセージサブタイプ
Source File	12	メッセージを生成したプログラムソースファイル名
Source Line	2	メッセージを生成したプログラムソースファイル内の行番号
Reference	15	参考情報 (ユーザー名、ISDN コール名など)
Message	80	メッセージ本文

表 14:

Date/Time	Mod	Type	SType	Dev	Origin	MSGID	Source File/Line
09:52:27	3	USER	USER	LON	00016 Local	00063	usermain.c:2709
03-JUL-2001		manager			LOCTIME		
		manager login on port0					

ログレベル

ログメッセージは、イベントの重要度によって次のように分類されます。

ログレベル	呼称	説明
7	CRITICAL	きわめて重大な障害が発生している
6	URGENT	緊急を要する情報。障害が発生し、システムの動作に影響を与える (与えた) 可能性がある
5	IMPORTANT	管理者の注意を要する重要な情報。障害の可能性はある
4	NOTICE	管理者の注意を要するかもしれない情報
3	INFO	各種イベントの通知。通常運用を示すもので緊急性はない
2	DETAIL	詳細な情報。通常運用時には無視してもかまわないが、役に立つこともあるかもしれない

1	TRIVIAL	さらに詳細な情報
0	DEBUG	デバッグ用のきわめて詳細な情報。大量のメッセージが出力される可能性あり

表 15:

ログフィルターの条件指定に使える比較演算子

演算子	例	意味
< (以下)	SEVERITY=<5 (ログレベルが5以下)	フィールドの値が指定値以下の場合にマッチ
> (以上)	SEVERITY=>6 (ログレベルが6以上)	フィールドの値が指定値以上の場合にマッチ
! (等しくない)	TYPE=!CMD (メッセージタイプがCMD でなければマッチ)	フィールドの値が指定値と異なればマッチ
指定なし (等しい)	MODULE=FIREWALL	フィールドの値が指定値と等しければマッチ
% (部分文字列を含む)	MSGTEXT=%failed (メッセージ本文に「failed」を含む)	フィールドの値に指定した文字列が含まれていればマッチ。テキストフィールドでのみ有効

表 16:

※ 比較演算子の前には必ず等号 (=) が必要です。

モジュール ID とモジュール名

次にモジュール ID とモジュール名の一覧を示します。

※ 一覧には未サポートのモジュールも含まれています。

ID	モジュール名	説明
0	NONE	
1	-	予約済み
2	FR, FRAMERELAY	フレームリレー DTE データリンクレイヤーモジュール
3	PPP	PPP (Point-to-Point Protocol) モジュール
4	APPLE	AppleTalk ルーティングモジュール
5	IP, IPG	IP (Internet Protocol) ルーティングモジュール。RIP、ICMP、UDP、SNMP を含む
6	IPX	Novell IPX ルーティングモジュール
7	SYN	同期 (Synchronous) インターフェースドライバー

8	DNT, DECNET	DECnet ルーティングモジュール
9	-	予約済み
10	-	予約済み
11	-	予約済み
12	-	予約済み
13	X25C	X.25 DCE (レイヤー 3) ハンドラー
14	Q931	ITU-T 標準 Q.931 ISDN 呼制御
15	-	予約済み
16	-	予約済み
17	LAPB	LAPB データリンクレイヤーモジュール (X.25 用)
18	TEST	ルーター内蔵のハードウェア (インターフェース、コプロセッサ等) テストモジュール
19	LAPD	LAPD データリンクレイヤーモジュール (ISDN D チャンネル用)
20	STT	STT (Synchronous Tunnelling over TCP) モジュール
21	STRM, STREAM	Stream プリンティング
22	TCP	TCP (Transmission Control Protocol) モジュール
23	ETH	Ethernet ドライバーと論理リンク制御モジュール
24	PERM	Permanent assignments モジュール
25	TS, TSERVER	ターミナルサーバーモジュール
26	LPD	LPD (Line Printer Daemon) プリンターサーバーモジュール
27	BRG	ブリッジモジュール
28	COMP	圧縮モジュール
29	-	予約済み
30	X25T	X.25 DTE (レイヤー 3) ハンドラー
31	FLASH	FLASH デバイスドライバー
32	-	予約済み
33	TLNT, TELNET	Telnet モジュール
34	SYS, SYSTEM	一般システムモジュール
35	CH	コマンドプロセッサ
36	TTY	ターミナルドライバー (Telnet、非同期ポート用)
37	ICC, ISDNCC	ISDN 呼制御モジュール
38	MIOX	MIOX (Multiprotocol Interconnect Over X.25) モジュール
39	BOOTP	BOOTP モジュール
40	NTP	NTP (Network Time Protocol) モジュール
41	BRI	ISDN BRI インターフェースデバイスドライバー
42	PRI	ISDN PRI インターフェースデバイスドライバー
43	PORT	非同期ポートモジュール (デバイス非依存部分)
44	ENC, ENCRYPT	暗号モジュール

45	USER	ユーザーログインモジュール。ユーザー認証データベースなど
46	ACC	非同期コールコントロール (ACC) モジュール
47	ASYN	非同期ポートモジュール (デバイス非依存部分)
48	LOAD	LOADER モジュール。リリースファイル、パッチファイルのダウンロード。その他のファイルのアップロード、ダウンロード等を司る
49	INST, INSTALL	インストールモジュール。ROM、FLASH、NVS からのブートストラップを司る
50	OSPF	OSPF (Open Shortest Path First) モジュール
51	RAD, RADIUS	RADIUS モジュール
52	GRE	GRE (Generic Routing Encapsulation) モジュール
53	TRG, TRIGGER	トリガーモジュール
54	SCR	スクリプトモジュール
55	TDM	TDM (Time Division Multiplexing) モジュール
56	FILE	ファイルサブシステム
57	LOG	ロギングモジュール
58	PING	マルチプロトコル Ping モジュール
59	SNMP	SNMP エージェントモジュール
60	SCC	SCC ドライバー
61	PBX	PBX モジュール (アナログポート)
62	SA	SA (Security Association) モジュール
63	SYNCC	Synchronous Call Control
64	NAT	NAT (Network Address Translation) モジュール
65	-	予約済み
66	IPV6	IPv6 (Internet Protocol Version 6) モジュール
67	L2TP	L2TP (Layer Two Tunnelling Protocol) モジュール
68	-	予約済み
69	HOSTMIB	Host Resources MIB
70	DHCP	DHCP (Dynamic Host Configuration Protocol) モジュール
71	INTERFACE	インターフェースモジュール
72	-	予約済み
73	ENCO	暗号モジュール
74	STAR	STAR モジュール
75	SSH	SSH (Secure Shell) クライアント/サーバーモジュール
76	RSVP	RSVP (Resource Reservation Protocol) モジュール
77	FIREWALL	ファイアウォールモジュール
78	MAIL	SMTP (メール) クライアントモジュール
79	TPAD	TPAD (Transaction Packet Assembler/Disassembler) モジュール
80	-	予約済み

81	IPSEC	IPsec モジュール
82	ISAKMP	ISAKMP モジュール
83	FINGER	FINGER クライアントモジュール
84	HTTP	HTTP クライアント/サーバーモジュール
85	DCP	DCP (Device Control Protocol)
86	RMON	RMON (Remote Monitoring) エージェント
87	SWITCH	レイヤー 3 スイッチングモジュール
88	VRRP	VRRP (Virtual Router Redundancy Protocol) モジュール
89	VLAN	VLAN (バーチャル LAN)
90	PCI	PCI ドライバー
91	GARP	GARP (Generic Attribute Registration Protocol) モジュール
92	STP	STP (Spanning Tree Protocol) モジュール
93	GUI	Web インターフェース
94	OSI	OSI (Open Systems Interconnection)
95	PKI	PKI (Public Key Infrastructure) モジュール
96	LDAP	LDAP (Lightweight Directory Access Protocol) モジュール
97	PIM	PIM (Protocol Independent Multicast) モジュール
98	DVMRP	DVMRP (Distance Vector Multicast Routing Protocol) モジュール
99	-	予約済み
100	-	予約済み
101	-	予約済み
102	-	予約済み
103	BGP	BGP-4 (Border Gateway Protocol version 4)

表 17:

タイプ/サブタイプ

ログメッセージのタイプ、サブタイプは次の通りです。

ㄨ 一覧には未サポートのタイプ/サブタイプも含まれています。

タイプ ID/名称	タイプ説明	サブタイプ ID/名称	サブタイプ説明
000/NULL	該当するタイプ、サブタイプなし	000/NULL	メッセージタイプに対応していない旧バージョンのログシステムが生成したメッセージ
001/REST	再起動	001/NORM	通常の再起動
		002/CRASH	クラッシュ後再起動
		003/FAIL	再起動・セルフテストに失敗

002/PINT	物理インターフェース (BRI0、SYN1、PORT1、ETH0 など)	001/UP	リンクアップ
		002/DOWN	リンクダウン
		003/WARN	障害の兆候あり
		004/ERROR	障害検出
		005/RESET	リセット
		006/NTON	CARD=x LINE=y. NT has power.
		007/NTOFF	CARD=x LINE=y. NT power failure.
		008/CREATE	活線状態での取り付け
		009/DEST	活線状態での取り外し
003/CALL	ISDN コール、ACC コール	001/UP	発呼
		002/DOWN	切断
		003/WARN	障害の兆候あり
		004/ERROR	障害検出
		005/RESET	リセット
004/DLINK	データリンク層モジュール (例 : LAPB、LAPD)	001/UP	リンクアップ
		002/DOWN	リンクダウン
		003/WARN	障害の兆候あり
		004/ERROR	障害検出
		005/RESET	リセット
		006/PNORM	CARD=x LINE=y PER normal.
		007/PHIGH	CARD=x LINE=y PER limit exceeded.
		008/ACT	起動
		009/DEACT	切断
005/VINT	仮想的なインターフェース (例 ; PPP0、FR1、SLIP2)	001/UP	リンクアップ
		002/DOWN	リンクダウン
		003/WARN	障害の兆候あり

		004/ERROR	障害検出
		005/RESET	リセット
		006/ACT	オンデマンドインターフェースの起動
		007/CREATE	インターフェースが作成 (CREATE) された
		008/DEST	インターフェースが削除 (DESTROY) された
006/CIRC	仮想回線(サーキット) (例:DLC(論理パス))	001/UP	リンクアップ
		002/DOWN	リンクダウン
		003/WARN	障害の兆候あり
		004/ERROR	障害検出
		005/RESET	リセット
		006/CONF	自動設定やオプションのネゴシエーション
007/ATT	モジュールのアタッチ	001/ATTCH	モジュールがアタッチされた
		002/DETCH	モジュールがデタッチされた
		003/FAIL	モジュールのアタッチに失敗した
008/EXCEP	予期しない例外状態の検出	000/RESET	再起動
		001/EXTNO	External contact open.
		002/EXTNC	External contact closed.
		008/BUS	バスエラー
		012/ADDR	アドレスエラー
		016/INSTR	不正な命令
		032/PRIV	権限違反
		040/LINEA	Line A emulator
		044/LINEF	Line F emulator
		096/SPUR	Spurious interrupt
		128/TRAP0	Trap #0 (fatal)
		132/TRAP1	Trap #1 (restart)

009/BUFF	メモリー	136/TRAP2	Trap #2 (assert)
		001/LEV1	空きメモリーがバッファレベル1を下回った
		002/LEV2	空きメモリーがバッファレベル2を下回った
		003/LEV3	空きメモリーがバッファレベル3を下回った
010/LIC	ライセンス情報	001/REL	リリースライセンス情報
		002/COMP	ソフトウェア圧縮ライセンス情報
011/AUTH	認証	001/OK	認証成功 (LOGIN、CONNECT など)
		002/FAIL	認証失敗
		003/RFAIL	連続的な認証失敗
012/BATCH	トリガー/スクリプト	001/ACT	トリガー/スクリプトの起動
		002/CMD	トリガー/スクリプトコマンド
		003/OUT	トリガー/スクリプトの出力
014/LPD	LPD(プリンターサーバー)		
015/SYSLOG	syslog 経由で受信したメッセージのファシリティー(メッセージ生成元モジュール)	000/KERN	カーネル (LOG_KERN)
		008/USER	ユーザープロセス (LOG_USER)
		016/MAIL	メールサブシステム (LOG_MAIL)
		024/DAEMON	システムデーモン (LOG_DAEMON)
		032/AUTH	セキュリティ/認証システム (LOG_AUTH)

		040/SYSLOG	syslog デーモン (syslogd)(LOG_ SYSLOG)
		048/LPR	プリンタースプーラー サブシステム (LOG_ LPD)
		056/NEWS	ネットニュースサブシ ステム (LOG_NEWS)
		064/UUCP	UUCP サブシステム (LOG_UUCP)
		072/CRON	定期実行デーモ ン (crond)(LOG_ CRON)
		080/AUTHPRIV	セキュリティ/認証 システム (特定ユー ザーだけが読めるよう にすべきもの)(LOG_ AUTHPRIV)
		128/LOCAL0	ローカル用に予約 (LOG_LOCAL0)
		136/LOCAL1	ローカル用に予約 (LOG_LOCAL1)
		144/LOCAL2	ローカル用に予約 (LOG_LOCAL2)
		152/LOCAL3	ローカル用に予約 (LOG_LOCAL3)
		160/LOCAL4	ローカル用に予約 (LOG_LOCAL4)
		168/LOCAL5	ローカル用に予約 (LOG_LOCAL5)
		176/LOCAL6	ローカル用に予約 (LOG_LOCAL6)
		184/LOCAL7	ローカル用に予約 (LOG_LOCAL7)
016/ACC	非同期コールコン トロール (ACC)	001/SCR	スクリプトが見つから ない
		002/CALL	ACC コールが見つから ない

		003/PORT	ポートが存在しない
		004/ACT	起動
		005/DEACT	切断
		006/DIAL	ダイヤルイン接続が確立
017/NVS	NVS (不揮発性メモリー)	001/RFAIL	NVS ブロックのオープン/読み込みエラー
		002/WFAIL	NVS ブロックへの書き込みエラー
		003/CFAIL	NVS ブロックの作成エラー
018/FLASH	FLASH メモリー		
019/USER	ユーザー	001/LON	ログオン (ログイン)
		002/LOFF	ログオフ
		003/ADD	アカウント追加
		004/DEL	アカウント削除
		005/PWCHG	パスワード変更
		006/PWERR	管理者パスワード変更失敗
		007/PWSET	管理者パスワード変更成功
		008/LOOP	ログインプロンプトでのループバック障害
		009/TACQ	TACACS 要求
		010/TACR	TACACS 応答
		011/LFAIL	ログイン失敗
020/CMD	コマンドプロセッサ	001/MGR	管理者コマンド
		002/USER	一般ユーザーコマンド
021/MSG	コンソールメッセージ	001/INFO	一般的な情報
		002/WARN	警告
		003/ERROR	エラー
022/CONFIG	ルーター/ネットワークのコンフィギュレーションに関する情報/警告	001/TOPO	ネットワークトポロジー関係
		002/NTNUM	ネットワーク番号の重複 (IPX、AppleTalk など)

		003/NTNAM	ネットワーク名の重複 (AppleTalk など)
		004/SWINS	活線状態でのボード挿入
		005/SWIN	活線状態でのスワップイン
		006/SWOUT	活線状態でのスワップアウト
		007/SWDEL	活線状態でのボード交換 (別種類のものに変更)
023/IPFILT	IP フィルター	001/PASS	IP フィルターによるパケット通過
		002/FAIL	IP フィルターによるパケット破棄
		003/DUMP	IP フィルターによるパケットダンプ
		004/FRAG	IP フラグメントフィルターによるパケット破棄
		005/SA	SA による IP パケット破棄
		006/SRCRT	IP ソースルートフィルターによるパケット破棄
		007/RECR	IP 経路記録パケット転送
024/INTERR	予期しない内部エラー	001/BDPKT	システムコード内で不正パケットを検出
		002/IVPAR	不正なパラメーターを検出
		003/BDATT	下位層へのアタッチに失敗
025/IPNAT	IP NAT (レンジ NAT)	001/FAIL	NAT によるパケット破棄
		002/INTCP	外から中への TCP コネクション開始
		003/INUDP	外から中への UDP フロー開始

		004/OUTTCP	中から外への TCP コネクション開始
		005/OUTUDP	中から外への UDP フロー開始
		001/IPXSV	IPX サービステーブルの空き容量ゼロ
026/LIMIT	内部的な制限値オーバー	002/IPXRT	IPX ルートテーブルの空き容量ゼロ
		003/SWCMP	ソフトウェア圧縮チャンネルがすべて使用中
		001/BIND	デバイスにアドレスを割り当て
027/DHCP	DHCP	002/FREE	デバイスからアドレスを解放
		003/FAIL	デバイスへのアドレス割り当てを拒否
		001/OIF	ルーター側の問題により発呼失敗
028/PBX	PBX(アナログポート)	002/ONF	網側の問題により発呼失敗
		003/OOK	発呼成功
		004/IIF	ルーター側の問題により着呼失敗
		005/INF	網側の問題により着呼失敗
		006/IOK	着呼成功
		007/OVER	優先発信 (オーバーライド)
		008/POVER	高優先度オーバーライド
		009/HOOK	Extension on/off hook
		010/FEAT	PBX の各種機能有効化
		001/ADD	RSO アドレス追加
029/RSO	リモートセキュリティーオフィサー(RSO)	002/DELETE	RSO アドレス削除
		003/ENABLED	RSO 有効化

		004/DISABLED	RSO 無効化
		005/ACCEPT	RSO アクセスを受理
		006/REJECT	RSO アクセスを拒否
030			予約済み
031/ENCO	ENCO (暗号) モジュール	001/9711	Hifin 9711 チップサブシステム
		002/STACSW	STAC SW サブシステム
		003/CRYP	Cryptech チップサブシステム
		004/PAC	PAC カードサブシステム
		005/MAC	MAC カードサブシステム
032/RSVP	RSVP	001/PATH_REMOVE	Path 削除
		002/PATH_ADDED	Path 追加
		003/SESSION_REMOVED	セッション削除
		004/SESSION_ADDED	セッション追加
		005/RESV_ADDED	帯域予約追加
		006/RESV_REMOVED	帯域予約削除
		007/RESV_DENIED_RES	リソース不足による予約拒否
033/SSH	Secure Shell	001/USER_ADD	SSH ユーザー追加
		002/USER_DELETE	SSH ユーザー削除
		003/USER_SET	SSH ユーザーの設定変更
		004/ENABLED	SSH サーバー有効化
		005/DISABLED	SSH サーバー無効化
		006/ACCEPT	SSH 接続受理
		007/REJECT	SSH 接続拒否
		008/DISCONNECT	SSH 接続切断
034/TPAD	TPAD	001/TCONN	TPAD 端末セッション接続
		002/TDISC	TPAD 端末セッション切断
		003/CALL	TPAD が X.25 による発呼を試行
		004/CLEAR	TPAD または網により X.25 コールを切断

		005/FAIL	X.25 コールの発呼に失敗
		006/ONLINE	コール確立。トランザクション開始準備完了
		007/OFFLINE	コール完了・切断
		001/SUBMIT	SMTP サーバーにメッセージ送信
035/MAIL	メールサブシステム	002/START	SMTP サーバーとのセッション開始
		003/END	SMTP サーバーとのセッション切断
		004/ERROR	SMTP サーバーからエラーを受信
		001/INATCP	外部から内部へのTCPセッション開始
036/FIREWALL	ファイアウォール	002/INAUDP	外部から内部へのUDPフロー開始
		003/INAICMP	外部から内部へのICMPフロー開始
		004/INAOTHER	外部から内部へのその他IPフロー開始
		005/OUTATCP	内部から外部へのTCPセッション開始
		006/OUTAUDP	内部から外部へのUDPフロー開始
		007/OUTAICMP	内部から外部へのICMPフロー開始
		008/OUTAOTHER	内部から外部へのその他IPフロー開始
		009/INDTCP	外部から内部へのTCPセッションを拒否
		010/INDUDP	外部から内部へのUDPフローを拒否
		011/INDICMP	外部から内部へのICMPフローを拒否
		012/INDOTHER	外部から内部へのその他IPフローを拒否
		013/OUTDTCP	内部から外部へのTCPセッションを拒否

		014/OUTDUDP	内部から外部へのUDPフローを拒否
		015/OUTDICMP	内部から外部へのICMPフローを拒否
		016/OUTDOTHER	内部から外部へのその他IPフローを拒否
		017/ATTACK	攻撃を受けている
		018/ENABLE	ファイアウォール有効化
		019/DISABLE	ファイアウォール無効化
		020/DESTROY	ファイアウォールポリシー削除
037/ACCOUNTING	アカウントینگ	001/START	トラフィックフロー開始
		002/UPDATE	トラフィックフローの統計更新
		003/END	トラフィックフロー終了
038/FEATURE	フィーチャーライセンス	001/EXP	フィーチャーライセンスの試用期限終了
039			予約済み
040			予約済み
041			予約済み
042/IPSEC	IPsec	001/MSG	一般情報
		002/INERR	内向きプロセス
		003/OUTERR	外向きプロセス
043/ISAKMP	ISAKMP	001/XCHG	ISAKMP エクスチェンジ
		002/SA	SA
		003/ERROR	エラー
		004/MSG	一般情報
044/BOOTP	BOOTP	001/ETHCONF	Ethernet インターフェースの設定
045/HTTP	HTTP サーバー	001/GETOK	GET 成功
		002/GETFAIL	GET 失敗
		003/EXCPT	例外イベント
046/VRRP	VRRP	001/MRET	マスタールーターからバックアップルーターに移行

		002/MNEW	新しいマスタールーターの選出
		003/BADAD	無効な Advertisement パケット受信
		004/NOIP	IP インターフェースなし
		005/RISMAST	マスタールーターに移行
		006/PRIORITY	ルーター優先度変更
		001/SNA	要求されたサービスは現在使用不可能
047/PPPOE	PPPoE	002/NAS	要求されたサービスが存在しない
048/FILE	ファイル	001/DIR	ディレクトリーエントリーの追加 / 削除エラー
		002/CREATE	ファイル作成
		003/DELETE	ファイル削除
		004/RENAME	ファイル名変更
049/IPv6FILTER	IPv6 フィルター	001/FILT_PASS	IPv6 フィルターによるパケット通過
		002/FILT_FAIL	IPv6 フィルターによるパケット破棄
		003/FILT_DUMP	IPv6 フィルターによるパケットダンプ
050/PKI	PKI (Public Key Infrastructure)	001/PKI_CERT	PKI 証明書メッセージ (PKI certificate message)
		002/PKI_CRL	PKI 証明書失効リストメッセージ (PKI certificate revocation list message)
		003/PKI_OP	PKI オペレーショナルプロトコルメッセージ (PKI operational protocol message)

		004/PKIMP	PKI マネージメント プロトコルメッセージ (PKI management protocol message)
051/SYSINFO	システムステータス情 報	001/PS	電源状態の変化
		002/FAN	ファン状態の変化
		003/TEMP	温度状態の変化
052/IPDNS	DNS キャッシュ		DNS キャッシュ

表 18:

syslog 形式への変換

ログメッセージを syslog サーバーに転送するときは、あらかじめ syslog 形式にメッセージが変換されます

ログレベルと syslog レベルのマッピング

ログメッセージのログレベルは、syslog の「レベル」に以下の通りマッピングされます

ログレベル	syslog レベル
7 (CRITICAL)	LOG_ALERT
6 (URGENT)	LOG_CRIT
5 (IMPORTANT)	LOG_ERR
4 (NOTICE)	LOG_ERR
3 (INFO)	LOG_WARNING
2 (DETAIL)	LOG_NOTICE
1 (TRIVIAL)	LOG_INFO
0 (DEBUG)	LOG_DEBUG

表 19:

メッセージタイプと syslog ファシリティの対応表

本製品のログメッセージタイプは、syslog の「ファシリティ」に以下の通りマッピングされます。

メッセージタイプ	syslog ファシリティ	意味
000/NULL	LOG_USER	メッセージタイプなしのメッセージ
010/LIC	LOG_USER	ライセンス情報
011/AUTH	LOG_AUTH	認証
012/BATCH	LOG_CRON	トリガー/スクリプト
014/LPD	LOG_LPR	LPD プリンターサーバー

001/REST	LOG_LOCAL7	再起動
008/EXCEP	LOG_LOCAL7	例外状況
009/BUFF	LOG_LOCAL7	メモリー
002/PINT	LOG_LOCAL6	物理インターフェース (BRI、SYN、PORT など)
004/DLINK	LOG_LOCAL6	データリンク層モジュール (LAPB、LAPD)
003/CALL	LOG_LOCAL5	ISDN コール、ACC コール
005/VINT	LOG_LOCAL5	仮想的なインターフェース (PPP、SLIP、FR など)
006/CIRC	LOG_LOCAL4	仮想回線 (フレームリレー、DLC など)
007/ATT	LOG_LOCAL4	モジュールのアタッチ/デタッチ
その他	LOG_USER	上記以外のメッセージタイプ

表 20:

■ メッセージタイプごとに異なるファシリティを使用するのではなく、出力先ごとに決まったファシリティ (LOG_LOCAL1~LOG_LOCAL7) を使うこともできます。これには、CREATE LOG OUTPUT コマンド (130 ページ)、SET LOG OUTPUT コマンド (244 ページ) の FACILITY パラメーターを使用します。たとえば、syslog サーバー 192.168.10.5 宛てのメッセージすべてにファシリティ「LOG_LOCAL1」をセットするには、次のようにします。

```
CREATE LOG OUTPUT=1 DESTINATION=SYSLOG SERVER=192.168.10.5
FACILITY=LOCAL1 ↵
```

スクリプト

スクリプト機能は、あらかじめファイルに記述された一連のコマンドを一括して実行する機能です。スクリプトは設定情報の保存に使うほか、頻繁に行う一連の処理をまとめたシェルスクリプト/バッチファイル的な使い方をしたり、トリガー機能と組み合わせてイベント発生時になんらかの処理を自動実行させたりと、工夫次第でさまざまな用途が考えられる便利な機能です。

スクリプトファイルは拡張子が.scp か.cfg のファイルで、内容はルーターの管理コマンドを列挙したテキストファイルです。慣例として、.cfg は設定情報を保存する設定スクリプト、.scp はバッチファイル的なスクリプトに使われますが、絶対的な区別はありません。

■ スクリプトファイルを作成するには、次の方法があります。

- 内蔵スクリーンエディター (EDIT コマンド (194 ページ)) で作成・編集する

```
EDIT myscript.scp ↵
```

- ADD SCRIPT コマンド (112 ページ) SET SCRIPT コマンド (257 ページ) でコマンドラインから作成する。

```
ADD SCRIPT=simple.scp TEXT="show file" ↵
```

- LOAD コマンド (220 ページ) を使って別のコンピュータ上で作成したファイルをダウンロードする。

```
LOAD METHOD=TFTP FILE=basic.scp SERVER=192.168.1.3 DEST=FLASH ↵
```

■ スクリプトは次のときに実行されます。

- コマンドラインから ACTIVATE SCRIPT コマンド (99 ページ) を実行したとき

```
ACTIVATE SCRIPT=gogo.scp ↵
```

- ルーターの起動時 (SET CONFIG コマンド (239 ページ) で指定された起動スクリプトが読み込まれ実行される)
- トリガーから呼び出されたとき

なお、boot.cfg という名前のスクリプトは特殊で、もし存在していれば起動時に自動実行されます (ただし、SET CONFIG コマンド (239 ページ) で起動時設定ファイルが指定されていないとき)。

■ スクリプト内の各行を実行するときは、一行実行するごとに短いウェイトが入ります。これは、スクリプトの実行がシステム本来の動作に与える影響を少なくするためです。なお、boot.cfg だけはウェイトなしで実行されます。

■ スクリプトが出力した文字列は、通常端末画面に出力されます。boot.cfg だけは特別で、デフォルトではログに出力されるよう設定されています。

また、ACTIVATE SCRIPT コマンド (99 ページ) でスクリプトを実行するときは、OUTPUT=LOG を指定することにより、出力をログに送ることができます。

◇ ただし、スクリプトが出力するログメッセージのログレベルが 2 (DETAIL) であるため、デフォルト設定では

システムログには記録されません。

- スクリプトには最大 8 つまで引数を与えることができます。
コマンドラインから実行するときは、次のように指定します。

```
ACTIVATE SCRIPT=getargs.scp arg1 arg2 arg3 arg4 arg5 arg6 arg7 arg8 ↵
```

スクリプト中では、引数 1 (arg1) ~ 8 (arg8) を変数 %1 ~ %8 として参照できます。これらの変数はスクリプトの実行直前に実際の値に置き換えられます。

ㄱ 引数の長さが 31 文字を超えた場合、スクリプト中では 31 文字に切り詰められます。

また、スクリプト中ではグローバルな特殊変数として次の 4 つを使用できます。

変数名	内容
%D	システム日付。dd-mmm-yyyy の形式
%T	システム時刻。hh:mm:ss の形式
%N	システム名。SET SYSTEM NAME コマンドで設定したもの
%S	シリアル番号。SHOW SYSTEM コマンドで表示されるものと同じ

表 21: スクリプトの特殊変数

トリガーからスクリプトが呼び出されるときは、トリガーの種類によって異なる種類の引数が自動的に渡されます。たとえば、ファイアウォールトリガーは、第 1 引数 (%1) としてファイアウォールポリシー名を、第 2 引数 (%2) として攻撃者の IP アドレスをスクリプトに渡します。詳細は「運用・管理」の「トリガー」をご覧ください。

- スクリプト内では、条件分岐構文 IF THEN ELSE ENDIF を使用できます。

```
IF string1 {EQ|NE} string2 THEN
    commands...
ELSE
    commands..
ENDIF
```

ELSE 節は省略できます。

EQ、NE は文字列比較演算子で、それぞれ等しい、等しくないを示します。比較時には大文字小文字は区別されません。条件判断の結果が真であれば THEN 節が、偽であれば ELSE 節（存在する場合。ないときは IF THEN ENDIF のあとに飛ぶ）が実行されます。

- スクリプトの中でだけ使用できるコマンドに WAIT コマンド（385 ページ）があります。これは指定した秒数だけ待機するものです。

```
WAIT 5 ↵
```

- スクリプトファイルの内容を確認するには、SHOW SCRIPT コマンド（339 ページ）を使います。

```
SHOW SCRIPT=myscript.scp ↵
```

トリガー

トリガー機能は、決められた時刻や特定のイベントが発生したときに、任意のスクリプトを自動実行する機能です。この機能を利用すれば、時間帯によってルーターの設定を変えたり、攻撃を受けたときにメールで管理者に通知したりすることができます。

トリガーには次の種類があります。

種類	説明
CPU トリガー	CPU の負荷率がしきい値を超えたときに起動される
メモリートリガー	メモリーの空き容量がしきい値を超えたときに起動される
ファイアウォールトリガー	ファイアウォールイベント（攻撃検知など）の発生時に起動される
再起動トリガー	システム起動（再起動）時に起動される
モジュールトリガー	モジュールイベントの発生時に起動される。イベント内容はモジュールによって異なる
定期実行トリガー	一定の間隔（たとえば1時間ごと）で繰り返し起動される
定時トリガー	決められた時刻に起動される
インターフェーストリガー	指定したインターフェースのリンクステータスが変化するとき（リンクアップ、リンクダウンなど）に起動される

表 22:

各トリガーには複数のスクリプトを関連付けることができます。また、トリガーの実行回数に制限を設けることも可能です（たとえば、5回実行されたらトリガーを無効にするなど）。

■ トリガー機能を使用するには、トリガーモジュールを有効にする必要があります。デフォルトは無効です。

```
ENABLE TRIGGER ➊
```

■ トリガーを作成するには次のコマンドを使います。以下、トリガーの種類ごとに例を示します。

- CPU の負荷が 80%を超えたら、cpuwarn.scp を実行する CPU トリガー「1」を作成

```
CREATE TRIGGER=1 CPU=80 DIRECTION=UP SCRIPT=cpuwarn.scp ➋
```

- 空きメモリー容量が 30%を切ったら、memwarn.scp を実行するメモリートリガー「2」を作成

```
CREATE TRIGGER=2 MEMORY=30 DIRECTION=DOWN SCRIPT=memwarn.scp ➋
```

- 攻撃開始を検知したら、fwmail.scp を実行して管理者にメールを送るファイアウォールトリガー「3」を作成

```
CREATE TRIGGER=3 FIREWALL=ALL MODE=START SCRIPT=mail.scp ➋
```

- システムクラッシュ後に crash.scp を実行して管理者にメールを送る再起動トリガー「4」を作成

```
CREATE TRIGGER=4 REBOOT=CRASH SCRIPT=crash.scp ➋
```

- バージナルルーター「10」のマスタールーターになったら、bemaster.scip を実行するモジュールトリガー「5」を作成

```
CREATE TRIGGER=5 MODULE=VRRP EVENT=UPMASTER VRID=10
SCRIPT=bemaster.scip ↵
```

- 3 時間に一回 patrol.scip を実行する定期実行トリガー「6」を作成

```
CREATE TRIGGER=6 PERIODIC=180 SCRIPT=patrol.scip ↵
```

- 毎日夜 11 時に pppon.scip を実行して PPP コネクションを開く定時トリガー「7」を作成

```
CREATE TRIGGER=7 TIME=23:00 SCRIPT=pppon.scip ↵
```

- PPP インターフェース「0」がリンクダウン（LCP がダウン）したら、pppdown.scip を実行するインターフェーストリガー「8」を作成

```
CREATE TRIGGER=8 INTERFACE=ppp0 CP=LCP EVENT=DOWN
SCRIPT=pppdown.scip ↵
```

- テストなどのため、トリガーを手動で起動するには ACTIVATE TRIGGER コマンド（100 ページ）を使います。

```
ACTIVATE TRIGGER=1 ↵
```

- トリガーにスクリプトを追加するには、ADD TRIGGER コマンド（117 ページ）を使います。

```
ADD TRIGGER=2 SCRIPT=second.scip ↵
```

- トリガーからスクリプトを削除するには、DELETE TRIGGER コマンド（164 ページ）を使います。NUMBER パラメーターには、スクリプトのインデックス番号を指定します。

```
DELETE TRIGGER=2 NUMBER=2 ↵
```

- トリガーを削除するには、DESTROY TRIGGER コマンド（170 ページ）を使います。

```
DESTROY TRIGGER=5 ↵
```

- トリガーの情報を確認するには、SHOW TRIGGER コマンド（364 ページ）を使います。

```
SHOW TRIGGER=3 ↵
```

```
SHOW TRIGGER=3 FULL ↵
```

```
SHOW TRIGGER=3 SUMMARY ↵
```

```
SHOW TRIGGER=3 STATUS ↵
```

```
SHOW TRIGGER=3 COUNT ↵
```

SNMP

本製品は、ネットワーク管理プロトコル SNMP (Simple Network Management Protocol) のバージョン 1 (SNMPv1) とバージョン 2c (SNMPv2c) に対応しています。

基本設定

ここでは、SNMP 機能を利用するために必要な最小限の設定を紹介します。以下の例では、IP の設定は終わっているものとします。

SNMP コミュニティー	viewers (読み出しのみ)
SNMP 管理ホストの IP アドレス	192.168.10.5
SNMP トラップホストの IP アドレス	192.168.10.5

表 23:

1. SNMP エージェントを有効にします。また、認証トラップをオンにして、不正な SNMP アクセスに対してトラップを発生するように設定します。

```
ENABLE SNMP ↵
ENABLE SNMP AUTHENTICATE_TRAP ↵
```

2. SNMP コミュニティーを作成します。ここでは、読み出しのみが可能なコミュニティ「viewers」を作成しています。

```
CREATE SNMP COMMUNITY=viewers ACCESS=READ ↵
```

✎ コミュニティー名は大文字と小文字を区別するのでご注意ください。

✎ コミュニティー名は SNMP においてパスワードのような役割を果たします。よく考えた上で命名してください。特に、書き込み権限のあるコミュニティ名の設定には注意が必要です。不用意に書き込み権限のあるコミュニティを作成すると、スイッチの設定を外部から変更されてしまう可能性がありますのでご注意ください。

✎ 多くのネットワーク機器や SNMP マネージャーソフトには、慣例として読み出し権限のみのコミュニティとして「public」が、書き込み権限ありのコミュニティとして「private」がデフォルトで設定されています。

3. SNMP コミュニティー「viewers」に管理ホストとトラップホストを追加します。エージェントは、ここで指定した管理ホストからの SNMP 要求にだけ応答します。またトラップは、ここで指定したトラップホストにのみ送信されます。

```
ADD SNMP COMMUNITY=viewers TRAPHOST=192.168.10.5
MANAGER=192.168.10.5 ↵
```

4. 「viewers」コミュニティ所属のトラップホストに対するトラップの送信を有効にします。

```
ENABLE SNMP COMMUNITY=viewers TRAP ↵
```

✧ 本コマンドを実行しないとトラップが送信されません。

✧ SNMPトラップの送信を有効にしている場合、RESTART コマンド (237 ページ) 実行時は、REBOOT オプション (ハードウェアリセット) SWITCH オプション (ソフトウェアリセット) のどちらを指定した場合でも、coldStartトラップが送信されます。warmStartトラップは、RESET IP コマンド (「IP」の 327 ページ) を実行したときに送信されます。

基本設定は以上です。

これにより、SNMP マネージャー (192.168.10.5) から本製品の MIB 情報を取得できるようになります。また、本製品からの SNMP トラップがマネージャーに送信されるようになります。

その他

■ 管理ホストやトラップホストを追加するには、ADD SNMP COMMUNITY コマンド (113 ページ) を使います。次の例では、コミュニティ「viewers」に管理ホスト「192.168.10.10」、トラップホスト「192.168.10.10」を追加しています。

```
ADD SNMP COMMUNITY=viewers MANAGER=192.168.10.10 TRAPHOST=192.168.10.10 ↵
```

■ 書き込み権限のあるコミュニティを作成するには、CREATE SNMP COMMUNITY コマンド (133 ページ) の ACCESS パラメーターに「WRITE」を指定します (ACCESS パラメーター省略時の権限は読み込みのみ (READ) です)。

```
CREATE SNMP COMMUNITY=admins ACCESS=WRITE MANAGER=192.168.10.5 ↵
```

■ 本製品の SNMP エージェントは、デフォルトでは管理ホストとして登録されたコンピューター以外からの SNMP 要求には応答しません。この制限をなくすには、コミュニティの OPEN (open access) パラメーターを YES にします。次に具体例を挙げます。

- コミュニティ作成時に OPEN=YES を指定 (省略時は OPEN=NO となります)

```
CREATE SNMP COMMUNITY=viewers ACCESS=READ OPEN=YES ↵
```

- コミュニティ作成後は SET SNMP COMMUNITY コマンド (259 ページ) を使います。

```
SET SNMP COMMUNITY=viewers OPEN=YES ↵
```

■ SNMP の設定を確認するには、SHOW SNMP コマンド (342 ページ)、SHOW SNMP COMMUNITY コマンド (345 ページ) を使います。

```
SHOW SNMP ↵
```

```
SHOW SNMP COMMUNITY=viewers ↵
```

- 本製品のシステム名 (system.sysName.0) を設定するには SET SYSTEM NAME コマンド (267 ページ) を使います。

```
SET SYSTEM NAME=kkSwitch ↵
```

システム名にフルドメイン名を設定しておくと、TELNET コマンド (380 ページ) 実行時に必要に応じてドメイン名の補完が行われます。たとえば、システム名に「kkSwitch.example.com」を設定した場合、TELNET コマンド (380 ページ) を「TELNET bulbul」のように実行すると、短いホスト名「bulbul」のあとに「example.com」が補われ、「bulbul.example.com」に対して DNS 検索が行われます。

- 本製品の設置場所 (system.sysLocation.0) を設定するには SET SYSTEM LOCATION コマンド (266 ページ) を使います。

```
SET SYSTEM LOCATION="8F, TTC Bldg" ↵
```

- 本製品の管理責任者 (system.sysContact.0) を設定するには SET SYSTEM CONTACT コマンド (264 ページ) を使います。

```
SET SYSTEM CONTACT="Taro ARAIDO (Ext 2602)" ↵
```

- 本製品は、SNMPv1 の要求には SNMPv1 で、SNMPv2c の要求には SNMPv2c で応答します。トラップ以外の SNMP オペレーションについては、バージョンを意識する必要はありません。ただし、トラップについては、送信先 (トラップホスト) ごとに v1、v2c どちらの形式を使うか指定する必要があります。これには、CREATE SNMP COMMUNITY コマンド (133 ページ)、ADD SNMP COMMUNITY コマンド (113 ページ) の TRAPHOST (または V1TRAPHOST)、V2CTRAPHOST パラメーターを使います。たとえば、192.168.10.10 には SNMPv1 形式のトラップを送り、192.168.10.20 には SNMPv2c 形式のトラップを送るには、次のように設定します。

```
ADD SNMP COMMUNITY=viewers TRAPHOST=192.168.10.10
V2CTRAPHOST=192.168.10.20 ↵
```

NTP

NTP (Network Time Protocol) を利用すると、ネットワーク上の NTP サーバーから時刻情報を取得し、システムの時計を常に正確にあわせておくことができます。ログなどの記録日時を正確に保つためにも、NTP の利用をおすすめします。

基本設定

NTP を使用するために最低限必要な設定を示します。ここでは次のような構成のネットワークを想定しています。IP の設定は終わっているものとします。

NTP サーバーの IP アドレス	192.168.10.5
タイムゾーン (UTC からのオフセット)	JST (+9:00:00)

表 24:

1. NTP モジュールを有効にします。

```
ENABLE NTP ↵
```

2. NTP サーバーの IP アドレスを指定します。サーバーは 1 つしか設定できません。

```
ADD NTP PEER=192.168.10.5 ↵
```

3. タイムゾーン (UTC からのオフセット) を設定します。NTP から得られる時刻情報は UTC (協定世界時) なので、必ずオフセットを指定してください。日本標準時 (JST) は UTC より 9 時間進んでいるので、次のように指定します。

```
SET NTP UTCOFFSET=+9:00:00 ↵
```

また、定義済みのタイムゾーン名を使って次のように指定することもできます。

```
SET NTP UTCOFFSET=JST ↵
```

4. 念のため NTP モジュールをいったんリセットします。

```
RESET NTP ↵
```

基本設定は以上です。

これにより、定期的に NTP サーバーに問い合わせを行い、システムの時計が自動的に調整されるようになります。

- 現在時刻は SHOW TIME コマンド (363 ページ) で確認します。

```
Manager > SHOW TIME
```

```
System time is 11:17:41 on Tuesday 03-Jul-2001.
```

- NTP に関する情報は SHOW NTP コマンド (333 ページ) で確認します。

```

Manager > SHOW NTP

-----
NTP Module Configurations
-----
Status           : ENABLED
Host Address      : 192.168.10.169
UTC offset        : +09:00:00 (JST)
Last Updated      : 11:19:38 on 03-Jul-2001
Last Delta        : +0.94

Configured Peer
-----
192.168.10.5

Counters
-----
Packets Sent      : 0000000002
Packets Received   : 0000000002
Packets w/ head error : 0000000000
Packets w/ data error : 0000000000

```

付録

定義済みのタイムゾーン名一覧

ASIA	+8:00	Asia
ACDT	+10:30	Australian Central Daylight Time
ACST	+9:30	Australian Central Standard Time
AEDT	+11:00	Australian Eastern Daylight Time
AEST	+10:00	Australian Eastern Standard Time
AWST	+8:00	Australian Western Standard Time
BST	+1:00	British Standard Time
CHINA	+8:00	China
GMT	+0:00	Greenwich Mean Time
UK	+0:00	Greenwich Mean Time
HK	+8:00	Hong Kong
JST	+9:00	Japan Standard Time
MET	+1:00	Mid-European time
NZDT	+13:00	New Zealand Daylight Time
NZST	+12:00	New Zealand Standard Time
SING	+8:00	Singapore

TAIWAN	+8:00	Taiwan
UTC	+0:00	Universal Coordinated Time
CDT	-5:00	US Central Daylight Time
CST	-6:00	US Central Standard Time
EDT	-4:00	US Eastern Daylight Time
EST	-5:00	US Eastern Standard Time
MDT	-6:00	US Mountain Daylight Time
MST	-7:00	US Mountain Standard Time
PDT	-7:00	US Pacific Daylight Time
PST	-8:00	US Pacific Standard Time
DEFAULT	-	-
NONE	-	-

表 25: タイムゾーン名一覧

Secure Shell

Secure Shell (SSH) は、暗号技術を利用してネットワーク経由のログインなどを安全に行うためのプロトコルです。通信内容の暗号化により盗聴や改ざんを防ぐほか、サーバーホストやユーザーの認証機能によってなりすましによる攻撃を防御することもできます。

従来の Telnet では、パスワードを含む通信内容が平文のままネットワーク上を流れてしまうため、セキュリティを重視する環境では、Telnet でなく SSH を使ったほうがよいでしょう。

本製品の SSH モジュールは以下の機能をサポートしています。

- SSH サーバーと SSH クライアント
- 鍵長 512 ~ 2048 ビットの RSA 公開鍵。ルーター上で作成した鍵をファイルへ書き出すことや、ファイルから鍵を取り込むことも可能
- セッションの暗号化には共通鍵暗号アルゴリズム DES を使用
- 端末セッションだけでなく、コマンドの遠隔実行も可能

基本設定

ここでは、本製品を SSH サーバー (192.168.1.5) および SSH クライアントとして動作させるための基本設定について説明します。

暗号鍵の作成

最初に、サーバー側で 2 つの RSA 鍵ペア (ホスト鍵とサーバー鍵) を作成します。

1. セキュリティーモードで管理作業を行うことのできる Security Officer レベルのユーザーを作成します。ルーター上で作成した暗号鍵は、セキュリティモードでないとルーター再起動によって消去されてしまいます。セキュリティモードに移行するためには、Security Officer レベルのユーザーを登録しておく必要があります。

```
ADD USER=secoff PASSWORD=Passwords PRIVILEGE=SECURITYOFFICER ↵
```

2. ホスト鍵 (Host Key) を作成します。この鍵はサーバー自身の RSA 公開鍵ペアです。推奨鍵長は 1024 ビットです。SSH コネクションの開始時には、ホスト鍵ペアの公開鍵がクライアントに送られます。クライアントはこの鍵をチェックすることにより、接続相手が意図したサーバーであるかどうかを確認できます。

```
CREATE ENCO KEY=1 TYPE=RSA LENGTH=1024 DESCRIPTION="My host_key" ↵
```

3. サーバー鍵 (Server Key) を作成します。サーバー鍵は SSH コネクション開始時の鍵交換に用いられる RSA 公開鍵ペアです。サーバーの設定により、一定の間隔で新しく作り直されます。サーバー鍵の長さは最小 512 バイトで、なおかつ、ホスト鍵より 128 ビット以上短くなくてはなりません。

```
CREATE ENCO KEY=2 TYPE=RSA LENGTH=768 DESCRIPTION="My server_key" ↵
```

- 鍵番号は 0 ~ 65535 の範囲で自由に付けられます。以後、鍵は番号だけで識別することになるため、鍵を

作成するときは、DESCRIPTION パラメーターを使って、鍵の用途などコメントを付けておくといでしょう。このコメントは SHOW ENCO KEY コマンド（「暗号」の 28 ページ）で鍵一覧を表示するときに表示されます。

■ RSA 鍵の作成には時間がかかります。上記コマンドを入力すると「RSA Key Generation process started.」と表示され、バックグラウンドで鍵の生成処理が始まります。鍵の作成中は CPU 負荷が高くなり、コンソールからのキー入力に対する反応が鈍くなります。鍵の作成が終わると「RSA Key generation process completed.」と表示されます。

■ 作成した鍵の情報は SHOW ENCO KEY コマンド（「暗号」の 28 ページ）で確認できます。

```
SHOW ENCO KEY ↵
SHOW ENCO KEY=1 ↵
```

■ セキュリティーモードに移行するには、ENABLE SYSTEM SECURITY_MODE コマンド（211 ページ）を使います。ただし、移行後は Security Officer レベルでないと各種設定が行えなくなりますのでご注意ください。セキュリティーモードを必要とする構成の設定を行う場合は、最初に Security Officer レベルのユーザーを作成しておき、ノーマルモードのまま各種設定を行い、すべての設定が完了して初めてセキュリティーモードに移行するのが便利です。

```
ENABLE SYSTEM SECURITY_MODE ↵
```

SSH サーバーの起動

サーバー上でホスト鍵とサーバー鍵を作成したら、SSH サーバーを起動します。このとき、ホスト鍵とサーバー鍵の番号を指定する必要があります。

■ ホスト鍵「1」、サーバー鍵「2」を使って SSH サーバーを稼働させます。

```
ENABLE SSH SERVER HOSTKEY=1 SERVERKEY=2 ↵
```

■ デフォルトでは、サーバー鍵の自動更新は行われません。自動更新を行うようにするには、EXPIRYTIME パラメーターで更新間隔（時間）を指定します。EXPIRYTIME パラメーターの省略時は 0（更新しない）となります。次の例では、24 時間（1 日）ごとに鍵を更新するよう設定しています。

```
ENABLE SSH SERVER HOSTKEY=1 SERVERKEY=2 EXPIRYTIME=24 ↵
```

㍻ 鍵の生成は負荷の高い処理なので、自動更新を行う場合は深夜などトラフィック負荷の少ない時間帯になるよう更新間隔を調整するといでしょう。

㍻ SSH サーバーを起動すると、ルーター内蔵 Telnet サーバーへのアクセスはできなくなります。

■ SSH サーバーの状態を確認するには、SHOW SSH コマンド（347 ページ）を使います。

```
SHOW SSH ↵
```

SSH ユーザーの登録

SSH サーバーを利用するには、SSH サーバー上で ADD SSH USER コマンド (115 ページ) を実行し、SSH ユーザーを登録する必要があります。SSH サーバーが有効になっていても、SSH ユーザーが登録されていないとサーバーにはアクセスできません。

SSH ユーザーは、本製品のユーザー認証データベースに登録されていなくてもかまいませんが、その場合ログイン時の権限は USER レベル (一般ユーザー権限) となります。SSH ユーザーと同じ名前のユーザーがルーターのデータベースに登録されている場合は、ユーザーデータベースでの権限が SSH ログインにも適用されます。

SSH ユーザーの設定方法は、使用するログイン認証方式によって異なります。ログイン方式には、次の 2 種類があります。

- パスワード認証：ユーザー名とパスワードによる認証方式です。
- RSA 認証：公開鍵による認証方式です。

1 ユーザーに対し、認証方式は 1 つだけしか選べません。

パスワード認証の場合

パスワード認証は、クライアントがユーザー名とパスワードをサーバーに送り、これをサーバーが確認する方法です。SSH ではパスワードを暗号化して送るため、ネットワーク上でパスワードを盗まれる可能性が低くなっています。

■ 一般ユーザーの登録

```
ADD SSH USER=kuro PASSWORD=testpasswd1 ↵
```

ユーザー認証データベースに登録されていない名前の SSH ユーザーは、USER レベルとなります。また、ユーザー認証データベースに登録されている名前と同じであっても、登録されているユーザーの権限が USER レベルなら、SSH ユーザーも USER レベルとなります。

■ Manager 権限を持つユーザーの登録

```
ADD USER=shiro PASSWORD=testpasswd2 PRIVILEGE=MANAGER ↵
```

```
ADD SSH USER=shiro PASSWORD=testpasswd2 ↵
```

- ◇ ユーザー認証データベースに登録されているユーザー (ADD USER コマンド (119 ページ) で登録したユーザー) と同じ名前の SSH ユーザーを登録した場合、ユーザー権限はデータベースと同じになりますが、パスワードは別々に設定できます。ADD SSH USER コマンド (115 ページ) の PASSWORD パラメーターで指定したパスワードは、SSH ログイン時のパスワード認証でのみ使用されます。

■ SSH ユーザーは SHOW SSH USER コマンド (356 ページ) で確認します。

```
SHOW SSH USER ↵
```

```
SHOW SSH USER=shiro ↵
```

RSA 認証の場合

RSA 認証は、SSH クライアントユーザーの RSA 公開鍵ペアを利用して認証を行う方式です。秘密鍵を持っているのが SSH ユーザーだけであるという前提に立って、サーバーがユーザーを認証します。

RSA 認証を使用するときは、SSH クライアント側であらかじめユーザーの認証用公開鍵ペアを用意し、公開鍵を SSH サーバー上に登録しておく必要があります。

■ 本製品を SSH クライアントにするときは、クライアントとなるルーター上で CREATE ENCO KEY コマンド（「暗号」の 10 ページ）を実行し、認証鍵を作成します。

1. RSA 鍵ペアを作成します。鍵長は 512 ビット以上にします。推奨最大値は 1024 ビットです。これ以上鍵長を長くしても、処理が遅くなるだけで安全性はそれほど向上しないようです。

```
CREATE ENCO KEY=100 TYPE=RSA LENGTH=1024 ↵
```

2. 作成した鍵ペアの公開鍵を SSH サーバーに送るため、ファイルに書き出します。KEY パラメーターには書き出したい鍵の番号、FILE パラメーターには書き出し先のファイル名を指定します。ファイルの拡張子は key とします。また、FORMAT パラメーターには書き出す際のフォーマットを指定します。SSH で使うときは SSH を指定します。

```
CREATE ENCO KEY=100 TYPE=RSA FILE=pote.key FORMAT=SSH ↵
```

■ クライアントが PC などの場合は、SSH パッケージに含まれる ssh-keygen などの鍵生成プログラムを使ってユーザーの公開鍵ペアを作ります。鍵生成プログラムの使い方については、プログラム付属のマニュアル等をご覧ください。ここで挙げているのはあくまでも一例です（ssh-keygen コマンドの例）。

```
pote@clientpc:~> ssh-keygen -C pote@clientpc
Generating RSA keys:  Key generation complete.
Enter file in which to save the key (/home/pote/.ssh/identity):
Enter passphrase (empty for no passphrase):
Enter same passphrase again:
Your identification has been saved in /home/pote/.ssh/identity.
Your public key has been saved in /home/pote/.ssh/identity.pub.
The key fingerprint is:
e9:0e:68:2a:8a:a3:75:dd:f1:61:37:09:fc:f6:a3:b2 pote@clientpc
```

■ クライアント側で認証鍵を作成したら、鍵ペアのうちの公開鍵を SSH サーバー側に転送します。TFTP 経由で転送するのがよいでしょう。

クライアント側

1. クライアントが本製品の場合は、UPLOAD コマンド（383 ページ）を使ってユーザーの公開鍵ファイルを TFTP サーバーにアップロードします。ここでは TFTP サーバーの IP アドレスを 192.168.10.5 とします。

```
UPLOAD FILE=pote.key SERVER=192.168.10.5 ↵
```

クライアントが PC などの場合は、TFTP サーバーを動かして自分自身が TFTP サーバーになるか、あるいは、TFTP クライアントを使って別の TFTP サーバーに公開鍵ファイルを転送してください。そのとき、ファイルの拡張子を .key にしておいてください。

サーバー側

1. 次に SSH サーバー側で LOAD コマンド (220 ページ) を実行し、TFTP サーバーからユーザーの公開鍵ファイルをダウンロードします。

```
LOAD FILE=pote.key SERVER=192.168.10.5 DESTINATION=FLASH ↓
```

2. 鍵ファイルは、ダウンロードしただけでは使えません。CREATE ENCO KEY コマンド (「暗号」の 10 ページ) でファイルから鍵を取り込む必要があります。

```
CREATE ENCO KEY=100 TYPE=RSA FILE=pote.key FORMAT=SSH ↓
```

※ CREATE ENCO KEY コマンド (「暗号」の 10 ページ) で FILE パラメーターを指定した場合、ファイルが存在するときは、そのファイルから情報を読み込んで鍵を作成します。ファイルが存在しないときは、KEY パラメーターで指定した既存の鍵情報をファイルに書き出します。

3. SSH ユーザーを登録します。このとき、ユーザーの公開鍵番号を KEY パラメーターで指定します。
一般ユーザーの登録

```
ADD SSH USER=bote KEYID=100 ↓
```

Manager 権限を持つユーザーの登録

```
ADD USER=pote PASSWORD=testpasswd3 PRIVILEGE=MANAGER ↓
```

```
ADD SSH USER=pote KEYID=100 ↓
```

※ RSA 認証を使う場合、ADD USER コマンド (119 ページ) の PASSWORD パラメーターで指定したパスワードは使用されません (コンソールからのログインや Telnet ログインで使用されます)。

- SSH ユーザーは SHOW SSH USER コマンド (356 ページ) で確認します。

```
SHOW SSH USER ↓
```

```
SHOW SSH USER=pote ↓
```

SSH クライアントからの接続

- クライアントが本製品の場合は、クライアント側で以下のコマンドを実行します。

パスワード認証の場合

```
SSH 192.168.10.1 USER=shiro PASS=testpasswd2 ↓
```

RSA 認証の場合

```
SSH 192.168.10.1 USER=pote KEYID=100 ↓
```

※ 初めて SSH サーバーに接続したときは、必ず以下のメッセージが表示され接続に失敗します。

```
Host key not recognised - saved as ssh.key
SSH. Session closed.
```

これはエラーではなく、SSH サーバーから SSH クライアント宛てにホスト鍵が送られたことを知らせるメッセージです。これにより、サーバーのホスト鍵がクライアントのファイルシステム上に「ssh.key」という名前で保存されます。上記のメッセージが表示された場合は、SSH クライアント側で次のコマンドを実行し、SSH サーバーのホスト鍵を登録してください。

```
CREATE ENCO KEY=10 TYPE=RSA FILE=ssh.key DESCRIPTION="SSH server's
hostkey" FORMAT=SSH ↵
```

一度このコマンドを実行した後は、上記コマンドでただちに接続できるようになります。

■ クライアントが PC などの場合は、PC 用の SSH クライアントソフトウェアを起動してサーバーに接続してください。通常、初回接続時にはホスト鍵の確認が行われます。ご使用の SSH クライアントのマニュアルをご覧ください。サーバー確認の手順を行ってください。

※ 本製品は暗号アルゴリズムとして DES しかサポートしていません。うまく接続できないときは、クライアントの設定で使用する暗号アルゴリズムを確認してください。DES を使用するように設定されていない場合は、設定を変更してください。

■ SSH セッションの状態は SHOW SSH SESSIONS コマンド (355 ページ) で確認できます。

```
SHOW SSH SESSIONS ↵
```

その他

■ CREATE ENCO KEY コマンド (「暗号」の 10 ページ) で作成・登録した暗号鍵はセキュリティーシステムの「鍵」となる重要な情報であるため、CREATE CONFIG コマンド (124 ページ) で作成する設定ファイルとは別に保存されます (鍵の管理は ENCO (暗号) モジュールの役割です)。ただし、セキュリティーモードでないと鍵情報が再起動によって削除されてしまうため、暗号鍵を使用する場合は Security Officer レベルのユーザーを作成して、セキュリティーモードに移行してください。

■ SSH サーバーにログインするには、ADD SSH USER コマンド (115 ページ) で SSH 用のユーザーを登録しておかなくてはなりません。SSH サーバーが有効になっていても、SSH ユーザーが登録されていないと、いかなるユーザーもログインできません。SHOW SSH USER コマンド (356 ページ) を実行してもユーザーが表示されないときは、SSH ユーザーが登録されていません。「SSH ユーザーの登録」を参考にして、SSH ユーザーを登録してください。

■ SSH ユーザーが 5 回連続してログインに失敗すると、該当ユーザーは自動的に無効状態 (ログインできない状態) になります。無効状態のユーザーを再度有効にするには、サーバー上で ENABLE SSH USER コマンド (210 ページ) を実行する必要があります。

```
ENABLE SSH USER=carelessuser ↵
```

■ SSH ユーザーの有効・無効は SHOW SSH USER コマンド (356 ページ) で確認できます。

```
SHOW SSH USER ↵
SHOW SSH USER=carelessuser ↵
```

■ SSH サーバーへの接続許可を特定の SSH クライアント (IP アドレス) だけに制限することもできます。これには、ADD SSH USER コマンド (115 ページ)、SET SSH USER コマンド (263 ページ) の IPADDRESS、MASK パラメーターを使います。クライアント制限は SSH ユーザーごとに設定します。たとえば、ユーザー pote に対し、IP アドレス 192.168.10.100 のホストからのみ接続を許可するよう設定するには、次のようにします。

```
ADD SSH USER=pote PASSWORD=passpote IPADDRESS=192.168.10.100 ↵
```

また、接続できるクライアントをサブネット 192.168.10.0/24 内に制限するには、次のようにします。

```
ADD SSH USER=pote PASSWORD=passpote IPADDRESS=192.168.10.0
MASK=255.255.255.0 ↵
```

■ 本製品から他の SSH サーバーに接続するには、SSH コマンド (378 ページ) を使います。パスワード認証の場合は、次のようにします。

```
SSH 192.168.10.5 USER=pote PASSWORD=passpote ↵
```

RSA 認証の場合は、CREATE ENCO KEY コマンド (「暗号」の 10 ページ) で自分の鍵を作成・登録した上で、次のように鍵番号を指定します。

```
SSH 192.168.10.5 USER=pote KEYID=10 ↵
```

■ ログインせずにサーバー上で単独のコマンドだけを実行させたい場合は、次のようにします。ただし、遠隔コマンド実行には Manager レベル以上の権限が必要ですのでご注意ください。SSH ユーザーに Manager レベル以上の権限を与える方法については、「SSH ユーザーの登録」をご覧ください。

```
SSH 192.168.10.5 USER=pote PASSWORD=passpote COMMAND="show firewall
event=deny" ↵
```

■ SSH 使用時には、以下の SSH 関連イベントがログに記録されます。

- SSH ユーザーの追加、削除、設定変更
- SSH サーバーの有効化、無効化
- SSH コネクションの開始、終了、拒否

コマンドリファレンス編

機能別コマンド索引

システム

DISABLE HTTP SERVER	172
EDIT	194
ENABLE HTTP SERVER	197
HELP	217
LOGIN	222
LOGOFF	223
RESTART	237
SET HELP	240
SET SYSTEM CONTACT	264
SET SYSTEM DISTINGUISHEDNAME	265
SET SYSTEM LOCATION	266
SET SYSTEM NAME	267
SET TIME	269
SHOW BUFFER	290
SHOW CPU	293
SHOW DEBUG	294
SHOW EXCEPTION	295
SHOW HTTP SERVER	309
SHOW STARTUP	358
SHOW SYSTEM	359
SHOW TIME	363

記憶装置とファイルシステム

ACTIVATE FLASH COMPACTION	98
ADD FILE	102
CLEAR FLASH TOTALLY	122
COPY	123
CREATE FFILE	125
CREATE FILE	127
DELETE FFILE	153
DELETE FILE	154
DUMP	192
MODIFY	226
RENAME	232
RESET FILE PERMANENTREDIRECT	233
SHOW FFILE	299

SHOW FILE	301
SHOW FILE PERMANENTREDIRECT	303
SHOW FLASH	305
SHOW FLASH PHYSICAL	307
コンフィグレーション	
CREATE CONFIG	124
SET CONFIG	239
SHOW CONFIG	291
コマンドプロセッサ	
ADD ALIAS	101
DELETE ALIAS	152
SHOW ALIAS	289
ユーザー認証データベース	
ADD USER	119
DELETE USER	165
DISABLE USER	189
ENABLE USER	214
PURGE USER	230
RESET USER	236
SET PASSWORD	255
SET USER	287
SHOW USER	372
認証サーバー	
ADD RADIUS SERVER	110
DELETE RADIUS SERVER	160
SET RADIUS	256
SHOW RADIUS	336
アップロード・ダウンロード	
LOAD	220
RESET LOADER	234
SET LOADER	242
SHOW LOADER	313
UPLOAD	383
ソフトウェア	
DELETE INSTALL	155
DESTROY PATCH	168
DISABLE FEATURE	171
DISABLE RELEASE	179
ENABLE FEATURE	196
ENABLE RELEASE	204

SET INSTALL	241
SHOW FEATURE	297
SHOW INSTALL	311
SHOW PATCH	335
SHOW RELEASE	338
メール送信	
DELETE MAIL	158
DISABLE MAIL DEBUG	177
ENABLE MAIL DEBUG	202
MAIL	224
SET MAIL	251
SHOW MAIL	330
セキュリティ	
ADD USER RSO	121
DELETE USER RSO	166
DISABLE SYSTEM SECURITY_MODE	186
DISABLE USER RSO	190
ENABLE SYSTEM SECURITY_MODE	211
ENABLE USER RSO	215
SET MANAGER ASYN	252
SHOW MANAGER ASYN	332
SHOW USER RSO	376
ログ	
ADD LOG OUTPUT	105
ADD LOG RECEIVE	107
CREATE LOG OUTPUT	130
DELETE LOG OUTPUT	156
DELETE LOG RECEIVE	157
DESTROY LOG OUTPUT	167
DISABLE LOG	173
DISABLE LOG GENERATION	174
DISABLE LOG OUTPUT	175
DISABLE LOG RECEPTION	176
ENABLE LOG	198
ENABLE LOG GENERATION	199
ENABLE LOG OUTPUT	200
ENABLE LOG RECEPTION	201
FLUSH LOG OUTPUT	216
PURGE LOG	227
SET LOG OUTPUT	244
SET LOG OUTPUT FILTER	246

SET LOG RECEIVE	248
SET LOG UTCOFFSET	249
SHOW LOG	315
SHOW LOG COUNTER	318
SHOW LOG OUTPUT	321
SHOW LOG QUEUE	324
SHOW LOG RECEIVE	326
SHOW LOG STATUS	328

スクリプト

ACTIVATE SCRIPT	99
ADD SCRIPT	112
DEACTIVATE SCRIPT	151
DELETE SCRIPT	161
IF THEN ELSE ENDIF	219
SET SCRIPT	257
SHOW SCRIPT	339
WAIT	385

トリガー

ACTIVATE TRIGGER	100
ADD TRIGGER	117
CREATE TRIGGER CPU	135
CREATE TRIGGER FIREWALL	137
CREATE TRIGGER INTERFACE	139
CREATE TRIGGER MEMORY	141
CREATE TRIGGER MODULE	143
CREATE TRIGGER PERIODIC	145
CREATE TRIGGER REBOOT	147
CREATE TRIGGER TIME	149
DELETE TRIGGER	164
DESTROY TRIGGER	170
DISABLE TRIGGER	188
ENABLE TRIGGER	213
PURGE TRIGGER	229
SET TRIGGER CPU	270
SET TRIGGER FIREWALL	272
SET TRIGGER INTERFACE	274
SET TRIGGER MEMORY	276
SET TRIGGER MODULE	278
SET TRIGGER PERIODIC	280
SET TRIGGER REBOOT	282
SET TRIGGER TIME	284

SHOW TRIGGER	364
SNMP	
ADD SNMP COMMUNITY	113
CREATE SNMP COMMUNITY	133
DELETE SNMP COMMUNITY	162
DESTROY SNMP COMMUNITY	169
DISABLE SNMP	180
DISABLE SNMP AUTHENTICATE_TRAP	181
DISABLE SNMP COMMUNITY	182
DISABLE SNMP COMMUNITY TRAP	183
ENABLE SNMP	205
ENABLE SNMP AUTHENTICATE_TRAP	206
ENABLE SNMP COMMUNITY	207
ENABLE SNMP COMMUNITY TRAP	208
SET SNMP ASNBERPADDING	258
SET SNMP COMMUNITY	259
SET SNMP LOCAL	260
SET SNMP TRAPDELAY	261
SHOW SNMP	342
SHOW SNMP COMMUNITY	345
NTP	
ADD NTP PEER	109
DELETE NTP PEER	159
DISABLE NTP	178
ENABLE NTP	203
PURGE NTP	228
RESET NTP	235
SET NTP UTCOFFSET	253
SHOW NTP	333
ターミナルサービス	
DISABLE TELNET SERVER	187
DISCONNECT	191
ENABLE TELNET SERVER	212
RECONNECT	231
SET TELNET	268
SET TTY	286
SHOW SESSIONS	341
SHOW TELNET	362
SHOW TTY	369
TELNET	380

Secure Shell

ADD SSH USER	115
DELETE SSH USER	163
DISABLE SSH SERVER	184
DISABLE SSH USER	185
ENABLE SSH SERVER	209
ENABLE SSH USER	210
SET SSH SERVER	262
SET SSH USER	263
SHOW SSH	347
SHOW SSH SESSIONS	355
SHOW SSH USER	356
SSH	378

ACTIVATE FLASH COMPACTION

カテゴリー：運用・管理 / 記憶装置とファイルシステム

ACTIVATE FLASH COMPACTION

解説

フラッシュメモリーのコンパクション（メモリー上のゴミ削除）を実行する。

コンパクションが完了するまで（コンソールに「Flash compaction successfully completed.」と表示されるまで）、電源断や再起動、フラッシュメモリーに対する操作（ファイル作成、編集、リネーム、削除など）を行ってはならない。コンパクションは必要に応じて自動的に行われるので、通常このコマンドを使う必要はない。

入力・出力・画面例

```
Manager bulbul> activate flash compaction

Info (1031260): Flash compacting...
DO NOT restart the router, or power down until compaction is completed.

Manager bulbul>
Info (1031261): Flash compaction successfully completed.
```

備考・注意事項

ファイルダウンロード時にフラッシュメモリーの空き容量が足りないというメッセージが表示される場合は、本コマンドを実行してみるとよい。

コンパクション中は、絶対にシステム再起動や電源断、フラッシュメモリーに対する操作（ファイル作成、編集、リネーム、削除など）を行わないこと。

関連コマンド

SHOW FFILE (299 ページ)

SHOW FLASH (305 ページ)

ACTIVATE SCRIPT

カテゴリー：運用・管理 / スクリプト

ACTIVATE SCRIPT=filename [OUTPUT={LOG}] [*parameters*]

filename: ファイル名（拡張子は.scp か.cfg）

parameters: スクリプトに対する引数（スペース区切りで 8 個まで。スクリプト中では変数%1～%8 で参照できる）

解説

指定したスクリプトを実行する。

パラメーター

SCRIPT スクリプトファイル名（拡張子は.scp または.cfg）。拡張子を省略した場合は.scp とみなされる。

OUTPUT スクリプトが出力する文字列の送り先。現時点では LOG（ログに出力）のみサポート。指定がない場合は TTY（端末画面）に出力される。

例

- 引数を 2 つとるスクリプト sendmail.scp を実行する。

```
ACTIVATE SCRIPT=sendmail.scp "someone@somewhere.xxx" "warning"
```

備考・注意事項

OUTPUT=LOG を指定しても、デフォルトでは SHOW LOG コマンドでスクリプトの実行結果を見ることができない。これは、スクリプト出力のログレベル（SEVERITY）が 2 であるのに対し、ログ機能のデフォルト設定ではログレベル 3 以上のメッセージしか記録しないようなフィルターが定義されているため。

引数の長さが 31 文字を超えた場合、スクリプト中では 31 文字に切り詰められる。

関連コマンド

ADD SCRIPT（112 ページ）

DEACTIVATE SCRIPT（151 ページ）

DELETE SCRIPT（161 ページ）

SET SCRIPT（257 ページ）

SHOW SCRIPT（339 ページ）

ACTIVATE TRIGGER

カテゴリー：運用・管理 / トリガー

ACTIVATE TRIGGER=trigger-id

trigger-id: トリガー番号 (1~100)

解説

指定したトリガーを手動で起動する。

本コマンドでは、DISABLE TRIGGER コマンドで無効状態にしたトリガーであっても起動できる。また、TEST=ON のトリガーの場合も、SCRIPT パラメーターで指定したスクリプトが実際に起動される（本来、TEST=ON のトリガーは、起動されたことがログに残るだけで、スクリプトは実行されない）。

ただし、本コマンドで起動した場合は、トリガーの実行回数を制御する REPEAT カウンターや最終実行時間の値は変更されない。

パラメーター

TRIGGER トリガー番号

例

- トリガー「2」を起動する。

```
ACTIVATE TRIGGER=2
```

関連コマンド

CREATE TRIGGER CPU (135 ページ)
 CREATE TRIGGER FIREWALL (137 ページ)
 CREATE TRIGGER INTERFACE (139 ページ)
 CREATE TRIGGER MEMORY (141 ページ)
 CREATE TRIGGER MODULE (143 ページ)
 CREATE TRIGGER PERIODIC (145 ページ)
 CREATE TRIGGER REBOOT (147 ページ)
 CREATE TRIGGER TIME (149 ページ)
 DISABLE TRIGGER (188 ページ)
 ENABLE TRIGGER (213 ページ)
 SHOW TRIGGER (364 ページ)

ADD ALIAS

カテゴリー：運用・管理 / コマンドプロセッサ

ADD ALIAS=alias STRING=string

alias: エイリアス名 (1~132 文字。大文字小文字を区別しない。空白を含む場合はダブルクォートで囲む)

string: 文字列 (1~132 文字。空白を含む場合はダブルクォートで囲む)

解説

コマンドの別名 (エイリアス) を定義する。

コマンドラインからの入力行にエイリアスが含まれていた場合、コマンド解釈前にエイリアスが置換文字列に展開される。展開は一度だけ行われる (展開後の文字列にエイリアスが含まれていても展開されない)。

パラメーター

ALIAS エイリアス名

STRING 展開後の文字列を指定する

例

■ ファイル一覧を表示するエイリアス「ls」を定義する。

```
ADD ALIAS=ls STRING="show file"
```

関連コマンド

DELETE ALIAS (152 ページ)

SHOW ALIAS (289 ページ)

ADD FILE

カテゴリー：運用・管理 / 記憶装置とファイルシステム

ADD FILE=filename [COMMAND=string] [SCRIPT=filename] [PERMANENTREDIRECT]
[LIMIT=0..1048576]

filename: ファイル名

string: 文字列（1～255 文字。空白を含む場合はダブルクォートで囲む）

解説

指定されたコマンド行やスクリプトを実行し、その出力を指定されたテキストファイルに追記（リダイレクト）する。

パラメーター

FILE 出力先のテキストファイル名。指定したファイルが存在しない場合は作成される（この場合は CREATE FILE コマンドと同じ動作になる）

COMMAND 実行するコマンド行。通常は情報表示用の「SHOW XXXX」コマンドを指定する。空白を含む場合はダブルクォートで囲むこと。SCRIPT パラメーターと同時に指定することはできない

SCRIPT 実行するスクリプトファイル名。COMMAND パラメーターと同時に指定することはできない

PERMANENTREDIRECT 指定したコマンド行やスクリプトの出力を継続的にファイルへ追記したいときに指定する。このオプションは、COMMAND パラメーターにデバッグオプションを有効化する「ENABLE XXXX DEBUG」コマンドを指定した場合、あるいは、SCRIPT パラメーターに「ENABLE XXXX DEBUG」コマンドを含むスクリプトを指定した場合にのみ有効。本オプションを指定した場合、FILE パラメーターで指定したテキストファイルは書き込み用にオープンされたままの状態となり、他のコマンドによって表示、変更などの操作ができないようロックされる。該当ファイルへの出力を終了しファイルをクローズするには、RESET FILE PERMANENTREDIRECT コマンドを実行すること

LIMIT 出力先テキストファイルの上限サイズ（バイト）。省略時は 204800 バイト

入力・出力・画面例

```
Manager > show file=time.txt
File : time.txt
1:
2:
3: System time is 11:18:48 on Thursday 01-Nov-2007.

Manager > add file=time.txt command="show time"
Info (1056003): Operation successful.
```

```

Manager > show file=time.txt
File : time.txt
1:
2:
3: System time is 11:18:48 on Thursday 01-Nov-2007.
4:
5:
6: System time is 11:19:00 on Thursday 01-Nov-2007.

Manager > add file=time.txt command="enable ip debug=all" permanentredirect
Info (1056003): Operation successful.

Manager > reset file=time.txt permanentredirect
Info (1056278): time.txt redirection - operation complete.

Manager > show file=time.txt
File : time.txt
1:
2:
3: System time is 11:18:48 on Thursday 01-Nov-2007.
4:
5:
6: System time is 11:19:00 on Thursday 01-Nov-2007.
7:
8:
9: Info (1005287): All IP debugging has been enabled.
10: <I/C/B=vlan1/2/0, l=60, ttl=128, p=1, addr=192.168.20.11>192.168.20.1
11: >I/C/T/R/Id=Loc/0/fw/??/61533, l=60, ttl=64, p=1, addr=192.168.20.1>192.168.20.11
12: <I/C/B=vlan1/2/0, l=60, ttl=128, p=1, addr=192.168.20.11>192.168.20.1
13: >I/C/T/R/Id=Loc/0/fw/??/61534, l=60, ttl=64, p=1, addr=192.168.20.1>192.168.20.11
...

Manager > disable ip debug=all
Info (1087003): Operation successful.

```

例

■ 既存ファイル iproute.txt にコマンド行「show ip route」の実行結果を追記する。ここで iproute.txt が存在しない場合は新規作成される。

```
ADD FILE=iproute.txt COMMAND="show ip route"
```

■ 既存ファイル ipdebug.txt にデバッグコマンド「enable ip debug=all」の出力を継続的に追記する。追記出力を終了しファイルをクローズするには、RESET FILE PERMANENTREDIRECT コマンドを実行する。なお、ファイルをクローズしてもデバッグオプションは有効なままなので、この例では「disable ip debug=all」を実行してデバッグオプションも無効にすること。

```
ADD FILE=ipdebug.txt COMMAND="enable ip debug=all" PERMANENTREDIRECT
```

備考・注意事項

COMMAND パラメーターで指定したコマンド行や、SCRIPT パラメーターで指定したスクリプトは、本コマンドの入力と同時に実行される。

「SHOW XXXX」コマンドの出力をファイルに保存したいとき、PERMANENTREDIRECT オプションは意味を持たないので指定しないこと。同オプションを指定して「SHOW XXXX」コマンドを実行した場合は、本コマンド入力時に実行された「SHOW XXXX」コマンドの出力だけがファイルに書き込まれ、それ以降「SHOW XXXX」コマンドを実行してもそれらはファイルに追記されず、ただファイルだけがオープン（ロック）されたままとなるので注意。

「ENABLE XXXX DEBUG」コマンドによるデバッグ出力をファイルに保存したいときは、必ず PERMANENTREDIRECT オプションを指定すること。同オプションを指定せずに「ENABLE XXXX DEBUG」コマンドを実行した場合は、デバッグオプション有効化コマンドの実行に成功した、あるいは失敗したというメッセージだけがファイルに保存されるので注意。

「ENABLE XXXX DEBUG」コマンドを本コマンドから実行した場合、ファイルへの出力が完了しても、該当デバッグ出力はコンソールに表示されない。これは、PERMANENTREDIRECT オプションを指定したかどうかとは関係ない。デバッグ出力をコンソールに表示させたい場合は、再度「ENABLE XXXX DEBUG」コマンドを実行すること。なお、ファイルへの出力中に「ENABLE XXXX DEBUG」コマンドを再実行すると、ファイルへの出力が停止するので注意。

「ENABLE XXXX DEBUG」コマンドを本コマンドから実行した場合、ファイルへの出力が完了しても、該当デバッグオプションは有効なままとなる。これは、PERMANENTREDIRECT オプションを指定したかどうかとは関係ない。ファイルへの出力が完了し、デバッグ出力の収集が完了したら、「DISABLE XXX DEBUG」コマンドを実行して、デバッグオプションを無効にすること。

関連コマンド

CREATE FILE (127 ページ)

RESET FILE PERMANENTREDIRECT (233 ページ)

SHOW FILE (301 ページ)

SHOW FILE PERMANENTREDIRECT (303 ページ)

ADD LOG OUTPUT

カテゴリー：運用・管理 / ログ

```
ADD LOG OUTPUT={TEMPORARY|output-id} [FILTER=entry-id] [ACTION={PROCESS|IGNORE}] [ALL] [DATE=[op]date] [DEVICE=[op]device] [FILE=[op]filename] [MASK=ipadd] [MSGTEXT=[op]string] [MODULE=[op]module-id] [ORIGIN=ipadd] [REFERENCE=[op]string] [SEVERITY=[op]severity] [SOURCELINE=[op]line-num] [SUBTYPE=[op]subtype-id] [TIME=[op]time] [TYPE=[op]type-id]
```

output-id: ログ出力 ID (1~20)

entry-id: エントリー番号 (1~)

op: 比較演算子 (「<」(小さい)「>」(大きい)「!」(等しくない)「=」(等しい)「%」(以下の文字列を含む))

date: 日付 (dd-mmm-yyyy の形式。dd は日 (1~31) mmm は月 (英語月名の頭3文字。例: APR) yyyy は西暦年)

device: デバイス番号

filename: ファイル名 (1~12文字)

ipadd: IP アドレスまたはネットマスク

string: 文字列

module-id: モジュール名またはモジュール番号 (0~255)

severity: ログレベル (0~7)

line-num: 行番号 (1~)

subtype-id: ログメッセージのサブタイプ名または ID

time: 時刻 (hh:mm:ss の形式。hh は時 (0~23) mm は分 (0~59) ss は秒 (0~59))

type-id: ログメッセージのタイプ名または ID

解説

ログ出力先にメッセージフィルターのエントリーを追加し、出力するログメッセージの条件を指定する。CREATE LOG OUTPUT コマンドで出力先を定義しただけでは、ログメッセージは出力されない。本コマンドで出力するメッセージの条件を指定する必要がある。

パラメーター

OUTPUT ログ出力先 ID。1~20 の任意の番号か、特殊なキーワード「TEMPORARY」(RAM) を指定する。

FILTER メッセージフィルターのエントリー番号。省略時は、エントリーリストの末尾に追加される。

ACTION フィルターアクション。このエントリーにマッチしたメッセージを処理 (PROCESS) するか、無視 (IGNORE) するかを指定。省略時は PROCESS。

ALL すべてのメッセージにマッチさせたいときに指定する。他の条件と同時に指定することはできない。

DATE メッセージの日付。省略時はすべての日付にマッチする。

DEVICE デバイス番号。省略時はすべてのデバイスにマッチする。

FILE 該当モジュールのソースプログラムファイル名 (例: logmain.c)。ソースファイル名は、SHOW LOG コマンドに FULL オプションを付けたときに表示される。省略時はすべてのファイル名にマッチする。

MASK ネットマスク。メッセージの生成元 IP アドレスを示す ORIGIN パラメーターと組み合わせて使用する。省略時は 255.255.255.255 (単一ホスト)。

MSGTEXT メッセージ本文と比較する文字列。省略時はすべてのメッセージにマッチする。

MODULE モジュール番号またはモジュール名。省略時はすべてのモジュールにマッチする。

ORIGIN ログ生成元の IP アドレス。MASK パラメーターと組み合わせて範囲指定が可能。デフォルトではすべての IP アドレスにマッチする。

REFERENCE メッセージ中の参考情報。省略時はすべてにマッチする。

SEVERITY メッセージのログレベル。省略時はすべてのログレベルにマッチする。

SOURCELINE メッセージを生成したソースプログラムファイルの行番号。省略時はすべての行にマッチする。

SUBTYPE メッセージのサブタイプ名またはサブタイプ番号。省略時はすべてのサブタイプにマッチする。

TIME メッセージの時刻。省略時はすべての時刻にマッチする。

TYPE メッセージのタイプ名またはサブタイプ番号。省略時はすべてのサブタイプにマッチする。

例

- ファイアウォールのログだけを出力するフィルターエントリーを、ログ出力先定義「3」に追加する。

```
ADD LOG OUTPUT=3 MODULE=FIREWALL
```

- ログレベル 6 以上のメッセージだけを出力するフィルターエントリーを、ログ出力先定義「4」に追加する。

```
ADD LOG OUTPUT=4 SEVERITY=>6
```

関連コマンド

CREATE LOG OUTPUT (130 ページ)

DELETE LOG OUTPUT (156 ページ)

SET LOG OUTPUT (244 ページ)

SHOW LOG OUTPUT (321 ページ)

ADD LOG RECEIVE

カテゴリー：運用・管理 / ログ

ADD LOG RECEIVE={*ipadd*|**ANY**} [MASK=*ipadd*] [ALLOW={YES|NO}] [PROTOCOL={ALL|BOTH|NEW|OLD|SYSLOG}] [PASSWORD={*password*|NONE}]

ipadd: IP アドレスまたはネットマスク

password: パスワード (1～16 文字。任意の印刷可能文字を使用可能。空白を含む場合はダブルクォートで囲む)

解説

ログ受信テーブルにエントリーを追加する。

ログ受信テーブルは、どの IP アドレスから、どのプロトコル、どのパスワードでログを受信するかを指定するもの。各エントリーは、ログ送信元の IP アドレス/マスクと、受信可否、プロトコル、パスワードで構成される。

ログ送信元の IP アドレスが複数のエントリーにマッチする場合は、もっともマスクの長い (対象アドレスがもっとも限定された) エントリーにしたがって処理される (エントリーの追加順序は意味をもたない)。

パラメーター

RECEIVE ログ送信元の IP アドレス。MASK と組み合わせて範囲を指定することも可能。ANY と 0.0.0.0 はすべての IP アドレスを示す。

MASK RECEIVE パラメーターで指定したアドレスに対するマスク。IP アドレスを範囲指定するときに使う。ただし、RECEIVE=ANY または RECEIVE=0.0.0.0 のときは指定できない。省略時は、RECEIVE で指定した IP アドレスがクラス A、B、C のネットワークアドレスなら各クラスの標準マスク、それ以外なら 255.255.255.255 (単一ホスト) となる。

ALLOW RECEIVE/MASK で指定した IP アドレスからのログを受け入れるかどうか。YES なら受け入れ、NO なら拒否する。省略時は YES。

PROTOCOL RECEIVE/MASK で指定した IP アドレスから、どのプロトコルでログを受け入れるかを指定する。OLD (Net Manage Message Protocol)、NEW (SRLP)、SYSLOG、BOTH (OLD と NEW)、ALL (OLD、NEW、SYSLOG のすべて) から選択する。省略時は BOTH。

PASSWORD SRLP プロトコルにおいて、ログ送信元を認証するためのパスワードを指定する。省略時はパスワード認証を行わない。本パラメーターは、SRLP 使用時のみ有効 (PROTOCOL=NEW または BOTH、ALL のとき)。

例

■ IP アドレス 192.168.1.1 の機器から転送されてきたログを SRLP で受信する。

```
ADD LOG RECEIVE=192.168.1.1 PROTOCOL=NEW
```

関連コマンド

DELETE LOG RECEIVE (157 ページ)

SET LOG RECEIVE (248 ページ)

SHOW LOG RECEIVE (326 ページ)

ADD NTP PEER

カテゴリー：運用・管理 / NTP

ADD NTP PEER=*ipadd*

ipadd: IP アドレス

解説

時刻同期をとる NTP サーバーの IP アドレスを設定する。NTP サーバーは 1 つしか設定できない。

パラメーター

PEER NTP サーバーの IP アドレス

例

- NTP サーバー「192.168.10.5」を使って時刻を合わせる。タイムゾーンは日本 (JST +09:00)

```
ENABLE NTP
```

```
ADD NTP PEER=192.168.10.5
```

```
SET NTP UTCOFFSET=JST
```

```
RESET NTP
```

関連コマンド

DELETE NTP PEER (159 ページ)

ADD RADIUS SERVER

カテゴリー：運用・管理 / 認証サーバー

ADD RADIUS SERVER=*ipadd* **SECRET=***password* [**PORT=***port*] [**ACCPORT=***port*]

ipadd: IP アドレス

password: パスワード (1～63 文字)

port: UDP ポート番号 (0～65535)

解説

認証サーバーリストに RADIUS (Remote Authentication Dial In User Server) サーバーを追加する。RADIUS サーバーは、ユーザー認証に使用できるほか、ファイアウォールのアクセスルールを集中管理する目的で使用することもできる。

パラメーター

SERVER RADIUS サーバーの IP アドレス。

SECRET RADIUS サーバーとの通信に使う共有パスワード。

PORT RADIUS サーバーの認証用 UDP ポート番号。0 を指定した場合は、RADIUS サーバーのアカウントティング機能だけを利用し、認証機能は使わない。省略時はデフォルトの 1645 番を使う。

ACCPORT RADIUS サーバーのアカウントティング用 UDP ポート番号。0 を指定した場合は、RADIUS サーバーの認証機能だけを利用し、アカウントティング機能は使わない。省略時はデフォルトの 1646 番を使う。

例

- 認証サーバーリストに RADIUS サーバー 192.168.10.5 を追加する。パスワードは「pOR8Gd」

```
ADD RADIUS SERVER=192.168.10.5 SECRET=pOR8Gd
```

- RADIUS サーバーのアカウントティング機能だけを使用する

```
ADD RADIUS SERVER=192.168.10.5 SECRET=pOR8Gd PORT=0
```

備考・注意事項

RFC2865、RFC2866 ではポート番号 1812、1813 を RADIUS に割り当てている。これらのポートを使うサーバーを利用するには、PORT、ACCPORT パラメーターを指定すること。

関連コマンド

DELETE RADIUS SERVER (160 ページ)

SHOW RADIUS (336 ページ)

ADD SCRIPT

カテゴリー：運用・管理 / スクリプト

ADD SCRIPT=filename TEXT=string [LINE=line-num]

filename: ファイル名（拡張子は.scp か.cfg）

string: 文字列（1～127 文字）

line-num: 行番号（1～）

解説

スクリプトファイルにテキスト一行分を追加する。

パラメーター

SCRIPT スクリプトファイル名。拡張子は.cfg か.scp

TEXT 追加するテキスト

LINE テキストを挿入する箇所の行番号。省略時はファイルの末尾に追加される。

例

- スクリプトファイル「handmade.scp」にテキストを追加する。

```
ADD SCRIPT=handmade.scp TEXT="show file"
```

備考・注意事項

特に理由がない限り、スクリプトの作成・編集には EDIT コマンド（内蔵スクリーンエディター）を使うか、PC/WS 上の使い慣れたエディターで編集して TFTP 等で転送するほうが便利。

本コマンドは、ログインした状態でコマンドラインから実行することを想定している。設定スクリプトファイル（.CFG）記述した場合は意図した結果にならないことがあるので注意。

関連コマンド

ACTIVATE SCRIPT（99 ページ）

DEACTIVATE SCRIPT（151 ページ）

DELETE SCRIPT（161 ページ）

SET SCRIPT（257 ページ）

SHOW SCRIPT（339 ページ）

WAIT（385 ページ）

ADD SNMP COMMUNITY

カテゴリー：運用・管理 / SNMP

```
ADD SNMP COMMUNITY=community [MANAGER=ipadd] [TRAPHOST=ipadd]
[V1TRAPHOST=ipadd] [V2CTRAHOST=ipadd]
```

community: SNMP コミュニティー名 (1～15 文字。大文字小文字を区別する)

ipadd: IP アドレス

解説

SNMP コミュニティーに管理ステーション、トラップホストを追加する。

パラメーター

COMMUNITY SNMP コミュニティー名

MANAGER SNMP オペレーションを許可する管理ステーション。本エージェントは、MANAGER に登録されていないホストからの SNMP 要求には応答しない。ただし、SNMP コミュニティーの OPEN パラメーターが YES の場合は、MANAGER パラメーターの設定にかかわらず、すべての SNMP 要求に応答する。

TRAPHOST SNMPv1 トラップの送信先ホスト。ここで指定したホストには SNMPv1 形式のトラップが送信される。

V1TRAPHOST SNMPv1 トラップの送信先ホスト。TRAPHOST パラメーターと同じ。

V2CTRAHOST SNMPv2c トラップの送信先ホスト。ここで指定したホストには SNMPv2c 形式のトラップが送信される。

例

- SNMP コミュニティー「public」に管理ステーションを追加する。

```
ADD SNMP COMMUNITY=public MANAGER=192.168.20.5
```

備考・注意事項

SNMP トラップは、ENABLE SNMP COMMUNITY TRAP コマンドを実行してコミュニティのトラップ設定を有効にしないと送信されないの注意が必要。

TRAPHOST (または V1TRAPHOST) と V2CTRAHOST に同じホストを指定してもよい

関連コマンド

CREATE SNMP COMMUNITY (133 ページ)
DELETE SNMP COMMUNITY (162 ページ)
DESTROY SNMP COMMUNITY (169 ページ)
DISABLE SNMP COMMUNITY (182 ページ)
DISABLE SNMP COMMUNITY TRAP (183 ページ)
ENABLE SNMP COMMUNITY (207 ページ)
ENABLE SNMP COMMUNITY TRAP (208 ページ)
SET SNMP COMMUNITY (259 ページ)
SHOW SNMP COMMUNITY (345 ページ)

ADD SSH USER

カテゴリー：運用・管理 / Secure Shell

```
ADD SSH USER=username {PASSWORD=password|KEYID=key-id} [IPADDRESS=ipadd]  
[MASK=ipadd]
```

username: ユーザー名 (1~15 文字)

password: パスワード (1~31 文字)

key-id: 鍵番号 (0~65535)

ipadd: IP アドレスまたはネットマスク

解説

SSH ユーザーを追加する。

このとき、該当ユーザーの認証方式をパスワード認証と RSA 認証から選択する。

ルーターに対する SSH アクセスは、このコマンドで登録したユーザーに限られる。SSH ユーザーが登録されていない場合、ルーターに対する SSH 接続はすべて拒否される。

ユーザー認証データベースに登録されているものと同じログイン名を指定した場合、SSH ユーザーにはデータベースと同じユーザー権限が適用される。一方、認証データベースに登録されていない SSH ユーザーの権限は USER レベルとなる。

パラメーター

USER SSH ユーザー名。

PASSWORD SSH パスワード。パスワード認証を使用するときに指定する。ユーザー認証データベースのパスワードと同じでなくてもよい。KEYID と同時に指定することはできない。

KEYID ユーザーの RSA 公開鍵番号 (CREATE ENCO KEY でインポートしたもの)。RSA 認証を使用するときに指定する。PASSWORD と同時に指定することはできない。

IPADDRESS ログイン元 (SSH クライアント) の IP アドレス。MASK と組み合わせて、ログイン元を制限するときに使う。デフォルトでは制限なし。

MASK ネットマスク。IPADDRESS パラメーターと組み合わせて、ログイン元ホストを制限するときに使う。

例

■ Manager 権限を持つユーザー「admin」を SSH ユーザーとして登録する (RSA 認証)。ユーザーの RSA 公開鍵は、ENCO モジュールの鍵番号「10」として登録されている。

```
ADD USER=admin PASSWORD=jogefoge PRIVILEGE=MANAGER
```

```
ADD SSH USER=admin KEYID=10
```

- ユーザー「sshuser」を登録する。認証方式はパスワード認証。

ADD SSH USER=sshuser PASSWORD=sshpasswd

関連コマンド

CREATE ENCO KEY (「暗号」の 10 ページ)

DELETE SSH USER (163 ページ)

SET SSH USER (263 ページ)

SHOW SSH USER (356 ページ)

ADD TRIGGER

カテゴリー：運用・管理 / トリガー

ADD TRIGGER=trigger-id SCRIPT=filename... [NUMBER=index]

trigger-id: トリガー番号 (1~100)

filename: ファイル名 (拡張子は.scip か.cfg)

index: スクリプト番号 (1~5)

解説

トリガーにスクリプトを追加する。

パラメーター

TRIGGER トリガー番号

SCRIPT スクリプトファイル名 (.scip または.cfg)。SCRIPT パラメーターは、1 コマンドラインに複数個指定できる。スクリプトの実行は記述順。1 つのトリガーに関連付けられるスクリプトは最高 5 個。

NUMBER 追加するスクリプトの挿入位置。省略時はスクリプトリストの末尾に追加される。

例

- トリガー「2」にスクリプトファイル step.scip と jump.scip を追加する。

```
ADD TRIGGER=2 SCRIPT=step.scip SCRIPT=jump.scip
```

関連コマンド

CREATE TRIGGER CPU (135 ページ)

CREATE TRIGGER FIREWALL (137 ページ)

CREATE TRIGGER INTERFACE (139 ページ)

CREATE TRIGGER MEMORY (141 ページ)

CREATE TRIGGER MODULE (143 ページ)

CREATE TRIGGER PERIODIC (145 ページ)

CREATE TRIGGER REBOOT (147 ページ)

CREATE TRIGGER TIME (149 ページ)

DELETE TRIGGER (164 ページ)

DISABLE TRIGGER (188 ページ)

ENABLE TRIGGER (213 ページ)

SET TRIGGER CPU (270 ページ)

SET TRIGGER FIREWALL (272 ページ)
SET TRIGGER INTERFACE (274 ページ)
SET TRIGGER MEMORY (276 ページ)
SET TRIGGER MODULE (278 ページ)
SET TRIGGER PERIODIC (280 ページ)
SET TRIGGER REBOOT (282 ページ)
SET TRIGGER TIME (284 ページ)
SHOW TRIGGER (364 ページ)

ADD USER

カテゴリー：運用・管理 / ユーザー認証データベース

```
ADD USER=login-name PASSWORD=password [LOGIN={TRUE|FALSE|ON|OFF|YES|NO}]
[DESCRIPTION=string] [PRIVILEGE={USER|MANAGER|SECURITYOFFICER}]
[TELNET={YES|NO}] [IPADDRESS=ipadd] [NETMASK=ipadd] [MTU=40..1500]
```

login-name: ログイン名 (1~64 文字。英数字のみ使用可能。大文字小文字を区別しない。空白不可)

password: パスワード (1~32 文字。大文字小文字を区別する)

string: 文字列 (1~24 文字)

ipadd: IP アドレスまたはネットマスク

解説

認証データベースにユーザーを追加する。

パラメーター

USER ログイン名。大文字小文字を区別しない。

PASSWORD パスワード。大文字小文字を区別する。

LOGIN ユーザーにコマンドラインインターフェースへのログインを許すかどうか。PRIVILEGE パラメーターを省略した場合および PRIVILEGE パラメーターに USER を指定した場合は必須。ユーザーレベルが MANAGER/SECURITYOFFICER のユーザーにもログインを許可しないよう設定できるため注意が必要。

DESCRIPTION ユーザーに関するコメント

PRIVILEGE ユーザーレベル。一般ユーザー (USER)、管理者 (MANAGER)、Security Officer (SECURITYOFFICER) から選択する。省略時は USER レベル。

TELNET 別ホストへの Telnet を許すかどうか。ログインしたユーザーに、TELNET コマンドを使用させるかどうかを指定する。省略時は NO。

IPADDRESS ユーザーに割り当てる IP アドレス。PPP など接続してきたユーザーに割り当てるためのもの。NETMASK の指定も必須。

NETMASK ユーザーが使用すべきネットマスク。IPADDRESS と組で指定する。

MTU ユーザーの MTU 値を 40~1500 の範囲で指定する。

例

■ Manager 権限のユーザー「HIYO」を作成する。パスワードは「il0vEba7」。

```
ADD USER=HIYO PASSWORD=il0vEba7 PRIVILEGE=MANAGER
```

■ Security Officer 権限のユーザー「super」を作成する。

```
ADD USER=super DESCRIPTION="super user" PASSWORD=ureBus  
PRIVILEGE=SECURITYOFFICER
```

- PPP ユーザー UserA を登録する。コマンドラインへのログインは許可しない。

```
ADD USER=UserA PASSWORD=arappap LOGIN=NO
```

- PPP ユーザー UserB を登録する。IP アドレス 192.168.10.231 を固定的に割り当てる。

```
ADD USER=UserB PASSWORD=araraynoh IP=192.168.10.231  
NETMASK=255.255.255.255 LOGIN=NO
```

関連コマンド

DELETE USER (165 ページ)
DISABLE SYSTEM SECURITY_MODE (186 ページ)
DISABLE USER (189 ページ)
ENABLE SYSTEM SECURITY_MODE (211 ページ)
ENABLE USER (214 ページ)
PURGE USER (230 ページ)
RESET USER (236 ページ)
SET USER (287 ページ)
SHOW USER (372 ページ)

ADD USER RSO

カテゴリー：運用・管理 / セキュリティー

ADD USER RSO IP=*ipadd* [MASK=*ipadd*]

ipadd: IP アドレスまたはネットマスク

解説

セキュリティーモード時に Security Officer 権限で Telnet ログインできるホストの IP アドレス (RSO アドレス。RSO=Remote Security Officer) を設定する。

ネットマスクによる範囲指定も可能。セキュリティーモードでは、本コマンドで指定したアドレス範囲外からは Security Officer 権限での Telnet ログインができない。

パラメーター

IP RSO アドレスのベースアドレスを指定する。

MASK ベースアドレスに対するネットマスク値を指定する。省略時は、255.255.255.255 (単一ホスト) を指定したものとみなされる。

例

■ ホスト 172.16.10.6 を Remote Security Officer として設定する

```
ADD USER RSO IP=172.16.10.6
```

■ ネットワーク 192.168.200.0/24 上の全ホストを Remote Security Officer として設定する

```
ADD USER RSO IP=192.168.200.0 MASK=255.255.255.0
```

関連コマンド

DELETE USER RSO (166 ページ)

DISABLE SYSTEM SECURITY_MODE (186 ページ)

DISABLE USER RSO (190 ページ)

ENABLE SYSTEM SECURITY_MODE (211 ページ)

ENABLE USER RSO (215 ページ)

SHOW USER RSO (376 ページ)

CLEAR FLASH TOTALLY

カテゴリー：運用・管理 / 記憶装置とファイルシステム

CLEAR FLASH TOTALLY

解説

フラッシュメモリーの内容を全消去する。

備考・注意事項

フラッシュメモリー上のすべてのデータが失われるため、特別な理由なく本コマンドを実行しないよう注意。

関連コマンド

SHOW FLASH (305 ページ)

COPY

カテゴリー：運用・管理 / 記憶装置とファイルシステム

COPY *src-filename* *dst-filename*

src-filename: コピー元ファイル名 ([device:]filename.ext の形式。device:省略時は flash:と見なされる)

dst-filename: コピー先ファイル名 ([device:]filename.ext の形式。device:省略時は flash:と見なされる)

解説

ファイルをコピーする。

例

- フラッシュメモリー上のファイル cur.cfg を curbak.cfg という名前でコピーする。

```
COPY cur.cfg curbak.cfg
```

関連コマンド

RENAME (232 ページ)

SHOW FILE (301 ページ)

CREATE CONFIG

カテゴリー：運用・管理 / コンフィグレーション

CREATE CONFIG=filename

filename: ファイル名（拡張子は.scf か.cfg）

解説

現在の設定内容（メモリー上の設定内容）をスクリプトファイルに保存する。

パラメーター

CONFIG 設定スクリプトファイル名。拡張子は「.CFG」か「.SCP」。指定したファイルがすでに存在していた場合は上書きされる。存在しない場合は新規作成される。

例

- 現在の設定情報を basic.cfg に保存し、再起動後も同じ設定が使われるようにする。

```
CREATE CONFIG=basic.cfg
```

```
SET CONFIG=basic.cfg
```

備考・注意事項

設定内容は一定の法則にしたがってスクリプト化されるため、必ずしも入力したコマンドがそのまま保存されるとは限らない。

関連コマンド

RESTART (237 ページ)

SET CONFIG (239 ページ)

SHOW CONFIG (291 ページ)

CREATE FFILE

カテゴリー：運用・管理 / 記憶装置とファイルシステム

CREATE FFILE=filename {DATA=value-list|ADDRESS=address LENGTH=length}

filename: ファイル名

value-list: バイト列 (16 進数。1 バイトごとにカンマで区切る。最大 80 バイト)

address: メモリーアドレス (16 進数)

length: バイト長 (16 進数)

解説

フラッシュファイルシステム上にファイルを作成する。

DATA パラメーターでファイルの内容を指定する方法と、ADDRESS パラメーターと LENGTH パラメーターで元データの位置と大きさを指定し、新規ファイルにコピーする方法がある。

パラメーター

FFILE 作成するファイルの名前

DATA ファイルの内容を 16 進表記のバイト列として指定する。「DATA=50,4F,54,45,4E,45,4B,4F」のように各バイトを 16 進数で表し、バイトごとにカンマで区切って指定する。

ADDRESS ソースデータの開始アドレスを指定する。

LENGTH ソースデータの長さを指定する。

例

- 8 つのバイト「0x50,0x4F,0x54,0x45,0x4E,0x45,0x4B,0x4F」からなる「TINY.TXT」を作成する。

```
CREATE FFILE=TINY.TXT DATA=50,4F,54,45,4E,45,4B,4F
```

- アドレス「0x00」からの 0xC0000 バイトを「BIG.FIL」にコピーする。

```
CREATE FFILE=BIG.FIL ADDRESS=0 LENGTH=C0000
```

備考・注意事項

通常使う必要はない。

関連コマンド

DELETE FFILE (153 ページ)

CREATE FFILE

SHOW FFILE (299 ページ)

CREATE FILE

カテゴリー：運用・管理 / 記憶装置とファイルシステム

CREATE FILE=filename [FORCE] [COMMAND=string] [SCRIPT=filename]
[PERMANENTREDIRECT] [LIMIT=0..1048576]

filename: ファイル名

string: 文字列 (1~255 文字。空白を含む場合はダブルクォートで囲む)

解説

指定されたコマンド行やスクリプトを実行し、その出力を指定されたテキストファイルに保存 (リダイレクト) する。

パラメーター

FILE 出力先のテキストファイル名。指定したファイルが存在しない場合は作成される。指定したファイルが存在している場合はエラーになるが、FORCE オプションを指定した場合は強制的に上書きする

FORCE FILE パラメーターで指定したテキストファイルを上書きしてよい場合に指定する。本オプションを指定しない場合は、FILE パラメーターで指定したファイルが存在しているとエラーになる

COMMAND 実行するコマンド行。通常は情報表示用の「SHOW XXXX」コマンドを指定する。空白を含む場合はダブルクォートで囲むこと。SCRIPT パラメーターと同時に指定することはできない

SCRIPT 実行するスクリプトファイル名。COMMAND パラメーターと同時に指定することはできない

PERMANENTREDIRECT 指定したコマンド行やスクリプトの出力を継続的にファイルへ書き込みたいときに指定する。このオプションは、COMMAND パラメーターにデバッグオプションを有効化する「ENABLE XXXX DEBUG」コマンドを指定した場合、あるいは、SCRIPT パラメーターに「ENABLE XXXX DEBUG」コマンドを含むスクリプトを指定した場合にのみ有効。本オプションを指定した場合、FILE パラメーターで指定したテキストファイルは書き込み用にオープンされたままの状態となり、他のコマンドによって表示、変更などの操作ができないようロックされる。該当ファイルへの出力を終了しファイルをクローズするには、RESET FILE PERMANENTREDIRECT コマンドを実行すること

LIMIT 出力先テキストファイルの上限サイズ (バイト)。省略時は 204800 バイト

入力・出力・画面例

```
Manager > create file=time.txt command="show time"
Info (1056003): Operation successful.

Manager > show file=time.txt
File : time.txt
1:
2:
```

```

3: System time is 11:13:59 on Thursday 01-Nov-2007.

Manager > create file=time.txt command="show time"
Error (3056063): time.txt already exists.

Manager > create file=time.txt force command="show time"
Info (1056003): Operation successful.

Manager > show file=time.txt
File : time.txt
1:
2:
3: System time is 11:14:14 on Thursday 01-Nov-2007.

Manager > create file=ipdebug.txt command="enable ip debug=all" permanentredirect
Info (1056003): Operation successful.

Manager > reset file=ipdebug.txt permanentredirect
Info (1056278): ipdebug.txt redirection - operation complete.

Manager > show file=ipdebug.txt
File : ipdebug.txt
1:
2:
3: Info (1005287): All IP debugging has been enabled.
4: <I/C/B=vlan1/2/0, l=60, ttl=128, p=1, addr=192.168.20.11>192.168.20.1
5: >I/C/T/R/Id=Loc/0/fw/??/61533, l=60, ttl=64, p=1, addr=192.168.20.1>192.168.20.11
6: <I/C/B=vlan1/2/0, l=60, ttl=128, p=1, addr=192.168.20.11>192.168.20.1
7: >I/C/T/R/Id=Loc/0/fw/??/61534, l=60, ttl=64, p=1, addr=192.168.20.1>192.168.20.11
...

Manager > disable ip debug=all
Info (1087003): Operation successful.

```

例

- 新規ファイル iproute.txt を作成し、コマンド行「show ip route」の実行結果を出力する。iproute.txt がすでに存在していた場合はエラーになる。

```
CREATE FILE=iproute.txt COMMAND="show ip route"
```

- 既存ファイルに上書き出力したいときは、FORCE オプションを付ける。一方、既存ファイルに追記したいときは、ADD FILE コマンドを使う。

```
CREATE FILE=iproute.txt FORCE COMMAND="show ip route"
```

- 新規ファイル ipdebug.txt にデバッグコマンド「enable ip debug=all」の出力を継続的に書き込む。出力

を終了しファイルをクローズするには、RESET FILE PERMANENTREDIRECT コマンドを実行する。なお、ファイルをクローズしてもデバッグオプションは有効なままなので、この例では「disable ip debug=all」を実行してデバッグオプションも無効にすること。

```
CREATE FILE=ipdebug.txt COMMAND="enable ip debug=all" PERMANENTREDIRECT
```

備考・注意事項

COMMAND パラメーターで指定したコマンド行や、SCRIPT パラメーターで指定したスクリプトは、本コマンドの入力と同時に実行される。

「SHOW XXXX」コマンドの出力をファイルに保存したいとき、PERMANENTREDIRECT オプションは意味を持たないので指定しないこと。同オプションを指定して「SHOW XXXX」コマンドを実行した場合は、本コマンド入力時に実行された「SHOW XXXX」コマンドの出力だけがファイルに書き込まれ、それ以降「SHOW XXXX」コマンドを実行してもそれらはファイルに追記されず、ただファイルだけがオープン（ロック）されたままとなるので注意。

「ENABLE XXXX DEBUG」コマンドによるデバッグ出力をファイルに保存したいときは、必ず PERMANENTREDIRECT オプションを指定すること。同オプションを指定せずに「ENABLE XXXX DEBUG」コマンドを実行した場合は、デバッグオプション有効化コマンドの実行に成功した、あるいは失敗したというメッセージだけがファイルに保存されるので注意。

「ENABLE XXXX DEBUG」コマンドを本コマンドから実行した場合、ファイルへの出力が完了しても、該当デバッグ出力はコンソールに表示されない。これは、PERMANENTREDIRECT オプションを指定したかどうかとは関係ない。デバッグ出力をコンソールに表示させたい場合は、再度「ENABLE XXXX DEBUG」コマンドを実行すること。なお、ファイルへの出力中に「ENABLE XXXX DEBUG」コマンドを再実行すると、ファイルへの出力が停止するので注意。

「ENABLE XXXX DEBUG」コマンドを本コマンドから実行した場合、ファイルへの出力が完了しても、該当デバッグオプションは有効なままとなる。これは、PERMANENTREDIRECT オプションを指定したかどうかとは関係ない。ファイルへの出力が完了し、デバッグ出力の収集が完了したら、「DISABLE XXXX DEBUG」コマンドを実行して、デバッグオプションを無効にすること。

関連コマンド

ADD FILE (102 ページ)

RESET FILE PERMANENTREDIRECT (233 ページ)

SHOW FILE (301 ページ)

SHOW FILE PERMANENTREDIRECT (303 ページ)

CREATE LOG OUTPUT

カテゴリー：運用・管理 / ログ

```
CREATE LOG OUTPUT={TEMPORARY|output-id} DESTINATION={EMAIL|MEMORY|PORT|  
ROUTER|SYSLOG} [FORMAT={FULL|MSGONLY|SUMMARY}]  
[MAXQUEUESEVERITY=severity] [MESSAGES=count] [PASSWORD={password|NONE}]  
[ASYN=asyn-number] [QUEUEONLY={YES|NO}] [SECURE={YES|NO}] [SERVER=ipadd]  
[TO=email-addr] [ZONE={time-zone|utc-offset}]
```

output-id: ログ出力 ID (1~20)

severity: ログレベル (0~7)

count: 個数 (1~)

password: パスワード (1~16 文字)

asyn-number: 非同期ポート番号 (0)

ipadd: IP アドレス

email-addr: 電子メールアドレス

time-zone: タイムゾーン名

utc-offset: 協定世界時 (UTC) からのオフセット (+23:59:59 ~ -23:59:59)

解説

ログの出力先を定義する。

出力先の定義後は、ADD LOG OUTPUT コマンドでメッセージフィルターを追加し、どのようなメッセージを出力するかを指定する必要がある。

パラメーター

OUTPUT ログ出力先 ID。1~20 の任意の番号か、特殊なキーワード「TEMPORARY」(RAM) を指定する。TEMPORARY を指定した場合、MAXQUEUESEVERITY、QUEUEONLY、SECURE の各パラメーターは指定できず、DESTINATION は MEMORY しか指定できない。

DESTINATION ログメッセージの出力先。EMAIL (TO パラメーターで指定されたアドレスに電子メールで送信)、MEMORY (RAM 上に保存。OUTPUT パラメーターに TEMPORARY を指定したときのみ有効)、PORT (ASYN パラメーターで指定した非同期ポートに出力)、ROUTER (SERVER パラメーターで指定したルーターに Secure Router Logging Protocol (SRLP) を使って転送)、SYSLOG (SERVER パラメーターで指定した syslog サーバーに転送。メッセージは syslog フォーマットに変換される) から選択する。

FORMAT 非同期ポートに出力するログメッセージの形式。FULL (すべての情報を表示。1 ログエントリーが複数行に渡って表示される。空行がエントリーの区切りになる)、MSGONLY (テキストメッセージのみを表示)、SUMMARY (サマリーを表示。表示されないフィールドもある)。デフォルトは SUMMARY。DESTINATION パラメーターに PORT を指定した場合のみ有効。

MAXQUEUESEVERITY QUEUEONLY パラメーターに YES を指定した (キューがいっぱいになるまでログを出力しない) ときに、すぐに出力せずにキューに入れる最大のログレベルを指定す

る。QUEUEONLY が YES のときは、MAXQUEUESEVERITY よりも低いログレベルのメッセージは、キューの長さが MESSAGES パラメーターの値に達するまでキューイングされる。一方、MAXQUEUESEVERITY 以上のログレベルを持つメッセージが生成されたときは、ただちにキューがフラッシュ（処理）される。DESTINATION パラメーターに PORT を指定しているとき、および、OUTPUT パラメーターに TEMPORARY を指定しているときは、本パラメーターは指定できない。デフォルトは 7、すなわちキューがいっぱいにならないうちに処理されるのは、最高のログレベルを持つメッセージが来たときだけとなる。

MESSAGES DESTINATION が MEMORY のときは、保存するメッセージの最大数。最大値に達したときは、古いメッセージから順番に削除される。DESTINATION が EMAIL の場合は、一度に送信されるメッセージの数。DESTINATION が PORT のときは、本パラメーターは指定できない。DESTINATION が MEMORY のときのデフォルトは 200、EMAIL のときは 100。

PASSWORD SRLP でログを転送する際、転送先から認証を受けるためのパスワード。DESTINATION が ROUTER の場合にのみ有効。パスワードそのものは送信されず、代わりに MD5 によるメッセージダイジェストが送られる。デフォルトはパスワードなし。

ASYN ログを出力する非同期ポートの番号。DESTINATION に PORT を指定した場合にのみ有効。

QUEUEONLY キューがいっぱいになるまでメッセージを処理しないかどうか。DESTINATION に PORT を指定した場合、および、OUTPUT に TEMPORARY を指定した場合は、本パラメーターは指定できない。デフォルトは NO。

SECURE この出力先が「安全」かどうかを指定する。NO を指定した場合、パスワード変更など一部のメッセージが出力されなくなる。OUTPUT に TEMPORARY を指定した場合は、本パラメーターは指定できない。DESTINATION が ROUTER で PASSWORD が指定されている場合、および、DESTINATION が MEMORY の場合のデフォルトは YES。その他の場合のデフォルトは NO。

SERVER DESTINATION が ROUTER か SYSLOG の場合に、メッセージの転送先 IP アドレスを指定する。ROUTER の場合は、SRLP (Secure Router Logging Protocol) サーバー (UDP 5023 番)、SYSLOG の場合は syslog サーバー (UDP 514 番) を指定する。

TO DESTINATION に EMAIL を指定した場合に送信先メールアドレスを指定する。

ZONE タイムゾーン名または UTC からのオフセットを指定する。

例

- すべてのログを syslog サーバー 192.168.1.2 に送る

```
CREATE LOG OUTPUT=1 DESTINATION=SYSLOG SERVER=192.168.1.2
ADD LOG OUTPUT=1 FILTER=1 ALL
```

関連コマンド

ADD LOG OUTPUT (105 ページ)
 DELETE LOG OUTPUT (156 ページ)
 DESTROY LOG OUTPUT (167 ページ)
 DISABLE LOG OUTPUT (175 ページ)

ENABLE LOG OUTPUT (200 ページ)

SET LOG OUTPUT (244 ページ)

CREATE SNMP COMMUNITY

カテゴリー：運用・管理 / SNMP

```
CREATE SNMP COMMUNITY=community [ACCESS={READ|WRITE}] [MANAGER=ipadd]
[TRAPHOST=ipadd] [V1TRAPHOST=ipadd] [V2CTRAHOST=ipadd] [OPEN={ON|OFF|
YES|NO|TRUE|FALSE}]
```

community: SNMP コミュニティー名 (1～15 文字。大文字小文字を区別する)

ipadd: IP アドレス

解説

SNMP コミュニティーを作成する。

パラメーター

COMMUNITY SNMP コミュニティー名

ACCESS コミュニティーのアクセス権を指定する。READ (デフォルト) は読み出しのみを許可、WRITE は読み書き両方を許可する。

MANAGER SNMP オペレーションを許可するホストを指定する。本製品は、MANAGER に登録されていないホストからの SNMP 要求には応答しない。ただし、SNMP コミュニティーの OPEN パラメーターが YES の場合は、MANAGER パラメーターの設定にかかわらず、すべての SNMP 要求に応答する。トラップホスト同様、複数指定する場合はコミュニティ作成後に ADD SNMP COMMUNITY で追加する。

TRAPHOST SNMPv1 トラップの送信先ホストを指定する。コミュニティには複数のトラップホストを指定できるが、CREATE SNMP COMMUNITY コマンドでは 1 つしか指定できない。複数のトラップホストを使う場合は、コミュニティ作成後に ADD SNMP COMMUNITY コマンドで追加する。

V1TRAPHOST SNMPv1 トラップの送信先ホスト。TRAPHOST パラメーターと同じ。

V2CTRAHOST SNMPv2c トラップの送信先ホスト。ここで指定したホストには SNMPv2c 形式のトラップが送信される。

OPEN SNMP オペレーションをすべてのホストに開放するかどうかを示す。NO (デフォルト) は、MANAGER パラメーターで指定したホストのみに制限することを示す。YES を指定すると、すべての SNMP 要求を受け入れる。ON、YES、TRUE および OFF、NO、FALSE はそれぞれ同じ意味。

例

■ SNMP コミュニティー「public」を作成する。

```
CREATE SNMP COMMUNITY=public
```

- 書き込み権限のある SNMP コミュニティー「admins」を作成し、管理ステーション兼トラップホストとして 172.20.1.1 を指定する。

```
CREATE SNMP COMMUNITY=admins ACCESS=WRITE MANAGER=172.20.1.1
TRAPHOST=172.20.1.1
```

備考・注意事項

SNMP トラップは、ENABLE SNMP COMMUNITY TRAP コマンドを実行してコミュニティのトラップ設定を有効にしないと送信されないので注意が必要。

関連コマンド

ADD SNMP COMMUNITY (113 ページ)
DELETE SNMP COMMUNITY (162 ページ)
DESTROY SNMP COMMUNITY (169 ページ)
DISABLE SNMP (180 ページ)
DISABLE SNMP COMMUNITY (182 ページ)
DISABLE SNMP COMMUNITY TRAP (183 ページ)
ENABLE SNMP (205 ページ)
ENABLE SNMP COMMUNITY (207 ページ)
ENABLE SNMP COMMUNITY TRAP (208 ページ)
SET SNMP COMMUNITY (259 ページ)
SHOW SNMP COMMUNITY (345 ページ)

CREATE TRIGGER CPU

カテゴリー：運用・管理 / トリガー

```
CREATE TRIGGER=trigger-id CPU=1..100 [DIRECTION={UP|DOWN|ANY}]
[AFTER=time] [BEFORE=time] [{DATE=date|DAYS=day-list}] [NAME=string]
[REPEAT={YES|NO|ONCE|FOREVER|count}] [SCRIPT=filename...]
[STATE={ENABLED|DISABLED}] [TEST={YES|NO|ON|OFF}]
```

trigger-id: トリガー番号 (1~100)

time: 時刻 (hh:mm の形式。hh は時 (0~23)、mm は分 (0~59))

date: 日付 (dd-mmm-yyyy の形式。dd は日 (1~31)、mmm は月 (英語月名の頭3文字。例: APR)、yyyy は西暦年)

day-list: 曜日リスト (MON、TUE、WED、THU、FRI、SAT、SUN、WEEKDAY、WEEKEND、ALL の組み合わせ。複数指定時はカンマで区切る)

string: 文字列 (1~40 文字。空白を含む場合はダブルクォートで囲む)

count: 回数 (1~4294967294)

filename: ファイル名 (拡張子は.scp か.cfg)

解説

CPU トリガーを作成する。

CPU トリガーは、CPU 負荷率が指定値を横切ったときに起動される。DIRECTION パラメーターにより、上回ったとき、下回ったとき、上回ったときと下回ったときの指定が可能。トリガーから実行されるスクリプトには、特殊な引数として、%D (日付)、%T (時刻)、%N (システム名)、%S (シリアル番号) が渡される。

パラメーター

TRIGGER トリガー番号

CPU しきい値。CPU 負荷率をパーセンテージで指定する。

DIRECTION 起動条件。UP (しきい値まで上がるか上回ったとき)、DOWN (しきい値まで下がるか下回ったとき)、ANY (両方) から選択する。デフォルトは ANY。

AFTER 一日のうちトリガーが有効な時間を制限するパラメーター。トリガーは、AFTER で指定した時刻から深夜 24 時までの間だけ有効となる。

BEFORE 一日のうちトリガーが有効な時間を制限するパラメーター。トリガーは、深夜 0 時から BEFORE で指定した時刻までの間だけ有効となる。

DATE 一年のうちトリガーが有効な日を一日だけに制限するパラメーター。DAYS と同時には指定できない。

DAYS 一週間のうちトリガーが有効な日を制限するパラメーター。カンマ区切りで複数曜日を指定可能。WEEKDAY は MON,TUE,WED,THU,FRI と同義。また、WEEKEND は SAT,SUN と同義。ALL はすべての曜日。デフォルトは ALL。DATE と同時には指定できない。

NAME トリガー名。SHOW TRIGGER コマンドで表示されるもので、メモとして使う。

REPEAT トリガーを一度だけ実行するか、それとも、何度でも繰り返し実行するかを指定する。繰り返しを許す場合は、繰り返しの限度も指定できる。YES と FOREVER は同義で、実行回数に制限を設け

ないことを示す。NO と ONCE は同義で、一回だけしか実行を許可しないことを示す。回数を指定した場合は、指定回数まで実行を許可する。デフォルトは FOREVER。

SCRIPT トリガー起動時に実行するスクリプトファイルを指定する。SCRIPT パラメーターは、1 コマンドラインに複数個指定できる。また、トリガー作成後にも、ADD TRIGGER コマンドで追加可能。スクリプトの実行は記述順。1 つのトリガーに関連付けられるスクリプトは最高 5 個。

STATE トリガーの有効・無効。省略時のデフォルト値は ENABLED。無効状態のトリガーは自動的に起動されないが、ACTIVATE TRIGGER コマンドを使えば手動で起動できる。

TEST トリガーをテストモードにするかどうか。テストモードのトリガーは起動されても、SCRIPT パラメーターで指定したスクリプトを実行せず、ログにトリガーの起動を記録するだけ。ただし、ACTIVATE TRIGGER コマンドで手動起動された場合は、テストモードであってもスクリプトが実行される。デフォルトは NO。

例

- CPU の負荷が 80%を超えたら、cpuwarn.scp を実行する CPU トリガー「1」を作成する。

```
CREATE TRIGGER=1 CPU=80 DIRECTION=UP SCRIPT=cpuwarn.scp
```

関連コマンド

ACTIVATE TRIGGER (100 ページ)

ADD TRIGGER (117 ページ)

DESTROY TRIGGER (170 ページ)

DISABLE TRIGGER (188 ページ)

ENABLE TRIGGER (213 ページ)

SET TRIGGER CPU (270 ページ)

SHOW TRIGGER (364 ページ)

CREATE TRIGGER FIREWALL

カテゴリー：運用・管理 / トリガー

```
CREATE TRIGGER=trigger-id FIREWALL={ALL|DOSATTACK|FRAGATTACK|HOSTSCAN|  
PORTSCAN|SMURFATTACK|SYNATTACK|TCPATTACK} [MODE={START|END|BOTH}]  
[AFTER=time] [BEFORE=time] [{DATE=date|DAYS=day-list}] [NAME=string]  
[REPEAT={YES|NO|ONCE|FOREVER|count}] [SCRIPT=filename...]  
[STATE={ENABLED|DISABLED}] [TEST={YES|NO|ON|OFF}]
```

trigger-id: トリガー番号 (1~100)

time: 時刻 (hh:mm の形式。hh は時 (0~23) mm は分 (0~59))

date: 日付 (dd-mmm-yyyy の形式。dd は日 (1~31) mmm は月 (英語月名の頭3文字。例: APR) yyyy は西暦年)

day-list: 曜日リスト (MON、TUE、WED、THU、FRI、SAT、SUN、WEEKDAY、WEEKEND、ALL の組み合わせ。複数指定時はカンマで区切る)

string: 文字列 (1~40 文字。空白を含む場合はダブルクォートで囲む)

count: 回数 (1~4294967294)

filename: ファイル名 (拡張子は.scp か.cfg)

解説

ファイアウォールトリガーを作成する。

ファイアウォールトリガーは、指定したファイアウォールイベント (各種攻撃の開始、終了、またはその両方) が発生したときに起動される。トリガーから実行されるスクリプトには、特殊な引数として、%D (日付)、%T (時刻)、%N (システム名)、%S (シリアル番号) が渡される。また、ファイアウォールトリガーは、起動するスクリプトに2つの引数を渡す。引数1 (%1) はファイアウォールポリシー名、引数2 (%2) は攻撃元の IP アドレス。

パラメーター

TRIGGER トリガー番号

FIREWALL ファイアウォールの攻撃イベント名。指定した攻撃イベントの発生時にトリガーが起動される。MODE パラメーターと組み合わせることにより、より細かい指定が可能。

MODE 攻撃のどのタイミングでトリガーを起動させるかを指定する。START は攻撃開始時、END は攻撃終了時、BOTH は攻撃開始時と攻撃終了時にトリガーを起動する。デフォルトは BOTH。

AFTER 一日のうちトリガーが有効な時間を制限するパラメーター。トリガーは、AFTER で指定した時刻から深夜 24 時までの間だけ有効となる。

BEFORE 一日のうちトリガーが有効な時間を制限するパラメーター。トリガーは、深夜 0 時から BEFORE で指定した時刻までの間だけ有効となる。

DATE 一年のうちトリガーが有効な日を一日だけに制限するパラメーター。DAYS と同時には指定できない。

DAYS 一週間のうちトリガーが有効な日を制限するパラメーター。カンマ区切りで複数曜日を指定可能。WEEKDAY は MON,TUE,WED,THU,FRI と同義。また、WEEKEND は SAT,SUN と同義。ALL

はすべての曜日。デフォルトは ALL。DATE と同時には指定できない。

NAME トリガー名。SHOW TRIGGER コマンドで表示されるもので、メモとして使う。

REPEAT トリガーを一度だけ実行するか、それとも、何度でも繰り返し実行するかを指定する。繰り返しを許す場合は、繰り返しの限度も指定できる。YES と FOREVER は同義で、実行回数に制限を設けないことを示す。NO と ONCE は同義で、一回だけしか実行を許可しないことを示す。回数を指定した場合は、指定回数まで実行を許可する。デフォルトは FOREVER。

SCRIPT トリガー起動時に実行するスクリプトファイルを指定する。SCRIPT パラメーターは、1 コマンドラインに複数個指定できる。また、トリガー作成後にも、ADD TRIGGER コマンドで追加可能。スクリプトの実行は記述順。1 つのトリガーに関連付けられるスクリプトは最高 5 個。

STATE トリガーの有効・無効。省略時のデフォルト値は ENABLED。無効状態のトリガーは自動的に起動されないが、ACTIVATE TRIGGER コマンドを使えば手動で起動できる。

TEST トリガーをテストモードにするかどうか。テストモードのトリガーは起動されても、SCRIPT パラメーターで指定したスクリプトを実行せず、ログにトリガーの起動を記録するだけ。ただし、ACTIVATE TRIGGER コマンドで手動起動された場合は、テストモードであってもスクリプトが実行される。デフォルトは NO。

例

■ ポートスキャン開始の検出時に管理者にメールを送るファイアウォールトリガーを作成する。メールはサブジェクトのみ。サブジェクトには攻撃者の IP アドレスと、ファイアウォールポリシー名が入る。

```
CREATE TRIGGER=1 FIREWALL=PORTSCAN MODE=START SCRIPT=pscans.scp
```

■ スクリプト「pscans.scp」の内容

```
MAIL TO=admin@mydomain.xxx SUBJECT="Portscan from %2 (Policy: %1)"
```

関連コマンド

ACTIVATE TRIGGER (100 ページ)

ADD TRIGGER (117 ページ)

DESTROY TRIGGER (170 ページ)

DISABLE TRIGGER (188 ページ)

ENABLE TRIGGER (213 ページ)

SET FIREWALL POLICY ATTACK (「ファイアウォール」の 123 ページ)

SET TRIGGER FIREWALL (272 ページ)

SHOW TRIGGER (364 ページ)

CREATE TRIGGER INTERFACE

カテゴリー：運用・管理 / トリガー

```
CREATE TRIGGER=trigger-id INTERFACE=interface EVENT={UP|DOWN|FAIL|ANY}
[CP={BCP|CCP|IPCP|LCP}] [AFTER=time] [BEFORE=time] [{DATE=date|
DAYS=day-list}] [NAME=string] [REPEAT={YES|NO|ONCE|FOREVER|count}]
[SCRIPT=filename...] [STATE={ENABLED|DISABLED}] [TEST={YES|NO|ON|OFF}]
```

trigger-id: トリガー番号 (1~100)

interface: インターフェース名

time: 時刻 (hh:mm の形式。hh は時 (0~23)、mm は分 (0~59))

date: 日付 (dd-mm-yyyy の形式。dd は日 (1~31)、mmm は月 (英語月名の頭3文字。例: APR)、yyyy は西暦年)

day-list: 曜日リスト (MON、TUE、WED、THU、FRI、SAT、SUN、WEEKDAY、WEEKEND、ALL の組み合わせ。複数指定時はカンマで区切る)

string: 文字列 (1~40 文字。空白を含む場合はダブルクォートで囲む)

count: 回数 (1~4294967294)

filename: ファイル名 (拡張子は .scp か .cfg)

解説

インターフェーストリガーを作成する。

インターフェーストリガーは、指定インターフェースのリンクステータスが変化したときに起動される。トリガーから実行されるスクリプトには、特殊な引数として、%D (日付)、%T (時刻)、%N (システム名)、%S (シリアル番号) が渡される。

パラメーター

TRIGGER トリガー番号

INTERFACE 監視するインターフェース名を指定する。PPP インターフェースの場合は、CP パラメーターも指定可能。

EVENT 該当インターフェースのリンクステータスがどのように変化した場合にトリガーを起動させるかを指定する。UP はリンクアップ時、DOWN はリンクダウン時、FAIL はリンクアップ失敗時、ANY はすべてのリンクステータス変化時を意味する。Ethernet、VLAN インターフェースでは、UP と DOWN のみ有効。

CP 監視する PPP コントロールプロトコルを指定する。INTERFACE に PPP インターフェースを指定した場合にのみ有効。トリガースクリプトには、%1 (PPP インターフェース名)、%2 (コントロールプロトコル)、%3 (イベント名) の3つの引数が渡される。

AFTER 一日のうちトリガーが有効な時間を制限するパラメーター。トリガーは、AFTER で指定した時刻から深夜 24 時までの間だけ有効となる。

BEFORE 一日のうちトリガーが有効な時間を制限するパラメーター。トリガーは、深夜 0 時から BEFORE で指定した時刻までの間だけ有効となる。

DATE 一年のうちトリガーが有効な日を一日だけに制限するパラメーター。DAYS と同時には指定でき

ない。

DAYS 一週間のうちトリガーが有効な日を制限するパラメーター。カンマ区切りで複数曜日を指定可能。WEEKDAY は MON,TUE,WED,THU,FRI と同義。また、WEEKEND は SAT,SUN と同義。ALL はすべての曜日。デフォルトは ALL。DATE と同時には指定できない。

NAME トリガー名。SHOW TRIGGER コマンドで表示されるもので、メモとして使う。

REPEAT トリガーを一度だけ実行するか、それとも、何度でも繰り返し実行するかを指定する。繰り返しを許す場合は、繰り返しの限度も指定できる。YES と FOREVER は同義で、実行回数に制限を設けないことを示す。NO と ONCE は同義で、一回だけしか実行を許可しないことを示す。回数を指定した場合は、指定回数まで実行を許可する。デフォルトは FOREVER。

SCRIPT トリガー起動時に実行するスクリプトファイルを指定する。SCRIPT パラメーターは、1 コマンドラインに複数個指定できる。また、トリガー作成後にも、ADD TRIGGER コマンドで追加可能。スクリプトの実行は記述順。1 つのトリガーに関連付けられるスクリプトは最高 5 個。

STATE トリガーの有効・無効。省略時のデフォルト値は ENABLED。無効状態のトリガーは自動的に起動されないが、ACTIVATE TRIGGER コマンドを使えば手動で起動できる。

TEST トリガーをテストモードにするかどうか。テストモードのトリガーは起動されても、SCRIPT パラメーターで指定したスクリプトを実行せず、ログにトリガーの起動を記録するだけ。ただし、ACTIVATE TRIGGER コマンドで手動起動された場合は、テストモードであってもスクリプトが実行される。デフォルトは NO。

関連コマンド

ACTIVATE TRIGGER (100 ページ)

ADD TRIGGER (117 ページ)

DESTROY TRIGGER (170 ページ)

DISABLE TRIGGER (188 ページ)

ENABLE TRIGGER (213 ページ)

SET TRIGGER INTERFACE (274 ページ)

SHOW TRIGGER (364 ページ)

CREATE TRIGGER MEMORY

カテゴリー：運用・管理 / トリガー

```
CREATE TRIGGER=trigger-id MEMORY=1..100 [DIRECTION={UP|DOWN|ANY}]
    [AFTER=time] [BEFORE=time] [{DATE=date|DAYS=day-list}] [NAME=string]
    [REPEAT={YES|NO|ONCE|FOREVER|count}] [SCRIPT=filename...]
    [STATE={ENABLED|DISABLED}] [TEST={YES|NO|ON|OFF}]
```

trigger-id: トリガー番号 (1~100)

time: 時刻 (hh:mm の形式。hh は時 (0~23) mm は分 (0~59))

date: 日付 (dd-mmm-yyyy の形式。dd は日 (1~31) mmm は月 (英語月名の頭3文字。例: APR) yyyy は西暦年)

day-list: 曜日リスト (MON、TUE、WED、THU、FRI、SAT、SUN、WEEKDAY、WEEKEND、ALL の組み合わせ。複数指定時はカンマで区切る)

string: 文字列 (1~40 文字。空白を含む場合はダブルクォートで囲む)

count: 回数 (1~4294967294)

filename: ファイル名 (拡張子は.scp か.cfg)

解説

メモリートリガーを作成する。

メモリートリガーは、空きメモリー容量が指定値を横切ったときに起動される。DIRECTION パラメーターにより、上回ったとき、下回ったとき、上回ったときと下回ったときの指定が可能。トリガーから実行されるスクリプトには、特殊な引数として、%D (日付)、%T (時刻)、%N (システム名)、%S (シリアル番号) が渡される。

パラメーター

TRIGGER トリガー番号

MEMORY しきい値。空きメモリー容量をパーセンテージで指定する。

DIRECTION 起動条件。UP (しきい値まで上がるか上回ったとき)、DOWN (しきい値まで下がるか下回ったとき)、ANY (両方) から選択する。デフォルトは ANY。

AFTER 一日のうちトリガーが有効な時間を制限するパラメーター。トリガーは、AFTER で指定した時刻から深夜 24 時までの間だけ有効となる。

BEFORE 一日のうちトリガーが有効な時間を制限するパラメーター。トリガーは、深夜 0 時から BEFORE で指定した時刻までの間だけ有効となる。

DATE 一年のうちトリガーが有効な日を一日だけに制限するパラメーター。DAYS と同時には指定できない。

DAYS 一週間のうちトリガーが有効な日を制限するパラメーター。カンマ区切りで複数曜日を指定可能。WEEKDAY は MON,TUE,WED,THU,FRI と同義。また、WEEKEND は SAT,SUN と同義。ALL はすべての曜日。デフォルトは ALL。DATE と同時には指定できない。

NAME トリガー名。SHOW TRIGGER コマンドで表示されるもので、メモとして使う。

REPEAT トリガーを一度だけ実行するか、それとも、何度でも繰り返し実行するかを指定する。繰り返し

を許す場合は、繰り返しの限度も指定できる。YES と FOREVER は同義で、実行回数に制限を設けないことを示す。NO と ONCE は同義で、一回だけしか実行を許可しないことを示す。回数を指定した場合は、指定回数まで実行を許可する。デフォルトは FOREVER。

SCRIPT トリガー起動時に実行するスクリプトファイルを指定する。SCRIPT パラメーターは、1 コマンドラインに複数個指定できる。また、トリガー作成後にも、ADD TRIGGER コマンドで追加可能。スクリプトの実行は記述順。1 つのトリガーに関連付けられるスクリプトは最高 5 個。

STATE トリガーの有効・無効。省略時のデフォルト値は ENABLED。無効状態のトリガーは自動的に起動されないが、ACTIVATE TRIGGER コマンドを使えば手動で起動できる。

TEST トリガーをテストモードにするかどうか。テストモードのトリガーは起動されても、SCRIPT パラメーターで指定したスクリプトを実行せず、ログにトリガーの起動を記録するだけ。ただし、ACTIVATE TRIGGER コマンドで手動起動された場合は、テストモードであってもスクリプトが実行される。デフォルトは NO。

例

- 空きメモリー容量が 20%を切ったら、memwarn.scp を実行するメモリートリガー「1」を作成する。

```
CREATE TRIGGER=1 MEMORY=20 DIRECTION=DOWN SCRIPT=memwarn.scp
```

関連コマンド

ACTIVATE TRIGGER (100 ページ)

ADD TRIGGER (117 ページ)

DESTROY TRIGGER (170 ページ)

DISABLE TRIGGER (188 ページ)

ENABLE TRIGGER (213 ページ)

SET TRIGGER MEMORY (276 ページ)

SHOW TRIGGER (364 ページ)

CREATE TRIGGER MODULE

カテゴリー：運用・管理 / トリガー

CREATE TRIGGER=trigger-id MODULE=module-name EVENT=event

[*module-parameters...*] [AFTER=*time*] [BEFORE=*time*] [{DATE=*date* |
DAYS=*day-list*}] [NAME=*string*] [REPEAT={YES|NO|ONCE|FOREVER|*count*}]
[SCRIPT=*filename...*] [STATE={ENABLED|DISABLED}] [TEST={YES|NO|ON|OFF}]

trigger-id: トリガー番号 (1~100)

module-name: モジュール名

event: モジュール独自のイベント名

module-parameters: モジュール独自のパラメーター

time: 時刻 (hh:mm の形式。hh は時 (0~23) mm は分 (0~59))

date: 日付 (dd-mmm-yyyy の形式。dd は日 (1~31) mmm は月 (英語月名の頭3文字。例: APR) yyyy は西暦年)

day-list: 曜日リスト (MON、TUE、WED、THU、FRI、SAT、SUN、WEEKDAY、WEEKEND、ALL の組み合わせ。複数指定時はカンマで区切る)

string: 文字列 (1~40 文字。空白を含む場合はダブルクォートで囲む)

count: 回数 (1~4294967294)

filename: ファイル名 (拡張子は.scp か.cfg)

解説

モジュールトリガーを作成する。

モジュールトリガーは、指定モジュールのイベントが発生したときに起動される。モジュールトリガーのパラメーターは、指定モジュールによって異なる。トリガーから実行されるスクリプトには、特殊な引数として、%D (日付) %T (時刻) %N (システム名) %S (シリアル番号) が渡される。

パラメーター

TRIGGER トリガー番号

MODULE モジュール名

EVENT モジュール独自のイベント名

AFTER 一日のうちトリガーが有効な時間を制限するパラメーター。トリガーは、AFTER で指定した時刻から深夜 24 時までの間だけ有効となる。

BEFORE 一日のうちトリガーが有効な時間を制限するパラメーター。トリガーは、深夜 0 時から BEFORE で指定した時刻までの間だけ有効となる。

DATE 一年のうちトリガーが有効な日を一日だけに制限するパラメーター。DAYS と同時には指定できない。

DAYS 一週間のうちトリガーが有効な日を制限するパラメーター。カンマ区切りで複数曜日を指定可能。WEEKDAY は MON,TUE,WED,THU,FRI と同義。また、WEEKEND は SAT,SUN と同義。ALL はすべての曜日。デフォルトは ALL。DATE と同時には指定できない。

NAME トリガー名。SHOW TRIGGER コマンドで表示されるもので、メモとして使う。

REPEAT トリガーを一度だけ実行するか、それとも、何度でも繰り返し実行するかを指定する。繰り返し

を許す場合は、繰り返しの限度も指定できる。YES と FOREVER は同義で、実行回数に制限を設けないことを示す。NO と ONCE は同義で、一回だけしか実行を許可しないことを示す。回数を指定した場合は、指定回数まで実行を許可する。デフォルトは FOREVER。

SCRIPT トリガー起動時に実行するスクリプトファイルを指定する。SCRIPT パラメーターは、1 コマンドラインに複数個指定できる。また、トリガー作成後にも、ADD TRIGGER コマンドで追加可能。スクリプトの実行は記述順。1 つのトリガーに関連付けられるスクリプトは最高 5 個。

STATE トリガーの有効・無効。省略時のデフォルト値は ENABLED。無効状態のトリガーは自動的に起動されないが、ACTIVATE TRIGGER コマンドを使えば手動で起動できる。

TEST トリガーをテストモードにするかどうか。テストモードのトリガーは起動されても、SCRIPT パラメーターで指定したスクリプトを実行せず、ログにトリガーの起動を記録するだけ。ただし、ACTIVATE TRIGGER コマンドで手動起動された場合は、テストモードであってもスクリプトが実行される。デフォルトは NO。

例

■ バーチャルルーター「10」のマスタールーターになったら、bemaster.scp を実行するモジュールトリガーを作成

```
CREATE TRIGGER=1 MODULE=VRRP EVENT=UPMASTER VRID=10 SCRIPT=bemaster.scp
```

関連コマンド

ACTIVATE TRIGGER (100 ページ)

ADD TRIGGER (117 ページ)

DESTROY TRIGGER (170 ページ)

DISABLE TRIGGER (188 ページ)

ENABLE TRIGGER (213 ページ)

SET TRIGGER MODULE (278 ページ)

SHOW TRIGGER (364 ページ)

CREATE TRIGGER PERIODIC

カテゴリー：運用・管理 / トリガー

```
CREATE TRIGGER=trigger-id PERIODIC=minutes [{DATE=date|DAYS=day-list}]
    [AFTER=time] [BEFORE=time] [{DATE=date|DAYS=day-list}] [NAME=string]
    [REPEAT={YES|NO|ONCE|FOREVER|count}] [SCRIPT=filename...]
    [STATE={ENABLED|DISABLED}] [TEST={YES|NO|ON|OFF}]
```

trigger-id: トリガー番号 (1~100)

minutes: 時間 (1~1439 分)

date: 日付 (dd-mmm-yyyy の形式。dd は日 (1~31) mmm は月 (英語月名の頭 3 文字。例: APR) yyyy は西暦年)

day-list: 曜日リスト (MON、TUE、WED、THU、FRI、SAT、SUN、WEEKDAY、WEEKEND、ALL の組み合わせ。複数指定時はカンマで区切る)

time: 時刻 (hh:mm の形式。hh は時 (0~23) mm は分 (0~59))

string: 文字列 (1~40 文字。空白を含む場合はダブルクォートで囲む)

count: 回数 (1~4294967294)

filename: ファイル名 (拡張子は .scp か .cfg)

解説

定期実行トリガーを作成する。

定期実行トリガーは、指定した間隔で繰り返し実行される。トリガーから実行されるスクリプトには、特殊な引数として、%D (日付) %T (時刻) %N (システム名) %S (シリアル番号) が渡される。

パラメーター

TRIGGER トリガー番号

PERIODIC トリガーの起動間隔を分で指定する。

DATE 一年のうちトリガーが有効な日を一日だけに制限するパラメーター。DAYS と同時には指定できない。

DAYS 一週間のうちトリガーが有効な日を制限するパラメーター。カンマ区切りで複数曜日を指定可能。WEEKDAY は MON,TUE,WED,THU,FRI と同義。また、WEEKEND は SAT,SUN と同義。ALL はすべての曜日。デフォルトは ALL。DATE と同時には指定できない。

AFTER 一日のうちトリガーが有効な時間を制限するパラメーター。トリガーは、AFTER で指定した時刻から深夜 24 時までの間だけ有効となる。

BEFORE 一日のうちトリガーが有効な時間を制限するパラメーター。トリガーは、深夜 0 時から BEFORE で指定した時刻までの間だけ有効となる。

NAME トリガー名。SHOW TRIGGER コマンドで表示されるもので、メモとして使う。

REPEAT トリガーを一度だけ実行するか、それとも、何度でも繰り返し実行するかを指定する。繰り返しを許す場合は、繰り返しの限度も指定できる。YES と FOREVER は同義で、実行回数に制限を設けないことを示す。NO と ONCE は同義で、一回だけしか実行を許可しないことを示す。回数を指定した場合は、指定回数まで実行を許可する。デフォルトは FOREVER。

SCRIPT トリガー起動時に実行するスクリプトファイルを指定する。SCRIPT パラメーターは、1 コマンドラインに複数個指定できる。また、トリガー作成後にも、ADD TRIGGER コマンドで追加可能。スクリプトの実行は記述順。1 つのトリガーに関連付けられるスクリプトは最高 5 個。

STATE トリガーの有効・無効。省略時のデフォルト値は ENABLED。無効状態のトリガーは自動的に起動されないが、ACTIVATE TRIGGER コマンドを使えば手動で起動できる。

TEST トリガーをテストモードにするかどうか。テストモードのトリガーは起動されても、SCRIPT パラメーターで指定したスクリプトを実行せず、ログにトリガーの起動を記録するだけ。ただし、ACTIVATE TRIGGER コマンドで手動起動された場合は、テストモードであってもスクリプトが実行される。デフォルトは NO。

例

- 3 時間に一回 patrol.scp を実行する定期実行トリガー「1」を作成

```
CREATE TRIGGER=1 PERIODIC=180 SCRIPT=patrol.scp
```

関連コマンド

ACTIVATE TRIGGER (100 ページ)

ADD TRIGGER (117 ページ)

DESTROY TRIGGER (170 ページ)

DISABLE TRIGGER (188 ページ)

ENABLE TRIGGER (213 ページ)

SET TRIGGER PERIODIC (280 ページ)

SHOW TRIGGER (364 ページ)

CREATE TRIGGER REBOOT

カテゴリー：運用・管理 / トリガー

```
CREATE TRIGGER=trigger-id REBOOT={RESTART|CRASH|ALL} [{DATE=date|
    DAYS=day-list}] [AFTER=time] [BEFORE=time] [{DATE=date|DAYS=day-list}]
    [NAME=string] [REPEAT={YES|NO|ONCE|FOREVER|count}] [SCRIPT=filename...]
    [STATE={ENABLED|DISABLED}] [TEST={YES|NO|ON|OFF}]
```

trigger-id: トリガー番号 (1~100)

date: 日付 (dd-mmm-yyyy の形式。dd は日 (1~31) mmm は月 (英語月名の頭3文字。例: APR) yyyy は西暦年)

day-list: 曜日リスト (MON、TUE、WED、THU、FRI、SAT、SUN、WEEKDAY、WEEKEND、ALL の組み合わせ。複数指定時はカンマで区切る)

time: 時刻 (hh:mm の形式。hh は時 (0~23) mm は分 (0~59))

string: 文字列 (1~40 文字。空白を含む場合はダブルクォートで囲む)

count: 回数 (1~4294967294)

filename: ファイル名 (拡張子は .scp か .cfg)

解説

再起動トリガーを作成する。

再起動トリガーは、システムの再起動時に実行される。トリガーから実行されるスクリプトには、特殊な引数として、%D (日付) %T (時刻) %N (システム名) %S (シリアル番号) が渡される。

パラメーター

TRIGGER トリガー番号

REBOOT トリガーの起動条件となる再起動イベントを指定する。CRASH はクラッシュによる再起動、RESTART はクラッシュ以外の原因による再起動を意味する。ALL はすべての再起動を示す。

DATE 一年のうちトリガーが有効な日を一日だけに制限するパラメーター。DAYS と同時には指定できない。

DAYS 一週間のうちトリガーが有効な日を制限するパラメーター。カンマ区切りで複数曜日を指定可能。WEEKDAY は MON,TUE,WED,THU,FRI と同義。また、WEEKEND は SAT,SUN と同義。ALL はすべての曜日。デフォルトは ALL。DATE と同時には指定できない。

AFTER 一日のうちトリガーが有効な時間を制限するパラメーター。トリガーは、AFTER で指定した時刻から深夜 24 時までの間だけ有効となる。

BEFORE 一日のうちトリガーが有効な時間を制限するパラメーター。トリガーは、深夜 0 時から BEFORE で指定した時刻までの間だけ有効となる。

NAME トリガー名。SHOW TRIGGER コマンドで表示されるもので、メモとして使う。

REPEAT トリガーを一度だけ実行するか、それとも、何度でも繰り返し実行するかを指定する。繰り返しを許す場合は、繰り返しの限度も指定できる。YES と FOREVER は同義で、実行回数に制限を設けないことを示す。NO と ONCE は同義で、一回だけしか実行を許可しないことを示す。回数を指定した場合は、指定回数まで実行を許可する。デフォルトは FOREVER。

SCRIPT トリガー起動時に実行するスクリプトファイルを指定する。SCRIPT パラメーターは、1 コマンドラインに複数個指定できる。また、トリガー作成後にも、ADD TRIGGER コマンドで追加可能。スクリプトの実行は記述順。1 つのトリガーに関連付けられるスクリプトは最高 5 個。

STATE トリガーの有効・無効。省略時のデフォルト値は ENABLED。無効状態のトリガーは自動的に起動されないが、ACTIVATE TRIGGER コマンドを使えば手動で起動できる。

TEST トリガーをテストモードにするかどうか。テストモードのトリガーは起動されても、SCRIPT パラメーターで指定したスクリプトを実行せず、ログにトリガーの起動を記録するだけ。ただし、ACTIVATE TRIGGER コマンドで手動起動された場合は、テストモードであってもスクリプトが実行される。デフォルトは NO。

例

- システムクラッシュ後に crash.scf を実行して管理者にメールを送る再起動トリガー「1」を作成

```
CREATE TRIGGER=1 REBOOT=CRASH SCRIPT=crash.scf
```

関連コマンド

ACTIVATE TRIGGER (100 ページ)

ADD TRIGGER (117 ページ)

DESTROY TRIGGER (170 ページ)

DISABLE TRIGGER (188 ページ)

ENABLE TRIGGER (213 ページ)

SET TRIGGER REBOOT (282 ページ)

SHOW TRIGGER (364 ページ)

CREATE TRIGGER TIME

カテゴリー：運用・管理 / トリガー

```
CREATE TRIGGER=trigger-id TIME=time [{DATE=date|DAYS=day-list}]
[SCRIPT=filename...] [NAME=string] [REPEAT={YES|NO|ONCE|FOREVER|count}]
[STATE={ENABLED|DISABLED}] [TEST={YES|NO|ON|OFF}]
```

trigger-id: トリガー番号 (1~100)

time: 時刻 (hh:mm の形式。hh は時 (0~23)、mm は分 (0~59))

date: 日付 (dd-mmm-yyyy の形式。dd は日 (1~31)、mmm は月 (英語月名の頭3文字。例: APR)、yyyy は西暦年)

day-list: 曜日リスト (MON、TUE、WED、THU、FRI、SAT、SUN、WEEKDAY、WEEKEND、ALL の組み合わせ。複数指定時はカンマで区切る)

filename: ファイル名 (拡張子は.scp か.cfg)

string: 文字列 (1~40 文字。空白を含む場合はダブルクォートで囲む)

count: 回数 (1~4294967294)

解説

定時トリガーを作成する。

定時トリガーは指定した時刻に起動される。トリガーから実行されるスクリプトには、特殊な引数として、%D (日付)、%T (時刻)、%N (システム名)、%S (シリアル番号) が渡される。

パラメーター

TRIGGER トリガー番号

TIME トリガーの起動時刻を指定する。分まで指定できるが、前後約 5 秒の誤差がある。一般的には指定時刻の 5 秒後に起動されることが多い。

DATE 一年のうちトリガーが有効な日を一日だけに制限するパラメーター。DAYS と同時には指定できない。

DAYS 一週間のうちトリガーが有効な日を制限するパラメーター。カンマ区切りで複数曜日を指定可能。WEEKDAY は MON,TUE,WED,THU,FRI と同義。また、WEEKEND は SAT,SUN と同義。ALL はすべての曜日。デフォルトは ALL。DATE と同時には指定できない。

SCRIPT トリガー起動時に実行するスクリプトファイルを指定する。SCRIPT パラメーターは、1 コマンドラインに複数個指定できる。また、トリガー作成後にも、ADD TRIGGER コマンドで追加可能。スクリプトの実行は記述順。1 つのトリガーに関連付けられるスクリプトは最高 5 個。

NAME トリガー名。SHOW TRIGGER コマンドで表示されるもので、メモとして使う。

REPEAT トリガーを一度だけ実行するか、それとも、何度でも繰り返し実行するかを指定する。繰り返しを許す場合は、繰り返しの限度も指定できる。YES と FOREVER は同義で、実行回数に制限を設けないことを示す。NO と ONCE は同義で、一回だけしか実行を許可しないことを示す。回数を指定した場合は、指定回数まで実行を許可する。デフォルトは FOREVER。

STATE トリガーの有効・無効。省略時のデフォルト値は ENABLED。無効状態のトリガーは自動的に起動されないが、ACTIVATE TRIGGER コマンドを使えば手動で起動できる。

TEST トリガーをテストモードにするかどうか。テストモードのトリガーは起動されても、SCRIPT パラメーターで指定したスクリプトを実行せず、ログにトリガーの起動を記録するだけ。ただし、ACTIVATE TRIGGER コマンドで手動起動された場合は、テストモードであってもスクリプトが実行される。デフォルトは NO。

例

- 毎日夜 11 時に pppon.scip を実行して PPP コネクションを開く定時トリガー「1」を作成

```
CREATE TRIGGER=1 TIME=23:00 SCRIPT=pppon.scip
```

関連コマンド

ACTIVATE TRIGGER (100 ページ)

ADD TRIGGER (117 ページ)

DESTROY TRIGGER (170 ページ)

DISABLE TRIGGER (188 ページ)

ENABLE TRIGGER (213 ページ)

SET TRIGGER TIME (284 ページ)

SHOW TRIGGER (364 ページ)

DEACTIVATE SCRIPT

カテゴリー：運用・管理 / スクリプト

DEACTIVATE SCRIPT=*filename*

filename: ファイル名（拡張子は.scp か.cfg）

解説

実行中のスクリプトを停止させる。

パラメーター

SCRIPT スクリプトファイル名

例

- 実行中のスクリプト「runrun.scp」を停止させる。

```
DEACTIVATE SCRIPT=runrun.scp
```

関連コマンド

ACTIVATE SCRIPT (99 ページ)

ADD SCRIPT (112 ページ)

DELETE SCRIPT (161 ページ)

SET SCRIPT (257 ページ)

SHOW SCRIPT (339 ページ)

DELETE ALIAS

カテゴリー：運用・管理 / コマンドプロセッサ

DELETE ALIAS=*alias*

alias: エイリアス名（1～132 文字。大文字小文字を区別しない。空白を含む場合はダブルクォートで囲む）

解説

コマンドの別名（エイリアス）を削除する。

パラメーター

ALIAS エイリアス名

例

■エイリアス「ls」を削除する。

```
DELETE ALIAS=ls
```

関連コマンド

ADD ALIAS（101 ページ）

SHOW ALIAS（289 ページ）

DELETE FFILE

カテゴリー：運用・管理 / 記憶装置とファイルシステム

DELETE FFILE=filename

filename: ファイル名（ワイルドカード指定可能）

解説

フラッシュファイルシステム上のファイルを削除する。

パラメーター

FFILE ファイル名を指定する。ワイルドカード（*）も指定可能。長い名前（16.3 形式）は認識しないので、短い名前（8.3 形式）で指定すること。

関連コマンド

CREATE FFILE（125 ページ）

SHOW FFILE（299 ページ）

DELETE FILE

カテゴリー：運用・管理 / 記憶装置とファイルシステム

DELETE FILE=*filename*

filename: ファイル名（ワイルドカード指定可能）

解説

ファイルを削除する。

パラメーター

FILE ファイル名。ワイルドカード（*）も指定可能

例

■ noneed.cfg を削除する。

```
DELETE FILE=noneed.cfg
```

■ 拡張子が.txt のファイルをすべて削除する。

```
DELETE FILE=*.txt
```

関連コマンド

RENAME (232 ページ)

SHOW FILE (301 ページ)

DELETE INSTALL

カテゴリー：運用・管理 / ソフトウェア

DELETE INSTALL=**{TEMPORARY|PREFERRED|DEFAULT}**

解説

インストール（ファームウェア構成）情報を削除する。

「インストール」には、起動時にロードすべきファームウェアの情報、具体的にはリリースファイルとパッチファイル（オプション）の組み合わせが記録されている。インストールには、TEMPORARY（一度しか使用されないテスト用インストール）、PREFERRED（通常使用するインストール）、DEFAULT（緊急時に使用するインストール。EPROM 上のファームウェアから起動する）がある。

パラメーター

INSTALL 削除するインストールの種類を指定する。DEFAULT インストールの場合は、パッチファイルの情報のみが削除される。

関連コマンド

SET INSTALL (241 ページ)

SHOW INSTALL (311 ページ)

DELETE LOG OUTPUT

カテゴリー：運用・管理 / ログ

DELETE LOG OUTPUT={**TEMPORARY**|*output-id*} **FILTER**={**ALL**|*entry-id*}

output-id: ログ出力 ID (1~20)

entry-id: エントリー番号 (1~)

解説

ログ出力先の定義からメッセージフィルターエントリーを削除する。

パラメーター

OUTPUT ログ出力先 ID。1~20 の任意の番号か、特殊なキーワード「TEMPORARY」(RAM) を指定する。

FILTER メッセージフィルターのエントリー番号。ALL を指定した場合は、指定したログ出力定義からすべてのフィルターエントリーが削除される。

例

- ログ出力先定義「1」から、メッセージフィルターエントリー「2」を削除する。

```
DELETE LOG OUTPUT=1 FILTER=2
```

- ログ出力先定義「2」から、すべてのフィルターエントリーを削除する。

```
DELETE LOG OUTPUT=2 FILTER=ALL
```

関連コマンド

ADD LOG OUTPUT (105 ページ)

SHOW LOG OUTPUT (321 ページ)

DELETE LOG RECEIVE

カテゴリー：運用・管理 / ログ

DELETE LOG RECEIVE={*ipadd*|**ANY**}

ipadd: IP アドレス

解説

ログ受信テーブルからエントリーを削除する。

パラメーター

RECEIVE 削除するホストまたはネットワークの IP アドレスを指定する。ANY と 0.0.0.0 はすべての IP アドレスに対するエントリーを示す。

例

■ IP アドレス 192.168.1.1 の機器からのログメッセージ受信を停止する。

DELETE LOG RECEIVE=192.168.1.1

関連コマンド

ADD LOG RECEIVE (107 ページ)

SET LOG RECEIVE (248 ページ)

SHOW LOG RECEIVE (326 ページ)

DELETE MAIL

カテゴリー：運用・管理 / メール送信

DELETE MAIL=message-id

message-id: メッセージ番号 (16 進数。0 ~ ffff)

解説

メール送信キュー内のメールを削除する。

パラメーター

MAIL メッセージ番号。SHOW MAIL コマンドで確認可能。

例

- メール送信キューから 8c3f 番のメールを削除する。

DELETE MAIL=8c3f

関連コマンド

MAIL (224 ページ)

SET MAIL (251 ページ)

SHOW MAIL (330 ページ)

DELETE NTP PEER

カテゴリー：運用・管理 / NTP

DELETE NTP PEER=*ipadd*

ipadd: IP アドレス

解説

NTP サーバーの IP アドレスを削除する。

パラメーター

PEER NTP サーバーの IP アドレス

関連コマンド

ADD NTP PEER (109 ページ)

DELETE RADIUS SERVER

カテゴリー：運用・管理 / 認証サーバー

DELETE RADIUS SERVER=*ipadd*

ipadd: IP アドレス

解説

認証サーバーリストから RADIUS (Remote Authentication Dial In User Server) サーバーを削除する。

パラメーター

SERVER RADIUS サーバーの IP アドレス

例

■ 認証サーバーリストから RADIUS サーバー 192.168.10.5 を削除する。

DELETE RADIUS SERVER=192.168.10.5

関連コマンド

ADD RADIUS SERVER (110 ページ)

SHOW RADIUS (336 ページ)

DELETE SCRIPT

カテゴリー：運用・管理 / スクリプト

DELETE SCRIPT=filename [LINE=line-num]

filename: ファイル名（拡張子は.scp か.cfg）

line-num: 行番号（1～）

解説

スクリプトファイルから指定行を削除する。あるいは、スクリプトファイルそのものを削除する。
LINE を指定したときは指定行のみ、ファイル名しか指定しなかったときはファイルそのものが削除される。

パラメーター

SCRIPT スクリプトファイル名

LINE 削除する行の行番号。指定時は指定行のみが削除される。省略時はファイルそのものが削除される。

例

■ basic.cfg の 5 行目を削除する。

```
DELETE SCRIPT=basic.cfg LINE=5
```

■ advanced.cfg を削除する。

```
DELETE SCRIPT=advanced.cfg
```

関連コマンド

ACTIVATE SCRIPT (99 ページ)

ADD SCRIPT (112 ページ)

DEACTIVATE SCRIPT (151 ページ)

DELETE FILE (154 ページ)

SET SCRIPT (257 ページ)

SHOW SCRIPT (339 ページ)

DELETE SNMP COMMUNITY

カテゴリー：運用・管理 / SNMP

```
DELETE SNMP COMMUNITY=community [MANAGER=ipadd] [TRAPHOST=ipadd]  
[V1TRAPHOST=ipadd] [V2CTRAPHOST=ipadd]
```

community: SNMP コミュニティー名 (1～15 文字。大文字小文字を区別する)

ipadd: IP アドレス

解説

SNMP コミュニティーから管理ステーション、トラップホストを削除する。

パラメーター

COMMUNITY SNMP コミュニティー名

MANAGER SNMP オペレーションを許可する管理ステーションを指定する。本製品は、MANAGER に登録されていないホストからの SNMP 要求には応答しない。ただし、SNMP コミュニティーの OPEN パラメーターが YES の場合は、MANAGER パラメーターの設定にかかわらず、すべての SNMP 要求に応答する。

TRAPHOST SNMPv1 トラップの送信先ホスト

V1TRAPHOST SNMPv1 トラップの送信先ホスト。TRAPHOST パラメーターと同じ。

V2CTRAPHOST SNMPv2c トラップの送信先ホスト

関連コマンド

ADD SNMP COMMUNITY (113 ページ)

CREATE SNMP COMMUNITY (133 ページ)

DESTROY SNMP COMMUNITY (169 ページ)

DISABLE SNMP COMMUNITY (182 ページ)

ENABLE SNMP COMMUNITY (207 ページ)

SET SNMP COMMUNITY (259 ページ)

SHOW SNMP COMMUNITY (345 ページ)

DELETE SSH USER

カテゴリー：運用・管理 / Secure Shell

DELETE SSH USER=*username*

username: ユーザー名 (1～15 文字。英数字。空白不可)

解説

SSH ユーザーを削除する。

パラメーター

USER SSH ユーザー名

関連コマンド

ADD SSH USER (115 ページ)

SET SSH USER (263 ページ)

SHOW SSH USER (356 ページ)

DELETE TRIGGER

カテゴリー：運用・管理 / トリガー

DELETE TRIGGER=trigger-id NUMBER=index

index: スクリプト番号 (1~5)

trigger-id: トリガー番号 (1~100)

解説

トリガーからスクリプトを削除する。

パラメーター

TRIGGER トリガー番号

NUMBER スクリプト番号。

関連コマンド

ADD TRIGGER (117 ページ)

CREATE TRIGGER CPU (135 ページ)

CREATE TRIGGER FIREWALL (137 ページ)

CREATE TRIGGER INTERFACE (139 ページ)

CREATE TRIGGER MEMORY (141 ページ)

CREATE TRIGGER MODULE (143 ページ)

CREATE TRIGGER PERIODIC (145 ページ)

CREATE TRIGGER REBOOT (147 ページ)

CREATE TRIGGER TIME (149 ページ)

DESTROY TRIGGER (170 ページ)

SET TRIGGER CPU (270 ページ)

SET TRIGGER FIREWALL (272 ページ)

SET TRIGGER INTERFACE (274 ページ)

SET TRIGGER MEMORY (276 ページ)

SET TRIGGER MODULE (278 ページ)

SET TRIGGER PERIODIC (280 ページ)

SET TRIGGER REBOOT (282 ページ)

SET TRIGGER TIME (284 ページ)

SHOW TRIGGER (364 ページ)

DELETE USER

カテゴリー：運用・管理 / ユーザー認証データベース

DELETE USER=*login-name*

login-name: ログイン名 (1~64 文字。英数字のみ使用可能。大文字小文字を区別しない。空白不可)

解説

ユーザー認証データベースからユーザーを削除する。

パラメーター

USER 削除するユーザーのログイン名を指定する。

例

■ユーザー fly を削除する。

```
DELETE USER=fly
```

関連コマンド

ADD USER (119 ページ)

DISABLE USER (189 ページ)

ENABLE USER (214 ページ)

PURGE USER (230 ページ)

RESET USER (236 ページ)

SET USER (287 ページ)

SHOW USER (372 ページ)

DELETE USER RSO

カテゴリー：運用・管理 / セキュリティー

DELETE USER RSO IP=*ipadd*

ipadd: IP アドレス

解説

セキュリティーモード時に Security Officer 権限で Telnet ログインできるホストの IP アドレス (RSO アドレス。RSO=Remote Security Officer) を削除する。

セキュリティーモードで動作中は、RSO として登録されたアドレス範囲外からは Security Officer 権限での Telnet ログインができない。

パラメーター

IP RSO アドレスのベースアドレス

関連コマンド

ADD USER RSO (121 ページ)

DISABLE USER RSO (190 ページ)

ENABLE USER RSO (215 ページ)

SHOW USER RSO (376 ページ)

DESTROY LOG OUTPUT

カテゴリー：運用・管理 / ログ

DESTROY LOG OUTPUT=**{TEMPORARY|*output-id*}**

output-id: ログ出力 ID (1 ~ 20)

解説

ログの出力先定義を削除する。

パラメーター

OUTPUT ログ出力先 ID。1 ~ 20 の任意の番号か、特殊なキーワード「TEMPORARY」(RAM) を指定する。

例

- ログ出力先定義「1」を削除する。

DESTROY LOG OUTPUT=1

関連コマンド

CREATE LOG OUTPUT (130 ページ)

SHOW LOG OUTPUT (321 ページ)

DESTROY PATCH

カテゴリー：運用・管理 / ソフトウェア

DESTROY PATCH=*filename*

filename: ファイル名

解説

指定したパッチファイルを削除する。

パラメーター

PATCH パッチファイル名

関連コマンド

DELETE FILE (154 ページ)

LOAD (220 ページ)

SHOW PATCH (335 ページ)

DESTROY SNMP COMMUNITY

カテゴリー：運用・管理 / SNMP

DESTROY SNMP COMMUNITY=community

community: SNMP コミュニティー名 (1～15 文字。大文字小文字を区別する)

解説

SNMP コミュニティーを削除する。

パラメーター

COMMUNITY SNMP コミュニティー名

関連コマンド

ADD SNMP COMMUNITY (113 ページ)

CREATE SNMP COMMUNITY (133 ページ)

DISABLE SNMP COMMUNITY (182 ページ)

ENABLE SNMP COMMUNITY (207 ページ)

SET SNMP COMMUNITY (259 ページ)

SHOW SNMP COMMUNITY (345 ページ)

DESTROY TRIGGER

カテゴリー：運用・管理 / トリガー

DESTROY TRIGGER=trigger-id

trigger-id: トリガー番号 (1~100)

解説

トリガーを削除する。

パラメーター

TRIGGER トリガー番号

関連コマンド

ADD TRIGGER (117 ページ)
CREATE TRIGGER CPU (135 ページ)
CREATE TRIGGER FIREWALL (137 ページ)
CREATE TRIGGER INTERFACE (139 ページ)
CREATE TRIGGER MEMORY (141 ページ)
CREATE TRIGGER MODULE (143 ページ)
CREATE TRIGGER PERIODIC (145 ページ)
CREATE TRIGGER REBOOT (147 ページ)
CREATE TRIGGER TIME (149 ページ)
DELETE TRIGGER (164 ページ)
DISABLE TRIGGER (188 ページ)
ENABLE TRIGGER (213 ページ)
PURGE TRIGGER (229 ページ)
SHOW TRIGGER (364 ページ)

DISABLE FEATURE

カテゴリー：運用・管理 / ソフトウェア

DISABLE FEATURE=**{*featurename*|*index*}**

featurename: フィーチャー名 (1~12 文字)

index: フィーチャー番号 (1~)

解説

フィーチャーライセンスを無効にする。

パラメーター

FEATURE フィーチャー名または SHOW FEATURE コマンドで表示されるフィーチャー番号

関連コマンド

ENABLE FEATURE (196 ページ)

SHOW FEATURE (297 ページ)

DISABLE HTTP SERVER

カテゴリー：運用・管理 / システム

DISABLE HTTP SERVER

解説

HTTP サーバー（サポート対象外）を無効にする。

本製品はデフォルトで HTTP サーバー（サポート対象外）が有効になっているため、IP 有効時は TCP ポート 80 番がオープンしている。セキュリティを重視する場合は、本コマンドを実行して、HTTP サーバーを無効にすること。

関連コマンド

ENABLE HTTP SERVER (197 ページ)

SHOW HTTP SERVER (309 ページ)

DISABLE LOG

カテゴリー：運用・管理 / ログ

DISABLE LOG

解説

ログ機能を無効にする。デフォルトは有効。

関連コマンド

DISABLE LOG GENERATION (174 ページ)

DISABLE LOG OUTPUT (175 ページ)

DISABLE LOG RECEPTION (176 ページ)

ENABLE LOG (198 ページ)

DISABLE LOG GENERATION

カテゴリー：運用・管理 / ログ

DISABLE LOG GENERATION

解説

ログの生成を無効にする。

他のルーターからのログメッセージ受信や受信したメッセージの処理には影響しない。デフォルトは有効。

関連コマンド

DISABLE LOG (173 ページ)

DISABLE LOG OUTPUT (175 ページ)

DISABLE LOG RECEPTION (176 ページ)

ENABLE LOG GENERATION (199 ページ)

DISABLE LOG OUTPUT

カテゴリー：運用・管理 / ログ

DISABLE LOG OUTPUT [= {TEMPORARY | *output-id*}]

output-id: ログ出力 ID (1 ~ 20)

解説

指定した出力先へのログ出力を一時的に無効にする。

パラメーター

OUTPUT 無効にするログ出力先定義を指定する。指定しなかったときは、TEMPORARY を除くすべてのログ出力が無効になる。

関連コマンド

DISABLE LOG (173 ページ)

DISABLE LOG GENERATION (174 ページ)

DISABLE LOG RECEPTION (176 ページ)

ENABLE LOG OUTPUT (200 ページ)

DISABLE LOG RECEPTION

カテゴリー：運用・管理 / ログ

DISABLE LOG RECEPTION

解説

ログの受信機能（syslog、SRLP、Net Manage Message Protocol）を無効にする。
システム内でのログ生成と処理には影響しない。デフォルトは有効。

関連コマンド

DISABLE LOG（173 ページ）

DISABLE LOG GENERATION（174 ページ）

DISABLE LOG OUTPUT（175 ページ）

ENABLE LOG RECEPTION（201 ページ）

DISABLE MAIL DEBUG

カテゴリー：運用・管理 / メール送信

DISABLE MAIL DEBUG

解説

メール送信機能のデバッグを停止する。

関連コマンド

ENABLE MAIL DEBUG (202 ページ)

SHOW MAIL (330 ページ)

DISABLE NTP

カテゴリー：運用・管理 / NTP

DISABLE NTP

解説

NTP モジュールを無効にする。デフォルトは無効。

関連コマンド

ENABLE NTP (203 ページ)

PURGE NTP (228 ページ)

RESET NTP (235 ページ)

DISABLE RELEASE

カテゴリー：運用・管理 / ソフトウェア

DISABLE RELEASE=*filename*

filename: ファイル名

解説

指定したリリースファイルに関するライセンスを削除する。

パラメーター

RELEASE リリースファイル名

関連コマンド

ENABLE RELEASE (204 ページ)

SHOW RELEASE (338 ページ)

DISABLE SNMP

カテゴリー：運用・管理 / SNMP

DISABLE SNMP

解説

SNMP モジュールを無効にする。デフォルトは無効。

関連コマンド

DISABLE SNMP COMMUNITY (182 ページ)

ENABLE SNMP (205 ページ)

ENABLE SNMP COMMUNITY (207 ページ)

SHOW SNMP (342 ページ)

SHOW SNMP COMMUNITY (345 ページ)

DISABLE SNMP AUTHENTICATE_TRAP

カテゴリー：運用・管理 / SNMP

DISABLE SNMP AUTHENTICATE_TRAP

解説

SNMP 認証トラップの生成を無効にする。デフォルトは無効。

関連コマンド

DISABLE SNMP (180 ページ)

ENABLE SNMP (205 ページ)

ENABLE SNMP AUTHENTICATE_TRAP (206 ページ)

SHOW SNMP (342 ページ)

DISABLE SNMP COMMUNITY

カテゴリー：運用・管理 / SNMP

DISABLE SNMP COMMUNITY=community

community: SNMP コミュニティー名（1～15 文字。大文字小文字を区別する）

解説

指定した SNMP コミュニティーを一時的に無効にする。

パラメーター

COMMUNITY SNMP コミュニティー名

関連コマンド

DISABLE SNMP（180 ページ）

ENABLE SNMP（205 ページ）

ENABLE SNMP COMMUNITY（207 ページ）

SHOW SNMP（342 ページ）

SHOW SNMP COMMUNITY（345 ページ）

DISABLE SNMP COMMUNITY TRAP

カテゴリー：運用・管理 / SNMP

DISABLE SNMP COMMUNITY=*community* TRAP

community: SNMP コミュニティー名（1～15 文字。大文字小文字を区別する）

解説

指定した SNMP コミュニティーにおけるトラップの生成を無効にする。デフォルトは無効。

パラメーター

COMMUNITY SNMP コミュニティー名

例

■ コミュニティー「public」におけるトラップの生成を無効にする。

DISABLE SNMP COMMUNITY=public TRAP

関連コマンド

ENABLE SNMP COMMUNITY TRAP（208 ページ）

DISABLE SSH SERVER

カテゴリー：運用・管理 / Secure Shell

DISABLE SSH SERVER

解説

SSH サーバー機能を無効にする。デフォルトは無効。

関連コマンド

ENABLE SSH SERVER (209 ページ)

SET SSH SERVER (262 ページ)

SHOW SSH (347 ページ)

DISABLE SSH USER

カテゴリー：運用・管理 / Secure Shell

DISABLE SSH USER=*username*

username: ユーザー名 (1～15 文字。英数字。空白不可)

解説

指定した SSH ユーザーを一時的に無効にする。

ADD SSH USER コマンドによる追加直後は有効になっている。ただし、5 回連続してログインに失敗すると自動的に無効状態になる。その場合は、ENABLE SSH USER コマンドで再度有効化するまで、該当ユーザーは SSH によるログインができない。

パラメーター

USER SSH ユーザー名

関連コマンド

ADD SSH USER (115 ページ)

DELETE SSH USER (163 ページ)

ENABLE SSH USER (210 ページ)

SET SSH USER (263 ページ)

SHOW SSH USER (356 ページ)

DISABLE SYSTEM SECURITY_MODE

カテゴリー：運用・管理 / セキュリティー

DISABLE SYSTEM SECURITY_MODE

解説

システムの動作モードをセキュリティーモードからノーマルモードに変更する。
セキュリティーモードでのみ保存可能なファイル（暗号鍵ファイルなど）は、本コマンド実行により削除される。

関連コマンド

ADD USER (119 ページ)

ENABLE SYSTEM SECURITY_MODE (211 ページ)

SET USER (287 ページ)

SHOW SYSTEM (359 ページ)

SHOW USER (372 ページ)

DISABLE TELNET SERVER

カテゴリー：運用・管理 / ターミナルサービス

DISABLE TELNET SERVER

解説

Telnet サーバー機能を無効にする。デフォルトは有効。

関連コマンド

ENABLE TELNET SERVER (212 ページ)

SHOW TELNET (362 ページ)

DISABLE TRIGGER

カテゴリー：運用・管理 / トリガー

DISABLE TRIGGER [=trigger-id]

trigger-id: トリガー番号 (1~100)

解説

トリガー機能を無効にする。あるいは、指定したトリガーを一時的に無効にする。
デフォルトでは、トリガー機能は無効。作成直後のトリガーは、STATE=DISABLED を指定しない限り有効。

パラメーター

TRIGGER トリガー番号。省略時はトリガー機能全体が無効になる。

関連コマンド

ACTIVATE TRIGGER (100 ページ)

DELETE TRIGGER (164 ページ)

DESTROY TRIGGER (170 ページ)

ENABLE TRIGGER (213 ページ)

PURGE TRIGGER (229 ページ)

SHOW TRIGGER (364 ページ)

DISABLE USER

カテゴリー：運用・管理 / ユーザー認証データベース

DISABLE USER=*login-name*

login-name: ログイン名 (1~64 文字。英数字のみ使用可能。大文字小文字を区別しない。空白不可)

解説

指定したユーザーアカウントを一時的に無効にする。

パラメーター

USER ログイン名

関連コマンド

ADD USER (119 ページ)

DELETE USER (165 ページ)

ENABLE USER (214 ページ)

PURGE USER (230 ページ)

RESET USER (236 ページ)

SET USER (287 ページ)

SHOW USER (372 ページ)

DISABLE USER RSO

カテゴリー：運用・管理 / セキュリティー

DISABLE USER RSO

解説

セキュリティーモードにおいて Security Officer ユーザーの Telnet ログインを禁止する。デフォルトは禁止。
本コマンドの実行時に Telnet ログインしていた Security Officer レベルのユーザーは、直ちに Security Officer の権限を失う。

関連コマンド

ADD USER RSO (121 ページ)

DELETE USER RSO (166 ページ)

ENABLE USER RSO (215 ページ)

SHOW USER RSO (376 ページ)

DISCONNECT

カテゴリー：運用・管理 / ターミナルサービス

DISCONNECT 1..5

解説

端末セッションを終了させる。

本コマンドは「D」と省略できる。セッション番号はSHOW SESSIONS コマンドで確認する。

例

- 端末セッション 2 を終了する。

```
DISCONNECT 2
```

関連コマンド

CONNECT

CONNECT PORT

RECONNECT (231 ページ)

SHOW SERVICE

SHOW SESSIONS (341 ページ)

TELNET (380 ページ)

DUMP

カテゴリー：運用・管理 / 記憶装置とファイルシステム

DUMP [ADDRESS=*address*] [LENGTH=*length*] [SIZE={BYTE|WORD|LONG}]
[SPACE={SD|SP|UD|UP|UR}]

address: メモリーアドレス (16 進数)

length: バイト長 (16 進数)

解説

メモリーの内容を 16 進ダンプする。

パラメーター

ADDRESS ダンプ開始アドレス。省略時は前回ダンプした範囲の次のアドレスとなる。また、キーワード ADDRESS だけを指定した場合は、前回と同じアドレスが対象となる。

LENGTH ダンプするバイト数。16 進数で指定する。省略時は前回と同じ値が使用される。

SIZE データを何バイトずつまとめて表示するか。BYTE、WORD、LONG から選択する。省略時は前回と同じ値が使用される。なお、SIZE パラメーターは表示方法を指定するだけであり、ダンプするデータの量を指定する LENGTH パラメーターとは関係がない。LENGTH パラメーターは、SIZE パラメーターの指定にかかわらず、つねにバイト単位で指定する。

SPACE ダンプ対象の CPU アドレス空間。UD(User Data)、UP(User Program)、UR(User Reserved)、SD (Supervisor Data)、SP (Supervisor Program) から選択する。

入力・出力・画面例

```
Manager > dump address=0 length=80 size=long
00000000  00021ee4 55551111 55551111 55551111      ....UU..UU..UU..
00000010  55551111 55551111 55551111 55551111      UU..UU..UU..UU..
00000020  55551111 55551111 55551111 55551111      UU..UU..UU..UU..
00000030  55551111 55551111 55551111 55551111      UU..UU..UU..UU..
00000040  55551111 55551111 55551111 55551111      UU..UU..UU..UU..
00000050  55551111 55551111 55551111 55551111      UU..UU..UU..UU..
00000060  55551111 55551111 55551111 55551111      UU..UU..UU..UU..
00000070  55551111 55551111 55551111 55551111      UU..UU..UU..UU..
```

例

- FF00 番地から 256 バイトをワード単位でダンプする

DUMP ADDRESS=FF00 LENGTH=FF SIZE=WORD

備考・注意事項

本コマンドは、トラブルシューティング時など、内部情報の確認が必要な場合を想定したものですので、ご使用に際しては弊社技術担当にご相談ください。

関連コマンド

MODIFY (226 ページ)

EDIT

カテゴリー：運用・管理 / システム

EDIT [*filename*]

filename: ファイル名

解説

内蔵フルスクリーンエディターを起動する。

変更内容を破棄して終了は Ctrl/C、保存して終了は Ctrl/K, Ctrl/X。詳細なキーバインドは別表を参照のこと。

凡例	
Ctrl/	「Ctrl」キーを押しながら キーを押す。たとえば「Ctrl/E」は、「Ctrl」キーを押しながら「E」キーを押すことを意味する
Ctrl/ , Ctrl/○	「Ctrl/」, 「Ctrl/○」の順に押す。「Ctrl」キーは押したままでもかまわない。たとえば「Ctrl/K, Ctrl/X」は、「Ctrl/K」, 「Ctrl/X」の順に押すことを意味する
カーソル移動	
↑ または Ctrl/Z	1 行上に移動
↓ または Ctrl/X	1 行下に移動
→	1 文字右に移動
←	1 文字左に移動
Ctrl/B	ファイル先頭に移動
Ctrl/D	ファイルの末尾に移動 (Telnet ログイン時に Ctrl/D を押すとセッションが終了させられてしまうので注意)
Ctrl/A	行頭に移動
Ctrl/E	行末に移動
Ctrl/U	1 画面上に移動
Ctrl/V	1 画面下に移動
Ctrl/F	1 単語右に移動
削除	
Delete または Backspace	カーソルの左にある文字を削除
Ctrl/Y	現在行を削除
Ctrl/T	1 単語削除
ブロック編集	
Ctrl/K, Ctrl/B	ブロックマークを開始
Ctrl/K, Ctrl/D	ブロックマークを終了

Ctrl/K, Ctrl/U	ブロックをカット（切り取り）
Ctrl/K, Ctrl/C	ブロックをコピー
Ctrl/K, Ctrl/Y	ブロックを消去
Ctrl/K, Ctrl/V	カーソル位置にペースト（貼り付け）
検索	
Ctrl/K, Ctrl/F	検索
Ctrl/L	次を検索
保存・終了	
Ctrl/K, Ctrl/X	変更を保存して終了
Ctrl/C	変更を破棄して終了
入力モード切り替え	
Ctrl/I	挿入モード（デフォルト）
Ctrl/O	上書きモード
その他	
Ctrl/W	画面を再描画
Ctrl/K, Ctrl/H	エディターのオンラインヘルプを表示
Ctrl/K, Ctrl/O	ファイルを開く

表 26: Edit コマンドのキーバインド

例

- 設定スクリプトファイル BASIC.CFG を編集する。

```
EDIT BASIC.CFG
```

備考・注意事項

日本語 Windows 付属のハイパーターミナルでは矢印キーが使えない。

関連コマンド

DELETE FILE (154 ページ)

LOAD (220 ページ)

SHOW FILE (301 ページ)

ENABLE FEATURE

カテゴリー：運用・管理 / ソフトウェア

ENABLE FEATURE=featurename PASSWORD=password

featurename: フィーチャー名 (1～12 文字)

password: パスワード (16 進数。最小 16 文字)

解説

フィーチャーライセンスを有効にする。

パラメーター

FEATURE フィーチャー名

PASSWORD フィーチャーライセンスのパスワード

関連コマンド

DISABLE FEATURE (171 ページ)

SHOW FEATURE (297 ページ)

ENABLE HTTP SERVER

カテゴリー：運用・管理 / システム

備考：本機能はサポート対象外です

ENABLE HTTP SERVER

解説

HTTP サーバー（サポート対象外）を有効にする。

本製品はデフォルトで HTTP サーバー（サポート対象外）が有効になっているため、IP 有効時は TCP ポート 80 番がオープンしている。セキュリティを重視する場合は、DISABLE HTTP SERVER コマンドを実行して、HTTP サーバーを無効にすること。

関連コマンド

DISABLE HTTP SERVER (172 ページ)

SHOW HTTP SERVER (309 ページ)

ENABLE LOG

カテゴリー：運用・管理 / ログ

ENABLE LOG

解説

ログ機能を有効にする。デフォルトは有効。

関連コマンド

DISABLE LOG (173 ページ)

ENABLE LOG GENERATION (199 ページ)

ENABLE LOG OUTPUT (200 ページ)

ENABLE LOG RECEPTION (201 ページ)

ENABLE LOG GENERATION

カテゴリー：運用・管理 / ログ

ENABLE LOG GENERATION

解説

ログの生成を有効にする。デフォルトは有効。

関連コマンド

DISABLE LOG GENERATION (174 ページ)

ENABLE LOG (198 ページ)

ENABLE LOG OUTPUT (200 ページ)

ENABLE LOG RECEPTION (201 ページ)

ENABLE LOG OUTPUT

カテゴリー：運用・管理 / ログ

ENABLE LOG OUTPUT [= {TEMPORARY | *output-id*}]

output-id: ログ出力 ID (1 ~ 20)

解説

指定した出力先へのログ出力を再度有効にする。

パラメーター

OUTPUT 有効にするログ出力先定義を指定する。指定しなかったときは、TEMPORARY を除くすべてのログ出力が有効になる。

関連コマンド

DISABLE LOG OUTPUT (175 ページ)

ENABLE LOG (198 ページ)

ENABLE LOG GENERATION (199 ページ)

ENABLE LOG RECEPTION (201 ページ)

ENABLE LOG RECEPTION

カテゴリー：運用・管理 / ログ

ENABLE LOG RECEPTION

解説

ログの受信機能（syslog、SRLP、Net Manage Message Protocol）を有効にする。デフォルトは有効。

関連コマンド

DISABLE LOG RECEPTION (176 ページ)

ENABLE LOG (198 ページ)

ENABLE LOG GENERATION (199 ページ)

ENABLE LOG OUTPUT (200 ページ)

ENABLE MAIL DEBUG

カテゴリー：運用・管理 / メール送信

ENABLE MAIL DEBUG

解説

メール送信機能のデバッグを有効にする。

有効時には、メールの送信過程がコマンドを実行した端末に逐一表示される。デフォルトは無効。

備考・注意事項

本コマンドは、トラブルシューティング時など、内部情報の確認が必要な場合を想定したものですので、ご使用に際しては弊社技術担当にご相談ください。

関連コマンド

DISABLE MAIL DEBUG (177 ページ)

SHOW MAIL (330 ページ)

ENABLE NTP

カテゴリー：運用・管理 / NTP

ENABLE NTP

解説

NTP モジュールを有効にする。デフォルトは無効。

関連コマンド

DISABLE NTP (178 ページ)

PURGE NTP (228 ページ)

RESET NTP (235 ページ)

ENABLE RELEASE

カテゴリー：運用・管理 / ソフトウェア

ENABLE RELEASE=filename NUMBER=release-number [PASSWORD=password]

filename: ファイル名

release-number: リリース番号 (x.y の形式。x は major バージョン。y は 65536 × interim バージョン+minor バージョン)

password: パスワード (16 進数。大文字小文字を区別しない)

解説

ファームウェア (リリースファイル) を有効にする。

パラメーター

RELEASE ファームウェア (リリースファイル) 名。本製品のファームウェアは、54-rrr.rez または 54-rrr.rel の形式となる。rrr は major バージョン、minor バージョン、interim バージョンの数字をつなげたものを示す。

PASSWORD リリースライセンスパスワード。

NUMBER リリース番号。x.y の形式。x は major バージョン。y は 65536 × interim バージョン+minor バージョンで求められる。たとえば、バージョン 2.5.2 ならば、x=2、y=131077 (65536 × 2 + 5) で、NUMBER=2.131077 となる。

関連コマンド

DISABLE RELEASE (179 ページ)

SHOW RELEASE (338 ページ)

ENABLE SNMP

カテゴリー：運用・管理 / SNMP

ENABLE SNMP

解説

SNMP モジュールを有効にする。デフォルトは無効。

関連コマンド

DISABLE SNMP (180 ページ)

DISABLE SNMP COMMUNITY (182 ページ)

ENABLE SNMP COMMUNITY (207 ページ)

SHOW SNMP (342 ページ)

SHOW SNMP COMMUNITY (345 ページ)

ENABLE SNMP AUTHENTICATE_TRAP

カテゴリー：運用・管理 / SNMP

ENABLE SNMP AUTHENTICATE_TRAP

解説

SNMP 認証トラップの生成を有効にする。デフォルトは無効。

備考・注意事項

実際にトラップが送信されるようにするには、トラップ送信先ホストの設定（ADD SNMP COMMUNITY TRAPHOST=ipadd \）および、トラップの有効化（ENABLE SNMP COMMUNITY TRAP）が必要

関連コマンド

DISABLE SNMP（180 ページ）

DISABLE SNMP AUTHENTICATE_TRAP（181 ページ）

ENABLE SNMP（205 ページ）

SHOW SNMP（342 ページ）

ENABLE SNMP COMMUNITY

カテゴリー：運用・管理 / SNMP

ENABLE SNMP COMMUNITY=community

community: SNMP コミュニティー名（1～15 文字。大文字小文字を区別する）

解説

無効状態の SNMP コミュニティーを有効にする。

パラメーター

COMMUNITY SNMP コミュニティー名

関連コマンド

DISABLE SNMP（180 ページ）

DISABLE SNMP COMMUNITY（182 ページ）

ENABLE SNMP（205 ページ）

SHOW SNMP（342 ページ）

SHOW SNMP COMMUNITY（345 ページ）

ENABLE SNMP COMMUNITY TRAP

カテゴリー：運用・管理 / SNMP

ENABLE SNMP COMMUNITY=community TRAP

community: SNMP コミュニティ名（1～15 文字。大文字小文字を区別する）

解説

指定した SNMP コミュニティにおける SNMP トラップの生成を有効にする。デフォルトは無効。
トラップはコミュニティのトラップホスト（TRAPHOST）に送信される。

パラメーター

COMMUNITY SNMP コミュニティ名

例

- コミュニティ「public」でトラップの生成を有効にする。

```
ENABLE SNMP COMMUNITY=public TRAP
```

備考・注意事項

トラップホストを設定しても、本コマンドを実行しないとトラップが送信されないので注意が必要。
SNMP トラップの送信を有効にしている場合、RESTART コマンド実行時は、REBOOT オプション（ハードウェアリセット）、SWITCH オプション（ソフトウェアリセット）のどちらを指定した場合でも coldStart トラップが送信される。warmStart トラップは、RESET IP コマンドを実行したときに送信される。

関連コマンド

DISABLE SNMP COMMUNITY TRAP（183 ページ）

ENABLE INTERFACE LINKTRAP（「インターフェース」の 22 ページ）

ENABLE SSH SERVER

カテゴリー：運用・管理 / Secure Shell

ENABLE SSH SERVER HOSTKEY=*key-id* SERVERKEY=*key-id* [EXPIRYTIME=*hours*]
[LOGINTIMEOUT=*seconds*]

key-id: 鍵番号 (0 ~ 65535)

hours: 時間

seconds: 時間 (秒)

解説

SSH サーバー機能を有効にする。デフォルトは無効。

SSH サーバー起動時には、ホスト鍵 (Host Key) とサーバー鍵 (Server Key) という 2 つの RSA 公開鍵ペアを指定する必要がある。これらの鍵は CREATE ENCO KEY であらかじめ作成しておく。

パラメーター

HOSTKEY ホスト鍵の鍵番号を指定する。推奨鍵長は 1024 ビット。CREATE ENCO KEY コマンドで作成する (TYPE=RSA)。

SERVERKEY サーバー鍵の鍵番号を指定する。鍵長はホスト鍵より 128 ビット以上短く、なおかつ 512 ビット以上でなくてはならない。CREATE ENCO KEY コマンドで作成する (TYPE=RSA)。

EXPIRYTIME サーバー鍵の有効期間 (時間)。サーバー鍵は、有効期間が過ぎると自動的に更新 (再生成) される。0 は無期限 (自動更新しない) を示す。デフォルトは 0。

LOGINTIMEOUT ログインタイムアウト (秒)。接続確立後、ここで指定した時間内にログインしなかった場合はサーバー側からコネクションを切断する。デフォルトは 60 秒。

備考・注意事項

SSH サーバーを起動すると、ルーター内蔵 Telnet サーバーへのアクセスはできなくなる (TCP ポートが閉じられる)。

関連コマンド

DISABLE SSH SERVER (184 ページ)

SET SSH SERVER (262 ページ)

SHOW SSH (347 ページ)

ENABLE SSH USER

カテゴリー：運用・管理 / Secure Shell

ENABLE SSH USER=*username*

username: ユーザー名 (1~15 文字。英数字。空白不可)

解説

無効状態の SSH ユーザーを有効にする。

ADD SSH USER コマンドによる追加直後は有効になっている。ただし、5 回連続してログインに失敗すると自動的に無効状態になる。その場合は、本コマンドで再度有効化するまで、該当ユーザーは SSH によるログインができない。

パラメーター

USER SSH ユーザー名

関連コマンド

ADD SSH USER (115 ページ)

DELETE SSH USER (163 ページ)

DISABLE SSH USER (185 ページ)

SET SSH USER (263 ページ)

SHOW SSH USER (356 ページ)

ENABLE SYSTEM SECURITY_MODE

カテゴリー：運用・管理 / セキュリティー

ENABLE SYSTEM SECURITY_MODE

解説

動作モードをノーマルモードからセキュリティーモードに移行する。

セキュリティーモードでは多くのコマンドの実行に Security Officer 権限が必要となる。Security Officer レベルのユーザーが作成されていないと本コマンドは失敗する。

関連コマンド

ADD USER (119 ページ)

DISABLE SYSTEM SECURITY_MODE (186 ページ)

SET USER (287 ページ)

SHOW SYSTEM (359 ページ)

SHOW USER (372 ページ)

ENABLE TELNET SERVER

カテゴリー：運用・管理 / ターミナルサービス

ENABLE TELNET SERVER

解説

Telnet サーバー機能を有効にする。デフォルトは有効。

本製品の Telnet サーバーは、IPv6 が有効であれば IPv6 経由での接続も受け入れる。

関連コマンド

DISABLE TELNET SERVER (187 ページ)

SHOW TELNET (362 ページ)

ENABLE TRIGGER

カテゴリー：運用・管理 / トリガー

ENABLE TRIGGER [=trigger-id]

trigger-id: トリガー番号 (1~100)

解説

トリガー機能を有効にする。あるいは、指定したトリガーを有効にする。
デフォルトでは、トリガー機能は無効。作成直後のトリガーは、STATE=DISABLED を指定しない限り有効。

パラメーター

TRIGGER トリガー番号。省略時はトリガー機能全体が無効になる。

関連コマンド

ACTIVATE TRIGGER (100 ページ)
 CREATE TRIGGER CPU (135 ページ)
 CREATE TRIGGER FIREWALL (137 ページ)
 CREATE TRIGGER INTERFACE (139 ページ)
 CREATE TRIGGER MEMORY (141 ページ)
 CREATE TRIGGER MODULE (143 ページ)
 CREATE TRIGGER PERIODIC (145 ページ)
 CREATE TRIGGER REBOOT (147 ページ)
 CREATE TRIGGER TIME (149 ページ)
 DELETE TRIGGER (164 ページ)
 DESTROY TRIGGER (170 ページ)
 DISABLE TRIGGER (188 ページ)
 PURGE TRIGGER (229 ページ)
 SET TRIGGER CPU (270 ページ)
 SET TRIGGER FIREWALL (272 ページ)
 SET TRIGGER INTERFACE (274 ページ)
 SET TRIGGER MEMORY (276 ページ)
 SET TRIGGER MODULE (278 ページ)
 SET TRIGGER PERIODIC (280 ページ)
 SET TRIGGER REBOOT (282 ページ)
 SET TRIGGER TIME (284 ページ)
 SHOW TRIGGER (364 ページ)

ENABLE USER

カテゴリー：運用・管理 / ユーザー認証データベース

ENABLE USER=*login-name*

login-name: ログイン名 (1~64 文字。英数字のみ使用可能。大文字小文字を区別しない。空白不可)

解説

指定したユーザーアカウントを有効にする。

パラメーター

USER ログイン名

関連コマンド

ADD USER (119 ページ)
DELETE USER (165 ページ)
DISABLE USER (189 ページ)
PURGE USER (230 ページ)
RESET USER (236 ページ)
SET USER (287 ページ)
SHOW USER (372 ページ)

ENABLE USER RSO

カテゴリー：運用・管理 / セキュリティー

ENABLE USER RSO

解説

セキュリティーモードであっても、Security Officer レベルユーザーの Telnet ログインを許可する。
許可時は、セキュリティーモードにおいても、ADD USER RSO コマンドで指定した IP アドレスからに限り、Security Officer レベルのユーザーで Telnet ログインが可能。許可していない場合（デフォルト）セキュリティーモードでは Security Officer レベルのユーザーは Telnet ログインができない。

関連コマンド

ADD USER RSO (121 ページ)

DELETE USER RSO (166 ページ)

DISABLE USER RSO (190 ページ)

SHOW USER RSO (376 ページ)

FLUSH LOG OUTPUT

カテゴリー：運用・管理 / ログ

FLUSH LOG OUTPUT [= {TEMPORARY | *output-id*}]

output-id: ログ出力 ID (1 ~ 20)

解説

ログメッセージキューに格納されているメッセージをただちに処理させる。

パラメーター

OUTPUT ログ出力 ID を指定する。TEMPORARY を指定した場合は、メモリー上のログがすべて削除される。それ以外を指定した場合は、指定したログ出力 ID のメッセージがキューからフラッシュされる。無指定の場合は、すべてのメッセージがフラッシュされる。

関連コマンド

PURGE LOG (227 ページ)

HELP

カテゴリー：運用・管理 / システム

HELP [*topic*]

topic: ヘルプトピック

解説

オンラインヘルプを表示する。

使用するヘルプファイルは SET HELP コマンドで変更できる。また、現在使用しているヘルプファイルは SHOW SYSTEM コマンドで確認できる。

入力・出力・画面例

```
Manager > help

                AR450S オンラインヘルプ - V2.7 Rev.01 2005/06/20

This online help is written in Japanese (Shift-JIS).

ヘルプは次のトピックを説明しています。
入力は大文字の部分だけでかまいません ("HELP OPERATION" は "H O"と省略可)。

Help Operation      運用・管理
Help INterface      インターフェース
Help PPp            PPP
Help Vlan           VLAN
Help Bridge         ブリッジング
Help IP             IP
Help IPV6           IPv6
Help IPMulticast    IP マルチキャスト
Help Firewall       ファイアウォール
Help VRrp           VRRP
Help Dhcp           DHCP サーバー
Help L2tp           L2TP
Help IPSec          IPsec
Help PKi            PKI
Help Enco           暗号

Help Keybind        キーバインド
```

例

- オンラインヘルプのトップページを見る

HELP

■ オンラインヘルプの IP の項目を見る

HELP IP

関連コマンド

SET HELP (240 ページ)

SHOW SYSTEM (359 ページ)

IF THEN ELSE ENDIF

カテゴリー：運用・管理 / スクリプト

IF *string1* {EQ|NE} *string2* **THEN** *commands* [ELSE *commands*] **ENDIF**

string1: 比較対象文字列（1～255 文字）

string2: 比較対象文字列（1～255 文字）

commands: コマンド列

解説

2 つの文字列（*string1*、*string2*）の比較結果に基づき条件分岐を行うための制御構文。本構文は、スクリプト中でのみ使用可能。

演算子 EQ は 2 つの文字列が等しいときに真、NE は 2 つの文字列が等しくないときに真を返す。比較時は大文字小文字が区別されない。

条件式（*string1* {EQ|NE} *string2*）が真のときは THEN 節（THEN～ENDIF または THEN～ELSE）が実行され、その後 ENDIF の次から実行が継続される。

条件式が偽のときは、ELSE 節があれば ELSE 節（ELSE～ENDIF）が実行され、その後 ENDIF の次からスクリプトの実行が継続される。

条件式が偽で、なおかつ ELSE 節がないときは、ただちに ENDIF の次に飛ぶ。

備考・注意事項

スクリプト中でのみ使用可能。

関連コマンド

WAIT（385 ページ）

LOAD

カテゴリー：運用・管理 / アップロード・ダウンロード

```
LOAD [METHOD=TFTP] [SERVER={hostname|ipadd}] [FILE=filename]
      [DESTFILE=destfilename] [DESTINATION=FLASH] [DELAY=seconds]
```

```
LOAD [METHOD={HTTP|WEB|WWW}] [SERVER={hostname|ipadd}]
      [SERVPORT={1..65535|DEFAULT}] [FILE=filename] [DESTFILE=destfilename]
      [DESTINATION=FLASH] [HTTPPROXY={hostname|ipadd}] [PROXYPORT=1..65535]
      [USERNAME=username] [PASSWORD=password] [DELAY=seconds]
```

```
LOAD [METHOD=ZMODEM] [ASYN=asyn-number] [FILE=filename]
      [DESTINATION=FLASH] [DELAY=seconds]
```

hostname: ホスト名

ipadd: IP アドレス

filename: ファイル名 (1~100 文字)

destfilename: ファイル名 (16.3 形式)

seconds: 時間 (0~4294967295 秒)

password: パスワード (1~60 文字)

username: ユーザー名 (1~60 文字)

asyn-number: 非同期ポート番号 (0)

解説

ファイルをダウンロードする。TFTP、HTTP、ZMODEM の各プロトコル/サーバーが使用可能。
指定しなかったオプションについては、SET LOADER コマンドで設定したデフォルト値が使用される。

パラメーター

METHOD 転送プロトコル。TFTP、HTTP (WEB、WWW も同じ)、ZMODEM のいずれかを指定する。

SERVER TFTP/Web サーバーのフルドメイン名 (FQDN) または IP アドレス。METHOD に TFTP、HTTP (または WEB、WWW) を指定したときのみ有効。FQDN を指定するには、ADD IP DNS コマンドで DNS サーバーを設定しておく必要がある

SERVPORT Web サーバーの TCP ポート番号。METHOD に HTTP (または WEB、WWW) を指定したときのみ有効。デフォルトは 80

FILE ダウンロード対象ファイル名。サーバー上のフルパスで指定する

DESTFILE ダウンロード後のファイル名

DESTINATION ダウンロードしたファイルの保存先デバイス。本製品では FLASH (フラッシュメモリ) しか選択肢がないので指定する必要はない。デフォルトは FLASH。

HTTPPROXY HTTP プロキシのフルドメイン名 (FQDN) または IP アドレス。METHOD に HTTP (または WEB、WWW) を指定したときのみ有効。FQDN を指定するには、ADD IP DNS コマンド

で DNS サーバーを設定しておく必要がある

PROXYPORT HTTP プロキシの TCP ポート番号。METHOD に HTTP (または WEB、WWW) を指定したときのみ有効。HTTPPROXY を指定している場合のみ有効。省略時は 80

DELAY コマンド投入からダウンロード開始までの時間 (秒)

USERNAME HTTP Basic 認証用のユーザー名。METHOD に HTTP (または WEB、WWW) を指定したときのみ有効

PASSWORD HTTP Basic 認証用のパスワード。METHOD に HTTP (または WEB、WWW) を指定したときのみ有効

ASYN 非同期ポート番号。METHOD に ZMODEM を指定したときのみ有効

例

- TFTP サーバー 192.168.10.103 からファイル「basic.cfg」をダウンロードする。

```
LOAD METHOD=TFTP SERVER=192.168.10.103 FILE=basic.cfg
```

- Web サーバー「www.example.com」上のファイル「example-0001.cfg」を HTTP でダウンロードし、ex0001.cfg という名前で保存する。ダウンロード対象ファイルを一般的な URL で表記すると、「http://www.example.com/confdir/example-0001.cfg」になる。

```
ADD IP DNS PRIMARY=192.168.10.5
```

```
LOAD METHOD=HTTP SERVER=www.example.com FILE=/confdir/example-0001.cfg
  DESTFILE=ex0001.cfg
```

備考・注意事項

HTTP プロキシを利用する場合、HTTPPROXY と PROXYPORT は SET LOADER コマンドでデフォルト値として設定するのがよい。

関連コマンド

SET LOADER (242 ページ)

SHOW LOADER (313 ページ)

UPLOAD (383 ページ)

LOGIN

カテゴリー：運用・管理 / システム

LOGIN [*login-name*]

login-name: ログイン名 (1~64 文字。英数字のみ使用可能。大文字小文字を区別しない。空白不可)

解説

指定ユーザーの権限でログインしなおす。

login-name を指定したときは、いったんログアウトし、ログインプロンプト (login:) で *login-name* を入力した直後の状態になる (パスワード入力待ちになる)。ログイン名を指定しなかった場合は、ログインプロンプトに戻るだけで、事実上 LOGOFF コマンドと同じ。LOGON も同義

備考・注意事項

本コマンドを実行すると、現在のログインセッションがいったん終了させられることに注意。すなわち、Telnet 接続時に本コマンドを実行すると、Telnet セッション自体が切断されてしまう。

関連コマンド

LOGOFF (223 ページ)

LOGOFF

カテゴリー：運用・管理 / システム

LOGOFF

解説

ログインセッションからログアウトする。LOGOUT も同義

関連コマンド

LOGIN (222 ページ)

MAIL

カテゴリー：運用・管理 / メール送信

MAIL TO=*email-addr* {**FILE=***filename*|**MESSAGE=***string*} [**SUBJECT=***string*]
[**ETRN=***domain-name*]

email-addr: 電子メールアドレス

filename: ファイル名

domain-name: ドメイン名

string: 文字列 (1～131 文字)

解説

指定アドレスに電子メールを送る。

事前に SET MAIL コマンドで自ホスト名を設定しておく必要がある。

パラメーター

TO 宛先メールアドレス。user@domain.xxx の形式か user@[192.168.100.5] の形式で指定する。前者の場合は DNS サーバーの設定も必要 (ADD IP DNS コマンド)。後者の IP アドレスは宛先ドメインのメールエクスチェンジャー (MX)。

FILE テキストファイル名。メール本文として送信される。MESSAGE と同時に指定することはできない。

MESSAGE メール本文の文字列。FILE と同時に指定することはできない。

SUBJECT メールのタイトル

ETRN TO で指定したメールサーバーに対し、ETRN で指定したドメイン宛のメールをすべてキューから送出するよう要求する。

例

■ admin@mydomain.xxx にメールを送る。

```
MAIL TO=admin@mydomain.xxx SUBJECT="test" MESSAGE="This is a test."
```

備考・注意事項

user@domain.xxx の形式でアドレスを指定した場合は、DNS を使って宛先ドメイン (domain.xxx) の MX レコードを検索し、メールエクスチェンジャーに直接メールを送信する。そのため、宛先ドメインの MX レコードを引けない環境ではメールを送ることができない。ただし、その場合でもメールエクスチェンジャーの IP アドレスがわかっているならば、user@[ipaddress] の形式でアドレスを指定することにより送信可能。

関連コマンド

DELETE MAIL (158 ページ)

SET MAIL (251 ページ)

SHOW MAIL (330 ページ)

MODIFY

カテゴリー：運用・管理 / 記憶装置とファイルシステム

MODIFY ADDRESS=address SIZE={BYTE|LONG|WORD} VALUE={value-list|string}
 [SPACE={SD|SP|UD|UP|UR}]

address: メモリーアドレス (16 進数)

value-list: バイト列 (16 進数。指定単位ごとにカンマで区切る。最大 5 バイト)

string: 文字列 (ダブルクォートで囲む。1 ~ 12 文字)

解説

メモリーの内容を変更する。

パラメーター

ADDRESS ベースアドレス

SIZE 値の大きさ。BYTE、WORD、LONG から選択。

VALUE 変更後のデータ。SIZE で指定した単位ごとにカンマで区切った 16 進数列 (最大 5 バイト。例: VALUE=12,4ac,0,14e,65) か、ダブルクォートで囲んだ文字列 (最大 12 文字。例: VALUE="string") で指定する。

SPACE CPU アドレス空間。UD (User Data) \ UR (User Program) \ UR (User Reserved) \ SD (Supervisor Data) \ SP (Supervisor Program) が指定可能。省略時は SD。

備考・注意事項

本コマンドは、トラブルシューティング時など、内部情報の確認が必要な場合を想定したものですので、ご使用に際しては弊社技術担当にご相談ください。

関連コマンド

DUMP (192 ページ)

PURGE LOG

カテゴリー：運用・管理 / ログ

PURGE LOG [= {TEMPORARY | *output-id*}]

output-id: ログ出力 ID (1 ~ 20)

解説

ログ機能に関する設定を削除、あるいは、ログ出力キュー内のメッセージを削除する。
出力先を指定しなかった場合、ログ機能の設定がデフォルトに戻る。ユーザー定義の出力先はすべて削除され、ログ出力キュー内のログメッセージはすべて消去される。出力先を指定した場合は、キューに格納されている該当出力先宛てのメッセージだけが削除され、ログ機能の設定は変更されない。

パラメーター

LOG ログ出力先を指定する。指定時は、キューに格納されている該当出力先宛てのメッセージだけが削除され、ログ機能の設定は変更されない。指定しなかったときは、ログ機能の設定がすべてデフォルトに戻る。その場合、ユーザー定義の出力先はすべて削除され、ログ出力キュー内のログメッセージはすべて消去される。

備考・注意事項

不用意に本コマンドを実行しないよう注意。

関連コマンド

DISABLE LOG (173 ページ)

ENABLE LOG (198 ページ)

PURGE NTP

カテゴリー：運用・管理 / NTP

PURGE NTP

解説

NTP の設定情報をすべて削除する。

備考・注意事項

不用意に本コマンドを実行しないよう注意。

関連コマンド

DISABLE NTP (178 ページ)

ENABLE NTP (203 ページ)

RESET NTP (235 ページ)

PURGE TRIGGER

カテゴリー：運用・管理 / トリガー

PURGE TRIGGER

解説

トリガー機能の設定情報をすべて削除する。
作成したトリガーはすべて削除され、トリガー機能は無効になる。

備考・注意事項

不用意に本コマンドを実行しないよう注意。

関連コマンド

CREATE TRIGGER CPU (135 ページ)
CREATE TRIGGER FIREWALL (137 ページ)
CREATE TRIGGER INTERFACE (139 ページ)
CREATE TRIGGER MEMORY (141 ページ)
CREATE TRIGGER MODULE (143 ページ)
CREATE TRIGGER PERIODIC (145 ページ)
CREATE TRIGGER REBOOT (147 ページ)
CREATE TRIGGER TIME (149 ページ)
DELETE TRIGGER (164 ページ)
DESTROY TRIGGER (170 ページ)
DISABLE TRIGGER (188 ページ)
ENABLE TRIGGER (213 ページ)
SET TRIGGER CPU (270 ページ)
SET TRIGGER FIREWALL (272 ページ)
SET TRIGGER INTERFACE (274 ページ)
SET TRIGGER MEMORY (276 ページ)
SET TRIGGER MODULE (278 ページ)
SET TRIGGER PERIODIC (280 ページ)
SET TRIGGER REBOOT (282 ページ)
SET TRIGGER TIME (284 ページ)
SHOW TRIGGER (364 ページ)

PURGE USER

カテゴリー：運用・管理 / ユーザー認証データベース

PURGE USER

解説

MANAGER を除くすべてのユーザーを認証データベースから削除する。
MANAGER のパスワードはデフォルトの friend に戻る。

備考・注意事項

不用意に本コマンドを実行しないよう注意。

関連コマンド

ADD USER (119 ページ)
DELETE USER (165 ページ)
DISABLE USER (189 ページ)
ENABLE USER (214 ページ)
RESET USER (236 ページ)
SET USER (287 ページ)
SHOW USER (372 ページ)

RECONNECT

カテゴリー：運用・管理 / ターミナルサービス

RECONNECT 1..5

解説

一時中断した端末セッションに再接続する。
セッション番号は SHOW SESSIONS コマンドで確認できる。

例

- 中断していた端末セッション 2 に再接続する。

RECONNECT 2

関連コマンド

CONNECT

DISCONNECT (191 ページ)

SHOW SESSIONS (341 ページ)

TELNET (380 ページ)

RENAME

カテゴリー：運用・管理 / 記憶装置とファイルシステム

RENAME *src-filename* *dst-filename*

src-filename: 変更前ファイル名

dst-filename: 変更後ファイル名

解説

ファイル名を変更する。

関連コマンド

DELETE FILE (154 ページ)

SHOW FILE (301 ページ)

RESET FILE PERMANENTREDIRECT

カテゴリー：運用・管理 / 記憶装置とファイルシステム

RESET FILE [=filename] **PERMANENTREDIRECT**

filename: ファイル名

解説

コマンドやスクリプトの出力を保存（リダイレクト）するため書き込み用にオープンされているファイルをクローズし、ロックを解除する。

ADD FILE コマンドや CREATE FILE コマンドを PERMANENTREDIRECT オプション付きで実行した場合、該当コマンドで指定したファイルは、本コマンドを実行するまでオープン（かつロック）されたままの状態となる。

パラメーター

FILE 出力先のテキストファイル名。具体的なファイル名を省略した場合は、オープン中のすべてのファイルが対象となる

例

- デバッグ情報の出力先テキストファイル ipdebug.txt をクローズする。

```
RESET FILE=ipdebug.txt PERMANENTREDIRECT
```

備考・注意事項

本コマンドを実行しても、ADD FILE コマンドや CREATE FILE コマンドの入力時に「ENABLE XXXX DEBUG」コマンドで有効化したデバッグオプションは無効化されないので、必要に応じて「DISABLE XXX DEBUG」コマンドを実行し、デバッグオプションを無効にすること。

関連コマンド

ADD FILE (102 ページ)

CREATE FILE (127 ページ)

SHOW FILE (301 ページ)

SHOW FILE PERMANENTREDIRECT (303 ページ)

RESET LOADER

カテゴリー：運用・管理 / アップロード・ダウンロード

RESET LOADER

解説

ファイル転送をつかさどる LOADER モジュールをリセットする。
実行中のファイル転送はすべて中断され、ファイル転送に用いられていたリソースはすべて解放される。また、作成途中のファイルは削除される。

関連コマンド

LOAD (220 ページ)

SET LOADER (242 ページ)

SHOW LOADER (313 ページ)

RESET NTP

カテゴリー：運用・管理 / NTP

RESET NTP

解説

NTP モジュールをリセットする。

ダイナミックな設定情報をすべて削除し、スタティックな設定情報を読み直し、NTP リクエストを送信する。

関連コマンド

DISABLE NTP (178 ページ)

ENABLE NTP (203 ページ)

PURGE NTP (228 ページ)

RESET USER

カテゴリー：運用・管理 / ユーザー認証データベース

RESET USER [=login-name] **COUNTERS** [= {ALL|GLOBAL|USER}]

login-name: ログイン名 (1~64 文字。英数字のみ使用可能。大文字小文字を区別しない。空白不可)

解説

ユーザーごとのログイン統計カウンター、あるいは、ユーザー認証機構のグローバルカウンターをリセットする。

パラメーター

USER ログイン名を指定した場合は、該当ユーザーのログイン統計カウンターだけがリセットされる。

COUNTERS リセットするカウンターの種類。USER パラメーターにログイン名を指定しなかった場合、ALL (すべてのカウンター)、GLOBAL (グローバルカウンター)、USER (全ユーザーのログイン統計カウンター) が指定できる。USER パラメーターにログイン名を指定した場合、COUNTERS パラメーターには USER (該当ユーザーのログイン統計カウンター) しか指定できない。

関連コマンド

ADD USER (119 ページ)

DELETE USER (165 ページ)

DISABLE USER (189 ページ)

ENABLE USER (214 ページ)

PURGE USER (230 ページ)

SET USER (287 ページ)

SHOW USER (372 ページ)

RESTART

カテゴリー：運用・管理 / システム

RESTART {**REBOOT**|**ROUTER**} [CONFIG={*filename*|NONE}]

filename: ファイル名（拡張子は.scp か.cfg）

解説

システムを再起動する。

パラメーター

REBOOT コールドスタート（ハードウェアリセット）を実行する。この場合 CONFIG パラメーターは指定できない。

ROUTER ウォームスタート（ソフトウェアリセット）を実行する。CONFIG パラメーターで再起動後に読み込む設定ファイルを指定できる。

CONFIG 再起動時に読み込む設定スクリプトファイル。ウォームスタート時（ROUTER オプション指定時）のみ指定可能。NONE を指定した場合は設定ファイルを読み込まずに起動する（空の設定で立ち上がる）。本オプションを指定しなかった場合は、SET CONFIG コマンドで設定した起動時設定ファイルが読み込まれる。

例

- ウォームスタートする。

```
RESTART ROUTER
```

- 1 度だけ空の設定で再起動する。

```
RESTART ROUTER CONFIG=NONE
```

- 1 度だけ TEMP.CFG の設定で再起動する。

```
RESTART ROUTER CONFIG=TEMP.CFG
```

- ルーターをハードウェアリセットする。

```
RESTART REBOOT
```

関連コマンド

SHOW CONFIG (291 ページ)

SHOW EXCEPTION (295 ページ)

SHOW STARTUP (358 ページ)

SET CONFIG

カテゴリー：運用・管理 / コンフィグレーション

SET CONFIG=filename

filename: ファイル名（拡張子は.scp か.cfg）

解説

起動時に読み込まれるデフォルトの設定ファイル（起動時設定ファイル）を指定する。

パラメーター

CONFIG 設定スクリプトファイル（.cfg または.scp）

関連コマンド

CREATE CONFIG (124 ページ)

RESTART (237 ページ)

SHOW CONFIG (291 ページ)

SET HELP

カテゴリー：運用・管理 / システム

SET HELP=filename

filename: ファイル名

解説

HELP コマンドが使用するヘルプファイルを指定する。
現在の設定は SHOW SYSTEM コマンドで確認できる。

パラメーター

HELP ヘルプファイル名

例

- ヘルプファイルとして 251-01.HLP を使うよう設定する。

```
SET HELP=251-01.HLP
```

関連コマンド

HELP (217 ページ)

SHOW SYSTEM (359 ページ)

SET INSTALL

カテゴリー：運用・管理 / ソフトウェア

SET INSTALL=**{TEMPORARY|PREFERRED|DEFAULT}** [RELEASE=*{filename|EPROM}*]
[PATCH=*{filename}*]

filename: ファイル名

解説

インストール（ファームウェア構成）情報を変更する。

「インストール」には起動時にロードすべきファームウェアの情報、具体的にはリリースファイルとパッチファイル（オプション）の組み合わせが記録されている。インストールには、TEMPORARY（一度しか使用されないテスト用インストール）、PREFERRED（通常使用するインストール）、DEFAULT（緊急時に使用するインストール。EPROM 上のファームウェアから起動する）がある。

パラメーター

INSTALL インストールの種類

RELEASE リリースファイル名（例：54-252.rez）。DEFAULT インストールの場合は EPROM を指定する。

PATCH パッチファイル名（例：54252-02.paz）

例

■ リリースファイル 54-252.rez、パッチファイル 54252-02.paz の組み合わせを通常使用するファームウェアとして設定する。

```
SET INSTALL=PREFERRED RELEASE=54-252.rez PATCH=54252-02.paz
```

関連コマンド

DELETE INSTALL（155 ページ）

SHOW INSTALL（311 ページ）

SET LOADER

カテゴリー：運用・管理 / アップロード・ダウンロード

```
SET LOADER [METHOD={HTTP|TFTP|WEB|WWW|ZMODEM|DEFAULT}] [SERVER={hostname|
ipadd|DEFAULT}] [SERVPORT={1..65535|DEFAULT}] [FILE=filename]
[DESTINATION={FLASH|DEFAULT}] [HTTPPROXY={hostname|ipadd|DEFAULT}]
[PROXYPORT={1..65535|DEFAULT}] [ASYN={asyn-number|DEFAULT}]
[USERNAME=username] [PASSWORD=password] [DELAY={seconds|DEFAULT}]
```

hostname: ホスト名

ipadd: IP アドレス

filename: ファイル名

asyn-number: 非同期ポート番号 (0)

username: ユーザー名 (1~60 文字)

password: パスワード (1~60 文字)

seconds: 時間 (0~4294967295 秒)

解説

LOAD コマンドの各パラメーターにデフォルト値 (省略時に使用する値) を設定する。

LOAD コマンド実行時に指定されなかったパラメーターについては、本コマンドで設定したデフォルト値が使用される。

パラメーター

METHOD 転送プロトコル。TFTP、HTTP (WEB、WWW も同じ)、ZMODEM のいずれかを指定する。

DEFAULT を指定した場合はデフォルトの TFTP に戻る

SERVER TFTP/Web サーバーのフルドメイン名 (FQDN) または IP アドレス。FQDN を指定するには、ADD IP DNS コマンドで DNS サーバーを設定しておく必要がある。DEFAULT を指定した場合は未設定 (デフォルト) に戻る

SERVPORT Web サーバーの TCP ポート番号。DEFAULT を指定した場合はデフォルトの 80 に戻る

FILE ダウンロード対象ファイル名

DESTINATION ダウンロードしたファイルの保存先デバイス。本製品では FLASH (フラッシュメモリー) しか選択肢がないので指定する必要はない。デフォルトは FLASH。

HTTPPROXY HTTP プロキシのフルドメイン名 (FQDN) または IP アドレス。FQDN を指定するには、ADD IP DNS コマンドで DNS サーバーを設定しておく必要がある。DEFAULT を指定した場合は未設定 (デフォルト) に戻る

PROXYPORT HTTP プロキシの TCP ポート番号。DEFAULT を指定した場合はデフォルトの 80 に戻る

ASYN 非同期ポート番号。ZMODEM でダウンロードするときに使う。DEFAULT を指定した場合は未設定 (デフォルト) に戻る

USERNAME HTTP Basic 認証用のユーザー名。DEFAULT を指定した場合は未設定 (デフォルト) に

戻る

PASSWORD HTTP Basic 認証用のパスワード。DEFAULT を指定した場合は未設定（デフォルト）に

戻る

DELAY コマンド（LOAD コマンド）投入からダウンロード開始までの時間（秒）。DEFAULT を指定した場合はデフォルトの 0 に戻る

関連コマンド

LOAD (220 ページ)

SHOW LOADER (313 ページ)

SET LOG OUTPUT

カテゴリー：運用・管理 / ログ

```
SET LOG OUTPUT={TEMPORARY|output-id} [DESTINATION={EMAIL|MEMORY|PORT|
ROUTER|SYSLOG}] [FORMAT={FULL|MSGONLY|SUMMARY}]
[MAXQUEUESEVERITY=severity] [MESSAGES=count] [PASSWORD={password|NONE}]
[ASYN=asyn-number] [QUEUEONLY={YES|NO}] [SECURE={YES|NO}] [SERVER=ipadd]
[TO=email-addr] [ZONE={time-zone|utc-offset}] [FACILITY={DEFAULT|
LOCAL1..LOCAL7}]
```

output-id: ログ出力 ID (1~20)

severity: ログレベル (0~7)

count: 個数 (1~)

password: パスワード (1~16 文字)

asyn-number: 非同期ポート番号 (0)

ipadd: IP アドレス

email-addr: 電子メールアドレス

time-zone: タイムゾーン名

utc-offset: 協定世界時 (UTC) からのオフセット (+23:59:59 ~ -23:59:59)

解説

ログ出力先の定義を変更する。

パラメーター

OUTPUT ログ出力先 ID。1~20 の任意の番号か、特殊なキーワード「TEMPORARY」(RAM) を指定する。TEMPORARY を指定した場合、MAXQUEUESEVERITY、QUEUEONLY、SECURE の各パラメーターは指定できず、DESTINATION は MEMORY しか指定できない。

DESTINATION ログメッセージの出力先。EMAIL (TO パラメーターで指定されたアドレスに電子メールで送信)、MEMORY (RAM 上に保存。OUTPUT パラメーターに TEMPORARY を指定したときのみ有効)、PORT (ASYN パラメーターで指定した非同期ポートに出力)、ROUTER (SERVER パラメーターで指定したルーターに Secure Router Logging Protocol (SRLP) を使って転送)、SYSLOG (SERVER パラメーターで指定した syslog サーバーに転送。メッセージは syslog フォーマットに変換される) から選択する。

FORMAT 非同期ポートに出力するログメッセージの形式。FULL (すべての情報を表示。1 ログエントリが複数行に渡って表示される。空行がエントリーの区切りになる)、MSGONLY (テキストメッセージのみを表示)、SUMMARY (サマリーを表示。表示されないフィールドもある)。デフォルトは SUMMARY。DESTINATION パラメーターに PORT を指定した場合のみ有効。

MAXQUEUESEVERITY QUEUEONLY パラメーターに YES を指定した (キューがいっぱいになるまでログを出力しない) ときに、すぐに出力せずにキューに入れる最大のログレベルを指定する。QUEUEONLY が YES のときは、MAXQUEUESEVERITY よりも低いログレベルのメッセー

ジは、キューの長さが MESSAGES パラメーターの値に達するまでキューイングされる。一方、MAXQUEUESEVERITY 以上のログレベルを持つメッセージが生成されたときは、ただちにキューがフラッシュ（処理）される。DESTINATION パラメーターに PORT を指定しているとき、および、OUTPUT パラメーターに TEMPORARY を指定しているときは、本パラメーターは指定できない。デフォルトは 7、すなわちキューがいっぱいにならないうちに処理されるのは、最高のログレベルを持つメッセージが来たときだけとなる。

MESSAGES DESTINATION が MEMORY のときは、保存するメッセージの最大数。最大値に達したときは、古いメッセージから順番に削除される。DESTINATION が EMAIL の場合は、一度に送信されるメッセージの数。DESTINATION が PORT のときは、本パラメーターは指定できない。DESTINATION が MEMORY のときのデフォルトは 200、EMAIL のときは 100。

PASSWORD SRLP でログを転送する際、転送先から認証を受けるためのパスワード。DESTINATION が ROUTER の場合にのみ有効。パスワードそのものは送信されず、代わりに MD5 によるメッセージダイジェストが送られる。デフォルトはパスワードなし。

ASYN ログを出力する非同期ポートの番号。DESTINATION に PORT を指定した場合にのみ有効。

QUEUEONLY キューがいっぱいになるまでメッセージを処理しないかどうか。DESTINATION に PORT を指定した場合、および、OUTPUT に TEMPORARY を指定した場合は、本パラメーターは指定できない。デフォルトは NO。

SECURE この出力先が「安全」かどうかを指定する。NO を指定した場合、パスワード変更など一部のメッセージが出力されなくなる。OUTPUT に TEMPORARY を指定した場合は、本パラメーターは指定できない。DESTINATION が ROUTER で PASSWORD が指定されている場合、および、DESTINATION が MEMORY の場合のデフォルトは YES。その他の場合のデフォルトは NO。

SERVER DESTINATION が ROUTER か SYSLOG の場合、メッセージの転送先 IP アドレスを指定する。ROUTER の場合は、SRLP (Secure Router Logging Protocol) サーバー (UDP 5023 番)、SYSLOG の場合は syslog サーバー (UDP 514 番) を指定する。

TO DESTINATION に EMAIL を指定した場合の、送信先メールアドレスを指定する。

ZONE タイムゾーン名または UTC からのオフセットを指定する。

FACILITY DESTINATION が SYSLOG の場合、送信する syslog メッセージの「ファシリティ」を指定する。DEFAULT を指定した場合は、既定の対応表（解説編参照）にしたがい、本製品のメッセージタイプが syslog ファシリティに変換される。LOCAL1～LOCAL7 を指定した場合は、本出力先宛ての syslog メッセージすべてに指定したファシリティ値がセットされる。デフォルトは DEFAULT（既定の対応表に基づいてファシリティを決定）。

関連コマンド

CREATE LOG OUTPUT (130 ページ)

DESTROY LOG OUTPUT (167 ページ)

SHOW LOG OUTPUT (321 ページ)

SET LOG OUTPUT FILTER

カテゴリー：運用・管理 / ログ

```
SET LOG OUTPUT={TEMPORARY|output-id} FILTER=entry-id [ACTION={PROCESS|
IGNORE}] [ALL] [DATE=[op]date] [DEVICE=[op]device] [FILE=[op]filename]
[MASK=ipadd] [MSGTEXT=[op]string] [MODULE=[op]module-id] [ORIGIN=ipadd]
[REFERENCE=[op]string] [SEVERITY=[op]severity] [SOURCELINE=[op]line-num]
[SUBTYPE=[op]subtype-id] [TIME=[op]time] [TYPE=[op]type-id]
```

output-id: ログ出力 ID (1~20)

entry-id: エントリー番号 (1~)

op: 比較演算子 (「<」(小さい)「>」(大きい)「!」(等しくない)「」(等しい)「%」(以下の文字列を含む))

date: 日付 (dd-mmm-yyyy の形式。dd は日 (1~31) mmm は月 (英語月名の頭3文字。例: APR) yyyy は西暦年)

device: デバイス番号

filename: ファイル名 (1~12文字)

ipadd: IP アドレスまたはネットマスク

string: 文字列

module-id: モジュール名またはモジュール番号 (0~255)

severity: ログレベル (0~7)

line-num: 行番号 (1~)

subtype-id: ログメッセージのサブタイプ名または ID

time: 時刻 (hh:mm:ss の形式。hh は時 (0~23) mm は分 (0~59) ss は秒 (0~59))

type-id: ログメッセージのタイプ名または ID

解説

ログ出力先に関連付けられたログメッセージフィルターの設定を変更する。

パラメーター

OUTPUT ログ出力先 ID。1~20 の任意の番号か、特殊なキーワード「TEMPORARY」(RAM) を指定する。

FILTER メッセージフィルターのエントリー番号。省略時は、フィルターリストの末尾に追加される。

ACTION フィルターアクション。このエントリーにマッチしたメッセージを処理 (PROCESS) するか、無視 (IGNORE) するかを指定。省略時は PROCESS。

ALL すべてのメッセージにマッチさせたいときに指定する。他の条件と同時に指定することはできない。

DATE メッセージの日付。省略時はすべての日付にマッチする。

DEVICE デバイス番号。省略時はすべてのデバイスにマッチする。

FILE 該当モジュールのソースプログラムファイル名 (例: logmain.c)。ソースファイル名は、SHOW LOG コマンドに FULL オプションを付けたときに表示される。省略時はすべてのファイル名にマッチする。

MASK ネットマスク。メッセージの生成元 IP アドレスを示す ORIGIN パラメーターと組み合わせて使用する。省略時は 255.255.255.255 (単一ホスト)。

MSGTEXT メッセージ本文と比較する文字列。省略時はすべてのメッセージにマッチする。

MODULE モジュール番号またはモジュール名。省略時はすべてのモジュールにマッチする。

ORIGIN ログ生成元の IP アドレス。MASK パラメーターと組み合わせて範囲指定が可能。デフォルトではすべての IP アドレスにマッチする。

REFERENCE メッセージ中の参考情報。省略時はすべてにマッチする。

SEVERITY メッセージのログレベル。省略時はすべてのログレベルにマッチする。

SOURCELINE メッセージを生成したソースプログラムファイルの行番号。省略時はすべての行にマッチする。

SUBTYPE メッセージのサブタイプ名またはサブタイプ番号。省略時はすべてのサブタイプにマッチする。

TIME メッセージの時刻。省略時はすべての時刻にマッチする。

TYPE メッセージのタイプ名またはサブタイプ番号。省略時はすべてのサブタイプにマッチする。

関連コマンド

ADD LOG OUTPUT (105 ページ)

CREATE LOG OUTPUT (130 ページ)

DESTROY LOG OUTPUT (167 ページ)

SHOW LOG OUTPUT (321 ページ)

SET LOG RECEIVE

カテゴリー：運用・管理 / ログ

SET LOG RECEIVE={*ipadd*|**ANY**} [MASK=*ipadd*] [ALLOW={YES|NO}] [PROTOCOL={ALL|BOTH|NEW|OLD|SYSLOG}] [PASSWORD={*password*|NONE}]

ipadd: IP アドレスまたはネットマスク

password: パスワード (1～16 文字。任意の印刷可能文字を使用可能。空白を含む場合はダブルクォートで囲む)

解説

ログ受信テーブルのエントリを変更する。

パラメーター

RECEIVE ログ送信元の IP アドレス。MASK と組み合わせて範囲を指定することも可能。ANY と 0.0.0.0 はすべての IP アドレスを示す。

MASK RECEIVE パラメーターで指定したアドレスに対するマスク。ただし、RECEIVE=ANY または RECEIVE=0.0.0.0 のときは指定できない。

ALLOW RECEIVE/MASK で指定した IP アドレスからのログを受け入れるかどうか。YES なら受け入れ、NO なら拒否する。

PROTOCOL RECEIVE/MASK で指定した IP アドレスから、どのプロトコルでログを受け入れるかを指定する。OLD (Net Manage Message Protocol)、NEW (SRLP)、SYSLOG、BOTH (OLD と NEW)、ALL (OLD、NEW、SYSLOG のすべて) から選択する。

PASSWORD SRLP プロトコルにおいて、ログ送信元を認証するためのパスワードを指定する。省略時はパスワード認証を行わない。本パラメーターは、SRLP 使用時のみ有効 (PROTOCOL=NEW または BOTH、ALL のとき)。

関連コマンド

ADD LOG RECEIVE (107 ページ)

DELETE LOG RECEIVE (157 ページ)

SHOW LOG RECEIVE (326 ページ)

SET LOG UTCOFFSET

カテゴリー：運用・管理 / ログ

SET LOG UTCOFFSET={*time-zone*|*utc-offset*}

time-zone: タイムゾーン名

utc-offset: 協定世界時 (UTC) からのオフセット (+23:59:59 ~ -23:59:59)

解説

現地時間と協定世界時 (UTC) の差を設定する。

パラメーター

UTCOFFSET 協定世界時からのオフセットを指定する。定義済みのタイムゾーン名または時間差で指定する。時間差で指定する場合、UTC より進んでいる場合はプラス (+) を、遅れている場合はマイナス (-) を付ける。

ASIA	+8:00	Asia
ACDT	+10:30	Australian Central Daylight Time
ACST	+9:30	Australian Central Standard Time
AEDT	+11:00	Australian Eastern Daylight Time
AEST	+10:00	Australian Eastern Standard Time
AWST	+8:00	Australian Western Standard Time
BST	+1:00	British Standard Time
CHINA	+8:00	China
GMT	+0:00	Greenwich Mean Time
UK	+0:00	Greenwich Mean Time
HK	+8:00	Hong Kong
JST	+9:00	Japan Standard Time
MET	+1:00	Mid-European time
NZDT	+13:00	New Zealand Daylight Time
NZST	+12:00	New Zealand Standard Time
SING	+8:00	Singapore
TAIWAN	+8:00	Taiwan
UTC	+0:00	Universal Coordinated Time
CDT	-5:00	US Central Daylight Time
CST	-6:00	US Central Standard Time
EDT	-4:00	US Eastern Daylight Time

EST	-5:00	US Eastern Standard Time
MDT	-6:00	US Mountain Daylight Time
MST	-7:00	US Mountain Standard Time
PDT	-7:00	US Pacific Daylight Time
PST	-8:00	US Pacific Standard Time
DEFAULT	-	-
NONE	-	-

表 27: タイムゾーン名一覧

例

- UTC オフセットをタイムゾーンで指定する（日本）

```
SET LOG UTCOFFSET=JST
```

- UTC オフセットを時間差で指定する（日本）

```
SET LOG UTCOFFSET=+9:00:00
```

関連コマンド

```
SHOW LOG STATUS ( 328 ページ )
```

SET MAIL

カテゴリー：運用・管理 / メール送信

SET MAIL HOSTNAME=*hostname*

hostname: ホスト名

解説

メールサーバーとの通信時に使用する自ホスト名を設定する。

自ホスト名は、SMTP セッション開始時に、SMTP の HELO コマンドの引数として送信される。メール送信（MAIL コマンド）を実行するには、本コマンドで自ホスト名を設定しておく必要がある。

パラメーター

HOSTNAME 自ホスト名。フルドメイン名（FQDN=Fully Qualified Domain Name）で指定する。設定を解除するときは NONE を指定する。

例

- メール送信時に使用する自ホスト名として、white.mydomain.xxx を設定する。

```
SET MAIL HOSTNAME=white.mydomain.xxx
```

関連コマンド

SHOW MAIL（330 ページ）

SET MANAGER ASYN

カテゴリー：運用・管理 / セキュリティー

SET MANAGER ASYN=**{*asyn-number*|NONE}**

asyn-number: 非同期ポート番号 (0)

解説

指定した非同期ポートをマネージャーポートに設定する。

マネージャーポートは、ログインせずに MANAGER (管理者) 権限を得られるポート (SET ASYN コマンドの SECURE パラメーターが OFF のポート)。マネージャーポートは 1 つしか設定できない。

パラメーター

ASYN 非同期ポート番号。指定したポートがマネージャーポートになる。すでに他のポートがマネージャーポートに設定されていた場合、そのポートはマネージャーポートでなくなる (セキュアモードがオンになる)。NONE を指定した場合、マネージャーポートは存在しなくなる。

関連コマンド

LOGIN (222 ページ)

SET ASYN (「インターフェース」の 35 ページ)

SHOW MANAGER ASYN (332 ページ)

SET NTP UTCOFFSET

カテゴリー：運用・管理 / NTP

SET NTP UTCOFFSET={*time-zone*|*utc-offset*}

time-zone: タイムゾーン名

utc-offset: 協定世界時 (UTC) からのオフセット (+23:59:59 ~ -23:59:59)

解説

現地時間と協定世界時 (UTC) の差を設定する。NTP で扱われる時間はすべて UTC なので、必ずオフセットを設定する必要がある。

パラメーター

UTCOFFSET 協定世界時からのオフセットを指定する。定義済みのタイムゾーン名または時間差で指定する。時間差で指定する場合、UTC より進んでいる場合はプラス (+) を、遅れている場合はマイナス (-) を付ける。

ASIA	+8:00	Asia
ACDT	+10:30	Australian Central Daylight Time
ACST	+9:30	Australian Central Standard Time
AEDT	+11:00	Australian Eastern Daylight Time
AEST	+10:00	Australian Eastern Standard Time
AWST	+8:00	Australian Western Standard Time
BST	+1:00	British Standard Time
CHINA	+8:00	China
GMT	+0:00	Greenwich Mean Time
UK	+0:00	Greenwich Mean Time
HK	+8:00	Hong Kong
JST	+9:00	Japan Standard Time
MET	+1:00	Mid-European time
NZDT	+13:00	New Zealand Daylight Time
NZST	+12:00	New Zealand Standard Time
SING	+8:00	Singapore
TAIWAN	+8:00	Taiwan
UTC	+0:00	Universal Coordinated Time
CDT	-5:00	US Central Daylight Time
CST	-6:00	US Central Standard Time

EDT	-4:00	US Eastern Daylight Time
EST	-5:00	US Eastern Standard Time
MDT	-6:00	US Mountain Daylight Time
MST	-7:00	US Mountain Standard Time
PDT	-7:00	US Pacific Daylight Time
PST	-8:00	US Pacific Standard Time
DEFAULT	-	-
NONE	-	-

表 28: タイムゾーン名一覧

例

- UTC オフセットをタイムゾーンで指定する（日本）。

```
SET NTP UTCOFFSET=JST
```

- UTC オフセットを時間差で指定する（日本）。

```
SET NTP UTCOFFSET=+9:00:00
```

関連コマンド

```
SHOW NTP ( 333 ページ )
```

SET PASSWORD

カテゴリー：運用・管理 / ユーザー認証データベース

SET PASSWORD

解説

ログインパスワードを変更する。

プロンプトが表示されるので、現在のパスワードと新しいパスワード（確認のため2回）を入力する。

入力・出力・画面例

```
Manager > set password
```

Old password: abcababc （現在のパスワードを入力。入力したパスワードは実際には表示されない）

New password: xyzxyz （新しいパスワードを入力）

Confirm: xyzxyz （確認のため、新しいパスワードをもう一度入力）

プロンプトが表示されないときはここで「Enter」を押す

関連コマンド

ADD USER (119 ページ)

SET USER (287 ページ)

SET RADIUS

カテゴリー：運用・管理 / 認証サーバー

SET RADIUS [TIMEOUT=1..15] [DEADTIME=0..1440] [RETRANSMITCOUNT=1..5]

解説

RADIUS (Remote Authentication Dial In User Server) サーバーとの通信に使用するパラメーターを変更する。

パラメーター

TIMEOUT RADIUS サーバーへの要求に対する応答待ち時間 (秒)。要求送信後 TIMEOUT 秒以内に応答がない場合はその回の通信がタイムアウトしたと見なす。デフォルトは 6 秒。

DEADTIME RADIUS サーバーへの要求が規定回数 (1 + RETRANSMITCOUNT 回) タイムアウトしたときに、該当サーバーが「使用不可」と見なして同サーバーの使用を抑制する時間 (分)。デフォルトは 0 分 (使用を抑制しない)。

RETRANSMITCOUNT RADIUS サーバーへの要求再送回数。RADIUS サーバーへの要求がタイムアウトしたときは、最大 RETRANSMITCOUNT 回まで再送を試みる。RETRANSMITCOUNT 回再送しても応答がなかった場合は、該当 RADIUS サーバーが「使用不可」と見なして、認証サーバーリスト内の次のサーバーに要求を送信する。また、「使用不可」と見なしたサーバーの使用を、DEADTIME (分) の間だけ抑制する。デフォルトは 3 回。

備考・注意事項

DEADTIME パラメーターのデフォルト値は 0 分だが、この場合無応答のサーバーに対しても毎回要求を送信する。このため、認証サーバーリストの先頭に登録されている RADIUS サーバーが応答しない場合、毎回このサーバーの応答がタイムアウトするまで待つこととなり、結果として認証時間が長くなる。これを回避するには、DEADTIME パラメーターの値を 1 分以上の適切な値に設定すること。

関連コマンド

ADD RADIUS SERVER (110 ページ)

SHOW RADIUS (336 ページ)

SET SCRIPT

カテゴリー：運用・管理 / スクリプト

```
SET SCRIPT=filename LINE=line-num [AFTER=line-num] [BEFORE=line-num]
[TEXT=string]
```

filename: ファイル名（拡張子は.scp か.cfg）

line-num: 行番号（1～）

string: 文字列（1～127 文字）

解説

スクリプトファイル内の行を変更する。

指定行の内容を変更したり、指定行を他の行と入れ替えたりできる。

パラメーター

SCRIPT スクリプトファイル名

LINE 変更対象の行番号。

AFTER 行番号を指定。LINE で指定した行が、AFTER で指定した行の後ろに移動する

BEFORE 行番号を指定。LINE で指定した行が、BEFORE で指定した行の前に移動する

TEXT 変更後のテキスト

例

- basic.scip の 2 行目を「reset ppp=0」に変更する。

```
SET SCRIPT=basic.scip LINE=2 TEXT="reset ppp=0"
```

- advanced.scip の 10 行目を現 7 行目の前に移動する。

```
SET SCRIPT=advanced.scip LINE=10 BEFORE=7
```

関連コマンド

ACTIVATE SCRIPT (99 ページ)

ADD SCRIPT (112 ページ)

DEACTIVATE SCRIPT (151 ページ)

DELETE SCRIPT (161 ページ)

SHOW SCRIPT (339 ページ)

SET SNMP ASNBERPADDING

カテゴリー：運用・管理 / SNMP

SET SNMP ASNBERPADDING={ON|YES|TRUE|OFF|NO|FALSE}

解説

SNMP のエンコード方式を設定する。

パラメーター

ASNBERPADDING SNMP マネージャーからの Get 要求に対し、返信する値（カウンター値）が特定の範囲にある場合、カウンター値の先頭 1Byte を省略するかどうかを示す。（特定の範囲とは、2 進数で表記した場合に先頭 9bit が全て 1 となる数値。32bit カウンターの場合は 4286578688 ~ 4294967295。）ON（デフォルト）の場合、カウンター値の先頭 1Byte を省略しない。OFF を指定すると、カウンター値の先頭 1Byte を省略する。ON、YES、TRUE および OFF、NO、FALSE はそれぞれ同じ意味。

SET SNMP COMMUNITY

カテゴリー：運用・管理 / SNMP

```
SET SNMP COMMUNITY=community [ACCESS={READ|WRITE}] [OPEN={ON|OFF|YES|NO|  
TRUE|FALSE}]
```

community: SNMP コミュニティ名 (1～15 文字。大文字小文字を区別する)

解説

SNMP コミュニティの設定パラメーターを変更する。

パラメーター

COMMUNITY SNMP コミュニティ名

ACCESS コミュニティのアクセス権を指定する。READ (デフォルト) は読み出し (get、get-next) のみを許可、WRITE は読み書き両方 (get、get-next、set) を許可する。

OPEN SNMP オペレーションをすべてのホストに開放するかどうかを示す。NO (デフォルト) は、MANAGER パラメーターで指定したホストのみに制限することを示す。YES を指定すると、すべての SNMP 要求を受け入れる。ON、YES、TRUE および OFF、NO、FALSE はそれぞれ同じ意味。

関連コマンド

CREATE SNMP COMMUNITY (133 ページ)

DESTROY SNMP COMMUNITY (169 ページ)

SHOW SNMP COMMUNITY (345 ページ)

SET SNMP LOCAL

カテゴリー：運用・管理 / SNMP

SET SNMP LOCAL={NONE|1..15} [VERSION={V1|V2|V3|ALL}]

解説

(SNMPv1/v2c/3) SNMP メッセージの送信に使うローカル IP インターフェース (ループバックインターフェース) を指定する。

パラメーター

LOCAL SNMP パケットの送信に使用するローカル IP インターフェースの番号。ローカル IP インターフェースを指定した場合、SNMP パケットの始点 IP アドレスとして、指定したローカル IP インターフェースの IP アドレスが使用される。省略時は NONE (ローカル IP インターフェースを使用しない。この場合、SNMP パケットの始点 IP アドレスはシステムが決める)。

VERSION 対象となる SNMP のバージョン。省略時は ALL (すべてのバージョンが対象)。

関連コマンド

ADD IP LOCAL (「IP」の 182 ページ)

ENABLE SNMP (205 ページ)

SET IP LOCAL (「IP」の 367 ページ)

SHOW IP INTERFACE (「IP」の 458 ページ)

SHOW SNMP (342 ページ)

SET SNMP TRAPDELAY

カテゴリー：運用・管理 / SNMP

SET SNMP TRAPDELAY=10..600

解説

起動時におけるすべての SNMP トラップを送信するタイミングを設定する。

パラメーター

TRAPDELAY すべての SNMP トラップを送信するタイミングを遅らせる時間（秒）。デフォルトは 10 秒。

SET SSH SERVER

カテゴリー：運用・管理 / Secure Shell

```
SET SSH SERVER [HOSTKEY=key-id] [SERVERKEY=key-id] [EXPIRYTIME=hours]  
[LOGINTIMEOUT=seconds]
```

key-id: 鍵番号 (0 ~ 65535)

hours: 時間

seconds: 時間 (秒)

解説

SSH サーバー機能の設定を変更する。

パラメーター

HOSTKEY ホスト鍵の鍵番号を指定する。推奨鍵長は 1024 ビット。CREATE ENCO KEY コマンドで作成する (TYPE=RSA)。

SERVERKEY サーバー鍵の鍵番号を指定する。鍵長はホスト鍵より 128 ビット以上短く、なおかつ 512 ビット以上でなくてはならない。CREATE ENCO KEY コマンドで作成する (TYPE=RSA)。

EXPIRYTIME サーバー鍵の有効期間 (時間)。サーバー鍵は、有効期間が過ぎると自動的に更新 (再生成) される。0 は無期限 (自動更新しない) を示す。デフォルトは 0。

LOGINTIMEOUT ログインタイムアウト (秒)。接続確立後、ここで指定した時間内にログインしなかった場合はサーバー側から接続を切断する。デフォルトは 60 秒。

関連コマンド

DISABLE SSH SERVER (184 ページ)

ENABLE SSH SERVER (209 ページ)

SHOW SSH (347 ページ)

SET SSH USER

カテゴリー：運用・管理 / Secure Shell

```
SET SSH USER=username {PASSWORD=password|KEYID=key-id} [IPADDRESS=ipadd]  
[MASK=ipadd]
```

username: ユーザー名 (1～15 文字。英数字。空白不可)

password: パスワード (1～31 文字)

key-id: 鍵番号 (0～65535)

ipadd: IP アドレスまたはネットマスク

解説

SSH ユーザーの設定を変更する。

パラメーター

USER SSH ユーザー名。

PASSWORD SSH パスワード。パスワード認証を使用するときに指定する。ユーザー認証データベースのパスワードと同じでなくてもよい。KEYID と同時に指定することはできない。

KEYID ユーザーの RSA 公開鍵番号 (CREATE ENCO KEY でインポートしたもの)。RSA 認証を使用するときに指定する。PASSWORD と同時に指定することはできない。

IPADDRESS ログイン元 (SSH クライアント) の IP アドレス。MASK と組み合わせて、ログイン元を制限するときに使う。デフォルトでは制限なし。

MASK ネットマスク。IPADDRESS パラメーターと組み合わせて、ログイン元ホストを制限するときに使う。

関連コマンド

ADD SSH USER (115 ページ)

DELETE SSH USER (163 ページ)

SHOW SSH USER (356 ページ)

SET SYSTEM CONTACT

カテゴリー：運用・管理 / システム

SET SYSTEM CONTACT=string

string: 文字列 (1~255 文字。使用可能な文字は半角英数字、半角記号 (!"#\$%&'()*+,-./:;<=>@[\\]>^_`{|}~ 半角空白。文字列の先頭にダブルクォートを使用することはできない。また、文字列に空白を含む場合は、前後をダブルクォート(")で囲む必要がある。この場合、文字列中にダブルクォートを含んではならない。また、半角記号の ? は使用できない)

解説

システムの管理責任者を示す MIB オブジェクト sysContact の値を設定する。

パラメーター

CONTACT システム管理責任者名 (sysContact)

例

■ sysContact を設定する。

```
SET SYSTEM CONTACT="admin@1sys.mydomain.xxx"
```

関連コマンド

SET SYSTEM LOCATION (266 ページ)

SET SYSTEM NAME (267 ページ)

SHOW SYSTEM (359 ページ)

SET SYSTEM DISTINGUISHEDNAME

カテゴリー：運用・管理 / システム

SET SYSTEM DISTINGUISHEDNAME={*dist-name*|NONE}

dist-name: X.500 識別名 (DN) ("cn=myname,o=myorg,c=jp" の形式)

解説

PKI、ISAKMP で使用する X.500 識別名 (DN) を設定する。

パラメーター

DISTINGUISHEDNAME X.500 識別名 (DN)。LDAP の各種属性値をカンマで区切って列挙したもの。
cn (Common Name) o (Organization) c (Country) などの属性値は小文字で記述する必要がある。

例

- 識別名として「cn=pote,o=orange,c=jp」を設定する

```
SET SYSTEM DISTINGUISHEDNAME="cn=pote,o=orange,c=jp"
```

関連コマンド

CREATE PKI ENROLLMENTREQUEST (「PKI」の 18 ページ)

SHOW SYSTEM (359 ページ)

SET SYSTEM LOCATION

カテゴリー：運用・管理 / システム

SET SYSTEM LOCATION=string

string: 文字列 (1~255 文字。使用可能な文字は半角英数字、半角記号 (!"#\$%&'()*+,-./:;<=>@[\\]>^_`{|}~ 半角空白。文字列の先頭にダブルクォートを使用することはできない。また、文字列に空白を含む場合は、前後をダブルクォート(")で囲む必要がある。この場合、文字列中にダブルクォートを含んではならない。また、半角記号の ? は使用できない)

解説

システムの設置場所を示す MIB オブジェクト sysLocation の値を設定する。

パラメーター

LOCATION システム設置場所 (sysLocation)

例

■ sysLocation を設定する。

```
SET SYSTEM LOCATION="8F, TTT Bldg."
```

関連コマンド

SET SYSTEM CONTACT (264 ページ)

SET SYSTEM NAME (267 ページ)

SHOW SYSTEM (359 ページ)

SET SYSTEM NAME

カテゴリー：運用・管理 / システム

SET SYSTEM NAME=string

string: 文字列 (1~245 文字。使用可能な文字は半角英数字、半角記号 (! " # \$ % & ' () * + , - . / : ; < = > @ [\] ^ _ ' { | }) 半角空白。文字列の先頭にダブルクォートを使用することはできない。また、文字列に空白を含む場合は、前後をダブルクォート (") で囲む必要がある。この場合、文字列中にダブルクォートを含んではならない。また、半角記号の ? は使用できない)

解説

システムの名称を示す MIB オブジェクト sysName の値を設定する。

パラメーター

NAME システム名 (sysName)。設定したシステム名はプロンプトの先頭に表示される。

例

■ sysName を設定する。

```
SET SYSTEM NAME="white.mydomain.xxx"
```

備考・注意事項

sysName にルーターのフルドメイン名 (ホスト名を含む完全なドメイン名) を設定しておく、ドットを含まないホスト名の IP アドレスを DNS で検索する際に、「フルドメイン名から先頭要素 (最初のドットまで) を取り除いたもの」を検索対象ホスト名に付加する。たとえば、sysName に「myrouter.mydomain.xx.jp」を設定している場合、「TELNET hispc」というコマンドを実行すると、「hispc.mydomain.xx.jp」に対して DNS の検索が行われる。

また、DHCP クライアント機能を使う場合、sysName の内容が DHCP Discover/Request メッセージの HostName フィールドに設定されて送信される。DHCP で IP アドレスを配布する ISP の中には、HostName によってクライアントを識別/認証しているところがある。その場合は、本コマンドで ISP から指定されたホスト名を設定する必要がある。

関連コマンド

SET SYSTEM CONTACT (264 ページ)

SET SYSTEM LOCATION (266 ページ)

SHOW SYSTEM (359 ページ)

SET TELNET

カテゴリー：運用・管理 / ターミナルサービス

SET TELNET [TERMTYPE=*string*] [INSERTNULL={ON|OFF}] [LISTENPORT=*port*]

string: 文字列 (1~31 文字。空白を含む場合はダブルクォートで囲む)

port: TCP ポート番号 (1~65535)

解説

Telnet クライアント、Telnet サーバー機能の設定を変更する。

パラメーター

TERMTYPE Telnet サーバーへの接続時に送信する端末タイプ文字列。デフォルトでは UNKNOWN が送られる。

INSERTNULL CR のあとにヌル文字を挿入するかどうか。デフォルトは OFF。

LISTENPORT Telnet サーバーのリスニング TCP ポート。デフォルトは 23

関連コマンド

ENABLE TELNET SERVER (212 ページ)

TELNET (380 ページ)

SET TIME

カテゴリー：運用・管理 / システム

SET [TIME=*time*] [DATE=*date*]

time: 時刻 (hh:mm:ss の形式。hh は時 (0~23) mm は分 (0~59) ss は秒 (0~59))

date: 日付 (dd-mmm-yyyy の形式。dd は日 (1~31) mmm は月 (英語月名の頭3文字。例: APR) yyyy は西暦年)

解説

内蔵時計の日付と時刻を設定する。

パラメーター

TIME 時刻

DATE 日付

例

- システム時計を 2001 年 8 月 9 日 19 時に設定する。

```
SET DATE=9-Aug-2001 TIME=19:00:00
```

- 時刻だけを修正する。

```
SET TIME=19:02:00
```

備考・注意事項

NTP を使って時刻を正確に保つこともできる。

関連コマンド

ADD NTP PEER (109 ページ)

SHOW TIME (363 ページ)

SET TRIGGER CPU

カテゴリー：運用・管理 / トリガー

```
SET TRIGGER=trigger-id [CPU [=1..100]] [DIRECTION={UP|DOWN|ANY}]
[AFTER=time] [BEFORE=time] [{DATE=date|DAYS=day-list}] [NAME=string]
[REPEAT={YES|NO|ONCE|FOREVER|count}] [TEST={YES|NO|ON|OFF}]
```

trigger-id: トリガー番号 (1~100)

time: 時刻 (hh:mm の形式。hh は時 (0~23)、mm は分 (0~59))

date: 日付 (dd-mmm-yyyy の形式。dd は日 (1~31)、mmm は月 (英語月名の頭3文字。例: APR)、yyyy は西暦年)

day-list: 曜日リスト (MON、TUE、WED、THU、FRI、SAT、SUN、WEEKDAY、WEEKEND、ALL の組み合わせ。複数指定時はカンマで区切る)

string: 文字列 (1~40 文字。空白を含む場合はダブルクォートで囲む)

count: 回数 (1~4294967294)

解説

CPU トリガーの設定パラメーターを変更する。

パラメーター

TRIGGER トリガー番号

CPU しきい値。CPU 負荷率をパーセンテージで指定する。

DIRECTION 起動条件。UP (しきい値まで上がるか上回ったとき)、DOWN (しきい値まで下がるか下回ったとき)、ANY (両方) から選択する。デフォルトは ANY。

AFTER 一日のうちトリガーが有効な時間を制限するパラメーター。トリガーは、AFTER で指定した時刻から深夜 24 時までの間だけ有効となる。

BEFORE 一日のうちトリガーが有効な時間を制限するパラメーター。トリガーは、深夜 0 時から BEFORE で指定した時刻までの間だけ有効となる。

DATE 一年のうちトリガーが有効な日を一日だけに制限するパラメーター。DAYS と同時には指定できない。

DAYS 一週間のうちトリガーが有効な日を制限するパラメーター。カンマ区切りで複数曜日を指定可能。WEEKDAY は MON,TUE,WED,THU,FRI と同義。また、WEEKEND は SAT,SUN と同義。ALL はすべての曜日。デフォルトは ALL。DATE と同時には指定できない。

NAME トリガー名。SHOW TRIGGER コマンドで表示されるもので、メモとして使う。

REPEAT トリガーを一度だけ実行するか、それとも、何度でも繰り返し実行するかを指定する。繰り返しを許す場合は、繰り返しの限度も指定できる。YES と FOREVER は同義で、実行回数に制限を設けないことを示す。NO と ONCE は同義で、一回だけしか実行を許可しないことを示す。回数を指定した場合は、指定回数まで実行を許可する。デフォルトは FOREVER。

TEST トリガーをテストモードにするかどうか。テストモードのトリガーは起動されても、SCRIPT パラメーターで指定したスクリプトを実行せず、ログにトリガーの起動を記録するだけ。ただし、ACTIVATE TRIGGER コマンドで手動起動された場合は、テストモードであってもスクリプトが実

行される。デフォルトは NO。

関連コマンド

ACTIVATE TRIGGER (100 ページ)

ADD TRIGGER (117 ページ)

CREATE TRIGGER CPU (135 ページ)

DESTROY TRIGGER (170 ページ)

DISABLE TRIGGER (188 ページ)

ENABLE TRIGGER (213 ページ)

SHOW TRIGGER (364 ページ)

SET TRIGGER FIREWALL

カテゴリー：運用・管理 / トリガー

```
SET TRIGGER=trigger-id [FIREWALL [= {ALL|DOSATTACK|FRAGATTACK|HOSTSCAN|
PORTSCAN|SMURFATTACK|SYNATTACK|TCPATTACK}]] [MODE={START|END|BOTH}]
[AFTER=time] [BEFORE=time] [{DATE=date|DAYS=day-list}] [NAME=string]
[REPEAT={YES|NO|ONCE|FOREVER|count}] [TEST={YES|NO|ON|OFF}]
```

trigger-id: トリガー番号 (1~100)

time: 時刻 (hh:mm の形式。hh は時 (0~23)、mm は分 (0~59))

date: 日付 (dd-mmm-yyyy の形式。dd は日 (1~31)、mmm は月 (英語月名の頭3文字。例: APR)、yyyy は西暦年)

day-list: 曜日リスト (MON、TUE、WED、THU、FRI、SAT、SUN、WEEKDAY、WEEKEND、ALL の組み合わせ。複数指定時はカンマで区切る)

string: 文字列 (1~40 文字。空白を含む場合はダブルクォートで囲む)

count: 回数 (1~4294967294)

解説

ファイアウォールトリガーの設定パラメーターを変更する。

パラメーター

TRIGGER トリガー番号

FIREWALL ファイアウォールの攻撃イベント名。指定した攻撃イベントの発生時にトリガーが起動される。MODE パラメーターと組み合わせることにより、より細かい指定が可能。

MODE 攻撃のどのタイミングでトリガーを起動させるかを指定する。START は攻撃開始時、END は攻撃終了時、BOTH は攻撃開始時と攻撃終了時にトリガーを起動する。デフォルトは BOTH。

AFTER 一日のうちトリガーが有効な時間を制限するパラメーター。トリガーは、AFTER で指定した時刻から深夜 24 時までの間だけ有効となる。

BEFORE 一日のうちトリガーが有効な時間を制限するパラメーター。トリガーは、深夜 0 時から BEFORE で指定した時刻までの間だけ有効となる。

DATE 一年のうちトリガーが有効な日を一日だけに制限するパラメーター。DAYS と同時には指定できない。

DAYS 一週間のうちトリガーが有効な日を制限するパラメーター。カンマ区切りで複数曜日を指定可能。WEEKDAY は MON,TUE,WED,THU,FRI と同義。また、WEEKEND は SAT,SUN と同義。ALL はすべての曜日。デフォルトは ALL。DATE と同時には指定できない。

NAME トリガー名。SHOW TRIGGER コマンドで表示されるもので、メモとして使う。

REPEAT トリガーを一度だけ実行するか、それとも、何度でも繰り返し実行するかを指定する。繰り返しを許す場合は、繰り返しの限度も指定できる。YES と FOREVER は同義で、実行回数に制限を設けないことを示す。NO と ONCE は同義で、一回だけしか実行を許可しないことを示す。回数を指定した場合は、指定回数まで実行を許可する。デフォルトは FOREVER。

TEST トリガーをテストモードにするかどうか。テストモードのトリガーは起動されても、SCRIPT パ

ラメーターで指定したスクリプトを実行せず、ログにトリガーの起動を記録するだけ。ただし、ACTIVATE TRIGGER コマンドで手動起動された場合は、テストモードであってもスクリプトが実行される。デフォルトは NO。

関連コマンド

ACTIVATE TRIGGER (100 ページ)

ADD TRIGGER (117 ページ)

CREATE TRIGGER FIREWALL (137 ページ)

DESTROY TRIGGER (170 ページ)

DISABLE TRIGGER (188 ページ)

ENABLE TRIGGER (213 ページ)

SHOW TRIGGER (364 ページ)

SET TRIGGER INTERFACE

カテゴリー：運用・管理 / トリガー

```
SET TRIGGER=trigger-id [ INTERFACE [= interface] ] EVENT={UP|DOWN|FAIL|ANY}
[ CP={BCP|CCP|IPCP|LCP} ] [ AFTER=time ] [ BEFORE=time ] [ {DATE=date|
DAYS=day-list} ] [ NAME=string ] [ REPEAT={YES|NO|ONCE|FOREVER|count} ]
[ TEST={YES|NO|ON|OFF} ]
```

trigger-id: トリガー番号 (1~100)

interface: インターフェース名

time: 時刻 (hh:mm の形式。hh は時 (0~23)、mm は分 (0~59))

date: 日付 (dd-mmm-yyyy の形式。dd は日 (1~31)、mmm は月 (英語月名の頭3文字。例: APR)、yyyy は西暦年)

day-list: 曜日リスト (MON、TUE、WED、THU、FRI、SAT、SUN、WEEKDAY、WEEKEND、ALL の組み合わせ。複数指定時はカンマで区切る)

string: 文字列 (1~40 文字。空白を含む場合はダブルクォートで囲む)

count: 回数 (1~4294967294)

解説

インターフェーストリガーの設定パラメーターを変更する。

パラメーター

TRIGGER トリガー番号

INTERFACE 監視するインターフェース名を指定する。PPP インターフェースの場合は、CP パラメーターも指定可能。

EVENT 該当インターフェースのリンクステータスがどのように変化した場合にトリガーを起動させるかを指定する。UP はリンクアップ時、DOWN はリンクダウン時、FAIL はリンクアップ失敗時、ANY はすべてのリンクステータス変化時を意味する。Ethernet、VLAN インターフェースでは、UP と DOWN のみ有効。

CP 監視する PPP コントロールプロトコルを指定する。INTERFACE に PPP インターフェースを指定した場合にのみ有効。トリガースクリプトには、%1 (PPP インターフェース名)、%2 (コントロールプロトコル)、%3 (イベント名) の3つの引数が渡される。

AFTER 一日のうちトリガーが有効な時間を制限するパラメーター。トリガーは、AFTER で指定した時刻から深夜 24 時までの間だけ有効となる。

BEFORE 一日のうちトリガーが有効な時間を制限するパラメーター。トリガーは、深夜 0 時から BEFORE で指定した時刻までの間だけ有効となる。

DATE 一年のうちトリガーが有効な日を一日だけに制限するパラメーター。DAYS と同時には指定できない。

DAYS 一週間のうちトリガーが有効な日を制限するパラメーター。カンマ区切りで複数曜日を指定可能。WEEKDAY は MON,TUE,WED,THU,FRI と同義。また、WEEKEND は SAT,SUN と同義。ALL はすべての曜日。デフォルトは ALL。DATE と同時には指定できない。

NAME トリガー名。SHOW TRIGGER コマンドで表示されるもので、メモとして使う。

REPEAT トリガーを一度だけ実行するか、それとも、何度でも繰り返し実行するかを指定する。繰り返しを許す場合は、繰り返しの限度も指定できる。YES と FOREVER は同義で、実行回数に制限を設けないことを示す。NO と ONCE は同義で、一回だけしか実行を許可しないことを示す。回数を指定した場合は、指定回数まで実行を許可する。デフォルトは FOREVER。

TEST トリガーをテストモードにするかどうか。テストモードのトリガーは起動されても、SCRIPT パラメーターで指定したスクリプトを実行せず、ログにトリガーの起動を記録するだけ。ただし、ACTIVATE TRIGGER コマンドで手動起動された場合は、テストモードであってもスクリプトが実行される。デフォルトは NO。

関連コマンド

ACTIVATE TRIGGER (100 ページ)

ADD TRIGGER (117 ページ)

CREATE TRIGGER INTERFACE (139 ページ)

DESTROY TRIGGER (170 ページ)

DISABLE TRIGGER (188 ページ)

ENABLE TRIGGER (213 ページ)

SHOW TRIGGER (364 ページ)

SET TRIGGER MEMORY

カテゴリー：運用・管理 / トリガー

```
SET TRIGGER=trigger-id [MEMORY [=1..100]] [DIRECTION={UP|DOWN|ANY}]
[AFTER=time] [BEFORE=time] [{DATE=date|DAYS=day-list}] [NAME=string]
[REPEAT={YES|NO|ONCE|FOREVER|count}] [TEST={YES|NO|ON|OFF}]
```

trigger-id: トリガー番号 (1~100)

time: 時刻 (hh:mm の形式。hh は時 (0~23)、mm は分 (0~59))

date: 日付 (dd-mmm-yyyy の形式。dd は日 (1~31)、mmm は月 (英語月名の頭3文字。例: APR)、yyyy は西暦年)

day-list: 曜日リスト (MON、TUE、WED、THU、FRI、SAT、SUN、WEEKDAY、WEEKEND、ALL の組み合わせ。複数指定時はカンマで区切る)

string: 文字列 (1~40 文字。空白を含む場合はダブルクォートで囲む)

count: 回数 (1~4294967294)

解説

メモリートリガーの設定パラメーターを変更する。

パラメーター

TRIGGER トリガー番号

MEMORY しきい値。空きメモリー容量をパーセンテージで指定する。

DIRECTION 起動条件。UP (しきい値まで上がるか上回ったとき)、DOWN (しきい値まで下がるか下回ったとき)、ANY (両方) から選択する。デフォルトは ANY。

AFTER 一日のうちトリガーが有効な時間を制限するパラメーター。トリガーは、AFTER で指定した時刻から深夜 24 時までの間だけ有効となる。

BEFORE 一日のうちトリガーが有効な時間を制限するパラメーター。トリガーは、深夜 0 時から BEFORE で指定した時刻までの間だけ有効となる。

DATE 一年のうちトリガーが有効な日を一日だけに制限するパラメーター。DAYS と同時には指定できない。

DAYS 一週間のうちトリガーが有効な日を制限するパラメーター。カンマ区切りで複数曜日を指定可能。WEEKDAY は MON,TUE,WED,THU,FRI と同義。また、WEEKEND は SAT,SUN と同義。ALL はすべての曜日。デフォルトは ALL。DATE と同時には指定できない。

NAME トリガー名。SHOW TRIGGER コマンドで表示されるもので、メモとして使う。

REPEAT トリガーを一度だけ実行するか、それとも、何度でも繰り返し実行するかを指定する。繰り返しを許す場合は、繰り返しの限度も指定できる。YES と FOREVER は同義で、実行回数に制限を設けないことを示す。NO と ONCE は同義で、一回だけしか実行を許可しないことを示す。回数を指定した場合は、指定回数まで実行を許可する。デフォルトは FOREVER。

TEST トリガーをテストモードにするかどうか。テストモードのトリガーは起動されても、SCRIPT パラメーターで指定したスクリプトを実行せず、ログにトリガーの起動を記録するだけ。ただし、ACTIVATE TRIGGER コマンドで手動起動された場合は、テストモードであってもスクリプトが実

行される。デフォルトは NO。

関連コマンド

ACTIVATE TRIGGER (100 ページ)

ADD TRIGGER (117 ページ)

CREATE TRIGGER MEMORY (141 ページ)

DESTROY TRIGGER (170 ページ)

DISABLE TRIGGER (188 ページ)

ENABLE TRIGGER (213 ページ)

SHOW TRIGGER (364 ページ)

SET TRIGGER MODULE

カテゴリー：運用・管理 / トリガー

```
SET TRIGGER=trigger-id [MODULE] [module-parameters...] [AFTER=time]
[BEFORE=time] [{DATE=date|DAYS=day-list}] [NAME=string] [REPEAT={YES|NO|
ONCE|FOREVER|count}] [TEST={YES|NO|ON|OFF}]
```

trigger-id: トリガー番号 (1~100)

module-parameters: モジュール独自のパラメーター

time: 時刻 (hh:mm の形式。hh は時 (0~23)、mm は分 (0~59))

date: 日付 (dd-mmm-yyyy の形式。dd は日 (1~31)、mmm は月 (英語月名の頭3文字。例: APR)、yyyy は西暦年)

day-list: 曜日リスト (MON、TUE、WED、THU、FRI、SAT、SUN、WEEKDAY、WEEKEND、ALL の組み合わせ。複数指定時はカンマで区切る)

string: 文字列 (1~40 文字。空白を含む場合はダブルクォートで囲む)

count: 回数 (1~4294967294)

解説

モジュールトリガーの設定パラメーターを変更する。

パラメーター

TRIGGER トリガー番号

AFTER 一日のうちトリガーが有効な時間を制限するパラメーター。トリガーは、AFTER で指定した時刻から深夜 24 時までの間だけ有効となる。

BEFORE 一日のうちトリガーが有効な時間を制限するパラメーター。トリガーは、深夜 0 時から BEFORE で指定した時刻までの間だけ有効となる。

DATE 一年のうちトリガーが有効な日を一日だけに制限するパラメーター。DAYS と同時には指定できない。

DAYS 一週間のうちトリガーが有効な日を制限するパラメーター。カンマ区切りで複数曜日を指定可能。WEEKDAY は MON,TUE,WED,THU,FRI と同義。また、WEEKEND は SAT,SUN と同義。ALL はすべての曜日。デフォルトは ALL。DATE と同時には指定できない。

NAME トリガー名。SHOW TRIGGER コマンドで表示されるもので、メモとして使う。

REPEAT トリガーを一度だけ実行するか、それとも、何度でも繰り返し実行するかを指定する。繰り返しを許す場合は、繰り返しの限度も指定できる。YES と FOREVER は同義で、実行回数に制限を設けないことを示す。NO と ONCE は同義で、一回だけしか実行を許可しないことを示す。回数を指定した場合は、指定回数まで実行を許可する。デフォルトは FOREVER。

TEST トリガーをテストモードにするかどうか。テストモードのトリガーは起動されても、SCRIPT パラメーターで指定したスクリプトを実行せず、ログにトリガーの起動を記録するだけ。ただし、ACTIVATE TRIGGER コマンドで手動起動された場合は、テストモードであってもスクリプトが実行される。デフォルトは NO。

関連コマンド

ACTIVATE TRIGGER (100 ページ)
ADD TRIGGER (117 ページ)
CREATE TRIGGER MODULE (143 ページ)
DESTROY TRIGGER (170 ページ)
DISABLE TRIGGER (188 ページ)
ENABLE TRIGGER (213 ページ)
SHOW TRIGGER (364 ページ)

SET TRIGGER PERIODIC

カテゴリー：運用・管理 / トリガー

```
SET TRIGGER=trigger-id [PERIODIC[=minutes]] [{DATE=date|DAYS=day-list}]
[AFTER=time] [BEFORE=time] [{DATE=date|DAYS=day-list}] [NAME=string]
[REPEAT={YES|NO|ONCE|FOREVER|count}] [TEST={YES|NO|ON|OFF}]
```

trigger-id: トリガー番号 (1~100)

minutes: 時間 (1~1439 分)

date: 日付 (dd-mmm-yyyy の形式。dd は日 (1~31)、mmm は月 (英語月名の頭 3 文字。例: APR)、yyyy は西暦年)

day-list: 曜日リスト (MON、TUE、WED、THU、FRI、SAT、SUN、WEEKDAY、WEEKEND、ALL の組み合わせ。複数指定時はカンマで区切る)

time: 時刻 (hh:mm の形式。hh は時 (0~23)、mm は分 (0~59))

string: 文字列 (1~40 文字。空白を含む場合はダブルクォートで囲む)

count: 回数 (1~4294967294)

解説

定期トリガーの設定パラメーターを変更する。

パラメーター

TRIGGER トリガー番号

PERIODIC トリガーの起動間隔を分で指定する。

DATE 一年のうちトリガーが有効な日を一日だけに制限するパラメーター。DAYS と同時には指定できない。

DAYS 一週間のうちトリガーが有効な日を制限するパラメーター。カンマ区切りで複数曜日を指定可能。WEEKDAY は MON,TUE,WED,THU,FRI と同義。また、WEEKEND は SAT,SUN と同義。ALL はすべての曜日。デフォルトは ALL。DATE と同時には指定できない。

AFTER 一日のうちトリガーが有効な時間を制限するパラメーター。トリガーは、AFTER で指定した時刻から深夜 24 時までの間だけ有効となる。

BEFORE 一日のうちトリガーが有効な時間を制限するパラメーター。トリガーは、深夜 0 時から BEFORE で指定した時刻までの間だけ有効となる。

NAME トリガー名。SHOW TRIGGER コマンドで表示されるもので、メモとして使う。

REPEAT トリガーを一度だけ実行するか、それとも、何度でも繰り返し実行するかを指定する。繰り返しを許す場合は、繰り返しの限度も指定できる。YES と FOREVER は同義で、実行回数に制限を設けないことを示す。NO と ONCE は同義で、一回だけしか実行を許可しないことを示す。回数を指定した場合は、指定回数まで実行を許可する。デフォルトは FOREVER。

TEST トリガーをテストモードにするかどうか。テストモードのトリガーは起動されても、SCRIPT パラメーターで指定したスクリプトを実行せず、ログにトリガーの起動を記録するだけ。ただし、ACTIVATE TRIGGER コマンドで手動起動された場合は、テストモードであってもスクリプトが実行される。デフォルトは NO。

関連コマンド

ACTIVATE TRIGGER (100 ページ)

ADD TRIGGER (117 ページ)

CREATE TRIGGER PERIODIC (145 ページ)

DESTROY TRIGGER (170 ページ)

DISABLE TRIGGER (188 ページ)

ENABLE TRIGGER (213 ページ)

SHOW TRIGGER (364 ページ)

SET TRIGGER REBOOT

カテゴリー：運用・管理 / トリガー

```
SET TRIGGER=trigger-id [REBOOT[={RESTART|CRASH|ALL}]] [AFTER=time]
[BEFORE=time] [{DATE=date|DAYS=day-list}] [NAME=string] [REPEAT={YES|NO|
ONCE|FOREVER|count}] [TEST={YES|NO|ON|OFF}]
```

trigger-id: トリガー番号 (1~100)

time: 時刻 (hh:mm の形式。hh は時 (0~23)、mm は分 (0~59))

date: 日付 (dd-mmm-yyyy の形式。dd は日 (1~31)、mmm は月 (英語月名の頭3文字。例: APR)、yyyy は西暦年)

day-list: 曜日リスト (MON、TUE、WED、THU、FRI、SAT、SUN、WEEKDAY、WEEKEND、ALL の組み合わせ。複数指定時はカンマで区切る)

string: 文字列 (1~40 文字。空白を含む場合はダブルクォートで囲む)

count: 回数 (1~4294967294)

解説

再起動トリガーの設定パラメーターを変更する。

パラメーター

TRIGGER トリガー番号

REBOOT トリガーの起動条件となる再起動イベントを指定する。CRASH はクラッシュによる再起動、RESTART はクラッシュ以外の原因による再起動を意味する。ALL はすべての再起動を示す。

DATE 一年のうちトリガーが有効な日を一日だけに制限するパラメーター。DAYS と同時には指定できない。

DAYS 一週間のうちトリガーが有効な日を制限するパラメーター。カンマ区切りで複数曜日を指定可能。WEEKDAY は MON,TUE,WED,THU,FRI と同義。また、WEEKEND は SAT,SUN と同義。ALL はすべての曜日。デフォルトは ALL。DATE と同時には指定できない。

AFTER 一日のうちトリガーが有効な時間を制限するパラメーター。トリガーは、AFTER で指定した時刻から深夜 24 時までの間だけ有効となる。

BEFORE 一日のうちトリガーが有効な時間を制限するパラメーター。トリガーは、深夜 0 時から BEFORE で指定した時刻までの間だけ有効となる。

NAME トリガー名。SHOW TRIGGER コマンドで表示されるもので、メモとして使う。

REPEAT トリガーを一度だけ実行するか、それとも、何度でも繰り返し実行するかを指定する。繰り返しを許す場合は、繰り返しの限度も指定できる。YES と FOREVER は同義で、実行回数に制限を設けないことを示す。NO と ONCE は同義で、一回だけしか実行を許可しないことを示す。回数を指定した場合は、指定回数まで実行を許可する。デフォルトは FOREVER。

TEST トリガーをテストモードにするかどうか。テストモードのトリガーは起動されても、SCRIPT パラメーターで指定したスクリプトを実行せず、ログにトリガーの起動を記録するだけ。ただし、ACTIVATE TRIGGER コマンドで手動起動された場合は、テストモードであってもスクリプトが実行される。デフォルトは NO。

関連コマンド

ACTIVATE TRIGGER (100 ページ)

ADD TRIGGER (117 ページ)

CREATE TRIGGER REBOOT (147 ページ)

DESTROY TRIGGER (170 ページ)

DISABLE TRIGGER (188 ページ)

ENABLE TRIGGER (213 ページ)

SHOW TRIGGER (364 ページ)

SET TRIGGER TIME

カテゴリー：運用・管理 / トリガー

```
SET TRIGGER=trigger-id [TIME[=time]] [{DATE=date|DAYS=day-list}]
[NAME=string] [REPEAT={YES|NO|ONCE|FOREVER|count}] [TEST={YES|NO|ON|
OFF}]
```

trigger-id: トリガー番号 (1~100)

time: 時刻 (hh:mm の形式。hh は時 (0~23)、mm は分 (0~59))

date: 日付 (dd-mmm-yyyy の形式。dd は日 (1~31)、mmm は月 (英語月名の頭3文字。例: APR)、yyyy は西暦年)

day-list: 曜日リスト (MON、TUE、WED、THU、FRI、SAT、SUN、WEEKDAY、WEEKEND、ALL の組み合わせ。複数指定時はカンマで区切る)

string: 文字列 (1~40 文字。空白を含む場合はダブルクォートで囲む)

count: 回数 (1~4294967294)

解説

定時トリガーの設定パラメーターを変更する。

パラメーター

TRIGGER トリガー番号

TIME トリガーの起動時刻を指定する。分まで指定できるが、前後約5秒の誤差がある。一般的には指定時刻の5秒後に起動されることが多い。

DATE 一年のうちトリガーが有効な日を一日だけに制限するパラメーター。DAYS と同時には指定できない。

DAYS 一週間のうちトリガーが有効な日を制限するパラメーター。カンマ区切りで複数曜日を指定可能。WEEKDAY は MON,TUE,WED,THU,FRI と同義。また、WEEKEND は SAT,SUN と同義。ALL はすべての曜日。デフォルトは ALL。DATE と同時には指定できない。

NAME トリガー名。SHOW TRIGGER コマンドで表示されるもので、メモとして使う。

REPEAT トリガーを一度だけ実行するか、それとも、何度でも繰り返し実行するかを指定する。繰り返しを許す場合は、繰り返しの限度も指定できる。YES と FOREVER は同義で、実行回数に制限を設けないことを示す。NO と ONCE は同義で、一回だけしか実行を許可しないことを示す。回数を指定した場合は、指定回数まで実行を許可する。デフォルトは FOREVER。

TEST トリガーをテストモードにするかどうか。テストモードのトリガーは起動されても、SCRIPT パラメーターで指定したスクリプトを実行せず、ログにトリガーの起動を記録するだけ。ただし、ACTIVATE TRIGGER コマンドで手動起動された場合は、テストモードであってもスクリプトが実行される。デフォルトは NO。

関連コマンド

ACTIVATE TRIGGER (100 ページ)

ADD TRIGGER (117 ページ)
CREATE TRIGGER TIME (149 ページ)
DESTROY TRIGGER (170 ページ)
DISABLE TRIGGER (188 ページ)
ENABLE TRIGGER (213 ページ)
SHOW TRIGGER (364 ページ)

SET TTY

カテゴリー：運用・管理 / ターミナルサービス

```
SET TTY [HISTORY=0..99] [PAGE=4..99] [PROMPT={string|DEFAULT|OFF}]
[TYPE={DUMB|VT100}]
```

string: 文字列（1～15 文字。空白を含む場合はダブルクォートで囲む）

解説

外部からの Telnet 接続時に動的作成される仮想端末デバイス（TTY）のデフォルト属性値を設定する。

パラメーター

HISTORY コマンドバッファに保存するコマンド履歴の最大数を 0～99 の範囲で指定する。HISTORY パラメーターにゼロをセットしても、すでに存在するコマンド履歴は消去されない。コマンド履歴を削除するには、RESET ASYN HISTORY コマンドを使う。デフォルトは 30。

PAGE 端末の 1 画面当たり行数を 4～99 の範囲で指定する。デフォルトは 22。OFF を指定した場合は、ページ単位での一時停止が行われなくなる。

PROMPT プロンプト文字列。DEFAULT を指定するとデフォルトに戻る。

TYPE 非同期ポートに接続する端末の種類。VT100 を指定した場合、標準的な VT100 エスケープシーケンスが使用される。DUMB に設定した場合は、VT100 エスケープシーケンスを使用せず、ダム端末モードで動作する。デフォルトは VT100。

関連コマンド

SET ASYN（「インターフェース」の 35 ページ）

SHOW ASYN（「インターフェース」の 47 ページ）

SHOW TTY（369 ページ）

SET USER

カテゴリー：運用・管理 / ユーザー認証データベース

```
SET USER=login-name [LOGIN={TRUE|FALSE|ON|OFF|YES|NO}]
    [DESCRIPTION=string] [PASSWORD=password] [PRIVILEGE={USER|MANAGER|
    SECURITYOFFICER}] [TELNET={YES|NO}] [IPADDRESS=ipadd] [NETMASK=ipadd]
    [MTU=40..1500]
```

```
SET USER [LOGIN={TRUE|FALSE|ON|OFF|YES|NO}] [LOGINFAIL=1..10]
    [LOCKOUTPD=0..30000] [MANPWDFAIL=1..5] [SECUREDELAY=10..3600]
    [MINPWDLLEN=1..23]
```

login-name: ログイン名 (1~64 文字。英数字のみ使用可能。大文字小文字を区別しない。空白不可)

string: 文字列 (1~24 文字)

password: パスワード (1~32 文字。大文字小文字を区別する)

ipadd: IP アドレスまたはネットマスク

解説

登録ユーザーの情報を変更する (ユーザー名を指定したとき)。あるいは、ユーザー認証データベースのグローバル設定パラメーターを変更する (ユーザー名を指定しなかったとき)。

パラメーター

USER ログイン名。大文字小文字を区別しない。ログイン名を指定したときは、該当ユーザーの設定を変更する。ログイン名を指定しなかったときは、ユーザー認証データベースのグローバル設定を変更する。

LOGIN **USER** (一般ユーザー) レベルのユーザーにコマンドラインインターフェースへのログインを許可かどうか。ユーザーレベルが **MANAGER/SECURITYOFFICER** のユーザーにもログインを許可しないよう設定できるため注意が必要。USER パラメーターでログイン名を指定しなかった場合は、現在登録されている **USER** レベルの全ユーザーの **LOGIN** パラメーターが変更される。

DESCRIPTION ユーザーに関するコメント

PASSWORD パスワード。大文字小文字を区別する。

PRIVILEGE ユーザーレベル。一般ユーザー (**USER**)、管理者 (**MANAGER**)、Security Officer (**SECURITYOFFICER**) から選択する。

TELNET 別ホストへの Telnet を許可かどうか。ログインしたユーザーに **TELNET** コマンドを使用させるかどうかを指定する。

IPADDRESS ユーザーに割り当てる IP アドレス。NETMASK と組で指定する。

NETMASK ユーザーが使用すべきネットマスク。IPADDRESS と組で指定する。

MTU ユーザーの MTU 値を 40~1500 の範囲で指定する。

LOGINFAIL 連続したログイン失敗の最大数。デフォルトは 5 回。コンソールターミナルで **LOGINFAIL**

回連続してログインに失敗すると、次のログインプロンプトが表示されるまで LOCKOUTPD 秒待たされる。Telnet 接続時はセッションが切断され、該当ホストからの Telnet 接続が LOCKOUTPD 秒間拒否される。

LOCKOUTPD LOGINFAIL 回連続してログインに失敗した場合に、次のログインプロンプトを表示するまでの待機時間（秒）。Telnet 接続でのログイン連続失敗時は該当ホストからの Telnet 接続を拒否する時間。デフォルトは 600 秒。

MANPWDFAIL セキュリティーコマンド（ADD USER コマンド、DELETE USER コマンド、PURGE USER コマンド、SET MANAGER ASYN コマンド、SET USER コマンド）入力時のパスワード入力で失敗が許される最大回数。デフォルトは 3。

SECUREDELAY セキュリティーコマンドのタイムアウト。デフォルトは 60 秒。

MINPWDLEN パスワードの最小文字数。デフォルトは 6 文字。

例

- ユーザー secadmin のパスワードを変更する。

```
SET USER=secadmin PASSWORD=newpass
```

- 10 文字よりも短いパスワードを設定できないようにする。

```
SET USER MINPWDLEN=10
```

関連コマンド

ADD USER (119 ページ)

DELETE USER (165 ページ)

DISABLE SYSTEM SECURITY_MODE (186 ページ)

DISABLE USER (189 ページ)

ENABLE SYSTEM SECURITY_MODE (211 ページ)

ENABLE USER (214 ページ)

PURGE USER (230 ページ)

RESET USER (236 ページ)

SHOW USER (372 ページ)

SHOW ALIAS

カテゴリー：運用・管理 / コマンドプロセッサ

SHOW ALIAS

解説

定義済みエイリアスの一覧を表示する。

入力・出力・画面例

```
Manager > show alias
Alias ..... ls
  String .... show file

Alias ..... mv
  String .... rename
```

関連コマンド

ADD ALIAS (101 ページ)

DELETE ALIAS (152 ページ)

SHOW BUFFER

カテゴリー：運用・管理 / システム

SHOW BUFFER

解説

搭載メモリー、空きメモリーなどの情報を表示する。

入力・出力・画面例

```
Manager > show buffer

Memory ( DRAM ) ..... 65536 kB
Free Memory ..... 87 %
Free fast buffers ..... 0
Total fast buffers ..... 0
Free buffers ..... 28733
Total buffers ..... 29535
Buffer level 3 ..... 125 (don't process input frames)
Buffer level 2 ..... 250 (don't do monitor or command output)
Buffer level 1 ..... 500 (don't buffer up log messages)
```

Memory (DRAM)	実装されている DRAM メモリーの総容量
)	
Free Memory	DRAM メモリーの空き (%)
Free fast buffer	未使用の高速メモリーバッファ数。この値が 0 であっても、通常のメモリーバッファ (Free buffers) が空いていれば問題ない
Total fast buffer	高速メモリーバッファの総数。高速メモリーバッファは、DRAM 上の特定領域に確保されたバッファで、他の領域に確保されたバッファよりも高速なアクセスが可能。ロードされたリリースファイルやパッチファイルの大きさによって、高速メモリーバッファの総数は変動する。また、高速メモリーバッファを使用できない機種もある (その場合、Total fast buffer は 0 となる)
Free buffers	未使用のメモリーバッファ数
Total Free buffers	メモリーバッファの総数
Buffer level n	未使用のメモリーバッファ数が、各レベルで指定した数以下になると、カッコ内に表示されている処理を停止する

表 29:

SHOW CONFIG

カテゴリー：運用・管理 / コンフィグレーション

SHOW CONFIG [DYNAMIC [=module-name]]

module-name: モジュール名

解説

起動時設定ファイル名を表示する。また、DYNAMIC オプションを指定した場合は、現在の設定内容（メモリー上の設定内容）を設定ファイルと同じ形式で表示する。

パラメーター

DYNAMIC 現在の設定内容を設定スクリプトの形式で表示する。モジュール名を指定した場合（例：SHOW CONFIG DYNAMIC=IP）は、該当モジュールの設定だけが表示される。

入力・出力・画面例

```
Manager > show config

Boot configuration file: ispfw.cfg (exists)
Current configuration: ispfw.cfg

Manager > show config dynamic=firewall

#
# FIREWALL configuration
#
enable firewall
create firewall policy="net"
disable firewall policy="net" identproxy
enable firewall policy="net" log=inal,inde
enable firewall policy="net" icmp_f=all
add firewall policy="net" int=vlan1 type=private
add firewall policy="net" int=ppp0 type=public
add firewall poli="net" nat=enhanced int=vlan1 gblin=ppp0
```

Boot configuration file	起動時設定ファイル名（カッコ内は該当ファイルが存在しているかどうか）。 起動時設定ファイルが設定されていないときは、「Not set」と表示される
Current Configuration	最後の（再）起動時に読み込んだ設定ファイル名

表 30:

関連コマンド

CREATE CONFIG (124 ページ)

RESTART (237 ページ)

SET CONFIG (239 ページ)

SHOW CPU

カテゴリー：運用・管理 / システム

SHOW CPU

解説

CPU の使用状況を表示する。

入力・出力・画面例

```
Manager > show cpu
```

```
CPU Utilisation ( as a percentage )
```

```
-----
Maximum since router restarted ..... 30
Maximum over last 5 minutes ..... 30
Average since router restarted ..... 1
Average over last 5 minutes ..... 1
Average over last minute ..... 1
Average over last 10 seconds ..... 2
Average over last second ..... 14
-----
```

Maximum since router restarted	最大負荷率
Maximum over last 5 minutes	過去 5 分間の最大負荷率
Average since router restarted	平均負荷率
Average over last 5 minutes	過去 5 分間の平均負荷率
Average over last minute	過去 1 分間の平均負荷率
Average over last 10 seconds	過去 10 秒間の平均負荷率
Average over last second	過去 1 秒間の平均負荷率

表 31:

関連コマンド

SHOW BUFFER (290 ページ)

SHOW DEBUG

カテゴリー：運用・管理 / システム

SHOW DEBUG [STACK]

解説

デバッグ情報を表示する。

パラメーター

STACK 前回クラッシュしたときのスタックダンプを表示する。

入力・出力・画面例

```
Manager > show debug stack
-----
This is a PRODUCTION version of code
-----

Router RESTART occurred
Check exception table for restart cause

STACK DUMP
-----

00001260: 00000000 00000580 00000001 00000001
00001270: 00010000 ffffffff 45464748 494a4b4c
00001280: 005c8338 00001034 4d4e4f50 51525354
00001290: 55565758 595a4142 00001449 45462000
000012a0: 20004344 4546c008 43444546 43444546
000012b0: 000e13f8 000a00d6 4748494a 4b4c4d4e
000012c0: 4f505152 53545556 5758595a 41424344
000012d0: 45464748 494a4b4c 4d4e4f50 51525354
000012e0: 55565758 595a4142 43444546 4748494a
000012f0: 4b4c4d4e 4f505152 53545556 5758595a
```

関連コマンド

SHOW EXCEPTION (295 ページ)

SHOW LOG (315 ページ)

SHOW STARTUP (358 ページ)

SHOW SYSTEM (359 ページ)

SHOW EXCEPTION

カテゴリー：運用・管理 / システム

SHOW EXCEPTION

解説

例外発生ログを表示する。

入力・出力・画面例

```

Manager > show exception

Spurious interrupts = 0

Router exception list
-----
No: 01
  Offset/Type : $008/Bus error          Address   : $43444546
  Time        : 12:49:15 on 28-Sep-2001  Clock Log  : 12:48:16 on 28-Sep-2001
  SSW         : $00d6                   Fault Addr : $43444546

No: 02
  Offset/Type : $07c/Watchdog timer      Address   : $002cd46a
  Time        : 12:46:19 on 28-Sep-2001  Clock Log  : 12:45:37 on 28-Sep-2001

No: 03
  Offset/Type : $008/Bus error          Address   : $002d1eda
  Time        : 12:40:40 on 28-Sep-2001  Clock Log  : 12:40:38 on 28-Sep-2001
  SSW         : $0045                   Fault Addr : $51009e18

No: 04
  Offset/Type : $008/Bus error          Address   : $002d1eda
  Time        : 12:34:40 on 28-Sep-2001  Clock Log  : 12:34:22 on 28-Sep-2001
  SSW         : $0045                   Fault Addr : $51009e20

No: 05
  Offset/Type : $008/Bus error          Address   : $002d1eda
  Time        : 12:06:25 on 28-Sep-2001  Clock Log  : 12:06:05 on 28-Sep-2001
  SSW         : $0045                   Fault Addr : $51009e18

No: 06
  Offset/Type : $008/Bus error          Address   : $002d1eda
  Time        : 11:53:09 on 28-Sep-2001  Clock Log  : 11:52:09 on 28-Sep-2001
  SSW         : $0045                   Fault Addr : $51009e18

No: 07

```

SHOW EXCEPTION

Offset/Type	: \$008/Bus error	Address	: \$002d1eda
Time	: 18:44:18 on 19-Sep-2001	Clock Log	: 18:44:03 on 19-Sep-2001
SSW	: \$0045	Fault Addr	: \$51009e20

SHOW FEATURE

カテゴリー：運用・管理 / ソフトウェア

SHOW FEATURE [= {featurename|index}]

featurename: フィーチャー名 (1~12 文字)

index: フィーチャー番号 (1~)

解説

フィーチャーライセンスの情報を表示する。

パラメーター

FEATURE フィーチャー名または SHOW FEATURE コマンドで表示されるフィーチャー番号。省略時はすべてのフィーチャーの概要が表示される。指定時は該当フィーチャーの詳細な情報が表示される。

入力・出力・画面例

```

Manager > show feature

The Special Feature Licences:

Index   FeatureName   Licence   Period
-----
1       factory     full      -
-----

The current valid features :

Secure Shell
FIREWALL
IPv6

```

Index	フィーチャーライセンスのインデックス番号
FeatureName	フィーチャー名
Licence	ライセンスの種類。Full (フルライセンス)、「password incorrect」(パスワード無効のため使用不可)のいずれか
Period	ライセンスの有効期間。フルライセンスの場合は「-」
The current valid features	本ライセンスにより使用可能な機能の一覧

表 32:

関連コマンド

DISABLE FEATURE (171 ページ)

ENABLE FEATURE (196 ページ)

SHOW FFILE

カテゴリー：運用・管理 / 記憶装置とファイルシステム

SHOW FFILE [=filename] [CHECK]

filename: ファイル名（ワイルドカード指定可能）

解説

フラッシュファイルシステム（FFS）上のファイル一覧およびフラッシュメモリーの空き容量などを表示する。

パラメーター

FFILE ファイル名パターン（ワイルドカード）またはファイル名を指定する。省略時はすべてのファイルが表示される。長い名前（16.3 形式）は認識しないので、短い名前（8.3 形式）で指定すること。

CHECK ファイルのチェックサムを照合する。

入力・出力・画面例

```
Manager > show ffile
```

module	name	type	size	file date & time	address	check
	100f	cfg	31	31-Mar-2003 17:09:09	707415EC	-
	100h	cfg	31	31-Mar-2003 17:08:34	7074152C	-
	10f	cfg	30	31-Mar-2003 17:08:46	7074158C	-
	10h	cfg	32	31-Mar-2003 17:08:20	707414CC	-
	10on	cfg	1827	17-Mar-2003 12:38:13	70740D68	-
	full	cfg	1895	13-Mar-2003 09:53:14	707405C0	-
	gaza	cfg	1851	10-Apr-2003 09:05:50	70743C78	-
	gaza2	cfg	1825	08-Apr-2003 08:56:39	70741724	-
	ip1	cfg	42	07-Apr-2003 11:52:53	7074164C	-
	ip2	cfg	42	07-Apr-2003 11:53:20	707416B8	-
	pppoe	cfg	687	12-Mar-2003 08:27:37	70740268	-
	sec	cfg	739	15-Apr-2003 14:16:08	7097E834	-
	test	cfg	1833	10-Apr-2003 11:45:53	707443F4	-
	w100f	cfg	1851	08-Apr-2003 08:59:44	707434FC	-
	w100h	cfg	1851	08-Apr-2003 08:59:32	70742D80	-
	w10f	cfg	1850	08-Apr-2003 08:59:20	70742604	-
	w10h	cfg	1850	08-Apr-2003 08:59:05	70741E88	-
	config	ins	32	15-Apr-2003 14:16:32	7097ECE8	-
	gui	ins	64	15-Apr-2003 14:09:16	7097E734	-
	prefer	ins	64	15-Apr-2003 14:09:18	7097E7B4	-
	longname	lfn	60	06-Mar-2003 11:03:21	707400EC	-
	feature	lic	39	15-Apr-2003 14:09:14	7097E6CC	-

	ppplink	log	40	12-Mar-2003	08:28:40	70740558	-
	random	rnd	3904	10-Apr-2003	19:06:40	70744B60	-
	enabled	sec	8	15-Apr-2003	14:16:23	7097EC18	-
	enc1	ukf	72	15-Apr-2003	14:16:28	7097EC60	-
inst	release	lic	64	15-Apr-2003	14:09:12	7097E64C	-
load	54-252	rez	2329388	15-Apr-2003	14:08:36	70745AE0	-

flash use:							
	files	2353960 bytes		(28 files)			
	garbage	544 bytes					
	free	30020280 bytes					
	block size .	131072 bytes					
	total	32505856 bytes					

dev	ファイルが格納されているデバイス名
creator	ファイルの作成者（モジュール名）
name	ファイル名（拡張子を除く）
type	ファイルタイプ（拡張子）
size	ファイルサイズ（バイト）
file date & time	ファイル作成日時
address	ファイルの開始アドレス（16 進数）
check	データチェックの結果（CHECK オプション指定時にのみ表示される）
files	フラッシュメモリー上のファイル占有容量
garbage	フラッシュメモリー上の削除ファイル（ゴミ）占有容量
free	フラッシュメモリーの空き容量
block size	必要最小ブロックサイズ
total	フラッシュメモリーの総容量

表 33:

関連コマンド

CREATE FFILE (125 ページ)

DELETE FFILE (153 ページ)

SHOW FILE

カテゴリー：運用・管理 / 記憶装置とファイルシステム

SHOW FILE [=filename]

filename: ファイル名（ワイルドカード指定可能）

解説

ファイルシステム上のファイル一覧、あるいは指定したテキストファイルの内容を表示する。

パラメーター

FILE ファイル名パターン（ワイルドカード）またはファイル名を指定する。省略時はファイル一覧が表示される。パターン指定時は、マッチするファイルの一覧が表示される。ファイル名を指定した場合は、該当ファイルがテキストファイルならその内容が表示される。テキストファイルでない場合は、その旨が表示される。。ファイル名（ベース名）部分が8文字を超える長い名前のファイルが存在するときは、本パラメーターに longname.lfn を指定すると、長い名前（16.3形式）と短い名前（8.3形式）の対応表が表示される。

入力・出力・画面例

Manager > show file					
Filename	Device	Size	Created	Locks	
54-252.rez	flash	2329388	15-Apr-2003 14:08:36	0	
config.ins	flash	32	15-Apr-2003 14:16:32	0	
enabled.sec	flash	8	15-Apr-2003 14:16:23	0	
enc1.ukf	flash	72	15-Apr-2003 14:16:28	0	
feature.lic	flash	39	15-Apr-2003 14:09:14	0	
full.cfg	flash	1895	13-Mar-2003 09:53:14	0	
gui.ins	flash	64	15-Apr-2003 14:09:16	0	
longname.lfn	flash	60	06-Mar-2003 11:03:21	0	
ppplink.log	flash	40	12-Mar-2003 08:28:40	0	
pppoe.cfg	flash	687	12-Mar-2003 08:27:37	0	
prefer.ins	flash	64	15-Apr-2003 14:09:18	0	
random.rnd	flash	3904	10-Apr-2003 19:06:40	0	
release.lic	flash	64	15-Apr-2003 14:09:12	0	
sec.cfg	flash	739	15-Apr-2003 14:16:08	0	

Filename	ファイル名
Device	ファイルが格納されているデバイス名。flash または nvs
Size	ファイルサイズ (バイト)
Created	ファイル作成日時
Locks	ファイルを使用しているプロセスの数

表 34: ファイラー一覧の表示項目

例

- ファイルシステム上のファイラー一覧を表示

```
SHOW FILE
```

- 設定ファイル (.cfg) の一覧を表示

```
SHOW FILE=* .cfg
```

- 設定ファイル ip.cfg の内容を表示

```
SHOW FILE=ip.cfg
```

- 長い名前 (16.3 形式) と短い名前 (8.3 形式) の対応表を表示

```
SHOW FILE=longname.lfn
```

関連コマンド

DELETE FILE (154 ページ)

SHOW FILE PERMANENTREDIRECT

カテゴリー：運用・管理 / 記憶装置とファイルシステム

SHOW FILE [=filename] **PERMANENTREDIRECT**

filename: ファイル名

解説

コマンドやスクリプトの出力を保存（リダイレクト）するため書き込み用にオープンされているファイルの情報を表示する。

ADD FILE コマンドや CREATE FILE コマンドを PERMANENTREDIRECT オプション付きで実行した場合、該当コマンドで指定したファイルは、RESET FILE PERMANENTREDIRECT コマンドを実行するまでオープン（かつロック）されたままの状態となる。本コマンドでは、それらオープン中のファイルを確認できる。

パラメーター

FILE 出力先のテキストファイル名。具体的なファイル名を省略した場合は、オープン中のすべてのファイルが対象となる

入力・出力・画面例

```
Manager > show file permanentredirect

TTY      Current  Limit   File
Instance Size
-----
      17      3451   204800 ipdebug.txt
-----

Manager > show file=ipdebug.txt permanentredirect
File..... ipdebug.txt
TTY Instance.... 17
Current size.... 5439
Limit..... 204800
Input(s)..... COMMAND="enable ip debug=all"
```

TTY Instance	仮想端末デバイス（TTY）番号
Current Size	ファイルサイズ（バイト）
Limit	ファイルサイズの上限值（バイト）

File	出力先ファイル名
------	----------

表 35: ファイル名無指定時

File	出力先ファイル名
TTY Instance	仮想端末デバイス (TTY) 番号
Current size	ファイルサイズ (バイト)
Limit	ファイルサイズの上限值 (バイト)
Input(s)	ファイルに出力される情報の出所。ADD FILE コマンド、CREATE FILE コマンドで指定した COMMAND、SCRIPT パラメーターの内容がそのまま表示される

表 36: ファイル名指定時

例

- オープン中のファイル一覧を表示する。

```
SHOW FILE PERMANENTREDIRECT
```

- オープン中のファイル ipdebug.txt の情報を表示する。

```
SHOW FILE=ipdebug.txt PERMANENTREDIRECT
```

関連コマンド

ADD FILE (102 ページ)

CREATE FILE (127 ページ)

RESET FILE PERMANENTREDIRECT (233 ページ)

SHOW FILE (301 ページ)

SHOW TTY (369 ページ)

SHOW FLASH

カテゴリー：運用・管理 / 記憶装置とファイルシステム

SHOW FLASH

解説

フラッシュファイルシステム（FFS）に関する情報を表示する。

入力・出力・画面例

```
Manager > show flash

FFS info:
global operation ..... none
compaction count ..... 4
est compaction time ... 90 seconds
files ..... 2353960 bytes   (28 files)
garbage ..... 544 bytes
free ..... 30020280 bytes
required free block ... 131072 bytes
total ..... 32505856 bytes

diagnostic counters:
event      successes      failures
-----
get         0             0
open        0             0
read       19             0
close      16             0
complete   1             0
write       7             0
create      1             0
put         0             0
delete      1             0
check      59             0
erase       0             0
compact     0             0
verify      0             0
-----
```

global operation	フラッシュに対して実行中の処理。none、restarting、erasing、compacting、verifying のいずれか
compaction count	全消去後のコンパクション実行回数

est compaction time	現時点におけるコンパクションの推定所要時間
files	ファイルが使用している容量
garbage	削除されたファイルが使用している容量
free	未使用容量
required free block	必要最小ブロックサイズ
total	フラッシュの総容量
diagnostic counters	各種 FFS オペレーションの成功/失敗回数

表 37:

関連コマンド

ACTIVATE FLASH COMPACTION (98 ページ)

SHOW FLASH PHYSICAL (307 ページ)

SHOW FLASH PHYSICAL

カテゴリー：運用・管理 / 記憶装置とファイルシステム

SHOW FLASH PHYSICAL

解説

フラッシュメモリーの物理情報を表示する。

入力・出力・画面例

```
Manager > show flash physical
total size ..... 16 MBytes
  available to FFS ... 15 MBytes
  available to boot .. 1 MBytes
device type ..... 28F128
devices ..... 1
location ..... built in
programming power ..... off
block erase time ..... 1000 milliseconds
total erase blocks .... 128
  FFS erase blocks ... 124
  Boot erase blocks .. 4
erase block size ..... 128 kBytes
erase bit state ..... 1
page buffers ..... 1
size of page buffer ... 32 bytes
```

total size	合計容量
available to FFS	フラッシュファイルシステム (FFS) に割り当てられた容量
available to boot	ブートコードに割り当てられた容量
device type	フラッシュデバイスのタイプ
devices	フラッシュデバイスの数
location	フラッシュメモリーの実装形態。「SIMM stick」か「built in」
programming power	プログラミングパワーの状態。on か off
block erase time	消去ブロック消去所要時間
total erase blocks	消去ブロック数
erase block size	消去ブロックサイズ (バイト)
erase bit state	消去ビットの状態
page buffers	ページバッファ数
size of page buffer	ページバッファサイズ (バイト)

表 38:

関連コマンド

SHOW FLASH (305 ページ)

SHOW HTTP SERVER

カテゴリー：運用・管理 / システム

SHOW HTTP SERVER

解説

HTTP サーバー（サポート対象外）の設定および状態を表示する。

入力・出力・画面例

```
Manager > show http server

HTTP Server
-----
Status ..... Enabled
SSL Security ..... OFF
SSL Key ID ..... -
Port ..... 80
Listen port ..... Open

Sessions opened ..... 77
Sessions closed ..... 76
Received requests ..... 1324
Unknown requests ..... 0
Transmitted replies ..... 1323
Aborted replies ..... 0
Transmitted replies on bad session .... 1
Authorisation successes ..... 1317
Authorisation failures ..... 7
-----
```

Status	HTTP サーバーの状態。Enabled または Disabled
SSL Security	未サポート
SSL Key ID	未サポート
Port	未サポート
Listen port	未サポート
Sessions opened	未サポート
Sessions closed	未サポート
Received requests	未サポート
Unknown requests	未サポート

Transmitted replies	未サポート
Aborted replies	未サポート
Transmitted replies on bad session	未サポート
Authorisation successes	未サポート
Authorisation failures	未サポート

表 39:

関連コマンド

DISABLE HTTP SERVER (172 ページ)

ENABLE HTTP SERVER (197 ページ)

SHOW INSTALL

カテゴリー：運用・管理 / ソフトウェア

SHOW INSTALL

解説

インストール（ファームウェア構成）情報を表示する。

入力・出力・画面例

```

Manager > show install

Install      Release                Patch                GUI
-----
Temporary    -                        -                    -
Preferred    flash:54273-03.rez      -                    -
Default      EPROM (54-1.0.5)        -                    -
-----

Current install
-----
Preferred    flash:54273-03.rez      -                    -
-----

Install history
-----
No Temporary release selected
Preferred release selected
Preferred release successfully installed
-----

```

Install	インストールの種類。Temporary、Preferred、Default のいずれか
Release	リリースファイル
Patch	パッチファイル
GUI	未サポート
Current install	現在実行中のファームウェア構成
Install history	起動時の INSTALL モジュールの動作記録

表 40:

関連コマンド

DELETE INSTALL (155 ページ)

SHOW INSTALL

SET INSTALL (241 ページ)

SHOW LOADER

カテゴリー：運用・管理 / アップロード・ダウンロード

SHOW LOADER

解説

LOADER モジュールのデフォルト設定値および進行中のファイル転送処理の状態を表示する。

入力・出力・画面例

```
Manager > show loader
```

```
Loader Information
```

```
-----
```

```
Defaults:
```

```
Method ..... TFTP
File ..... -
Server ..... -
HTTP Proxy ..... -
Proxy Port ..... Default ( 80 )
Asyn ..... -
Destination ..... Flash
Delay (sec) ..... 0
```

```
Last Load:
```

```
Method ..... -
File ..... -
Destination ..... -
Delay (sec) ..... 0
Status ..... Idle
Last Message ..... -
-----
```

Defaults	LOAD コマンドおよび UPLOAD コマンドのデフォルト値
Current Load	現在行われているファイル転送処理のパラメーター値
Last Load	前回のファイル転送処理で使用されたパラメーター値
Method	転送プロトコル。TFTP、HTTP (WEB、WWW)、ZMODEM のいずれか
File	転送中のファイル名
Server	サーバーの IP アドレスまたはホスト名 (TFTP または HTTP のときのみ有効)
HTTP Proxy	HTTP プロキシの IP アドレスまたはホスト名 (METHOD=HTTP で、プロキシ使用時のみ有効)

Proxy Port	HTTP プロキシの TCP ポート番号 (METHOD=HTTP で、プロキシ使用時のみ有効)
Asyn	非同期ポート番号 (METHOD=ZMODEM の場合のみ有効)
Destination	ダウンロード先デバイス
Delay	コマンド実行から実際にファイル転送処理を開始するまでの時間 (秒)
Status	LOADER モジュールの状態。Idle、Waiting、Loading、Load Complete、Load Aborted のいずれか。SHOW LOADER コマンドで「Load Complete」または「Load Aborted」と表示されたあと、もう一度 SHOW LOADER を実行すると、Status は「Idle」になる
Load Level	ファイル転送の進行状況 (%)。Status が Loading のときだけ表示される
Last Message	前回のファイル転送処理時のメッセージ。起動直後および転送処理実行中 (Loading) は「-」と表示される

表 41:

関連コマンド

LOAD (220 ページ)

SET LOADER (242 ページ)

UPLOAD (383 ページ)

SHOW LOG

カテゴリー：運用・管理 / ログ

```
SHOW LOG [=output-id] [DATE=[op]date] [DEVICE=[op]device]
[FILE=[op]filename] [FULL] [MASK=ipadd] [MODULE=[op]module-id] [MSGONLY]
[MSGTEXT=[op]string] [ORIGIN=ipadd] [REFERENCE=[op]string]
[REVERSE=[count]] [SEVERITY=[op]severity] [SOURCELINE=[op]line-num]
[SUBTYPE=[op]subtype-id] [TAIL=[count]] [TIME=[op]time]
[TYPE=[op]type-id] [ZONE={time-zone|utc-offset}]
```

output-id: ログ出力 ID (1~20)

op: 比較演算子 (「<」(小さい) 「>」(大きい) 「!」(等しくない) 「」(等しい) 「%」(以下の文字列を含む))

date: 日付 (dd-mmm-yyyy の形式。dd は日 (1~31) mmm は月 (英語月名の頭3文字。例: APR) yyyy は西暦年)

device: デバイス番号

filename: ファイル名 (1~12 文字)

ipadd: IP アドレスまたはネットマスク

string: 文字列

module-id: モジュール名またはモジュール番号 (0~255)

count: 個数 (1~)

severity: ログレベル (0~7)

line-num: 行番号 (1~)

subtype-id: ログメッセージのサブタイプ名または ID

time: 時刻 (hh:mm:ss の形式。hh は時 (0~23) mm は分 (0~59) ss は秒 (0~59))

type-id: ログメッセージのタイプ名または ID

time-zone: タイムゾーン名

utc-offset: 協定世界時 (UTC) からのオフセット (+23:59:59 ~ -23:59:59)

解説

ログを表示する。各種条件を指定して、表示項目を絞り込むこともできる。

パラメーター

LOG ログ出力先 ID。省略時は TEMPORARY (RAM 上のログ) が表示対象となる。

DATE メッセージの日付。省略時はすべての日付にマッチする。

DEVICE デバイス番号。省略時はすべてのデバイスにマッチする。

FILE 該当モジュールのソースプログラムファイル名 (例: logmain.c)。ソースファイル名は、SHOW LOG コマンドに FULL オプションを付けたときに表示される。省略時はすべてのファイル名にマッチする。

FULL ログメッセージの全フィールドを表示する。各メッセージは空行で区切られる。FULL オプションを付けないときは、各メッセージが簡潔なサマリーモードで表示される。

MASK ネットマスク。メッセージの生成元 IP アドレスを示す ORIGIN パラメーターと組み合わせて使用する。省略時は 255.255.255.255 (単一ホスト)。

MSGONLY ログメッセージのメッセージ本文だけを表示させたいときに指定する。

MSGTEXT メッセージ本文と比較する文字列。省略時はすべてのメッセージにマッチする。

MODULE モジュール番号またはモジュール名。省略時はすべてのモジュールにマッチする。

ORIGIN ログ生成元の IP アドレス。MASK パラメーターと組み合わせて範囲指定が可能。デフォルトではすべての IP アドレスにマッチする。

REFERENCE メッセージ中のリファレンス。省略時はすべてのリファレンスにマッチする。

REVERSE ログメッセージを逆順（新しい順）に表示する。数値を指定した場合は、最新の REVERSE 個が新しい順に表示される。

SEVERITY メッセージのログレベル。省略時はすべてのログレベルにマッチする。

SOURCELINE メッセージを生成したソースプログラムファイルの行番号。省略時はすべての行にマッチする。

SUBTYPE メッセージのサブタイプ名またはサブタイプ番号。省略時はすべてのサブタイプにマッチする。

TAIL 最新のログメッセージだけを表示する。単に TAIL と指定した場合は最新の 20 メッセージが表示される。値を指定したときは、最新の TAIL 個が表示される。

TIME メッセージの時刻。省略時はすべての時刻にマッチする。

TYPE メッセージのタイプ名またはサブタイプ番号。省略時はすべてのサブタイプにマッチする。

ZONE タイムゾーンを指定する。

入力・出力・画面例

```
Manager > show log
```

Date/Time	S	Mod	Type	SType	Message

15 14:16:32	4	ENCO	ENCO	PAC	1141 Encryption Processor Found.
15 14:16:32	4	ENCO	ENCO	PAC	1141 Encryption Processor Initialised.
15 14:16:32	4	ENCO	ENCO	STAC	STAC SW Initialised
15 14:16:32	3	LOG			IGMP Snooping is activated.
15 14:16:32	7	SYS	REST	NORM	Router startup, ver 2.5.2-00, 17-Dec-2002, Clock Log: 14:15:41 on 15-Apr-2003
15 14:16:32	4	USER	USER	ADD	A new user secoff has been added to the user database
15 14:16:32	3	IPSE	IPSC	MSG	IPSEC has been enabled
15 14:16:32	3	ISAK	IKMP	MSG	ISAKMP has been enabled
15 14:16:40	3	USER	USER	00011	secoff login failed on port0
15 14:16:43	3	USER	USER	LON	secoff login on port0
15 14:16:45	3	CH	MSG	WARN	No patches found
15 14:19:45	3	ISAK	IKMP	XCHG	Exchange 1: Phase 1 [resp] started with peer 192.168.100.2
15 14:19:46	3	ISAK	IKMP	XCHG	Exchange 1: Notification Received - DOI
15 14:19:46	3	ISAK	IKMP	XCHG	Exchange 1: Completed successfully
15 14:19:46	3	ISAK	IKMP	XCHG	Exchange 2: Phase 2 [resp] started with peer 192.168.100.2
15 14:19:46	3	ISAK	IKMP	XCHG	Exchange 2: Completed successfully
15 14:19:46	3	IPSE	IPSC	MSG	SA bundle created: Policy - vpn
15 14:22:55	3	CH	MSG	WARN	No patches found

Date/Time	ログメッセージの生成日時。日付は日（1～31）のみの表示
S	ログメッセージのログレベル
Mod	ログを生成したモジュール名
Type	メッセージタイプ
SType	メッセージサブタイプ
Message	メッセージ本文

表 42:

Date/Time	ログメッセージの生成日時。UTC オフセットを折り込み済み
S	ログメッセージのログレベル
Mod	ログを生成したモジュール名
Type	メッセージタイプ
SType	メッセージサブタイプ
Dev	ログメッセージのトリガーとなったデバイス（非同期ポートや TTY セッションなど）
Origin	ログメッセージの生成元。Local（自分自身が生成）またはリモートホスト（SRLP や syslog による転送元）の IP アドレス
MSGID	メッセージ ID
Source File/Line	ログメッセージを生成したモジュールのソースプログラムファイル名と行番号
Ref	ログメッセージの参考情報（Reference）フィールド
Flags	ログメッセージの Flags フィールド。LOCTIME、SECURE、CMDOUT がある
Message	メッセージ本文

表 43: FULL オプション指定時

例

- RAM 上のログ（TEMPORARY ログ）を見る

```
SHOW LOG
```

- 最新のファイアウォール関連ログメッセージを見る

```
SHOW LOG MODULE=FIRE
```

関連コマンド

PURGE LOG（227 ページ）

SHOW LOG STATUS（328 ページ）

SHOW LOG COUNTER

カテゴリー：運用・管理 / ログ

SHOW LOG COUNTER

解説

ログ機能の診断カウンターを表示する。

入力・出力・画面例

```

Manager > show log counter
Log Counters

Idle loop passes ..... 355
Transmit passes ..... 11

Messages Generated ..... 103

Messages Received (Syslog) ..... 0
Messages Received (Old protocol) ..... 0
Messages Received (New protocol, SRLP) ..... 0

Messages Rejected (Syslog) ..... 0
Messages Rejected (Old protocol) ..... 0
Messages Rejected (New protocol, SRLP) ..... 0
Messages Rejected (Module disabled) ..... 0
Messages Rejected (Generation disabled) ..... 0
Messages Rejected (Reception disabled) ..... 0
Messages Rejected (Bad parameters) ..... 0

Messages with invalid time ..... 0

Messages Transmitted (Syslog) ..... 26
Messages Transmitted (New protocol, SRLP) ..... 10

Messages Retransmitted (New protocol, SRLP) ..... 7
ACKs Sent (New protocol) ..... 0
ACKs Sent (Old protocol) ..... 0
ACKs Received (New protocol, SRLP) ..... 6

Message transmissions failed (New protocol, SRLP) ..... 0

Messages processed via OD 1 ..... 26 (Syslog)
Messages processed via OD 2 ..... 11 (Router)
Messages processed via OD TE ..... 15 (Memory)

```

Idle loop passes	アイドルループからログメッセージハンドラープ ロセスが起動された回数
Transmit passes	ログメッセージ送信プロセス起動回数
Messages Generated	生成ログメッセージ数
Messages Received (Syslog)	syslog により受信したログメッセージ数
Messages Received (Old protocol)	Net Manage Message Protocol により受信した ログメッセージ数
Messages Received (New protocol, SRLP)	SRLP(Secure Router Log Protocol)により受信 したログメッセージ数
Messages Rejected (Syslog)	syslog メッセージのうち受信を拒否した数
Messages Rejected (Old protocol)	Net Manage Message Protocol メッセージのう ち受信を拒否した数
Messages Rejected (New protocol, SRLP)	SRLP(Secure Router Log Protocol)メッセージ のうち受信を拒否した数
Messages Rejected (Module disabled)	受信したログメッセージのうち、ログ機能が無効 状態だったために破棄されたものの数
Messages Rejected (Generation disabled)	ソフトウェアモジュールからのログメッセージの うち、ログメッセージの生成が無効状態だったた め破棄されたものの数
Messages Rejected (Reception disabled)	受信したログメッセージのうち、ログ受信が無効 状態だったために破棄されたものの数
Messages Rejected (Bad parameters)	受信したログメッセージのうち、無効なパラメー ターを含んでいたために破棄されたものの数
Messages with invalid time	タイムスタンプが無効だったメッセージの数
Messages Transmitted (Syslog)	syslog で送信したログメッセージの数
Messages Transmitted (New protocol, SRLP)	SRLP で送信したログメッセージの数
Messages Retransmitted (New protocol, SRLP)	SRLP で再送信したログメッセージの数
ACKs Sent (New protocol)	SRLP で受信したログメッセージに対する確認応 答 (ACK) 送信数
ACKs Sent (Old protocol)	Net Manage Message Protocol で受信したログ メッセージに対する確認応答 (ACK) 送信数
ACKs Received (New protocol, SRLP)	SRLP で送信したログメッセージに対する確認応 答 (ACK) 受信数
Message transmissions failed	SRLP でのログメッセージ送信に失敗した回数
Messages processed via OD n	該当するログ出力定義によって処理されたメッ セージ数。メッセージのあとのカッコ内は出力先 (DESTINATION)

表 44:

関連コマンド

SHOW LOG (315 ページ)

SHOW LOG OUTPUT (321 ページ)

SHOW LOG QUEUE (324 ページ)

SHOW LOG STATUS (328 ページ)

SHOW LOG OUTPUT

カテゴリー：運用・管理 / ログ

SHOW LOG OUTPUT [= {TEMPORARY | *output-id*}] [{FILTER = *entry-id* | FULL}]

output-id: ログ出力 ID (1~20)
entry-id: エントリー番号 (1~)

解説

ログ出力先の定義内容を表示する。

パラメーター

- OUTPUT** ログ出力先 ID。省略時はすべてのログ出力先定義が表示される。
- FILTER** 指定したフィルターに関する詳細な情報を表示する。FULL オプションと同時に指定することはできない。
- FULL** 各出力先の定義内容を詳細に表示する。FILTER パラメーターと同時に指定することはできない。

入力・出力・画面例

```
Manager > show log output

OD#  Type      Port  Server      Msg  Zone      Fmt  Email Address      ESQMP
-----
TE   Memory                0200  Default                YY---
-----

Manager > show log output=temporary

Output Definition ..... Temporary
Enabled ..... Yes
Type ..... Memory
Max Messages ..... 200
Time Zone ..... Not set
Secure ..... Yes
```

OD#	ログ出力 ID
Type	ログ出力先。Memory、Port、Router、Syslog のいずれか
Port	ログ出力先の非同期ポート番号。Type が Port の場合にのみ有効
Server	ログ転送先の IP アドレス。Type が Router か Syslog の場合にのみ有効
Msg	該当出力定義においてキューに格納できる最大メッセージ数

Zone	タイムゾーン (Default、GMT、UTC、- (未設定)、タイムゾーン名、-23:59:59 ~ +23:59:59)
Fmt	該当出力定義におけるログメッセージのフォーマット。Full か Summary
Email Address	ログを送信先の電子メールアドレス。Type が Email の場合にのみ有効
ESQMP	ENABLED、SECURE、QUEUEONLY、MAXQUEUESEVERITY、PASSWORD 各パラメーターの設定を示す。ENABLED、SECURE、QUEUEONLY の場合、Y は Yes を、N は No を、-は適用不可を示す。MAXQUEUESEVERITY は、0 ~ 7 のログレベルを、PASSWORD は、- (未設定) または* (設定済み) を示す

表 45:

Output Definition	ログ出力 ID または、TE (Temporary) のいずれか
Enabled	ログ出力定義の状態。Enabled か Disabled
Type	ログ出力先。Memory、Port、Router、Syslog のいずれか
IP Address (Server)	ログ転送先の IP アドレス。Type が Router か Syslog の場合にのみ有効
Zone	タイムゾーン (Default、GMT、UTC、Not set (未設定)、-23:59:59 ~ +23:59:59 およびタイムゾーン名)
Secure	このログ出力先が安全かどうか
Queue Only	キュー格納のみかどうか
Max Messages	該当出力定義においてキューに格納できる最大メッセージ数
Filter #	ログメッセージフィルター番号、フィルター条件、マッチ時のアクション。条件「ALL」はすべてのメッセージにマッチすることを示す。アクションは Process か Ignore のどちらか
Port	ログ出力先の非同期ポート番号。Type が Port の場合にのみ有効
Format	該当出力定義におけるログメッセージのフォーマット。Full か Summary
Email Address	ログを送信先の電子メールアドレス。Type が Email の場合にのみ有効
Password	SRLP で他のルーターに転送する場合に認証を受けるためのパスワード。NONE は未設定を示す
Max Queue Severity	処理されずにキューイングされる最大のログレベル。0 (最低) ~ 7 (最高)

表 46: FULL オプション指定時

例

- 現在定義されているログ出力先の一覧を表示する。

```
SHOW LOG OUTPUT
```

- ログ出力先「1」の詳細情報を表示する。

```
SHOW LOG OUTPUT=1
```

- ログ出力先「1」のさらに詳細な情報（メッセージフィルターを含む）を表示する。

SHOW LOG OUTPUT=1 FULL

関連コマンド

ADD LOG OUTPUT (105 ページ)

CREATE LOG OUTPUT (130 ページ)

DELETE LOG OUTPUT (156 ページ)

DESTROY LOG OUTPUT (167 ページ)

SET LOG OUTPUT (244 ページ)

SHOW LOG STATUS (328 ページ)

SHOW LOG QUEUE

カテゴリー：運用・管理 / ログ

SHOW LOG QUEUE

解説

ログメッセージキュー内のメッセージに関する情報を表示する。

入力・出力・画面例

Manager > show log queue

Queue	RAM Messages	NVS Messages	Type
01	0000/0100	0000/0000	Syslog
02	0003/0100	0000/0000	Router
TE	0007/0200	0000/0000	Memory

Outstanding SRLP Messages (Sent but not acknowledged)

OD#	Message ID	Last Attempt	Attempts	Delay
02	1	979	1	1
02	2	979	1	1
02	3	979	1	1

Queue	ログ出力 ID (1 ~ 20) または TE (TEMPORARY)
RAM Messages	現在 RAM 上に保存されているメッセージ数/RAM 上に保存可能な最大メッセージ数
Type	メッセージの最終的な送信先。Memory、Port、Router、Syslog のいずれか
OD#	ログ出力 ID
Message ID	メッセージ ID
Last Attempt	最後にメッセージ送信を試みた時刻。深夜 0 時からの経過分数
Attempts	メッセージの送信試行回数
Delay	前回の送信試行から次の送信までの間隔 (分)

表 47:

関連コマンド

SHOW LOG (315 ページ)

SHOW LOG OUTPUT (321 ページ)

SHOW LOG STATUS (328 ページ)

SHOW LOG RECEIVE

カテゴリー：運用・管理 / ログ

SHOW LOG RECEIVE [= { *ipadd* | ANY }] [MASK = *ipadd*]

ipadd: IP アドレスまたはネットマスク

解説

ログ受信テーブルの内容を表示する。

パラメーター

RECEIVE ログ送信元の IP アドレス。MASK と組み合わせて範囲を指定することも可能。ANY と 0.0.0.0 はすべての IP アドレスを示す。

MASK RECEIVE パラメーターで指定したアドレスに対するマスク。ただし、RECEIVE=ANY または RECEIVE=0.0.0.0 のときは指定できない。

入力・出力・画面例

Manager > show log receive

Type	IP/Network Addr	Netmask	Protocol	Password
Allow	192.168.1.1	255.255.255.255	OLD NEW ---	

Type	該当アドレスからのログ受信を許可するかどうか。Allow (許可) Reject (拒否)
IP/Network Addr	ログ送信元のベース IP アドレス。Any はすべての IP アドレスを示す
Netmask	IP/Network Addr に対するネットマスク
Protocol	該当 IP アドレスからログを受信するときに使うプロトコル。OLD (Net Manage Message Protocol) NEW (SRLP) SYS (syslog) の 3 種類がある
Password	SRLP 使用時の認証パスワード。未設定時は空欄

表 48:

関連コマンド

- ADD LOG RECEIVE (107 ページ)
- DELETE LOG RECEIVE (157 ページ)
- SET LOG RECEIVE (248 ページ)

SHOW LOG STATUS (328 ページ)

SHOW LOG STATUS

カテゴリー：運用・管理 / ログ

SHOW LOG STATUS

解説

ログ機能の設定情報を表示する。

入力・出力・画面例

```
Manager > show log status
```

```
Log System Status
```

```
-----  
Log Module Status ..... Enabled  
Log Message Generation ..... Enabled  
Log Message Reception (via network) ... Enabled  
Log Message Output ..... Enabled  
Local Time Offset (from UTC) ..... Not set  
Next Message ID ..... 59  
Number of Output Definitions ..... 2
```

Log Module Status	ログ機能の有効・無効
Log Message Generation	ログ生成の有効・無効
Log Message Reception (via network)	ログ受信の有効・無効
Log Message Output	ログ出力の有効・無効
Local Time Offset (from UTC)	ログモジュールが使用する UTC オフセット (+23:59:59 ~ -23:59:59)、「-」は未設定を示す
Next Message ID	次のメッセージ ID
Number of Output Definitions	定義済み出力先の数

表 49:

関連コマンド

DISABLE LOG (173 ページ)

DISABLE LOG GENERATION (174 ページ)

DISABLE LOG OUTPUT (175 ページ)

DISABLE LOG RECEPTION (176 ページ)

ENABLE LOG (198 ページ)

ENABLE LOG GENERATION (199 ページ)

ENABLE LOG OUTPUT (200 ページ)

ENABLE LOG RECEPTION (201 ページ)

SHOW LOG (315 ページ)

SHOW MAIL

カテゴリー：運用・管理 / メール送信

SHOW MAIL

解説

メール送信機能の設定および送信キュー内のメール一覧を表示する。

入力・出力・画面例

```
Manager > show mail

MAIL
  Host Name ..... routerb.tw.mydomain.xxx
  SMTP Server ..... not set
  State ..... alive
  Debug ..... disabled
  Mails Sent ..... 4

Date/Time   Id    To                Subject                State    Retries
-----
5 11:11:15 0003  admin@is.mydomain.xxx          Connect    0
-----
```

Host Name	自ホスト名 (SET MAIL コマンドで設定)
SMTP Server	未サポート
State	メール送信機能の状態。「alive」(動作中)、「DEAD - name server not set」(停止中 - DNS 未設定)、「DEAD - hostname not set」(停止中 - 自ホスト名未設定)
Debug	デバッグ機能の状態。「enabled」または「disabled」
Mails Sent	前回の再起動後に送信したメールの数
Date/Time	該当メッセージがスプールされた日時
Id	メッセージ ID。DELETE MAIL コマンドでスプールからメールを削除するときに指定する
To	宛先メールアドレス
Subject	メールタイトル
State	該当メッセージの送信状態。initial (処理開始) get MX-IP (MX レコード検索中) get IP (DNS 検索中) Connect (SMTP サーバーとの TCP 接続確立) S-helo (HELO コマンド送信中) S-from (MAIL FROM コマンド送信中) S-rcpt (RCPT TO コマンド送信中) S-data (DATA コマンド送信中) S-header (メールヘッダー送信中) S-file (ファイルからメール本文を送信中) S-buffer (メッセージ本文を送信中) S-last (メッセージ終端のドットを送信中) S-done (メッセージ送信完了) S-quit (QUIT コマンドを送信中)
Retries	メッセージの再送回数

表 50:

関連コマンド

DELETE MAIL (158 ページ)

DISABLE MAIL DEBUG (177 ページ)

ENABLE MAIL DEBUG (202 ページ)

MAIL (224 ページ)

SHOW MANAGER ASYN

カテゴリー：運用・管理 / セキュリティー

SHOW MANAGER ASYN

解説

マネージャーポート（ログイン不要なポート）として設定されている非同期ポートの番号を表示する。

入力・出力・画面例

```
Manager > show manager asyn  
  
No manager port is defined.
```

関連コマンド

LOGIN (222 ページ)

SET ASYN (「インターフェース」の 35 ページ)

SET MANAGER ASYN (252 ページ)

SHOW NTP

カテゴリー：運用・管理 / NTP

SHOW NTP

解説

NTP の設定情報を表示する。

入力・出力・画面例

```

Manager > show ntp

-----
NTP Module Configurations
-----
Status           : ENABLED
Host Address     : 172.16.28.169
UTC offset       : +09:00:00 (JST)
Last Updated     : 11:19:38 on 03-Jul-2001
Last Delta       : +0.94

Configured Peer
-----
172.16.28.1

Counters
-----
Packets Sent      : 0000000002
Packets Received  : 0000000002
Packets w/ head error : 0000000000
Packets w/ data error : 0000000000

```

Status	NTP モジュールの状態 (ENABLED か DISABLED)
Host Address	NTP モジュールの IP アドレス
UTC offset	協定世界時 (UTC) からのオフセット
Last Updated	NTP による内蔵時計の最終更新日時
Last Delta	最終更新時の内蔵時計の修正量 (誤差)
Configured Peer	NTP サーバーの IP アドレス
Packets Sent	送信 NTP パケット数
Packets Received	受信 NTP パケット数
Packets w/ head error	受信 NTP パケットのうちヘッダーエラーがあったものの数

Packets w/ data error	受信 NTP パケットのうちデータエラーがあったものの数
-----------------------	------------------------------

表 51:

関連コマンド

ADD NTP PEER (109 ページ)

SET NTP UTCOFFSET (253 ページ)

SHOW PATCH

カテゴリー：運用・管理 / ソフトウェア

SHOW PATCH

解説

パッチファイルの情報を表示する。

入力・出力・画面例

```
Manager > show patch

Patch files
Name           Device      Size      Version
-----
54252-01.paz   flash      8564      2.5-1
54252-03.paz   flash      150916    2.5-3
-----
```

Name	パッチファイル名
Device	パッチファイルが格納されているデバイス
Size	パッチファイルのサイズ（バイト）
Version	パッチファイルのバージョン

表 52:

関連コマンド

DESTROY PATCH (168 ページ)

LOAD (220 ページ)

SHOW RADIUS

カテゴリー：運用・管理 / 認証サーバー

SHOW RADIUS

解説

登録されている RADIUS (Remote Authentication Dial In User Server) サーバーの一覧を表示する。

入力・出力・画面例

Manager > show radius

RADIUS Server Parameters

Server Retransmit Count..... 3

Server Timeout..... 6 sec

Server Dead Time..... 5 min

Server	Port	AccPort	LocalInterface	Radius Status	Accounting Status
192.168.10.10	1645	1646	Not set	Alive	Alive
172.28.28.10	1645	1646	Not set	Dead (49sec)	Alive

Server Retransmit Count	RADIUS サーバーへの要求再送回数
Server Timeout	RADIUS サーバーへの要求に対する応答待ち時間
Server Dead Time	RADIUS サーバーへの要求が規定回数 (1 + Server Retransmit Count 回) タイムアウトしたときに、該当サーバーが「使用不可」であると見なして同サーバーの使用を抑制する時間
Server	RADIUS サーバーの IP アドレス
Port	認証サーバーのポート番号
AccPort	アカウントिंगサーバーのポート番号
Secret	RADIUS サーバーとの通信に用いる共有パスワード。アスタリスクで表示される
LocalInterface	RADIUS サーバーとの通信に使用するローカル IP インターフェース名 (localX の形式。X はローカル IP インターフェース番号 (1 ~ 15))
Radius Status	認証サーバーの状態。Alive (使用可能) Dead (使用不可) のどちらか。Dead の場合は、カッコ内に使用抑制時間の残り時間が表示される

Accounting Status	アカウントिंगサーバーの状態。Alive (使用可能)、Dead (使用不可) のどちらか。Dead の場合は、カッコ内に使用抑制時間の残り時間が表示される
-------------------	---

表 53:

関連コマンド

ADD RADIUS SERVER (110 ページ)

DELETE RADIUS SERVER (160 ページ)

SHOW RELEASE

カテゴリー：運用・管理 / ソフトウェア

SHOW RELEASE

解説

リリース（ファームウェア）ライセンスの情報を表示する。

入力・出力・画面例

```
Manager > show release
```

Release	Licence	Period
flash:load\54273-03.rez	full	-
flash:load\54-264.rez	full	-

Release	リリースファイルのフルパス名
Licence	ライセンスの種類。通常「full」（フルライセンス）と表示される
Period	ライセンスの有効期間（試用版の場合）

表 54:

関連コマンド

DISABLE RELEASE (179 ページ)

ENABLE RELEASE (204 ページ)

SHOW SCRIPT

カテゴリー：運用・管理 / スクリプト

SHOW SCRIPT [=filename]

filename: ファイル名（拡張子は.scp か.cfg）

解説

スクリプトファイルの一覧、あるいは、指定したスクリプトの内容を表示する。

パラメーター

SCRIPT 表示するスクリプトファイルの名前。省略時はファイルシステム上にあるスクリプトファイルの一覧が表示される。

入力・出力・画面例

Manager > show script

Configuration Scripts:

Filename	Device	Size	Created	Locks

bekopstn.cfg	flash	3234	10-Jun-2001 14:25:25	0
boot.cfg	flash	357	11-Jan-2001 10:39:26	0
ipsec.cfg	flash	5349	03-Oct-2001 14:07:32	0
ipsecl2t.cfg	flash	5723	03-Oct-2001 19:16:16	0
ipsecudp.cfg	flash	5654	03-Oct-2001 17:33:02	0
ipv6.cfg	flash	4525	03-Oct-2001 16:45:18	0
ipv6bad.cfg	flash	4210	22-Jun-2001 01:43:07	0
rsasig.cfg	flash	5615	04-Oct-2001 20:22:27	0
wak0712.cfg	flash	3906	12-Jul-2001 21:45:12	0
wakadsl.cfg	flash	3571	20-Jun-2001 22:03:23	0
wakadsl2.cfg	flash	3896	30-Jun-2001 23:46:05	0
wakadsl3.cfg	flash	3764	30-Jun-2001 12:00:51	0
wakpstn.cfg	flash	3429	18-Jun-2001 00:57:53	0

General Scripts:

Filename	Device	Size	Created	Locks

doreset.scp	flash	48	02-Oct-2001 14:00:54	0
sendmail.scp	flash	30	22-Jul-2001 11:08:35	0

```
-----

Manager > show script=sendmail.scp

File : sendmail.scp

1:mail to=%1 sub=%2 message=%3
```

Filename	スクリプトファイル名
Device	スクリプトファイルの格納先デバイス。nvs か flash
Size	ファイルサイズ (バイト)
Created	ファイル作成日時
Locks	ファイルを使用しているプロセスの数

表 55:

例

- ファイルシステム上にあるスクリプトの一覧を表示する。

```
SHOW SCRIPT
```

- スクリプトファイル「myscript.scp」の内容を表示する。

```
SHOW SCRIPT=myscript.scp
```

関連コマンド

- ACTIVATE SCRIPT (99 ページ)
- ADD SCRIPT (112 ページ)
- DEACTIVATE SCRIPT (151 ページ)
- DELETE SCRIPT (161 ページ)
- SET SCRIPT (257 ページ)

SHOW SESSIONS

カテゴリー：運用・管理 / ターミナルサービス

SHOW SESSIONS

解説

現在のログインセッション（コンソールセッション、Telnet セッション）で利用可能な 5 つの仮想端末セッション（他ホストへの Telnet）の状態を表示する。

セッションスロットごとに、IP アドレス(TELNET ipadd) ホスト名(TELNET hostname) not connected（未接続）のいずれかの情報が表示される。

入力・出力・画面例

```
SecOff > show session

Session information for Asyn 0

session 1 connected to 192.168.10.103
session 2 not connected
session 3 not connected
session 4 not connected
session 5 not connected
```

関連コマンド

CONNECT

DISCONNECT (191 ページ)

RECONNECT (231 ページ)

SHOW SNMP

カテゴリー：運用・管理 / SNMP

SHOW SNMP

解説

SNMP モジュールの情報を表示する。

入力・出力・画面例

```

Manager > show snmp

SNMP configuration:
  Status ..... Enabled
  Authentication failure traps .... Enabled
  Community ..... public
    Access ..... read-only
    Status ..... Enabled
    Traps ..... Enabled
    Open access ..... No

SNMPv3 engine information:
  snmpEngineID ..... 800000cf030000cd1805bf
  snmpEngineBoots ..... 0
  snmpEngineTime ..... 1342

SNMP counters:
  inPkts ..... 87          outPkts ..... 87
  inBadVersions ..... 0    outTooBigs ..... 0
  inBadCommunityNames ..... 0    outNoSuchNames ..... 0
  inBadCommunityUses ..... 0    outBadValues ..... 0
  inASNParseErrs ..... 0        outGenErrs ..... 0
  inTooBigs ..... 0            outGetRequests ..... 0
  inNoSuchNames ..... 0        outGetNexts ..... 0
  inBadValues ..... 0          outSetRequests ..... 0
  inReadOnlyls ..... 0         outGetResponses ..... 78
  inGenErrs ..... 0            outTraps ..... 9
  inTotalReqVars ..... 78
  inTotalSetVars ..... 0
  inGetRequests ..... 11
  inGetNexts ..... 67
  inSetRequests ..... 0
  inGetResponses ..... 0
  inTraps ..... 0

```

Status	SNMP エージェントの状態。Enabled か Disabled。
Authentication failure traps	認証トラップの有効・無効
Community	コミュニティ名
Access	コミュニティのアクセス権。read-only、read-write のどちらか。
Status	コミュニティの状態。Enabled か Disabled。
Traps	トラップ生成の有効・無効。
Open access	すべてのホストから SNMP によるアクセスを許可するかどうか。Yes または No。
snmpEngineID	未サポート
snmpEngineBoots	未サポート
snmpEngineTime	未サポート
inPkts	受信 SNMP パケット数
inBadVersions	未サポートのバージョン番号を持つ SNMP メッセージの受信総数
inBadCommunityNames	不明なコミュニティ名を持つ SNMP メッセージの受信総数
inBadCommunityUses	コミュニティ名とオペレーションの権限が一致しない SNMP メッセージの受信総数
inASNParseErrs	ASN.1 構文エラーによりデコードできなかった SNMP メッセージの受信総数
inTooBigs	エラー状態フィールドに「tooBig」がセットされていた SNMP メッセージの受信総数
inNoSuchNames	エラー状態フィールドに「noSuchName」がセットされていた SNMP メッセージの受信総数
inBadValues	エラー状態フィールドに「badValue」がセットされていた SNMP メッセージの受信総数
inReadOnlyls	エラー状態フィールドに「readOnly」がセットされていた SNMP メッセージの受信総数
inGenErrs	エラー状態フィールドに「genErr」がセットされていた SNMP メッセージの受信総数
inTotalReqVars	受信した GetRequest および GetNextRequest メッセージに応じて読み出された MIB オブジェクトの合計数
inTotalSetVars	受信した SetRequest メッセージに応じて変更された MIB オブジェクトの合計数
inGetRequests	受信した GetRequest メッセージの総数
inGetNexts	受信した GetNextRequest メッセージの総数
inSetRequests	受信した SetRequest メッセージの数
inGetResponses	受信した GetResponse メッセージの総数
inTraps	受信した SNMP トラップの総数
outPkts	送信 SNMP パケット数
outTooBigs	エラー状態フィールドに「tooBig」をセットして送信された SNMP メッセージの数

outNoSuchNames	エラー状態フィールドに「noSuchName」をセットして送信された SNMP メッセージの数
outBadValues	エラー状態フィールドに「badValue」をセットして送信された SNMP メッセージの数
outGenErrs	エラー状態フィールドに「genErr」をセットして送信された SNMP メッセージの数
outGetRequests	送信した GetRequest メッセージの総数
outGetNexts	送信した GetNextRequest メッセージの総数
outSetRequests	送信した SetRequest メッセージの総数
outGetResponses	送信した GetResponse メッセージの総数
outTraps	送信した SNMP トラップの総数

表 56:

関連コマンド

SHOW SNMP COMMUNITY (345 ページ)

SHOW SNMP COMMUNITY

カテゴリー：運用・管理 / SNMP

SHOW SNMP COMMUNITY=community

community: SNMP コミュニティー名（1～15 文字。大文字小文字を区別する）

解説

SNMP コミュニティーの情報を表示する。

パラメーター

COMMUNITY SNMP コミュニティー名

入力・出力・画面例

```
Manager > show snmp community=public

SNMP community information:
  Name ..... public
  Access ..... read-only
  Status ..... Enabled
  Traps ..... Disabled
  Open access ..... No
  Manager ..... 192.168.1.11
  Manager ..... 192.168.1.5
  Manager ..... 192.168.1.2
  Trap host ..... 192.168.1.11
  V2c Trap host ..... 192.168.1.11
  V2c Trap host ..... 192.168.1.5
```

Name	コミュニティー名
Access	コミュニティーのアクセス権。read-only、read-write のどちらか
Status	コミュニティーの状態。Enabled か Disabled
Traps	トラップ生成の有効・無効
Open access	すべてのホストから SNMP によるアクセスを許可するかどうか。Yes または No
Manager	本コミュニティー名でのアクセスを許可された管理ステーション（SNMP マネージャー）の IP アドレス
Trap host	SNMPv1 トラップの送信先 IP アドレス
V2c Trap host	SNMPv2c トラップの送信先 IP アドレス

表 57:

関連コマンド

SHOW SNMP (342 ページ)

SHOW SSH

カテゴリー：運用・管理 / Secure Shell

SHOW SSH [COUNTERS]

解説

SSH サーバーおよびクライアント機能の設定情報または統計情報を表示する。

パラメーター

COUNTERS SSH に関する統計カウンターを表示する。省略時は SSH の設定情報が表示される。

入力・出力・画面例

```

Manager > show ssh

SSH Configuration
Version..... 1.5
Server Enabled..... TRUE
Port..... 22
Host Key ID..... 1
Host Key Bits..... 1024
Server Key ID..... 2
Server Key Bits..... 768
Server Key Expiry(hours).. 1
Login Timeout(secs)..... 60
Authentication Available.. Password,RSA
Ciphers Available..... DES
Services Available..... Shell,Cmd

Manager > show ssh counters

Secure Shell Counters:

    inOctets          16866   outOctets          43477
    rxPkt             743    txPkt             785
    rxPktCheckFail    0     txPktFail         0
    rxVersionID       9     txVersionID       9

    rxMSGDisconnect   4     txMSGDisconnect   0
    rxMSGPublicKey    0     txMSGPublicKey    9
    rxMSGSessionKey   5     txMSGSessionKey   0
    rxMSGUser         5     txMSGUser         0
    rxMSGAuthRhosts   0     txMSGAuthRhosts   0
    rxMSGAuthRSA      8     txMSGAuthRSA      0

```

rxMSGAuthRSACHallenge	0	txMSGAuthRSACHallenge	0
rxMSGAuthRSAResponse	0	txMSGAuthRSAResponse	0
rxMSGAuthPassword	2	txMSGAuthPassword	0
rxMSGAuthRhostsRSA	0	txMSGAuthRhostsRSA	0
rxMSGSuccess	0	txMSGSuccess	7
rxMSGFailure	0	txMSGFailure	14
rxMSGReqCompression	0	txMSGReqCompression	0
rxMSGReqX11Forwarding	0	txMSGReqX11Forwarding	0
rxMSGReqPortForwarding	0	txMSGReqPortForwarding	0
rxMSGReqAgentForwarding	0	txMSGReqAgentForwarding	0
rxMSGReqPty	1	txMSGReqPty	0
rxMSGWindowSize	0	txMSGWindowSize	0
rxMSGExecShell	1	txMSGExecShell	0
rxMSGExecCmd	0	txMSGExecCmd	0
rxMSGStdInData	708	txMSGStdInData	0
rxMSGStdOutData	0	txMSGStdOutData	746
rxMSGStdErrData	0	txMSGStdErrData	0
rxMSGEOF	0	txMSGEOF	0
rxMSGExitStatus	0	txMSGExitStatus	0
rxMSGExitConfirmation	0	txMSGExitConfirmation	0
rxUnsupportedMsg	0		
rxUnknownMsg	0		
encodeSKSuccess	0	decodeSKSuccess	5
encodeSKFail	0	decodeSKFail	0
getHostKeyFail	0	getServerKeyFail	0
serverKeyReGenerated	0		
encodeRSACHallengeGood	0	decodeRSACHallengeGood	0
encodeRSACHallengeFail	0	decodeRSACHallengeFail	0
getUserKeyFail	0		
encoConfigured	5	encoConfigureFail	0
encoDetached	0	encoDead	0
encoEncodeStart	767	encoDecodeStart	729
encoEncoded	767	encoDecoded	729
encoEncodeFail	0	encoDecodeFail	0
encoEncodeResetDone	0	encoDecodeResetDone	0
encoEncodeResetFail	0	encoDecodeResetFail	0
encoEncodeDiscard	0	encoDecodeDiscard	0

Version	対応している SSH プロトコルのバージョン
Server Enabled	SSH サーバー機能が有効かどうか
Port	SSH サーバーの TCP リスニングポート。デフォルトは 22
Host Key ID	ホストキーの鍵番号
Host Key Bits	ホストキーの長さ (768 ~ 2048 ビット)
Server Key ID	サーバーキーの鍵番号

Server Key Bits	サーバーキーの長さ (≤ ホストキー長 - 128 ビット かつ ≥ 512 ビット)
Server Key Expiry (hours)	サーバーキーの有効期間 (時間)
Login Timeout (secs)	ログインタイムアウト (秒)
Authentication Available	使用可能な認証方式。Password または RSA
Ciphers Available	使用可能な暗号アルゴリズム (DES のみ)
Services Available	使用可能なサービス。Shell または Cmd

表 58: 設定情報 (COUNTERS オプションなし)

inOctets	受信オクテット数
outOctets	送信オクテット数
rxPkt	受信パケット数
txPkt	送信パケット数
rxPktCheckFail	チェックサムエラーパケット受信数
txPktFail	送信前破棄パケット数 (エラーによる)
rxVersionID	バージョン ID メッセージ受信数
txVersionID	バージョン ID メッセージ送信数
rxMSGDisconnect	セッション切断メッセージ (SSH_MSG_DISCONNECT) 受信数
txMSGDisconnect	セッション切断メッセージ (SSH_MSG_DISCONNECT) 送信数
rxSMSGPublicKey	SSH_SMSG_PUBLIC_KEY メッセージ受信数 (本機の SSH クライアントによる)。同メッセージには、リモートサーバーのホストキー、サーバーキー公開鍵、使用可能な暗号アルゴリズムと認証方式が含まれる
txSMSGPublicKey	SSH_SMSG_PUBLIC_KEY メッセージ送信数 (本機の SSH サーバーによる)。同メッセージには、自機のホストキー、サーバーキー公開鍵、使用可能な暗号アルゴリズムと認証方式が含まれる
rxCMSSGSessionKey	SSH_CMSG_SESSION_KEY メッセージ受信数 (本機の SSH サーバーによる)。同メッセージには、リモートクライアントが選択した暗号アルゴリズム、サーバー側から受け取った 64 ビットクッキーのコピー、クライアントのプロトコルフラグ、サーバーのホストキーとサーバーキーで暗号化されたセッションキーが含まれる
txCMSSGSessionKey	SSH_CMSG_SESSION_KEY メッセージ送信数 (本機の SSH クライアントによる)。同メッセージには、本機のクライアントが選択した暗号アルゴリズム、リモートサーバーから受け取った 64 ビットクッキーのコピー、クライアントのプロトコルフラグ、リモートサーバーのホストキーとサーバーキーで暗号化したセッションキーが含まれる

rxCMMSGUser	SSH.CMSG.USER メッセージ受信数（本機の SSH サーバーによる）。同メッセージにはログインユーザー名が含まれる
txCMMSGUser	SSH.CMSG.USER メッセージ送信数（本機の SSH クライアントによる）。同メッセージにはログインユーザー名が含まれる
rxCMMSGAuthRhosts	本機の SSH サーバーが受信した SSH.CMSG.AUTH.RHOSTS メッセージ数。同メッセージには.rhosts 認証で使うリモートクライアントのユーザー名が含まれる。txCMMSGAuthRhosts
rxCMMSGAuthRSA	本機の SSH サーバーが受信した SSH.CMSG.AUTH.RSA メッセージ数。同メッセージには、リモートクライアントの RSA 公開鍵が含まれる
txCMMSGAuthRSA	本機の SSH クライアントが送信した SSH.CMSG.AUTH.RSA メッセージ数。同メッセージには、ローカルクライアントの RSA 公開鍵が含まれる
rxSMSGAuthRSAChallenge	本機の SSH クライアントが受信した SSH.SMSG.AUTH.RSA.CHALLENGE メッセージ数。同メッセージには、暗号化されたリモートサーバーのチャレンジメッセージが含まれる
txSMSGAuthRSAChallenge	本機の SSH サーバーが送信した SSH.SMSG.AUTH.RSA.CHALLENGE メッセージ数。同メッセージには、リモートクライアント宛てのチャレンジメッセージが含まれる
rxCMMSGAuthRSAResponse	本機の SSH サーバーが受信した SSH.CMSG.AUTH.RSA.RESPONSE メッセージ数。同メッセージにはクライアントからのチャレンジレスポンスが含まれる
txCMMSGAuthRSAResponse	本機の SSH クライアントが送信した SSH.CMSG.AUTH.RSA.RESPONSE メッセージ数。同メッセージにはサーバーからのチャレンジに対するレスポンスが含まれる
rxCMMSGAuthPassword	本機の SSH サーバーが受信した SSH.CMSG.AUTH.PASSWORD メッセージ数。同メッセージには、リモートクライアントの平文パスワードが含まれる。txCMMSGAuthPassword
rxCMMSGAuthRhostsRSA	本機の SSH サーバーが受信した SSH.CMSG.AUTH.RHOSTS.RSA メッセージ数。同メッセージにはリモートクライアントのユーザー名と、.rhosts/RSA 認証用のホストキー（公開鍵）が含まれる
txCMMSGAuthRhostsRSA	本機の SSH クライアントが送信した SSH.CMSG.AUTH.RHOSTS.RSA メッセージ数。同メッセージには、ローカルクライアントのユーザー名と、.rhosts/RSA 認証用のホストキー（公開鍵）が含まれる
rxSMSGSuccess	本機の SSH クライアントが受信した SSH.SMSG.SUCCESS メッセージ数。同メッセージはリクエスト成功を示す
txSMSGSuccess	本機の SSH サーバーが送信した SSH.SMSG.SUCCESS メッセージ数。同メッセージはリクエスト成功を示す

rxMSGFailure	本機の SSH クライアントが受信した SSH_MSG_FAILURE メッセージ数。同メッセージはリクエスト失敗を示す
txMSGFailure	本機の SSH サーバーが送信した SSH_MSG_FAILURE メッセージ数。同メッセージはリクエスト失敗を示す
rxMSGReqCompression	本機の SSH サーバーが受信した SSH_MSG_REQUEST_COMPRESSION メッセージ数。同メッセージは、接続の圧縮を要求する
txMSGReqCompression	本機の SSH クライアントが送信した SSH_MSG_REQUEST_COMPRESSION メッセージ数。同メッセージは、接続の圧縮を要求する
rxMSGReqX11Forwarding	本機の SSH サーバーが受信した SSH_MSG_X11_REQUEST_FORWARDING メッセージ数。同メッセージは X11 接続の転送を要求する
txMSGReqX11Forwarding	本機の SSH クライアントが送信した SSH_MSG_X11_REQUEST_FORWARDING メッセージ数。同メッセージは X11 接続の転送を要求する
rxMSGReqPortForwarding	本機の SSH サーバーが受信した SSH_MSG_PORT_FORWARD_REQUEST メッセージ数。同メッセージはポートフォワーディングを要求する
txMSGReqPortForwarding	SSH クライアントが送信した SSH_MSG_PORT_FORWARD_REQUEST メッセージ数。同メッセージはポートフォワーディングを要求する
rxMSGReqAgentForwarding	本機の SSH サーバーが受信した SSH_MSG_AGENT_REQUEST_FORWARDING メッセージ数。同メッセージは、接続を認証エージェントに転送するよう要求する
txMSGReqAgentForwarding	本機の SSH クライアントが送信した SSH_MSG_AGENT_REQUEST_FORWARDING メッセージ数。同メッセージは、接続を認証エージェントに転送するよう要求する
rxMSGReqPty	本機の SSH サーバーが受信した SSH_MSG_REQUEST_PTY メッセージ数。同メッセージは疑似端末 (Pseudo Terminal) デバイスの割り当てを要求する
txMSGReqPty	本機の SSH クライアントが送信した SSH_MSG_REQUEST_PTY メッセージ数。同メッセージは疑似端末 (Pseudo Terminal) デバイスの割り当てを要求する
rxMSGWindowSize	本機の SSH クライアントが送信した SSH_MSG_WINDOW_SIZE メッセージ数。同メッセージはクライアントの新しいウィンドウサイズを指定する

txCMSSGWindowSize	本機の SSH サーバーが受信した SSH.CMSG.WINDOW_SIZE メッセージ数。同メッセージはクライアントの新しいウィンドウサイズを指定する
rxCMSSGExecShell	本機の SSH サーバーが受信した SSH.CMSG.EXEC_SHELL メッセージ数。同メッセージはインタラクティブな端末セッションを開始するために使用される
txCMSSGExecShell	本機の SSH クライアントが送信した SSH.CMSG.EXEC_SHELL メッセージ数。同メッセージはインタラクティブな端末セッションを開始するために使用される
rxCMSSGExecCmd	本機の SSH サーバーが受信した SSH.CMSG.EXEC_CMD メッセージ数。同メッセージにはサーバー上で実行すべきコマンドが含まれる
txCMSSGExecCmd	本機の SSH クライアントが送信した SSH.CMSG.EXEC_CMD メッセージ数。同メッセージにはサーバー上で実行すべきコマンドが含まれる
rxCMSSGStdInData	本機の SSH クライアントが受信した SSH.CMSG.STDIN_DATA メッセージ数。同メッセージには、リモートサーバー上のアプリケーションが標準出力に書き込んだデータが含まれる
txCMSSGStdInData	本機の SSH クライアントが送信した SSH.CMSG.STDOUT_DATA メッセージ数。同メッセージには、リモートサーバーの標準入力に書き込まれるデータが含まれる
rxSMSSGStdOutData	本機の SSH サーバーが受信した SSH.SMSG.STDOUT_DATA メッセージ数。同メッセージには、ローカルサーバーの標準入力に書き込まれるデータが含まれる。txSMSSGStdOutData
rxSMSSGStdErrData	本機の SSH クライアントが受信した SSH.SMSG.STDERR_DATA メッセージ数。同メッセージには、リモートサーバー上のアプリケーションが標準エラー出力に書き込んだデータが含まれる
txSMSSGStdErrData	本機の SSH サーバーが送信した SSH.SMSG.STDERR_DATA メッセージ数。同メッセージには、ローカルサーバー上のアプリケーションが標準エラー出力に書き込んだデータが含まれる
rxCMSSGEOF	本機の SSH サーバーが受信した SSH.CMSG.EOF メッセージ数。同メッセージはリモートクライアントからのデータ入力終了を示す
txCMSSGEOF	本機の SSH クライアントが送信した SSH.CMSG.EOF メッセージ数。同メッセージは、ローカルクライアントからのデータ入力終了を示す
rxSMSSGExitStatus	本機の SSH クライアントが受信した SSH.SMSG.EXITSTATUS メッセージ数。同メッセージは、リモートサーバー上でシェルやコマンドの実行が終了したことを示す。txSMSSGExitStatus

rxCMSSGExitConfirmation	本機のSSHサーバーが受信したSSH.CMSG.EXIT-CONFIRMATIONメッセージ数。これは、サーバーがクライアントに送信したSSH.SMSG.EXITSTATUSメッセージへの応答
txCMSSGExitConfirmation	本機のSSHクライアントが送信したSSH.CMSG.EXIT-CONFIRMATIONメッセージ数。これは、サーバーから受信したSSH.SMSG.EXITSTATUSメッセージへの応答
rxUnSupportedMsg	本機のSSHサーバーが受信した未サポートオプションへの要求メッセージ数
rxUnknownMsg	本機のSSHサーバーが受信した不明なオプションへの要求メッセージ数。encodeSKSuccess
decodeSKSuccess	セッションキーのRSA復号化に成功した回数
encodeSKFail	セッションキーの暗号化に失敗した回数
decodeSKFail	セッションキーの復号化に失敗した回数
getHostKeyFail	ENCO モジュールからのホストキー取得に失敗した回数
getServerKeyFail	ENCO モジュールからのサーバーキー取得に失敗した回数
serverKeyReGenerated	サーバーキーを生成しなおした回数
encodeRSAChallengeGood	サーバーがRSA認証用のチャレンジを暗号化した回数
decodeRSAChallengeGood	サーバーがRSA認証用のチャレンジを復号化した回数
encodeRSAChallengeFail	サーバーがRSA認証用のチャレンジの暗号化に失敗した回数
decodeRSAChallengeFail	サーバーがRSA認証用のチャレンジの復号化に失敗した回数
getUserKeyFail	サーバーがENCOモジュールからユーザーのRSA鍵取得に失敗した回数
encoEncodeConfigured	セッション用に暗号化チャンネルが設定された回数
encoDecodeConfigured	セッション用に復号化チャンネルが設定された回数
encoEncodeConfigureFail	サーバーが暗号化チャンネルの設定に失敗した回数
encoDecodeConfigureFail	サーバーが復号化チャンネルの設定に失敗した回数
encoEncodeDetached	セッション用の暗号化チャンネルが削除された回数
encoDecodeDetached	セッション用の復号化チャンネルが削除された回数
encoEncodeDead	暗号化エンジンが障害により停止した回数
encoDecodeDead	復号化エンジンが障害により停止した回数
encoEncodeStart	ENCOチャンネル上で暗号化ジョブが開始された回数
encoDecodeStart	ENCOチャンネル上で復号化ジョブが開始された回数
encoEncoded	暗号化ジョブが完了した回数
encoDecoded	復号化ジョブが完了した回数
encoEncodeFail	暗号化ジョブが完了できなかった回数
encoDecodeFail	復号化ジョブが完了できなかった回数
encoEncodeResetDone	暗号化チャンネルがリセットされた回数

encoDecodeResetDone	復号化チャンネルがリセットされた回数
encoEncodeResetFail	サーバーが暗号化チャンネルのリセットに失敗した回数
encoDecodeResetFail	サーバーが復号化チャンネルのリセットに失敗した回数
encoEncodeDiscard	ENCO モジュールによって暗号化ジョブが破棄された回数
encoDecodeDiscard	ENCO モジュールによって復号化ジョブが破棄された回数

表 59: 統計情報 (COUNTERS オプションあり)

関連コマンド

DISABLE SSH SERVER (184 ページ)

ENABLE SSH SERVER (209 ページ)

SET SSH SERVER (262 ページ)

SHOW SSH SESSIONS (355 ページ)

SHOW SSH SESSIONS

カテゴリー：運用・管理 / Secure Shell

SHOW SSH SESSIONS

解説

現在オープン中の SSH セッション一覧を表示する。

サーバーセッションとクライアントセッションの両方が表示される。

入力・出力・画面例

```
SecOff > show ssh sessions
```

Secure Shell Sessions						
ID	Type	Dir	Peer Address	User	State	Octets In/Out
1	Shell	In	172.16.28.126	manager	OPEN	00003606/00004497
2	Shell	Out	172.16.28.185	secoff	OPEN	00001065/00000613

ID	セッション ID
Type	セッション種別。Shell（インタラクティブなログインセッション）か Cmd（リモートコマンド実行）
Dir	セッションの方向。In（リモートクライアントから自機サーバーへ）または Out（自機クライアントからリモートサーバーへ）
Peer Address	リモートエンドの IP アドレス
User	ユーザー名。認証完了前は「-」と表示される
State	セッションの状態。Initial（接続開始） Starting（ホスト間認証実行中） Authen（ユーザー認証実行中） Request（セッション種別のネゴシエーション中） Open（セッション確立中）のいずれか
Octets In/Out	送受信オクテット数

表 60:

関連コマンド

DISABLE SSH SERVER（184 ページ）

ENABLE SSH SERVER（209 ページ）

SET SSH SERVER（262 ページ）

SHOW SSH（347 ページ）

SHOW SSH USER

カテゴリー：運用・管理 / Secure Shell

SHOW SSH USER [=username]

username: ユーザー名 (1～15 文字。英数字。空白不可)

解説

SSH ユーザーの情報を表示する。

パラメーター

USER 表示する SSH ユーザー名を指定。省略時はすべての SSH ユーザーの一覧が表示される。指定時は該当ユーザーの詳細情報が表示される。

入力・出力・画面例

```
Manager > show ssh user
```

```
Secure Shell User List
```

User	IpAddr	Authentication	KeyId	Status
admin	0.0.0.0	RSA	100	enabled
manager	0.0.0.0	Password	0	enabled

```
Manager > show ssh user=admin
```

```
User..... admin
Status..... Enabled
Authentication method.... RSA
RSA key ID..... 100
Shell..... Yes
IpAddress..... 0.0.0.0
Mask..... 255.255.255.255
Failed Logins..... 2
```

User	SSH ユーザー名
IpAddr	ログインが許可されている IP アドレス
Authentication	認証方式。Password または RSA
KeyId	RSA 認証で用いる鍵番号

Status	アカウントの状態。Enabled または Disabled
--------	-------------------------------

表 61: ユーザー無指定（一覧表示）の場合

User	SSH ユーザー名
Status	アカウントの状態。Enabled または Disabled
Authorisation method	認証方式。Password または RSA
RSA key ID	RSA 認証で用いる鍵番号
Shell	シェルを利用可能か。TRUE または FALSE
IpAddress	ログインが許可されている IP アドレス
Mask	IpAddress に対するネットマスク
Failed Logins	ログイン失敗回数

表 62: ユーザー指定の場合

関連コマンド

ADD SSH USER (115 ページ)

DELETE SSH USER (163 ページ)

DISABLE SSH USER (185 ページ)

ENABLE SSH USER (210 ページ)

SET SSH USER (263 ページ)

SHOW STARTUP

カテゴリー：運用・管理 / システム

SHOW STARTUP

解説

起動時のシステム診断結果を表示する。エラーを示す項目には「>」が付く。

入力・出力・画面例

```
Manager > show startup

Router Startup Status Flag is 00400400, which means:
-----
  65536k of RAM found
Router OK prior to this startup
Battery backed RAM battery OK
NVS not corrupted
Real time clock not corrupted
Real time clock, time set
Router software download OK
Router vector download OK
-----
```

SHOW SYSTEM

カテゴリー：運用・管理 / システム

SHOW SYSTEM

解説

システム情報を表示する。

入力・出力・画面例

```

Manager > show system

Router System Status                               Time 08:09:52 Date 29-Mar-2005.
Board      ID Bay Board Name                       Host Id Rev   Serial number
-----
Base       190      AR450                          0 P2-0       58046888
-----
Memory -   DRAM : 65536 kB   FLASH : 16384 kB
-----
SysDescription
CentreCOM AR450 version 2.7.3-03 26-May-2005
SysContact

SysLocation

SysName

SysDistName

SysUpTime
400 ( 00:00:04 )
Boot Image      : unknown
Software Version: 2.7.3-03 26-May-2005
Release Version : 2.7.3-00 03-Mar-2005
Patch Installed : NONE
Territory      : japan
Country        : none
Help File      : help.hlp

Main Fan       : On

Configuration
Boot configuration file: flash:basic.cfg (exists)
Current configuration: flash:basic.cfg

Security Mode   : Disabled

```

```
Warning (2048284): No patches found.
```

Board	基板の種類
ID	基板の ID
Bay	IO Module や IC Module が実装されているベイの番号
Board Name	基板の名称
Rev	基板のリビジョンとハードウェア改修レベル
Serial number	基板のシリアル番号
DRAM	実装されている DRAM メモリー容量
FLASH	実装されている FLASH メモリーの容量
SysDescription	製品およびファームウェアの概要 (MIB-II の sysDescr)
SysContact	管理責任者 (MIB-II の sysContact)
SysLocation	設置場所 (MIB-II の sysLocation)
SysName	システム名 (MIB-II の sysName)
SysDistName	X.500 識別名 (DN = Distinguished Name)
SysUpTime	稼働時間 (前回リブートしてからの時間)
Software Version	パッチバージョン
Release Version	ソフトウェアリリースバージョン
Patch Installed	インストールされているパッチの説明。NONE はパッチなし
Territory	地域 (australia、china、europe、japan、korea、newzealand、usa)
Help File	HELP コマンドが使用するヘルプファイル名
Boot configuration file	起動時に読み込まれる設定ファイル名
Current configuration	現在の設定のもととなったファイル名
Security Mode	セキュリティーモードで動作しているか。enabled または disabled
Patch files	インストールされているパッチファイルに関する情報
Name	パッチファイル名
Device	パッチファイルが格納されているデバイス。nvs か flash
Size	パッチファイルのサイズ
Version	パッチファイルのバージョン

表 63:

関連コマンド

DISABLE SYSTEM SECURITY_MODE (186 ページ)

ENABLE SYSTEM SECURITY_MODE (211 ページ)

SET HELP (240 ページ)

SET SYSTEM CONTACT (264 ページ)

SET SYSTEM DISTINGUISHEDNAME (265 ページ)

SET SYSTEM LOCATION (266 ページ)

SET SYSTEM NAME (267 ページ)

SHOW TELNET

カテゴリー：運用・管理 / ターミナルサービス

SHOW TELNET

解説

Telnet サーバーの状態などを表示する。

入力・出力・画面例

```
Manager > show telnet

TELNET Module Configuration
-----
Telnet Server ..... Enabled
Telnet Server Listen Port ..... 23
Telnet Terminal Type ..... UNKNOWN
Telnet Insert Null's ..... Off
-----
```

関連コマンド

DISABLE TELNET SERVER (187 ページ)

ENABLE TELNET SERVER (212 ページ)

SHOW TIME

カテゴリー：運用・管理 / システム

SHOW TIME

解説

現在の日付と時刻を表示する。

入力・出力・画面例

```
Manager > show time  
  
System time is 21:59:55 on Thursday 05-Jul-2001.
```

関連コマンド

SET TIME (269 ページ)

SHOW TRIGGER

カテゴリー：運用・管理 / トリガー

SHOW TRIGGER [=trigger-id] [{COUNTER|FULL|STATUS|SUMMARY}]

trigger-id: トリガー番号 (1~100)

解説

トリガーおよびトリガーモジュールに関する情報を表示する。

パラメーター

TRIGGER トリガー番号。省略時はすべてのトリガーに関するサマリー情報が表示される。

COUNTER トリガー機能全体の統計カウンターが表示される。トリガー番号は指定できない。

FULL トリガーに関する詳細な情報が表示される。

STATUS トリガー機能の状態に関する情報が表示される。トリガー番号は指定できない。

SUMMARY すべてのトリガーに関するサマリー情報が表示される。

入力・出力・画面例

```
Manager > show trigger
```

TR#	Type & Details	Name	En	Te	Rept	#Scr	Days/Date
001	Reboot (All)		Y	N	Yes	01	MTWTFSS
002	CPU (80 %) UP		Y	N	Yes	01	MTWTFSS

```
Manager > show trigger counter
```

```
Trigger Module Counters
```

```
-----
Polls (05 sec timer) ..... 28
Idle loop entry count ..... 0
Time trigger checks ..... 26
Time trigger queue rebuilds ..... 4
Trigger activations ..... 1
Time triggers activated today ..... 0
Periodic triggers activated today .. 0
Interface triggers activated today . 0
Resource triggers activated today .. 0
Module triggers activated today .... 0
```

```

Manager > show trigger=2 full

Trigger ..... 2
Name ..... -
Type and details ..... CPU (80 %) UP
Days ..... Daily
Enabled ..... Enabled
Test ..... No
Repeat ..... Yes
Created/Modified ..... 13-Jul-2001 16:16:02
Number of Activations ..... 0
Last Activation ..... **-*-*** **:**:**
Number of scripts ..... 1

    mail.scp

```

```

Manager > show trigger status

```

Trigger Module Configuration

General

```

    Trigger Module ..... Enabled
    Triggers configured ..... 2
    Queued Commands ..... 0

```

Time Triggers

```

    Configured ..... 0
    Active ..... 0
    Activated today ..... 0

```

Periodic Triggers

```

    Configured ..... 0
    Active ..... 0
    Activated today ..... 0

```

Reboot Triggers

```

    Configured ..... 1

```

Interface Triggers

```

    Configured ..... 0

```

Resource Triggers

```

    Configured ..... 1
    Active ..... 1
    Activated today ..... 0

```

Module Triggers

```

    Configured ..... 0
    Activated today ..... 0

```

TR#	トリガー番号
Type & Details	トリガーの種類とその他の情報
Name	トリガー名（メモ）
En	有効かどうか
Te	テストモードかどうか
Rept	複数回実行の可否。Yes（可） No（不可）あるいは残り実行回数。残り実行回数が一回になると表示が No になり、もう実行できなくなると、En フィールドの表示が N になる
#Scr	設定されているスクリプトの数
Days/Date	トリガーが有効な曜日または日時。有効な曜日が頭文字（MTWTFSS）で表される。無効な曜日は「-」で示される

表 64:

Trigger	トリガー番号
Name	トリガー名（メモ）
Type and details	トリガーの種類とその他の情報
Other parameters	モジュールトリガー独自のパラメーター
Days	トリガーが有効な曜日。Weekdays（月～金） Weekends（土日） Daily（毎日）あるいは各曜日が表示される。Days と Date はどちらか一方のみ表示される
Date	トリガーが有効な日付。Days と Date はどちらか一方のみ表示される
Enabled	トリガーの有効・無効
Test	テストモードかどうか
Repeat	複数回実行の可否。Yes（可） No（不可）あるいは残り実行回数
Created/Modified	作成日時あるいは最終修正日時
Number of Activations	トリガーが起動された回数（前回の再起動後）
Last Activation	最終起動日時（手動起動は含めない）
Number of scripts	スクリプト数とスクリプト名一覧

表 65: FULL オプション

General セクション	トリガー機能全般に関する情報
Trigger Module	トリガー機能の有効・無効
Triggers configured	トリガー数
Queued commands	実行待ちコマンド数
Time Triggers セクション	定時トリガーに関する情報
Periodic Triggers セクション	定期トリガーに関する情報
Reboot Triggers セクション	再起動トリガーに関する情報
Interface Triggers セクション	インターフェーストリガーに関する情報
Resource Triggers セクション	CPU およびメモリートリガーに関する情報

Module Triggers セクション	モジュールトリガーに関する情報
Configured	トリガー数
Active	現在有効なトリガー数
Activated today	今日実行された回数

表 66: STATUS オプション

Polls (05 sec timer)	トリガーイベントのチェック回数
Idle loop entry count	トリガーモジュールがコマンド実行を準備した回数
Time trigger checks	トリガーモジュールが定時トリガーをチェックした回数
Time trigger queue rebuilds	定時トリガーの追加、削除、変更、あるいは、システム日時の変更があったために、定時トリガーキューを再構成した回数
Trigger activations	トリガー起動回数
Time triggers activated today	定時トリガーの起動回数（本日）
Periodic triggers activated today	定期トリガーの起動回数（本日）
Interface triggers activated today	インターフェーストリガーの起動回数（本日）
Resource triggers activated today	CPU またはメモリートリガーの起動回数（本日）
Module triggers activated today	モジュールトリガーの起動回数（本日）

表 67: COUNTER オプション

関連コマンド

ACTIVATE TRIGGER (100 ページ)
 ADD TRIGGER (117 ページ)
 CREATE TRIGGER CPU (135 ページ)
 CREATE TRIGGER FIREWALL (137 ページ)
 CREATE TRIGGER INTERFACE (139 ページ)
 CREATE TRIGGER MEMORY (141 ページ)
 CREATE TRIGGER MODULE (143 ページ)
 CREATE TRIGGER PERIODIC (145 ページ)
 CREATE TRIGGER REBOOT (147 ページ)
 CREATE TRIGGER TIME (149 ページ)
 DELETE TRIGGER (164 ページ)
 DESTROY TRIGGER (170 ページ)
 DISABLE TRIGGER (188 ページ)
 ENABLE TRIGGER (213 ページ)
 PURGE TRIGGER (229 ページ)
 SET TRIGGER CPU (270 ページ)
 SET TRIGGER FIREWALL (272 ページ)
 SET TRIGGER INTERFACE (274 ページ)
 SET TRIGGER MEMORY (276 ページ)

SET TRIGGER MODULE (278 ページ)

SET TRIGGER PERIODIC (280 ページ)

SET TRIGGER REBOOT (282 ページ)

SET TRIGGER TIME (284 ページ)

SHOW TTY

カテゴリー：運用・管理 / ターミナルサービス

SHOW TTY [=tty-number|ALL] [{SUMMARY|DEFAULT}]

tty-number: 仮想端末デバイス (TTY) 番号

解説

仮想端末デバイス (TTY) の情報を表示する。

非同期ポートには、それぞれ専用の TTY が存在する。また、Telnet セッションや端末サービスの開始時には、それぞれ TTY が動的に作成される。

パラメーター

TTY 端末デバイス番号。省略時はコマンドを入力した端末デバイスの情報が表示される。ALL を指定した場合は、すべての端末デバイスの情報が表示される。USER (一般ユーザー) 権限のポートから実行するときは、端末番号は指定できない (実行ポートの端末デバイスに関する情報が表示される)。

SUMMARY 端末デバイスごとに 1 行のみのサマリー情報を表示する。

DEFAULT Telnet 接続時に動的生成される端末デバイスのデフォルト設定パラメーターを表示する。本オプション指定時は、TTY パラメーターに端末番号や ALL を指定することはできない。

入力・出力・画面例

```
SecOff > show tty

TTY information
Instance ..... 16
Login Name ..... secoff
Description ..... Asyn 0
Secure ..... yes
Connections to .....
Current connection ..... none
In flow state ..... on
Out flow state ..... on
Attached module ..... Terminal server
Attached module instance .. 0
Type ..... VT100
Service ..... none
Prompt ..... default
Echo ..... yes
Attention ..... break
Manager ..... yes
```

```

Edit mode ..... insert
History length ..... 20
Page size ..... 22

```

Instance	仮想端末デバイス (TTY) 番号
Login name	この端末にログインしているユーザーの名前
Description	端末名。非同期ポートの場合は SET ASYN コマンドの NAME パラメーター
Secure	セキュアモードの有効・無効。セキュアモードが有効の場合、該当端末デバイスからコマンドプロセッサにアクセスするには、最初にログインが必要。非同期ポートはデフォルトでセキュアモードが有効になっている。また、Telnet セッションは常にセキュアモードが有効
Connections to	接続中の端末デバイス一覧
Current connection	接続中の端末デバイスのうち、現在アクティブなものの番号
In flow state	受信時フロー制御の有効・無効
Out flow state	送信時フロー制御の有効・無効
Attached module	アタッチされているユーザーモジュール。デフォルトは Terminal Server (ターミナルサーバーモジュール)
Attached module instance	アタッチされているモジュールのインスタンス番号
Type	端末タイプ。dump (ダム端末) または VT100
Service	本端末デバイスが所属している端末サービス名
Prompt	プロンプト。default、off、login、password、confirm、encapsulation、あるいはユーザー定義の文字列
Echo	入力文字のエコー
Attention	端末セッションから抜けるためのアテンションキャラクター。none、break、char のいずれか
Manager	MANAGER (管理者) 権限の有無
Edit mode	入力モード。? (不明) insert (挿入モード) overstrike (上書きモード)
History length	コマンド履歴の最大保持数
Page size	1 ページ当たりの行数。ページャー機能がオフのときは off

表 68:

TTY	仮想端末デバイス (TTY) 番号
Description	端末名。非同期ポートの場合は SET ASYN コマンドの NAME パラメーター (デフォルトは「Port #」)。ルーターへの Telnet セッションの場合は「Telnet #」。別ポートへの接続の場合はサービス名。外部ホストへの Telnet の場合は IP アドレス
User name	ログインユーザーの名前
Module	アタッチされているユーザーモジュール

Inst	ユーザーモジュールのインスタンス番号
Mgr	MANAGER (管理者) 権限の有無
Connections	接続中の端末デバイス一覧

表 69: SUMMARY オプション

History length	コマンド履歴の最大保持数
Page length	1 ページ当たりの行数。ページャー機能がオフのときは off
Prompt	プロンプト。default、off、login、password、confirm、encapsulation、あるいはユーザー定義の文字列
Type	端末タイプ。dump (ダム端末) または VT100

表 70: DEFAULT オプション

関連コマンド

SET ASYN (「インターフェース」の 35 ページ)

SET TTY (286 ページ)

SHOW ASYN (「インターフェース」の 47 ページ)

SHOW USER

カテゴリー：運用・管理 / ユーザー認証データベース

SHOW USER [=login-name] [CONFIGURATION]

login-name: ログイン名 (1~64 文字。英数字のみ使用可能。大文字小文字を区別しない。空白不可)

解説

ユーザー認証データベースの情報、または、ユーザー認証モジュールの設定情報を表示する。

パラメーター

USER ユーザー名

CONFIGURATION ユーザー認証モジュールの設定および統計情報を表示する。USER パラメーターと同時に指定することはできない。

入力・出力・画面例

```
SecOff > show user

Number of logged in Security Officers currently active.....1

User Authentication Database
-----
Username: manager (Manager Account)
  Status: enabled      Privilege: manager  Telnet: yes   Login: yes
  Logins: 2            Fails: 0           Sent: 0       Rcvd: 0
  Authentications: 0 Fails: 0
Username: secoff ()
  Status: enabled      Privilege: Sec Off  Telnet: no    Login: yes
  Logins: 1            Fails: 0           Sent: 0       Rcvd: 0
  Authentications: 0 Fails: 0
-----

Active (logged in) Users
-----

User          Port/Device
  Login Time          Location
-----
secoff        Asyn 0
    08:47:50 16-Apr-2003    local
manager       Telnet 2
```

```

08:59:17 16-Apr-2003      192.168.1.200
-----

SecOff > show user configuration

User module configuration and counters
-----

Security parameters
  login failures before lockout .....      5              (LOGINFAIL)
  logout period .....      600 seconds      (LOCKOUTPD)
  manager password failures before logoff ..   3              (MANPWDFAIL)
  maximum security command interval .....    600 seconds      (SECUREDELAY)
  minimum password length .....      6 characters (MINPWDLEN)
  TACACS retries .....      3              (TACRETRIES)
  TACACS timeout period .....      5 seconds  (TACTIMEOUT)
  semi-permanent manager port ..... none

Security counters
  logins                                4      authentications                                0
  managerPwdChanges                    0      defaultAcctRecoveries                            1
  unknownLoginNames                    0      tacacsLoginReqs                                  0
  totalPwdFails                        1      tacacsLoginRejs                                  0
  managerPwdFails                      0      tacacsReqTimeouts                              0
  securityCmdLogoffs                   0      tacacsReqFails                                  0
  loginLockouts                        0      databaseClearTotallys                            0
-----

```

User Authentication Database セクション	登録ユーザーの情報が表示される
Number of logged in Security Officers currently active	現在ログイン中の Security Officer レベルのユーザー。セキュリティタイマー (SECUREDELAY) 満了により権限を失っているユーザーは数えない
Username	ログイン名
Status	アカウントの有効・無効
Privilege	ユーザーレベル (権限)。Sec Off (Security Officer) manager (管理者) user (一般ユーザー) のいずれか
Telnet	他ホストへの TELNET が許可されているかどうか
Logins	ログイン成功回数
Fails	ログイン失敗回数
Sent	ユーザーからスイッチへの送信オクテット数

Rcvd	スイッチからユーザーへの送信オクテット数
Active (logged in) Users セクション	現在ログイン中のユーザー一覧が表示される
User	ログイン名
Port/Device	ログインポートまたはデバイス。「Asyn x」、「Telnet x」、「SSH x」のいずれかの形式。x はインスタンス番号
Location	ユーザーがどこからログインしているか。コンソールポートからログインしているときは「local」、リモートログイン時はログイン元の IP アドレスが表示される
Login Time	ログイン日時

表 71:

login failures before lockout	連続したログインの失敗回数 (LOGINFAIL パラメーター)。この回数連続してログインに失敗すると、LOCKOUTPD 秒間はログインできなくなる (ロックアウト)
lockout period	LOGINFAIL 回連続してログインに失敗した場合にログイン不可能となる秒数 (LOCKOUTPD パラメーター)
manager password failures before logoff	セキュリティコマンド入力時のパスワード入力で失敗が許される回数 (MANPWDFAIL パラメーター)
maximum security command interval	セキュリティコマンドのタイムアウト (SECUREDELAY パラメーター)
minimum password length	パスワードの最小文字数 (MINPWDLEN パラメーター)
semi-permanent manager port	マネージャーポートの番号
logins	ルーターへのログイン回数
managerPwdChanges	Manager レベルのパスワード変更回数
unknownLoginNames	存在しないユーザー名でのログイン試行回数
totalPwdFails	(存在するログイン名に対して) 正しくないパスワードが入力された回数
managerPwdFails	セキュリティコマンド実行時に正しくないパスワードが入力された回数
securityCmdLogoffs	セキュリティコマンド実行時に正しくないパスワードが入力されたため、Manager レベルのユーザーが強制的にログアウトさせられた回数

loginLockouts	連続したログイン失敗によりログインロックアウトが施行された回数
databaseClearTotallys	ユーザーデータベースがクリアされた回数

表 72: CONFIGURATION オプション指定時

関連コマンド

ADD USER (119 ページ)
 DELETE USER (165 ページ)
 DISABLE SYSTEM SECURITY_MODE (186 ページ)
 DISABLE USER (189 ページ)
 ENABLE SYSTEM SECURITY_MODE (211 ページ)
 ENABLE USER (214 ページ)
 PURGE USER (230 ページ)
 RESET USER (236 ページ)
 SET USER (287 ページ)

SHOW USER RSO

カテゴリー：運用・管理 / セキュリティー

SHOW USER RSO

解説

RSO (Remote Security Officer) の設定情報を表示する。
RSO とは、システムがセキュリティーモードで動作しているときに、Security Officer レベルでの Telnet ログインを許可されているホストのこと。セキュリティーモード時には、RSO として登録されたホスト以外からは Security Officer レベルでのログインができないようになっている。

入力・出力・画面例

```
SecOff > show user rso

Remote Security Officer Access is enabled

Remote Security Officer Log
-----
Remote Security Officer ... 172.16.28.126/255.255.255.255
Failed logins ..... 0
Last failed login ..... **_***_*** **.*.*
Successful logins ..... 2
Last successful login ..... 10-Jul-2001 19:32:55
-----

Illegal Login Attempts
IP Address          Date/Time          Attempts
-----
172.16.28.103       10-Jul-2001 19:34:58      2
172.16.28.1         10-Jul-2001 19:33:47      1
-----
```

Remote Security Officer Access is	RSO ログインの有効・無効 (ENABLE USER RSO コマンドで設定)
Remote Security Officer	RSO の IP アドレス (IP アドレス/ネットマスク)
Failed logins	RSO のログイン失敗回数
Last failed login	最新のログイン失敗日時。「**_***_*** **.*.*」はログイン失敗の記録がないことを示す
Successful logins	RSO のログイン成功回数
Last successful login	最新のログイン成功日時。「**_***_*** **.*.*」はログイン成功の記録がないことを示す

Illegal login attempts	RSO アドレス以外からの Security Officer ログイン試行記録
IP address	Telnet クライアントの IP アドレス
Date/time	ログイン試行日時
Attempts	試行回数

表 73:

関連コマンド

ADD USER RSO (121 ページ)

DELETE USER RSO (166 ページ)

DISABLE SYSTEM SECURITY_MODE (186 ページ)

DISABLE USER RSO (190 ページ)

ENABLE SYSTEM SECURITY_MODE (211 ページ)

ENABLE USER RSO (215 ページ)

SSH

カテゴリー：運用・管理 / Secure Shell

SSH *ipadd* USER=*username* {PASSWORD=*password*|KEYID=*key-id*}
 [COMMAND=*string*]

ipadd: IP アドレス

username: ユーザー名 (1~15 文字。英数字)

password: パスワード (1~31 文字)

key-id: 鍵番号 (0~65535)

string: 文字列 (1~80 文字)

解説

SSH サーバーにログインする。または SSH サーバー上でコマンドを実行させる。

- ・SSH セッションを終了させるには、接続先ホストからログアウトする。
- ・SSH セッションから一時的に抜けてプロンプトに戻るには、非同期ポートからログインしている場合は「Break」を送信、Telnet で別ホストからログインしている場合は「Ctrl-P」を入力する。セッションからプロンプトに戻るための文字 (アテンションキャラクター) は、SET ASYN コマンドの ATTENTION パラメーターで変更できる。
- ・一時中断したセッションに戻るには、「Ctrl-X」を何回か押して該当するセッションを表示させ、「Enter」を押す。または、SHOW SESSIONS コマンドでセッションの一覧を確認し、RECONNECT コマンドで再接続する。

パラメーター

USER ログインユーザー名

PASSWORD パスワード認証で使うログインパスワード

KEYID RSA 鍵番号。RSA 認証で使う自分の秘密鍵番号。RSA 認証では、クライアント側にユーザーの秘密鍵、サーバー側にユーザーの公開鍵が必要

COMMAND SSH サーバー上で実行させるコマンドライン。本パラメーターを指定したときは、コマンド実行後にコネクションが切断される。本パラメーターを指定しなかったときは、SSH サーバーにログインして対話型セッションを開始する。

例

- SSH サーバー 192.168.10.1 にユーザー名 root、パスワード 8nyara でログインする。

```
SSH 192.168.10.1 USER=root PASSWORD=8nyara
```

- SSH サーバー 192.168.10.1 にユーザー名 root、RSA 鍵 10 番を使ってログインする。

```
SSH 192.168.10.1 USER=root KEYID=10
```

- SSH サーバー 192.168.10.1 上で「SHOW IP INTERFACE」を実行し、結果を端末画面に出力させる。

```
SSH 192.168.10.1 USER=root PASSWORD=8nyara COMMAND="show ssh int"
```

備考・注意事項

サーバーに初めて接続したときは「Host key not recognised - saved as ssh.key」というメッセージが表示されてセッションが切られるが、これは該当サーバーのホスト鍵を初めて受け取ったことを示すものでエラーではない。その場合、サーバーのホスト鍵が「ssh.key」という名前で自動的に保存されているはずなので、CREATE ENCO KEY コマンドを実行してサーバーのホスト鍵を登録する。このとき鍵の TYPE は RSA、FORMAT は SSH を指定する。

関連コマンド

CREATE ENCO KEY (「暗号」の 10 ページ)

SHOW SSH SESSIONS (355 ページ)

TELNET

カテゴリー：運用・管理 / ターミナルサービス

TELNET {*ipadd*|*hostname*}

ipadd: IP アドレス (IPv4 または IPv6)

hostname: ホスト名

解説

指定したホストに Telnet 接続する。

- ・セッションを終了させるには、接続先ホストからログアウトする。また、非同期ポートからログインしている場合は「Ctrl-D」を押しても接続を切ることができる。
- ・セッションから一時的に抜けてプロンプトに戻るには、非同期ポートからログインしている場合は「Break」を送信、Telnet で別ホストからログインしている場合は「Ctrl-P」を入力する。セッションからプロンプトに戻るための文字 (アテンションキャラクター) は、SET ASYN コマンドの ATTENTION パラメーターで変更できる。
- ・一時中断したセッションに戻るには、「Ctrl-X」を何回か押して該当するセッションを表示させ、「Enter」を押す。または、SHOW SESSIONS コマンドでセッションの一覧を確認し、RECONNECT コマンドで再接続する。

入力・出力・画面例

```
Manager ar.joge.net> telnet afrika

Info (105327): Resolving host name "afrika.joge.net" to IP address.

Info (105328): Host name resolved to 172.16.28.1.

Info (133256): Attempting Telnet connection to afrika.joge.net, Please wait ....

Telnet セッションが確立
U*IX (afrika.joge.net) (ttyp2)

login: usouser
Password:

[chkmail] You have new mail.

inbox          : 6
urgent         : 3
-----
Total          : 9
```

To Do

- Complete reference manual.
- Have lunch.

afrika:~> ここで Break を送信するか Ctrl-P を押し、一時的にセッションから抜ける

Session 1 to afrika.joge.net paused

プロンプトに戻った

Manager ar.joge.net> show ip int

Interface	Type	IP Address	Bc	Fr	PArp	Filt	RIP	Met.	SAMode	IPSc
Pri. Filt	Pol.Filt	Network Mask	MTU	VJC	GRE	OSPF	Met.	DBcast	Mul.	

Local	---	Not set	-	-	-	---	--		Pass	--
---	---	Not set	1500	-		---	--		---	---
eth0	Static	10.10.10.100	1	n	On	---	01		Pass	No
---	---	255.255.255.0	1500	-		---	0000000001	No		Rec
eth1	Static	172.16.28.160	1	n	On	---	01		Pass	No
---	---	255.255.255.0	1500	-		---	0000000001	No		Rec

端末セッション一覧を確認

Manager ar.joge.net> show session

Session information for Telnet 1

```
session 1 connected to afrika.joge.net
session 2 not connected
session 3 not connected
session 4 not connected
session 5 not connected
```

Ctrl-X を押して希望するセッションを表示させ、Enter を押す

Manager ar.joge.net> reconnect 1 (afrika.joge.net) [Enter]

Info (136271): Reconnected to session 1 (afrika.joge.net).

Telnet セッションに戻った。何も表示されないときは、Enter を押す

afrika:~> logout

ログアウトしてセッションを終了

TELNET session now CLOSED.

```
Manager ar.joge.net>
```

備考・注意事項

ホスト名を指定する場合は、あらかじめ ADD IP DNS コマンドでネームサーバーのアドレスを設定しておく必要がある。ホスト名は通常フルドメイン名 (FQDN) で指定しなくてはならないが、SET SYSTEM NAME コマンドでホスト名を含む完全なドメイン名 (FQDN) を設定しておけば、接続先として短いホスト名 (例: afrika) を指定することもできる。

この場合、「sysName に設定したフルドメイン名から先頭要素 (最初のドットまで) を取り除いたもの」が検索対象ホスト名の後に付加される。たとえば、sysName に「myrouter.mydomain.xx.jp」(myrouter がルーター自身の短いホスト名) を設定している場合、「TELNET hispc」というコマンドを実行すると、「hisp.mydomain.xx.jp」に対して DNS の検索が行われる。

関連コマンド

ADD IP DNS (「IP」の 167 ページ)
ADD IP HOST (「IP」の 178 ページ)
CONNECT
DELETE IP HOST (「IP」の 232 ページ)
DISCONNECT (191 ページ)
RECONNECT (231 ページ)
SET IP HOST (「IP」の 363 ページ)
SET SYSTEM NAME (267 ページ)
SET TELNET (268 ページ)
SHOW IP HOST (「IP」の 455 ページ)
SHOW SESSIONS (341 ページ)

UPLOAD

カテゴリー：運用・管理 / アップロード・ダウンロード

UPLOAD [METHOD={TFTP|ZMODEM}] [FILE=*filename*] [SERVER={*hostname*|*ipadd*}]
[ASYN=*asyn-number*]

filename: ファイル名

hostname: ホスト名

ipadd: IP アドレス

asyn-number: 非同期ポート番号 (0)

解説

TFTP、ZMODEM でファイルをアップロードする。

指定しなかったパラメーターについては、SET LOADER コマンドで設定したデフォルト値が用いられる。

パラメーター

METHOD 転送プロトコル。TFTP の場合は SERVER の指定が必要。また、ZMODEM の場合は ASYN の指定が必要。デフォルトは TFTP。

FILE アップロードするファイル名

SERVER TFTP サーバーのホスト名または IP アドレス。ホスト名を指定する場合は、ADD IP DNS コマンドで DNS サーバーアドレスを設定しておく必要がある。

ASYN ZMODEM で使用する非同期ポートの番号

例

■フラッシュファイルシステム上のファイル「foobar.scp」を TFTP サーバー「192.168.1.103」にアップロードする

```
UPLOAD FILE=foobar.scp SERVER=192.168.1.103
```

■フラッシュファイルシステム上のファイル「basic.cfg」を非同期ポート asyn0 経由で端末に ZMODEM 転送する。

```
UPLOAD FILE=basic.cfg METHOD=ZMODEM ASYN=0
```

関連コマンド

LOAD (220 ページ)

SET LOADER (242 ページ)

UPLOAD

SHOW FILE (301 ページ)

SHOW LOADER (313 ページ)

WAIT

カテゴリー：運用・管理 / スクリプト

WAIT *seconds*

seconds: 時間（秒）

解説

指定された秒数ウェイトする。本コマンドはスクリプト中でのみ有効。

備考・注意事項

スクリプト中でのみ使用可能。

関連コマンド

IF THEN ELSE ENDIF（219 ページ）